つ・たけ・うめ。

【松柏科】ショウハククワ　植物の分類の名、松・かしはの類。

【松柏操】ショウハクノミサホ　松柏類の常に緑にして變色せざるに因み固き節操のこと。

【松江之鱸】ショウコウノスズキ　支那江蘇省松江府の名産となれる鱸。

【松喬之壽】ショウケウノジユ　極めて長命なるをいふ。

【松筠之志】ショウキンノココロザシ　婦人の貞操。

類語　蒼松サウショウ　孤松コショウ　枯松コショウ　旅松リョショウ　老松ラウショウ　雑松チショウ　赤松セキショウ　喬松ケウショウ

桑

松に同じ

柰

松の俗字

板

ハン　バン

イ いた、板の如く薄きもの ロ ふだ（札）ハ はんぎ（判木）ニ 片木、こは（屋根を葺くもの）ホ うらがへる（反側）そむく（叛）みだるへみことのり（詔書）ト しやく（笏）チ 楽器の一、打ちて拍子をとるもの

【板本】ハンポン　印刷したる書物。

【板牙】ハンガ　おくば、白齒。

【板行】ハンカウ　はんに刷つて世に廣める。

【板門】ハンモン　といた、又あまど。

【板刻】ハンコク　書物をはん木にほる。

【板栗】ハンリツ　栗の一種、たんぱぐり。

【板屋】ハンヤク　板ぶきの家。

【板帳】ハンチャウ　板張のしきり。

【板魚】ハンギヨ　ひらめの異名。

【板檯】ハンクワウ　屋根うら。

【板齒】ハンシ　前齒をいふ。

【板蕩】ハンタウ　政事の亂れたるさま、世の亂れ動く貌。

【板檐】ハンエン　板のひさし。

【板櫃】ハンキ　簞笥、箱の類。

【板纏】ハンテン　まとひつく。

【板子】イタゴ　舟の底にあるあげいた。

【板葺】イタブキ　板にてふきたる屋根、こけら葺の屋根。

【板塀】イタベイ　板でこしらへたへい。

【板敷】イタジキ　板をしきならべたところ。

【板玉垣】イタタマガキ　厚板にすかしをつけて並べたる粗末なる玉垣。

【板屋楓】イタヤカヘデ　寒温兩帶に生ずる落葉喬木の一。

類語　平板ヘイバン　假板カバン　金板キンバン　詔板セウバン　手板シユバン　轟板キヤウバン　玉板ギヨクバン　棧板サンバン　拍板ハクバン　廊板ラウバン

枇

ヒ　ビ

イ 果樹の一、枇杷 ロ 楽器の名、琵琶に同じ。

【枇杷】ビハ　果樹の名。

枉

ワウ

イ まがる、まゞ、ゆがめる、かゞめる ロ しへたゞ（寃）反する、屈する、抑へため る ハ よこしま（邪）又正しからざる者 ニ 無實の罪におとす、わざとする

【枉曲】ワウキヨク　まがる、よこしま。

【枉厄】ワウヤク　わざわひ、災難。

【枉矢】ワウシ　イ さきにかぎのある矢 ロ 投げ槍。

【枉告】ワウコク　事實をまげて言ひ告げる、あらぬ事を言ひつげる。

【枉車】ワウシヤ　人の來訪をいふ敬語。

【枉欲】ワウヨク　むさぼりの心を抑へる。

【枉屈】ワウクツ　イ 身をかゞめへりくだる貌 ロ 正しき者がまけること。

【枉道】ワウダウ　守るべき道を曲げて不正を行ふ意。

【枉法】ワウハフ　法律のうらをくゞる。

【枉罪】ワウザイ　無實のつみ。

【枉費】ワウヒ　むだづかひ、冗費。

【枉奪】ワウダツ　暴力を以てうばふ。

【枉駕】ワウガ　乘物をわざ〳〵立ち寄らせる、人の來訪を言ふ敬語。

【枉橈】ワウダウ　無實の罪におとす。

【枉斷】ワウダン　賄賂などをとりて法律をまげ裁斷すること。

【枉顧】ワウコ　自分より目上の人の尋ね來るにいふ敬語、轉じて人の來訪をいふ。

類語　向枉カウワウ　矯枉ケウワウ　寃枉エンワウ　群枉グンワウ　邪枉ジヤワウ　剛枉イウワウ　阿枉アワウ　姦枉カンワウ　權枉ケンワウ　疑枉ギワウ　誣枉ブワウ

枋

ハウ

東印度地方に産する喬木、蘇枋。

枌

フン

扶

フ

イ 木の名（楡の一種）ロ 國訓そぎ（木を薄くそぎ屋をふくもの、そぎ板）

扶疎は木が茂りてはびこる貌。

枏

ダン　ナン

梅の一種（交讓木に同じ、ゆづりは、又一說にくすのき）

析

セキ

イ わかつ（分）わかる、分割す、とりわけ ロ さく（裂）ひきさく、さけ〳〵、わる（割）われる

【析出】セキシユツ　化合物を分析して含有物質を分離せしむること。

【析肝】セキカン　はらを割きて見せる、まごころをしめす。

類語　開析カイセキ　剖析ホウセキ　乖析クワイセキ　分析ブンセキ　解析カイセキ　通析ツウセキ　條析デウセキ　判析ハンセキ

枔

ガ

イ 木が四方に枝を張るさま ロ 椰子の木

枓

シユ　トウ

イ ひしやく（杓）ロ ますがた、とがた

枕

シン　チン

イ まくら、寢具の一、物をもちあげるため下にかふもの、物の最初に置くもの ロ まくらす、枕して横はる ハ ふす（臥）ニ 車の後の横木 ホ 魚の腦中の骨 ヘ 牛をつなぐ杙 ト のぞむ（臨）

【枕上】チンジヤウ　まくらもと、枕頭。

【枕木】チンボク　下にありて上の物を支持する木、まくらぎ。

【枕席】チンセキ　イ まくらとしとね、轉じて寢床、又寢ること ロ 夜のとぎをする、枕席に侍る。

【枕側】チンソク　枕上に同じ。

【枕簟】チンテン　寢具類の總稱。

【枕頭】チントウ　枕上に同じ。

【枕邊】チンペン　前に同じ。

【枕囊】チンナウ　くゝりまくら。

【枕籍】チンセキ　相重なり臥す貌。

【枕詞】マクラコトバ　或る語の上につけて其語を修飾する語。

【枕經籍書】チンケイセキショ　讀書に耽溺するさま。

訓　讀

【枕を高くす】高レ枕　まくらをたかくす　安堵して暮すさま。

類　語

伏枕フクチン　同枕ドウチン　孤枕コチン　就枕シユウチン
愁枕シウチン　警枕ケイチン　圓枕エンチン　高枕カウチン
安枕アンチン

【林】リン

㋑はやし、木竹等の多く生ひ茂る所、物の多く叢れるところ㋺物事の多くして盛んなる貌、又多き貌㋩野の外

【林木】リンボク　林にある立木。

【林立】リンリツ　林の如く叢り立つさま（例）帆檣林立す。

【林衣】リンイ　林の木の葉。

【林杪】リンベウ　林の木のこずゑ。

【林府】リンプ　物の多く集る所、林藪。

【林々】リンリン　むらがり集る貌、多く集るさま。

【林泉】リンセン　㋑山林や泉石、又庭園㋺隱士の住む山間の地。

【林政】リンセイ　山林に對する行政。

【林趾】リンシ　林の木の下。

【林間】リンカン　林のなか。

【林神】リンシン　こだま、やまびこ

【林莽】リンマウ　くさむら。

【林森】リンシン　多くして盛んなるさま。

【林檎】リンゴ　果樹の一。

【林學】リンガク　森林に關する一切の事を研究する學。

【林霏】リンヒ　林に立ちこめたる靄。

【林樾】リンエツ　はやしのこかげ、樾は樹蔭の意。

【林薄】リンパク　林莽に同じ。

【林叢】リンソウ　前に同じ。

【林藪】リンソウ　草木の茂る所、草深き田舍。

【林鐘】リンシヨウ　十二律の一、陰曆六月に配す。

【林麓】リンロク　はやし（林は平地の林、麓は山のすそ）の林）。

【林靄】リンアイ　林霏に同じ。

【林響】リンキヤウ　やまびこ、こだま、反響。

【林中孔】リンチユウコウ　蘭の異名。

【林邑石】リンイフセキ　紫水晶の異名。

【林務官】リンムクワン　大林區署にあり森林に關する事務を扱ふ高等官。

【林間學校】リンカンガクコウ　虚弱なる兒童を氣候風土のよき地に收容して身體の健康を圖ると同時に學課を教授すること。

【林中不レ賣レ薪】リンチユウタキギヲウラズ　不必要なる所に物を用ゐざるに喩ふ。

【林間暖レ酒燒二紅葉一】リンカンサケヲアタタメテコウエフヤク　風流なる趣をいひたる語。

類　語

平林ヘイリン　芳林ハウリン　中林チユウリン　儒林ジユリン
深林シンリン　幽林イウリン　書林シヨリン　高林カウリン
喬林ケウリン　茂林モリン　衰林スキリン　寒林カンリン
藝林ゲイリン　凋林テウリン　蔭林インリン　蕭林セウリン
枯林コリン　花林クワリン　遙林エウリン　淨林ジヤウリン
雞林ケイリン　杏林キヤウリン　士林シリン　上林ジヤウリン
翰林カンリン　檀林ダンリン　竹林チクリン　山林サンリン

【枘】セイ

㋑ほぞ（ほぞ穴にさし入れる栓）㋺はしら（柱）㋩え（柄）

【枘鑿不二相容一】ゼイサクフセイレズ　丸き栓は四角の穴に入らざること。

【枚】バイ　マイ

㋑みき（幹）㋺馬のむち（馬鞭）㋩平たき物を數ふる語㋥一個に同じ㋭鐘の乳㋬こまか㋠馬の口に銜ましめて轡を立てることを止める箸の如き木㋡うらなふ（占）り昔金銀を數ふるに用ゐし語、即ち金一枚は七兩二分

【枚卜】バイボク　一々かぞへて占ふ。

【枚筮】バイゼイ　一々示さずしてひろくうらなふ。

【枚々】バイバイ　こまかき貌。

【枚數】バイスウ　板・紙等のかず。

【枚舉】バイキヨ　一々物を數へあげる。

【枚手】ヒラデ　上古柏の葉を竹の釘にて綴ぢ合せ食器とせしもの。

訓　讀

【枚を銜む】銜レ枚　ばいをふくむ　軍兵の轡を立てることを防ぐ爲め口に箸の如きものをくはへしめしこと。

【果】クワ

㋑木の實、くだもの、なりもの、又その木㋺はて、きはみ、をはり、最期㋩むくひ、原因の生ずるなりゆき、應報㋥決心が早い、決斷心がつよい㋭はたして、案の如く、少し念を押し疑ふ意に用ふ㋬きつと、かならず㋠しとげる、はたす、遂行す㋡はんべる

【果決】クワケツ　いさぎよく事をきめる、果斷。

【果宗】クワソウ　梨子の異名。

【果悍】クワカン　決斷力ありて强し。

【果酒】クワシユ　果實を原料として作る酒。

【果報】クワハウ　㋑むくい、しあはせ㋺佛語にて因果應報の略。

【果然】クワゼン　㋑飽き足る貌㋺獸の名、をながざる㋩果して然り、そのとほり、あんの如く。

【果敢】クワカン　おもひきりのよきこと、思ひ切つてなしとげる。

【果銳】クワエイ　決斷早く意氣するどし。

【果實】クワジツ　きのみ、すべて植物の實。

【果樹】クワジユ　果實をむすぶ樹木。

【果蓏】クワラ　果は木の實、蓏は草の實にて、果物と水菓子の並稱。

【果毅】クワキ　勇氣あり事を決すに早し。

【果斷】クワダン　能く決し行ふ、思ひきりよきこと。

【果贏】クワラ　からす瓜の異名。

【果蹂】クワウ　あら〳〵しく輕はずみ。

【果肉層】クワニクソウ　くだものゝ實のところ

【果敢無】ハカナシ　もろし、たよりなし、儚し。

類　語

因果イングワ　業果ゴウグワ　野果ヤクワ　珍果チンクワ
奇果キクワ　茶果サクワ　茗果メイクワ　瓜果クワ
剛果ガウクワ　勁果ケイクワ　勇果ユウクワ　雄果ユウクワ
忠果チユウクワ　明果メイクワ　甘果カンクワ　英果エイクワ
名果メイクワ　沈果チンクワ　嘉果カクワ　赤果セキクワ
快果クワイクワ　香果カウクワ　勝果ショウクワ　佛果ブツクワ
繁果ハンクワ　晩果バンクワ　殘果ザンクワ

【枝】シキ

㋑えだ（草木の幹より生ずるもの）えだは、物事のわかれ㋺枝がでる、枝を出す㋩わかれる、わかれ離れる㋥さゝへる（支）さゝへるもの㋭えと、十二支㋬指の數六本以上の不具、むつゆび

【枝指】シシ　指の數多きもの、むつゆび。

【枝胤】シイン　わかれの血すぢ。

【枝梧】シゴ　さゝふ、さからふ、抵抗することをいふ。

【枝流】シリウ　えだ川、支流。

【枝族】シゾク　分れの血すぢ、分家。

【枝幹】シカン　㋑十二支と十干㋺えだとみき㋩手足と胴體。

【枝隊】シタイ　本隊より分れたる兵隊。

【枝解】シカイ　四肢を切りはなつ刑。

【枝葉】シエフ ㊀草木のえだと葉㊁物の本よりわかれ出でたる末、轉じて事の主要ならざる所。
【枝蹄】シテイ 獸のけづめの岐れたる物。
【枝折戸】シフリド 木の枝などにて作りし扉又神社の拜殿などに設ける扉。

類語

喬枝ケウシ　舊枝キウシ　疎枝ソシ　寒枝カンシ
冷枝レイシ　深枝シンシ　戚枝セキシ　宗枝ソウシ
嫌枝シヨウシ　垂枝スキシ　旁枝バウシ　生枝セイシ
芳枝ハウシ　卑枝ヒシ　連枝レンシ　叢枝ソウシ
嫩枝ドンシ　禿枝トクシ　高枝カウシ　柳枝リウシ

枅

國字

㊀ます（分量をはかる具）枅は支那の方言にて大斗の稱、ますがた㊁芝居の見物席のしきりの名

枠

國字

わく（糸を卷くもの）細き竹木を組み合せ器具の骨となり又は外縁となるもの

五畫

枯

コ

㊀かる、からす、かれる、ひからびる、草木の生氣がたえて凋び死ぬ、又冬期に草木が落葉すること㊁かれ木、又水がかわく、水がつきる㊂身體がやつれる、衰へる

【枯死】コシ かれて死ぬ、又かれたる貌。
【枯朽】コキウ くちくさる、くされる。
【枯凋】コテウ かれしぼむ、轉じて物事の衰ふるに云ふ。
【枯折】コセツ かれてをれる。
【枯旱】コカン 草木のかれる程のひでり。
【枯枝】コシ かれたる木の枝。
【枯林】コリン 冬の林の形容。
【枯肺】コハイ かわきたる胸の中。
【枯骨】ココツ 死人の骨の意。
【枯淡】コタン 活氣なし、又無慾なる貌。
【枯條】コデウ 枯枝に同じ。
【枯涸】ココカク 水のかれかわくこと。
【枯冢】コチヨウ 荒れはてたる墓。
【枯魚】コギヨ ほしうを、ひもの。
【枯焦】コセフ かれること。
【枯腸】コチヤウ かれたるはらわた、文藻の乏しきに云ふ。
【枯湯】コカツ 水がゝれかわく。
【枯腐】コフ かれくさる。
【枯榮】コエイ 衰へることゝ榮えること。
【枯燥】コサウ かれかわく。
【枯蟬】コゼン せみのぬけがら。
【枯槁】コカウ ㊀やつれ衰へし貌㊁草木のしぼむこと。
【枯蓼】コハン やきみやうばん。
【枯龍】コリヨウ 松樹の異名。
【枯僵】コキヤウ 枯木のたふれること。
【枯磧】コセキ 水かれて草木生ぜぬ砂原。
【枯鱗】コリン 乾魚のこと。
【枯壤】コジヤウ 水氣なく植物の生ぜぬ地。
【枯槁士】コカウノシ 零落の士、おちぶれたる士。
【枯木死灰】コボクシクワイ 無意無心の有樣。
【枯木發榮】コボクエイヲハツス 死を起して生に回へす義、轉じて衰へたるを再び盛んならしむること。
【枯楊生稊】コヤウテイヲシヤウズ かれたる柳より穗を生ず、轉じて老夫若妻を得てよく生育の功をなすに喩ふ。

訓讀

【枯を拉く】拉レ枯 こをくじく 枯木を折る事の容易なるゝ、極めてたやすい譬。
【枯を摧く】摧レ枯 こをくだく 前に同じ。

【枯竹に鶯し朽骨を護る】鶯ニ枯竹ニ而護ニ朽骨ヲ こちくにたうし きうこつをまもる 古人の言に賛成してその說を固守すること。

類語

凋枯テウコ　潤枯ジユンコ　乾枯カンコ　榮枯エイコ

枰

ヘイ

㊀ごばん、すごろくの類（博局）㊁平らかなる板面

桌

シ

㊀あさの皮㊁からむし、をあさ（麻の一種）又それを原料として糸をつむぐこと

【桌耳】シジ みゝなぐさの異名。

枳

キシ

㊀からたち（橘に似たる木の名）きこく㊁また（股）㊂そこなふ（害）

【枳拘】キコウ からたちの木、きこく。
【枳殼】キコク からたちの木、又其實。
【枳棘】キキヨク からたちといばら、共に惡木なるより轉じて卑下の地は賢才の居るべからざるに譬ふ。
【枳首蛇】キシユダ 頭がふたまたになつてゐるへび、兩頭蛇。
【枳棘非ニ鸞鳳所ニ栖】キキヨクハランパウノスムトコロニアラズ 鸞や鳳の名鳥は惡木にとまらぬ如く賢者は卑しき地位に居らぬ。

枴

カイ　タイ

つゑ（老人の杖）

枴

ケフ

㊀むなし（虛）中空㊁へる（耗）なくなるすく

【枴空】ケウクウ むなし、から。
【枴然】ケウゼン 大にして空しきさま。
【枴腹】ケウフク 空腹、轉じて空のいれもの。

架

カ

㊀かけわたす、かける、空中に架す㊁たな（棚）いかう（衣桁）ころもかけ㊂はしげた、橋の棧、くひ（杙）

【架空】カクウ ㊀空中にかけ渡す㊁よりどころなきこと。
【架松】カシヨウ 横にのびたる松の木。
【架屋】カヲク いへをたてる。
【架設】カセツ かけわたす。
【架槽】カソウ 木のかけひ。
【架橋】カケウ はしをかける。

類語

雲架ウンカ　禁架キンカ　符架フカ　衣架イカ
結架ケツカ　屋架ヲクカ　石架セキカ　層架ソウカ
滿架マンカ　修架シウカ　構架コウカ　筆架ヒツカ

枷

カ

㊀くびかせ（罪人の首にはめる刑具）㊁からさを（農具の一）㊂古く架に通ず

【枷子】カシ くびかせ。
【枷束】カソク おさへつける。
【枷楔】カセツ かせとくさび、自由をそぐこと。
【枷鎖】カサ くびかせと鎖、共に罪人をつなぐ刑具。

枸

クコウ ゴ

㊀けんぼなし（複に似たる喬木の一）㊁わだかまりめぐる（盤錯）㊂きりかぶ㊃からたち、きこく

枹

フ

【枻】 エイ　セツ

イばち、鼓を撃つ棒、たいこばち㊁叢り生ずる貌

イかい、かぢ(楫)船を漕ぐ具㊁弓を撓め直す器具、ゆだめ

【柿】 シ

かき(果樹の一)俗に柿又は柿に作る

【柹】 の俗字

【柿】 前に同じ

【柞】 ケツ

イきりかぶ(伐りたる木の株)㊁ひこばえ(蘖)切株より生じたる芽

【柞去】ケツキョ きりさる、斬伐。

【柁】 タ　ダ

イかぢ(舵)㊁木の堅きこと

【柂】 柁に同じ

【桧】 レイ　ひさかき(榊桧)

【柄】 ヘイ

イえ(器具の把手)つか、柯㊁もと(本)㊃けんりよく(權力)いきほひ㊂もつ(持)

㊄國訓がら(身分、體格、布帛の模樣)

【柄臣】ヘイシン 權威をふるふ家來。

【柄用】ヘイヨウ 重用せられて政權を握る。

【柄權】ヘイケン けんりよくのもと。

【柄頭】ツカガシラ 刀の柄を被ふ金具。

【柄樽】エダル 角樽ともいふ、多く酒を贈るに用ゐるもの。

類語

綱柄カウヘイ　大柄タイヘイ　義柄ギヘイ　政柄セイヘイ

權柄ケンペイ　兵柄ヘイヘイ　朝柄テウヘイ　長柄チヤヘイ

談柄ダンペイ　笑柄セウヘイ　文柄ブンペイ　威柄イヘイ

【梶】 ヂ

イ木の名㊁車を止むる木(制動器)㊃草木の茂りて盛んなる貌㊂みる(察)あきらかにす

【梶杜】ヂト 防ぎとどむ。

【梶々】ヂヂ 草木のしげれるさま。

【柊】 シュウ　シュ

イ常綠喬木の一、ひゝらぎ、ひらき㊁こづち(柊裝)さいづち

【柎】 フ

イ道具のあし、又だい㊁いかだ(桴)うきゞ㊃うてな、花のうてな㊂よる(倚)

㊄そゝぐ(注)㊅樂器の一

【柏】 ハク　ヒヤク

イ常綠喬木の總稱㊁常綠なるため堅固なる節操にたとふ㊃せまる(迫)㊂大いなり、伯に通ず㊄國訓かしは(喬木の一)餅、食器の總稱、かしは餅の略)

【柏車】ハクシヤ イ山にて用ゐる大車㊁騎兵が長靴のかゞとにつけるもの。

【柏酒】ハクシユ 邪氣を拂ふ爲め元旦に呑む酒、柏葉酒。

【柏台】ハクタイ 御史台又は按察使の別稱。

【柏槇】ヒヤクシン 常綠樹の一、ひのき。

【柏舟操】ハクシウノミサヲ 亡夫に立てる後家のみさを。

【柏梁台】ハクリトウダイ 漢の武帝のつくりし香木の台。

【柏梁體】ハクリヤウタイ 漢の武帝の集めし詩體の一。

【柏葉酒】ハクエフシユ 柏酒に同じ。

【柏葉壽】ハクエフノジユ 柏の葉が常緣なるを以て長命にたとふ。

類語

香柏カウハク　汁柏ジフハク　叢柏ソウハク　雜柏ザツハク

【某】 バイ　ボウ

イ梅の古字㊁それ、それがし、なにがし、名の知れぬものをさす代名詞、又名を示さずしていふ時の代名詞、又名をいふべきことを示す代名詞㊃あるひは(或と通ず)

【某日】ボウジツ あるひ、いつか。

【某々】ボウボウ 二人以上の人物の名を示さずしていふ時の語。

【某家】ボウケ 何とかいふ家。

【柑】 カン　コン

かうじ(果樹の名)蜜柑の一種

【柑子】カンジ 蜜柑の古名、又かうじ(果樹の一)

【柑橘】カンキツ みかんの類の總稱。

類語

黃柑クワウカン　乳柑ニユウカン　蜜柑ミツカン　香柑カウカン

【柒】 漆の俗字

【染】 セン　セン

イそむ、(布帛類に色をつける)他を感化す㊁しむ、ひたす、そまる㊃けがす よごす、よごれ、しみ㊂病氣がうつる、感染㊄やはらぐ㊅國訓しむ、とほる、深く感ず、はげしく刺戟される

【染工】センコウ 染物の職人。

【染戸】センコ こうや、染物屋。

【染色】センショク そめる、いろづけ。

【染草】センサウ 染料の材料となる草。

【染汚】センヲ よごす、けがす。

【染家】センカ 染戸に同じ。

【染料】センレウ そめ色の原料。

【染指】センシ イ指を物の中に入れる、物の味を試る㊁轉じて手をつける、爲し始む。

【染習】センシフ ならひ、習慣。

【染筆】センヒツ ふでをそめる、書畫を書く。

【染萩】センシユク 南天の異名。

【染感】センカン かぶれること、そまること、しみこむ意。

【染織】センショク 染物とおりもの、又染色と織布。

類語

傳染デンセン　揮染キセン　汚染ヲセン

舊染キウセン　漸染ゼンセン　濡染ジユセン　沾染センセン

浸染シンセン　洗染センセン　點染テンセン　薰染クンセン

【柔】 ジウ　ニユ　ニウ

イやはらか、しなやか、やはらぐ、よわし、身體がよわい㊁やさし、すなほ、おだやか、氣象がするどくない、奮發心がない㊃やすんず(安)安堵させる㊂したがふ(服)㊄草木の新たに生ずること㊅うるほす、ぬらす

【柔日】ジウジツ 十干の内の乙・丁・己・辛・癸にあたる日、其餘を剛日と云ふ。

【柔毛】ジウマウ 羊の異名、又やはらかき毛。

【柔色】ジウシヨク やさしき顏つき。

【柔良】ジウリヤウ すなほなる心がけ。

【柔荑】ジウテイ やはらかきつばな、轉じて女子の手の白く美しきにいふ。

【柔訓】ジウクン 婦女のをしへ、家庭の教へ。
【柔脆】ジウゼイ もろくやはらかし。
【柔魚】ジウギョ 魚の名、するめいか。
【柔婉】ジウエン すなほにして優し。
【柔軟】ジウナン やはらか、しなやか。
【柔滑】ジウクワツ 柔かにしてなめらか。
【柔暖】ジウダン やはらかにして暖かし。
【柔情】ジウジヤウ すなほなる心。
【柔順】ジウジユン やはらかにしてすなほ。
【柔淑】ジウシユク 女子のすなほなること。
【柔毫】ジウゼイ 柔かなる細い毛、むくげ。
【柔曼】ジウマン きめこまかにてやはらか。
【柔弱】ジウジヤク ニウジヤク よわし、又にやけて居る。
【柔媚】ジウビ 優しくしてこびる。
【柔道】ジウダウ ㋑柔術に同じ㋺おだやかなる方法。
【柔術】ジウジユツ 武術の一、やはら。
【柔強】ジウキヤウ しなやかにて強し。
【柔遠】ジウエン 遠隔の地にあるものをなづけやはらぐ。
【柔惠】ジウケイ すなほ、おとなし。
【柔懦】ジウヒツ しなやかなる箏の音。
【柔範】ジウハン 柔順を旨とする婦女の教へ
【柔愿】ジウゲン すなほにてつゝしみあり。
【柔接】ジウブ 和らげ安んず。
【柔質】ジウシツ すなほなる性質。
【柔輭】ジウゼン やはらかきさま。
【柔翰】ジウカン 筆の異名。
【柔懦】ジウダ 心弱く元氣乏し、柔弱にして聰病。
【柔艷】ジウエン 柔かにしてつやあり。
【柔轡】ジウビ やはらかなるくつわ、ゆるやかに馬を御する意。
【柔和】ニウワ やさしくすなほなり。
【柔能制剛】ジウヨクガウヲセイス 弱き者がかへつて強き者をくぢく意。
【柔軟體操】ジウナンタイサウ 兵式體操の一。
【柔媚面諛】ジウビメンシユ こびへつらふ。
【柔亦不レ茹剛亦不レ吐】ジウモマタクラハズガウモマタハカズ 柔かなりとて食はず堅きとて吐き出さず、弱き者を侮らず強き者とて畏れず。

類語

輕柔ケイ　撫柔ブジウ　懷柔クワイ　和柔ワジウ
溫柔ヲンジウ　善柔ゼンジウ　優柔イウジウ　謙柔ケンジウ
仁柔ジンジウ　擾柔ゼウジウ　弱柔ジヤクジウ　纖柔センジウ
嬌柔ケウジウ　軟柔ナンジウ　剛柔ガウジウ

柏

カフ　アフ

松に同じ

柘

シヤ　ソ

㋑のぐは、やまぐは（桑の類）㋺さたうきび（甘蔗）
【柘榴】ザクロ 果樹の一、石榴の誤用。

柙

カフ　アフ

㋑をり（檻）動物等を入れる所㋺はこ（匣）はこに入れる㋩罪人を召捕る、をりに入れる、强制す㋥香木の一

柚

イウ　ヂク　ユ

㋑ゆず（柑橘類の一）㋺機の經糸を巻く具（軸に通ず）

柝

タク

ひやうしぎ（拍子木）警戒又は合圖の爲めにならす二本の角材、轉じて警備を司るにいふ

訓讀

【柝を偃す】偃レ柝 たくをふす 世が靜かで夜廻りの必要なきをいふ。
【柝を鼓む】鼓レ柝 たくをやむ 警戒をゆるくす、世のよく治まれるさま。

柞

サク

㋑は、そ（常綠喬木の一）いす㋺木をきる、かる、はらふ㋩せばし（窄）㋥音大にして調子に合はざること㋭かむ
【柞蠶】サクサン 蠶の一種。

柙

カフ　アフ

柙に同じ

柠

ネイ

楷に同じ

柢

テイ

㋑ね（根）もと、木の根、物事の根本、基礎㋺ねざす、もとづく、根を生ず

查

サ

㋑考へ察す、しらべる、みる、又そのこと㋺いかだ（槎）㋩かす（澄）沈澱物
【查公】サコウ 巡査の俗稱。
【查收】サシウ しらべをさめる。
【查牙】サガ けはしき貌。
【查定】サテイ しらべさだむ。
【查問】サモン しらべとふ。
【查滓】サシ 物のかす、沈澱物。
【查驗】サケン 物事をしらべる、試驗。

柩

キウ

㋑ひつぎ、はやをけ、人の死體を入れるもの㋺ひさし（久）
【柩車】キウシヤ ひつぎをのせる車。
【柩副】キウフク ひつぎのわきのつきそひ。
【柩內未レ冷】キウニクイマダヒヤヤカナラズ 人の死後間もなきをいふ。

柬

カン

㋑えらぶ（簡）えりわける㋺てがみ（書簡）㋩なふだ（名刺）

柮

トツ

きくづ、ほた、きりかぶ、木頭

柯

カ

㋑え、斧の柄㋺えだ（枝）㋩草の莖㋥わん（盂）㋭長さ三尺を柯といふ
【柯條】カデウ 木のえだ。
【柯葉】カエウ 草木の枝と葉。

訓讀

【柯を伐り柯を伐る】伐レ柯伐レ柯 かをきりかをきる 斧の柄とすべき木をきりて用ゐること、道は遠く求めずとも近きにあるに喩ふ。

類語

修柯シウカ　失柯シツカ　枝柯シカ　條柯ジウカ
柔柯ジウカ　翠柯スイカ　樹柯ジユカ　直柯チヨクカ
斧柯フカ　霜柯サウカ　寒柯カンカ　空柯クウカ
繁柯ハンカ　庭柯テイカ　喬柯ケウカ

柰

ダイ　ナイ　ナ

㋑果樹の名、林檎の屬、からなし㋺那に同じ、いかん、なに、なんぞ、いかんぞ
【柰何】イカン いかに、如何。

柱

チユ　チユウ

㋑はしら、物を支へるものゝ總稱、屋を支へる垂直の材、又助けとなるもの㋺ことぢ（琴柱）㋩さゝふ（支）たもつ、とどむ、くひとめる㋥そしる、非難す㋭さす（刺）へつかさどる（掌）
【柱石】チユウセキ ㋑柱と石づゑ㋺轉じて國家の重任を負ふ者。
【柱址】チユウシ はしらのどだい。
【柱杖】チユウヂヤウ つゑをつく。

【柱國】チユウコク　家に柱ある如く國を支持すべき要地の義。
【柱墩】チユウトン　柱址に同じ。
【柱質】チユウシツ　柱といしずゑ。
【柱頭】チユウトウ　花柱の先端にて花粉を受ける處。
【柱聯】チユウレン　はしらかけ、柱かくし。
【柱礎】チユウソ　柱石に同じ。
【柱棒】チユウボウ　輿かきの杖、いきづゑ。
【柱下史】チユウカノシ　老子の別稱。

訓　讀

【柱に膠して瑟を鼓す】膠レ柱鼓レ瑟（ことぢにかはしてひつをこす）頑固にして變通を知らぬ融通がきかぬ等の意。

類　語

天柱（テンチユウ）　銅柱（ドウチユウ）　鐵柱（テツチユウ）　礎柱（ソチユウ）　彫柱（チウチユウ）　琴柱（キンチユウ）

【柲】ヒ

㋑え、ほこのえ（戟柄）㋺ゆだめ（檠）

【柳】リウ

柳

㋑やなぎ（落葉喬木の一）しだれやなぎ　㋺ぬりこ、二十八宿中の星の名、南にある

【柳色】リウシヨク　柳のみどり色。
【柳枝】リウシ　㋑柳のえだ、柳條　㋺昔支那の名妓の名。
【柳眉】リウビ　やなぎのまゆ、美人の眉を形容していふ
【柳條】リウデウ　柳枝の㋑に同じ。
【柳桂】リウケイ　かはのうすき肉桂。
【柳眼】リウガン　柳の芽。
【柳絮】リウジヨ　柳のわた。
【柳巷】リウカウ　いろざと、遊郭。
【柳隄】リウテイ　柳の木のあるどて。
【柳陰】リウイン　やなぎの木かげ。
【柳絲】リウシ　しだれやなぎの絲の如く垂れ下りしもの。
【柳塘】リウタウ　柳隄に同じ。
【柳營】リウエイ　漢の大將周亞夫が細柳に營して號令したる故事より幕府の異稱、又將軍の居所。
【柳煙】リウエン　柳の木の間にたなびく煙、または霞。
【柳影】リウエイ　やなぎのかげ。
【柳態】リウタイ　柳の如くしなやかな樣子。
【柳腰】リウエウ　柳の枝、又柳の枝の如き腰、美人のこしつき。
【柳條絹】リウデウケン　織物の一、しまぎぬ。
【柳絮才】リウジヨノサイ　女子の才能を譽めていふ。
【柳川鍋】ヤナガハナベ　料理の名、泥鰌を割きて骨を去り刻牛蒡等と共に淺き土鍋にて煮玉子をかけたるもの。
【柳綠花紅】ヤナギハミドリニハナハクレナイ　㋑自然のまゝにして天眞爛漫なる光景の形容　㋺禪宗にて悟道に入りしこと。
【柳暗花明又一村】リウアンクワメイマタイツソン　田舍の春の景色の形容、即ち柳の木影のくらく花の色の白く明るい所に又一と村が見えるが如き田舍の景色を云ふ。

類　語

河柳（カリウ）　敗柳（ハイリウ）　門柳（モンリウ）　蒲柳（ホリウ）　杞柳（キリウ）　瑞柳（ズイリウ）　垂柳（スイリウ）　新柳（シンリウ）　殘柳（ザンリウ）　江柳（カウリウ）　堤柳（テイリウ）　渚柳（シヨリウ）　楊柳（ヤウリウ）　岸柳（ガンリウ）

【柴】サイ　シ

柴

㋑しば（自生の雜木）㋺柴をやきて天を祭ること　㋩ふさぐ（塞）㋥まもる（護）㋭まがき（籬）㋬積み重ねし物
【柴火】サイクワ　㋑しばを焼く火　㋺たきゞ。
【柴戶】サイコ　柴で作つた戶、貧家の形容。
【柴車】サイシヤ　かざらざる粗末なる車、即ち身分のひくき人の乘る車。
【柴門】サイモン　門をとざす、閉門。
【柴胡】サイコ　草の名、のぜり。
【柴望】サイバウ　柴を焚きて天を祭る（望は山川を望みて其神を祭る義）。
【柴扃】サイケイ　しばのとびら、柴戶。
【柴荊】サイケイ　しばやいばらなどの雜木、轉じてあばらやの義。
【柴扉】サイヒ　柴戶に同じ。
【柴毀】サイキ　喪に居て悲しみの餘りやせ衰へること。
【柴薪】サイシン　しばと薪、そだ。
【柴壇】サイダン　天を祭る時柴薪を焚く庭。
【柴轂】サイコク　柴車に同じ。
【柴折戶】シヲリド　柴の枝を折りかけてつくれるとびら。

【柵】サク

柵

㋑やらい、しがらみ、ませがき（竹木を結びわたして立てし垣）㋺とりで（砦）こじろ㋩かけはし（棧）㋥しがらみ（水中に立てる垣）
【柵壘】サクルキ　やらいをめぐらしたる砦。

類　語

橋柵（ケウサク）　城柵（ジヤウサク）　重柵（ヂユウサク）　水柵（スイサク）　蓮柵（レンサク）　竹柵（チクサク）　堡柵（ハウサク）　荒柵（クワウサク）

【柵】

柵に同じ

【柶】シ

さじ（匕）飲食物を掬ひ取るもの

【柷】シユク　ソク

樂器の名、樂を始める時の合圖に鳴らし用ゐるもの
【柷敔】シユクギヨ　音樂の名。

【柾】

國字

まさ、まさめ（材の縱に木理の正しく通りたるをいふ）

【栂】

國字

つが、とが（常綠喬木の一）、一說に梅喬木）

【栃】

國字

もと栃に作る、とち（深山に自生する

六畫

【栓】セン

㋑せん、物の穴にさしこむ木の釘、又其中より物の漏れ出ぬやうにするもの　㋺わん（盂）㋩とかき、ますかき（槽）㋥北海道に產する喬木、せんのき
【栓子】センシ　びんの口にさすせん。

栖

【栖】セイ　サイ

㋑すむ（特に鳥の棲む所）すみか　㋺やすむ、いこふ（息）棲息す　㋩忙しき貌　㋥とや、ねぐら、す　㋭すます、とゞめる、やすめる
【栖心】セイシン　心をやすめる、やすむ氣持。
【栖々】セイセイ　忙しき貌、急迫。
【栖息】セイソク　すむ、すまふ。
【栖遲】セイチ　官職等につかず遊ぶこと。
【栖憩】セイケイ　栖息に同じ。

訓　讀

【栖鶻の危巢に攀づ】攀ニ栖鶻之危巢一（せいこつのきさうによぢ）くま鷹の巢をつくつて居る高山絕壁によぢのぼる。

栗 リツ

栗

㋑くり（果樹の一）㋺かたし（堅）㋩つゝしむ、うやゝし（謹敬）㋥おごそか（嚴）きびし、いかめし㋭おほし（衆）㋬充實して肥え太る貌㋣道路に立てる目じるしの木

【栗子】リツシ くりのみ。
【栗尾】リツビ 雛の異名。
【栗扶】リツフ 栗のしぶかは。
【栗々】リツリツ ㋑恐れをのゝく貌㋺物事の多きさま。
【栗烈】リツレツ 寒さの甚しきこと。
【栗殼】リツコク 栗のかは。
【栗膏】リツカウ 生ぐりのみ。
【栗鼠】リツソ ねずみの一種、りす。

類語

行栗カウリツ　水栗スキリツ　山栗サンリツ　嘉栗カリツ
蒸栗ジョウリツ　拳栗ケンリツ　茅栗バウリツ　戰栗センリツ

栝 クワツ

㋑びやくしん（杉に似た喬木の一）㋺たむ、ためぎ、ため直す器、又ため直す

栞 カン

栞

㋑しをり、しをる（林に入るとき木の枝を折りて道しるべとするもの）轉じて案内、てびき、しるべ㋺國訓しをり（書物の中に挿む讀みかけの目じるし、轉じて字つき）

枅 ケイ ケン

枅

けた（柱上の角材）ますがた、とがた

校 カウ ケウ

校

㋑人を教ふる處、學ぶ所㋺かせ（刑具の名）㋩むくひ（報）むくゆ、はりあふ、しかへす㋥くらべる㋭しらべる（檢）考へるべかぞふ（計）數へしらべる㋬たゞす（訂）書物の誤をたゞす㋮てすり、又しきり（欄格）㋯軍中特設のしきり（欄）轉じて將たるもの

【校了】カウレウ 訂正ずみ、なほしずみ（主として印刷物の誤りを正す時にいふ）。
【校力】カウリヨク ちからをくらべる、轉じてあらそふこと。
【校友】カウイウ 學友、學校ともだち。
【校正】カウセイ 印刷物や寫本をその原稿と對照して誤りを正すこと。
【校合】カウガフ ひきあはせくらべる。
【校田】カウデン 昔我邦にて巡察使を遣はし開墾の成否・私田の隱設を校勘せしこと。
【校定】カウテイ くらべ合せて正し定める。
【校舍】カウシヤ がくかう、學舍。
【校則】カウソク 學校のきそく。
【校度】カウタク かんがへはかる、しらべる、
【校訂】カウテイ 校正に同じ。
【校長】カウチヤウ ㋑學校の主宰者㋺漢代の官名㋩卒伍の長。
【校書】カウショ ㋑書類を比較對照して誤りを正す㋺藝妓の異稱。
【校尉】カウヰ 宮城を守備する武官。
【校習】カウシフ かんがへならふ、究習。
【校理】カウリ 書物の誤りを考へ正して整理する義。
【校試】カウシ 試驗、考試。
【校閲】カウエツ ㋑調べ正す㋺文書をしらべて見る。
【校覈】カウカク 考へしらべる、覈は考究。
【校獵】カウレフ 埒を作り禽獸を獵り取る。
【校醫】カウイ その學校の衛生上の事務を扱ふ醫師。
【校讎】カウシウ 考へ調べる、讎は兩人相對して引き合せ誤りを正す意。
【校覽】カウラン しらべ見る。
【校倉】アゼクラ 方材を横に組上げて作りし倉をいふ。
【校外生】カウグワイセイ 籍を學校に置くのみにて入學せず地方に在りてその學校より通信教授を受ける學生。

類語

考校カウ　案校アンカウ　諸校シヨカウ　課校クワカウ
讐校シウカウ　通校ツウカウ　詮校センカウ　料校レウカウ
量校リヤウカウ　參校サンカウ　勘校カンカウ　檢校ケンカウ
刊校カンカウ　推校スヰカウ　覆校フクカウ

栢 柏の俗字

槐 槻に同じ

栩 ク

㋑くぬぎ（喬木の一、櫟）㋺よろこぶ貌、欣々

【栩々】ククよろこぶさま。

株 チユ シユ

株

㋑かぶ（幹や莖の最下部にて根に接する所）きりかぶ（木を伐り倒したる下部の殘木）㋺木を數へる語㋩ね（根）もと㋥國訓かぶ（株券、德川時代の家格、名跡、商業上特別に有する營業權、言語動作等にて其人の特殊のくせ）

【株主】カブヌシ 株式會社の資本を出した人株券をもつて居る人。
【株式】カブシキ 數多の人が資金を出し合ひて銀行會社等を組織したる資本の單位の稱。
【株券】カブケン 株主の權利を證明する物。
【株金】カブキン 株式に對する出資金。
【株守】シユシユ いつ迄も舊のまゝを守る。
【株枸】シユク 枯木のきりかぶ。
【株椿】シユヅワ 切かぶ、又きりくひ。
【株式會社】カブシキクワイシヤ 株主を以て組織する有限責任の會社。
【株連蔓引】シユレンマンイン 蔓をたぐる如く犯罪の連累者を捕へ罰すること。
【株式取引所】カブシキトリヒキジヨ 株券を賣買する所。
【株式合資會社】カブシキガフシクワイシヤ 無限責任社員と株主とを以て組織せる會社にして株主は有限責任社員とす。

類語

朽株キウシユ　孤株コシユ　枯株コシユ　舊株キウシユ
根株コンシユ　守株シユシユ　老株ラウシユ　新株シンシユ

栫 セン

㋑柴木を以て水を壅ぐ、ふさぐ㋺柴木を以て魚を捕ること㋩まがき（籬）又かこひ（圍）まがきでかこふ

椚 ヘツ バツ

いかだ（筏）

栱 キヨウ

㋑くひ、大なるくひ（杙）㋺ますがた、とがた、柱上の方形の木

【栱桁】キヨウケイ 柱の上にくむます形のけた。

栲 カウ コウ

栲

㋑栲及漆に似たる喬木㋺竹又は柳を曲げてつくりし容器㋩國訓たへ、たく（かぢの樹皮のすぢにて織りし布）

【栲栳】カウラウ 竹又は柳をまげて作りたる容器。

【栳】ラウ　ロウ

栲栳は柳を曲げて作り物を盛る器

【栴】セン

㋑印度地方に產する香木、栴檀㋺あふちの木の一名

【栴檀】センダン　印度・交趾等の熱帶地方に產する香木。

【栴檀從二二葉一香】センダンハフタバヨリカンバシ　栴檀の木は生えたての時から香氣があるより轉じて英雄が小兒の時から常人に異なるをいふ。

【核】カク

㋑たね、さね（果物の中の心）又其形のもの㋺くだもの㋩細胞原形質內の小さきしん㋥きびし（嚴）㋭しらべる、明らかにす、たゞす

【核心】カクシン　物の中心、樞要なる所。

【核果】カククワ　果實の仁を包むもの。

【核桃】カクタウ　くるみの異名。

【核算】カクサン　合計、しめだか。

【核膜】カクマク　細胞核を包む薄い皮。

【根】コン

㋑ね（草木の地下にある部分）ねもと、物の下部㋺もと、もとゐ、物事のはじめ㋩ねざす、始まる、根を生ず㋥根ごと、根こそげ、もとから㋭こん、根氣㋬本來のたち、しやうね㋣化學的變化に於てイオン化しがたき部分㋠立方又は平方を開きて得る數㋡事物に對する心のはたらき㋢こんき、物事に堪へ得る力、精魂

【根子】コンシ　草木の根。

【根元】コンゲン　もと、おほもと、おこり。

【根毛】コンマウ　草木の絲の如き柔かき根。

【根本】コンポン　もと、本源、根源。

【根究】コンキウ　あく迄も研究すること。

【根冠】コンクワン　植物の根の先につける帽子狀のもの。

【根治】コンヂ　病源を去つて再發せぬやう徹底的に療治すること。

【根性】コンジヤウ　生れつきの氣象、性質。

【根卻】コンキヤク　しりぞけ落す。

【根株】コンシユ　根と株、物事のもと。

【根抵】コンテイ　植物の根、轉じてその事物のおほもと。

【根氣】コンキ　物事をなすに堪へ得る心の力、精力。

【根莖】コンケイ　地下を橫走する根狀のくき蓮根の類。

【根絕】コンゼツ　根こそぎ取りさる、ねだやしする。

【根茭】コンガイ　木のねを根といひ、草のねを茭といふ。

【根菜】コンサイ　大根・午蒡等の如く根を食する野菜。

【根幹】コンカン　根本に同じ。

【根痼】コンコ　持病、宿痾。

【根源】コンゲン　おほもと、おこり、はじめ、根本。

【根著】コンチヤク　根があつて固くつく貌。

【根器】コンキ　㋑事理をわきまへ應用し得る器量㋺性質と才能。

【根種】コンシユ　もと、根源。

【根蔕】コンタイ　ねもと、事物の土臺。

【根據】コンキヨ　㋑よる、たよる㋺議論等のよりどころ。

【根證】コンショウ　議論等のより所、又證據。

【根城】ネジロ　根據とする城、本城。

【根國】ネノクニ　黃泉、あのよ、出雲の古名。

【根燒】ネヤキ　電柱等の地中に埋沒する部分の表面を燒くこと。

【根繼】ネツギ　柱代等の下部の朽腐せる部分を新材にて補足すること。

【根撥子】コンバス　製圖測量等に用ゐるぶんまはしの如きもの。

【根本義】コンポンギ　おほもとのわけがら。

【根抵當】ネテイタウ　將來發生すべき債權の爲め若くは既に發生せるも未だ效力を生ぜざる債權を擔保するため豫め設定する抵當、俗に根擔保ともいふ。

【根本中堂】コンポンチユウダウ　傳敎大師が藥師佛を叡山の中央に安置して中堂としこれを根本として他堂を造營せしよりその藥師堂をいふ、轉じて總て物事の中心となる所。

訓讀

【根拳而土易】コンケンシテドハカハル　植物に手入しすぎる弊害をいへる語、卽ち根は拳のやうになり土はたえずかはる。

【根を深くし蔕を固くす】深レ根固レ蔕　ねをふかくしたいをふかくす　物のどだいをしつかり固めること。

【根を絕ち葉を枯らす】絕レ根枯レ葉　ねをたちはをからす　掘出して除きつくす。

類語

巖根ガンコン　**培根**バイコン　**禍根**クワコン　**草根**サウコン　**本根**ホンコン　**天根**テンコン　**盤根**バンコン　**六根**ロクコン　**義根**ギコン　**善根**ゼンコン　**無根**ムコン　**性根**セイコン　**山根**サンコン　**修根**シユウコン　**細根**ザイコン

【格】カク　キヤク

㋑櫓高く枝長きこと㋺いたる（至）いたす、主として我が誠意に感じて來るに用ふ㋩きたる（來）くる㋥のり（法式）きそく㋭たゞす（正）きはむ、物事の道理を明らかにすべのぼる（登）㋡あたる（敵）手向ふ、さからふ、敵す㋢めあて、めやす（標準）㋣くらゐ、地位、ぶんげん㋤あらたむ（改）かふ（變）そむく、くひちがふ㋥うつ、手でうつ、たゝかふ（鬪）㋦文法上名詞・代名詞等が他の語に對して有する關係㋧律令を發する爲め時勢に適せしめて發したる命令㋨とゞむ、とゞまる、やむ、中止す

【格子】カウシ　細き木を縱橫に組み合せたるもの。

【格五】カクゴ　五目ならべの類。

【格令】カクレイ　法則、律令。

【格心】カクシン　嚴しく正しき心。

【格式】カクシキ　㋑きそく、法式㋺身分。

【格正】カクセイ　たゞしくす、たゞす。

【格外】カクグワイ　とりわけて、普通以外。

【格言】カクゲン　修養上戒めとなることば。

【格別】カクベツ　とりわけて、別段に、たいして。

【格例】カクレイ　從來のしきたり。

【格典】カクテン　一定せるかた。

【格的】カクテキ　まと、めあて。

【格制】カクセイ　くらゐどり、品位、かく。

【格段】カクダン　ことさら、とりわけ、格別。

【格尙】カクシヤウ　けだかいこと、高尙。

【格々】カクカク　鳥の鼻の形容。

【格致】カクチ　格物致知の略、物事にゆきわたりてつうずること。

【格殺】カクサツ　うちころす。

【格虜】カクリヨ　主命に從はぬ奴隸。

【格訓】カククン　正しく嚴しいをしへ。

【格詔】カクセウ　天子の命に從はぬこと、詔をさし拒くこと。

【格範】カクハン　法則、模範。

【格調】カクテウ　㋑人品、人がら㋺詩歌の調子と體裁。

【格鬪】カクトウ　くみうちしてたゝかふ。

【格註草】クラジロ　やまくさの一種。

【格納庫】カクナフコ　飛行機を入れ置く所。

【格物致知】カクブツチチ　事物の理を十分明らかに定める窟。

類語

平格（ヘイカク）　手格（シュカク）　書格（ショカク）　筆格（ヒツカク）
歸格（キカク）　來格（ライカク）　風格（フウカク）　志格（シカク）
定格（テイカク）　拒格（キョカク）　恆格（コウカク）　別格（ベツカク）
令格（レイカク）　文格（ブンカク）　新格（シンカク）　詩格（シカク）
天格（テンカク）　體格（タイカク）　賦格（フカク）　詞格（シカク）
訓格（クンカク）　合格（ガフカク）　品格（ヒンカク）　字格（ジカク）
考格（カウカク）　俗格（ゾクカク）　氣格（キカク）　畫格（グワカク）
正格（セイカク）　偏格（ヘンカク）　姿格（シカク）　絕格（ゼツカク）

〔栽〕サイ　ザイ

㋑うゑる、若木をうゑる、又には（庭）㋺植物のわかめ（稗芽）苗木㋩うゑこみ㋥牆を築く長き板

【栽培】サイバイ　植ゑ込みそだてる。
【栽尾】サイビ　男同士にて姦すること。
【栽插】サイサフ　苗木をうゑつける。
【栽植】サイショク　植物などをうゑる。

〔桀〕ケツ

㋑殘忍なること、又凶暴なること、あらし、わるがしこし㋺になふ（擔）㋩すぐれたる人（傑に通ず）㋥とや、ねぐら㋭すぐれる、秀でる貌㋬支那夏朝の最後の天子の名、殷の紂王と並稱する暴君

【桀歩】ケツポ　蟹の別名。
【桀俊】ケツシユン　才智すぐれたる者。
【桀紂】ケツチユウ　夏の桀王と殷の紂王、共に名高き暴君なるより殘忍にして凶暴なることにいふ。
【桀々】ケツケツ　おごる貌。
【桀黠】ケツカツ　わるがしこし、又其人。
【桀駿】ケツシユン　桀俊に同じ。
【桀驁】ケツガウ　荒馬、轉じて惡强きもの。
【桀之犬可レ使レ吠レ堯】ケツノイヌヲシテホエシムベシ　人は善惡に拘らず各々其の主人に忠を盡すを言ふ。

類語

姦桀（カンケツ）　暴桀（バウケツ）　桔桀（キツケツ）　雄桀（ユウケツ）
堯桀（ゲウケツ）　凶桀（キヨウケツ）　荒桀（クワウケツ）　强桀（キヤウケツ）

〔桁〕カウ

㋑けた（屋根又は橋等の外圍の横にある木）すべて横に組みわたしたる木㋺算盤の珠を貫くゝし、又其位どり㋩かせ（刑具の一）㋥ころもかけ（衣桁）

【桁竿】カウカン　ものほしざを。
【桁楊】カウヤウ　罪人の足にはめる刑具、おほあしかせ。

〔栾〕

欒の俗字

〔桂〕ケイ

かつら（香木の一）肉桂等の總稱

【桂子】ケイシ　㋑かつらの果實、轉じて人の子の敬稱㋺にくけい。
【桂月】ケイゲツ　陰曆八月の異名、月の異名。
【桂玉】ケイギヨク　蘇秦が楚國の米は玉よりも貴く薪は桂よりも貴しと言ひし故事より物價の高きをいふ。
【桂皮】ケイヒ　肉桂のかは。
【桂花】ケイクワ　木犀の花。
【桂粉】ケイフン　おしろい、鉛白。
【桂秋】ケイシウ　木犀の咲く季節、秋。
【桂荏】ケイジン　紫蘇の異名。
【桂戚】ケイセキ　皇后のみうち。
【桂庵】ケイアン　奉口人の世話をするもの。
【桂魄】ケイハク　月の異名、桂月。
【桂樹】ケイジユ　もくせいの木。
【桂蠹】ケイト　不忠にして祿を食む臣。
【桂林一枝昆山片玉】ケイリンイツシコンザンヘンギヨク　進士の試驗に及第せしことを謙遜していふ語。

訓讀

【桂を折る】折レ桂　高等文官の試驗に及第せしこと、僅に文人の仲間に入ったに過ぎぬとの意。

類語

巖桂（ガンケイ）　芳桂（ハウケイ）　叢桂（ソウケイ）　丹桂（タンケイ）
貞桂（テイケイ）　屑桂（セツケイ）　版桂（ハンケイ）　月桂（ゲツケイ）

〔桃〕タウ

もゝ（果樹の一）

【桃仁】タウニン　桃の實の中の肉。
【桃月】タウゲツ　三日月の別名。
【桃夭】タウエウ　嫁に入る女を桃花に見立てていひし語、嫁入時。
【桃奴】タウド　桃の實の冬まで枝についてゐるもの。
【桃竹】タウチク　しゆろちく。
【桃李】タウリ　㋑もゝとすもゝ㋺試驗によつて採用した門生又は推薦した賢子。
【桃弧】タウコ　桃の木の弓。
【桃符】タウフ　桃の木にて作り災厄を拂ふまじなひの札。
【桃苅】タウレフ　桃の木とあしの穗にて共に災を拂ふもの。
【桃牀】タウシヤウ　ねだい、寢臺。
【桃紅】タウコウ　もゝいろ。
【桃奴】タウケフ　桃奴に同じ。
【桃梠】タウリヨ　やねのひさし。
【桃雀】タウジヤク　みそさゞいの異名。
【桃臘】タウナウ　桃のやに、桃膠。
【桃膠】タウカウ　前に同じ。
【桃源】タウゲン　世間を離れた別世界、即ち仙境の義。
【桃蟲】タウチウ　みそさゞいの異名。
【桃酒】トウシユ　上巳の節句に用ゐる酒。
【桃花水】タウクワスイ　桃の花の咲く頃雪消等にて增す河水。
【桃花節】タウクワセツ　三月三日の雛祭。
【桃花面】タウクワメン　ほんのりとせる赤色。
【桃花粉】タウクワフン　べに、臙脂。
【桃絲竹】タウシチク　なよたけ。
【桃節句】モモノセツク　桃花節に同じ。
【桃太郎主義】モモタラウシユギ　桃太郎の鬼ケ島征伐が侵略的なるより軍略主義の隱語
【桃李不レ言下自成レ蹊】タウリモノイハザレドモシタオノヅカラケイヲナス　桃や李の果實は美味なる故招かずとも人が集り來り自然に樹下に道が出來るの意、轉じて德行ある人は不言の中に人を心服せしめる意。

類語

含桃（ガンタウ）　牛桃（ギウタウ）　胡桃（コタウ）　越桃（エツタウ）

〔桄〕クワウ

桄榔はくろつげ、棕櫚に似たる木

〔框〕キヤウ

㋑かまち、床の端の横木、棺門㋺わく（枠）㋩ひつぎのくち、棺門

〔案〕アン

㋑つくゑ（几）だい、ひぢつき㋺文書のしたがき㋩食器、食物をのせる臺、又わん、はち、ぜん㋥さかひ（界）㋭次第、ついで㋬かんがふ（考）しらべる㋮おさふ（按）なぞらへる㋯とゞむ（頓）㋰みる（視）㋱よる（據）㋲相談すべき事柄、議題

【案几】アンキ　つくゑ、几案。
【案下】アンカ　つくゑのほとり、机下。
【案内】アンナイ　㋑みちしるべ、てびき、みちびき㋺通知、報知㋩狀況、情況。
【案文】アンモン　官府などの文章の下がき。
【案外】アングワイ　おもひの外、存外、意外。
【案比】アンヒ　考へ比較すること、考査して比較すること。

【案行】アンカウ　しらべあるく、巡察。
【案定】アンテイ　かんがへさだめる。
【案件】アンケン　議し又は調べるべき事柄。
【案衍】アンエン　ひろまるさま。
【案堵】アンド　安心すること、安意。
【案首】アンシュ　秀才の意。
【案致】アンチ　しらべきはめる。
【案牒】アンテフ　官署の帳簿。
【案察】アンサツ　しらべる、吟味す。
【案紙】アンシ　したがきに用ゐる紙、原稿用紙。
【案摩】アンマ　按摩に同じ。
【案撫】アンブ　いたはりやすんず、安撫。
【案酒】アンシュ　さけのさかな。
【案閲】アンモン　かんがへたづねること。
【案頭】アントウ　机の上、机のかたはら。
【案検】アンケン　しようこをしらべる。
【案牘】アントク　調べるべき書類。
【案山子】アンザンシ　かゝし、又見かけばかりにて役にたゝぬ人。

類語

凡案アンシ　玉案ギヨクアン　香案カウアン　公案コウアン
大案タイアン　獄案ゴクアン　牒案テフアン　文案ブンアン
徹案テツアン　圜案エンアン　重案チヨウアン　議案ギアン
懸案ケンアン　奏案ソウアン　斷案ダンアン

桉

案に同じ

桎

シツ

㋑あしかせ（足械）㋺かすがひ、又くさび（楔）㋩ふさぐ㋥自由をしばられる、苦しめられる

【桎梏】シツコク　あしかせとてとかせ、又それをはめられること。

【桎檻】シツカン　あしかせを施してをりに入れる。

桐

トウ

㋑きり（落葉喬木の一）㋺ことと（琴）㋩梧桐はあをぎり

【桐油】トウユ　あぶら、桐の實よりしぼり取りし油。

【桐壺】キリツボ　昔禁中にありし殿舍の一。

【桐油紙】トウユシ　桐油をひいた防水紙。

桑

サウ

㋑くは（落葉喬木の一）㋺くはとる（桑の葉をつむ）又蠶を養ふこと

【桑戸】サウコ　桑の戸の意、貧家の形容。
【桑田】サウデン　くはゞたけ、桑園。
【桑年】サウネン　四十八歳の稱。
【桑弧】サウコ　桑の木の弓、祝儀に用ふ。
【桑門】サウモン　世を遁れし者、佛徒、僧侶。
【桑苧】サウチヨ　くはの木とからむし。
【桑飛】サウヒ　鳥の名、みそさゞいの異名。
【桑海】サウカイ　「桑田變成二碧海一」の略語にて山河の變轉すること、世の中の運命のかはりやすきことをいふ。
【桑扈】サウコ　鳥の名、いかるが。
【桑蓼】サウフ　桑葉を摘取る女。
【桑梓】サウシ　子孫が父母の植ゑたる桑梓を見て自ら親を思ひ出す意より轉じて故郷の義。
【桑麻】サウマ　くはとあさ。
【桑榆】サウユ　㋑朝と夕、前と後、彼と此㋺日の くれがた、轉じて死期の迫る人。
【桑稼】サウカ　蠶をかふ、田を耕すこと。
【桑港】サウコウ　北米合衆國の西岸にある要港、サンフランシスコ。
【桑樞】サウスウ　門又は戸。
【桑槿】サウキン　木の名、むくげの一種。
【桑蠖】サウクワク　桑の木につく蟲。
【桑織】サウシヨク　桑を植ゑ機をおる。
【桑麻交】サウマノマジハリ　田舍人のゝんきなる交際。
【桑中之喜】サウチユウノキ　男女不義の樂み。
【桑士綢繆】サウシチウベウ　風雨のくる前になると鳥が桑の根をとつて巣の穴を塞ぎ風雨の侵入を防ぐ事より人間もわざはひを未然に防がねばならぬといましめし語。
【桑田碧海】サウデンヘキカイ　桑海を見よ。
【桑間濮上】サウカンボクジヤウ　古代支那にて行はれし淫猥なる音樂。
【桑蓬之志】サウホウノココロザシ　男子にして安逸を貪らず四方に活動し功名を立てんとする精神。
【桑榆日レ迫】サウユマサニセマラントス　桑榆は日暮死期の近づく意。
【桑濮之音】サウボクノイン　桑間濮上に同じ。
【桑田變成二碧海一】サウデンヘンジテヘキカイトナル　桑畑がいつの間にか海と變ずる意にて人世の變轉きはまりなきをいふ。

類語

農桑ノウサウ　耕桑カウサウ　耨桑チサウ　扶桑フサウ

桑

桑の俗字

桓

クワン

㋑漢代しゆくばのしるしとした木（郵亭表木）㋺棺の四隅に樹てる柱㋩たけし、いさまし、つよし、又そのさま㋥たちもとほる、遇み難きさま

【桓圭】クワンケイ　長さ九寸の玉、支那周代に公爵のしるしとせし玉。

【桓表】クワンベウ　とりゐ、華表。

【桓々】クワンクワン　強くたけきさま。

桔

ケツ

㋑桔梗は藥草の名、きゝやう㋺桔槔はねつるべ、水を汲む仕掛、又それと同じ構造のもの

【桔木】ケツボク　軒先に取りつけたる木。

【桔梗】ケツコウ　きゝやう、一種の藥草。

【桔槔】ケツカウ　はねつるべ。

柞

國字

かせ（絲をかけ取る具）かせぎ、かせひ

七畫

栖

杯に同じ

【栖勺】ハイシヤク　栖は盃、勺は杓、酒をのむこと。

【栖棲】ハイケイ　木をまげてつくりし器物、まげもの。

杖

ヂヤウ

㋑つゑ（杖）㋺からざを㋩榲桲はまるめろ

梦

夢の俗字

桴

フウ　フ

㋑いかだ（大なるを筏、小なるを桴といふ）㋺太鼓を撃つ杖、ばち

【桴筏】フバツ　小なるいかだの義。

【桴鼓】フコ　太鼓を打つこと。

桶

トウ　ヨウ　ツ

㋑をけ（水を盛る具）㋺ます（斛）容積をはかる具

桷

カク　ゴク

㋑たるき（四角のたるき）㋺平かなるえだ㋩國訓ずみ（こりんどの一）

【桷斜】カクシヤ　屋根の四方に出る大なるはしらのこと。
【桷椽】カクスキ　たるき、方椽。

類語　繡桷シウカク　椽桷テンカク　龍桷リヨウカク　朱桷シユカク　樸桷ボクカク

【桹】ラウ

㋑高き木㋺桃根は木の名、くろつげ

【桷】

柳の本字

【桿】

杆の俗字

【梁】リヤウ

㋑はり、うつばり、屋の棟を支へる大なる横木㋺はし（車の通り得る橋）㋩やな（魚を捕ふるための堰）やなぐひ㋥朝名（梁武帝蕭衍の建てしものと梁太祖朱温の建てしもの）又國名（魏の別稱）㋭古代支那九州の一（今の四川・雲南・貴州）

【梁木】リヤウボク　㋑うつばり、はりの木㋺運動器械の一。
【梁長】リヤウチヤウ　えびす、盗賊などの頭。
【梁倚】リヤウイ　もたれあふ。
【梁津】リヤウシン　わたしば、津梁。
【梁苑】リヤウエン　梁の孝王の有名なる遊園。
【梁飯】リヤウハン　米の飯。
【梁棟】リヤウトウ　うつばりと棟、轉じて主要の人物。
【梁桟】リヤウサン　さんばし。
【梁園】リヤウエン　梁苑に同じ。
【梁楹】リヤウエイ　うつばりと柱、主要の地位にある人物。
【梁塵】リヤウヂン　㋑音樂の巧妙なる形容㋺晉樂の名手魯人虞公が歌ふ時は梁上の塵まで感じ動いたといふ故事。
【梁麗】リヤウレイ　はり、うつばり。
【梁間】ハリマ　家のはりの長さ。
【梁父吟】リヤウフノギン　諸葛亮の作りし名詩の名。
【梁山泊】リヤウザンパク　山東省梁山の下にありし湖水、水滸傳の林冲・朱貴等が梁山泊に相會せし故事より自から豪傑を氣取れる者の集合する場合などの意に用ふ（梁山伯とするは誤）
【梁上君子】リヤウジヤウノクンシ　盗賊の異稱。

類語　簷梁エンリヤウ　舟梁シウリヤウ　大梁タイリヤウ　津梁シンリヤウ　陸梁リクリヤウ　跳梁テウリヤウ　棟梁トウリヤウ　魚梁ギヨリヤウ　漆梁ガウリヤウ　石梁セキリヤウ　彫梁テウリヤウ　空梁クウリヤウ

【梃】テイ　チヤウ

㋑つゑ、ぼう、棍棒㋺木の枝の直きもの㋩勁直の貌㋥縣の名㋭長さある物の數を示す語㋬てこ（槓杆）
【梃子】テイシ　てこ、槓杆。
【梃杖】テイヂヤウ　つゑ、棍棒。
【梃桿】テイカン　梃子に同じ。
【梃銀】チヤウギン　德川時代銀のよべ棒を貨幣として用ひたるもの。

【梅】バイ　マイ

㋑うめ（果樹の一）㋺つゆ、さみだれ、梅雨
【梅天】バイテン　梅雨のそら。
【梅兄】バイケイ　梅と水仙を兄弟に見ていふ
【梅雨】バイウ　㋑さみだれ、梅の實の黄熟する頃ふる雨㋺時候の一、六月十一日頃から七月一二日頃に至る約三週間。
【梅毒】バイドク　かさ、黴毒。
【梅信】バイシン　梅花のさきしらせ。

【梅夏】バイカ　梅雨の㋺に同じ。
【梅酒】バイシユ　古くより我國にて釀造する酒の一種、俗にうめしゅ。
【梅魚】バイギヨ　魚の名、いしもち。
【梅漿】バイシヤウ　うめず、梅酢、梅醬。
【梅茵】バイシヨ　うめぼし、梅干。
【梅壺】バイコ　昔禁中にありし殿舍にして女官の居る所。
【梅霖】バイリン　さみだれ、梅雨。
【梅醬】バイシヤウ　うめず、梅づけの汁。
【梅々】マイマイ　ほのか、味々。
【梅子雨】バイシウ　つゆ、さみだれ。
【梅花國】バイクワコク　梅花の多き所。
【梅初月】ウノハウヅキ　陰曆十二月の異名。
【梅林止レ渴】バイリンカツトドム　魏の曹操が行軍して道を失ひ一軍渴を訴へし時に曹操大呼していふ前路に梅林があつて正に實を結んでゐる食つて渴を醫せよと士卒聞いて口中酸味を覺え自ら水が出て一時渴をしのいだといふ故事。
【梅要鶴子】バイサイカクシ　林和靖が西湖に隱遁し梅を植ゑ鶴を育てゝ樂しんだ故事より風流なる生活をいふ。

類語　鹽梅アン　黄梅クワウバイ　探梅タン　楊梅ヤウバイ　臥梅ガバイ　野梅ヤバイ　早梅サウバイ　寒梅カンバイ　月梅ゲツバイ　白梅ハクバイ　殘梅ザンバイ　落梅ラクバイ　入梅ニフバイ　出梅シユツバイ　蠟梅ラフバイ　青梅セイバイ　松竹梅シヨウチクバイ　臥龍梅ガリヨウバイ

【梏】コク

㋑てかせ、てかし（手械）いましめ㋺つらぬく（貫）首をつらぬく㋩みだる（亂）しばる㋥なほし（直）
【梏拲】コクシツ　手かせと足かせ。

【梓】シ

㋑あづさ（喬木の一）あがめがしは㋺文書を版に彫ること、又その版木
【梓人】シジン　大工の棟梁。
【梓材】シザイ　はんぎ、あづさの木版。
【梓里】シリ　故郷、桑梓。
【梓匠】シシヤウ　梓人、匠人にして木工の義。
【梓樞】シスウ　天子の御ひつぎ。
【梓宮】シキウ　前に同じ。
【梓弓】アヅサユミ　㋑梓の木にて作れる弓㋺はる、いるなどに冠する枕詞。
【梓匠輪輿】シシヤウリンヨ　木工と車工。

訓讀

【梓に上す】上レ梓　あづさにのぼす　書物を出版すること、上梓。

【梱】シ

㋑くちなし（灌木の一）㋺くはのみ（桑の實）

【根】バイ

印度地方に生ずる木、ばいたら

【梗】カウ　キヤウ

㋑木の名、やまにれ（枌楡）㋺やむ、やまひ（病）やまし、又しんばい㋩ふさがる（塞）㋥たゞし（正）なほし（直）㋭たけし（猛）つよし㋬おほよそ（大略）あらまし㋣とげ、又とげあるもの㋠桔梗は草の名、きゝやう
【梗正】カウセイ　强くして邪曲なし。
【梗草】カウサウ　桔梗の異名。
【梗塞】カウソク　ふさがる、壅塞。
【梗概】カウガイ　大略、あらまし、概略。
【梗壅】カウエウ　ふさがる、梗塞。
【梗澀】カウシフ　ふさがり通ぜぬさま。

類語

桔梗（キキヤウ）　強梗（キヤウ）　骨梗（コツカウ）　剛梗（ガウカウ）
土梗（ドカウ）　招梗（セウカウ）　蕪梗（ブカウ）　荒梗（クワウカウ）

【梛】（ダナ）

㋑栂梛は楊柳に似たる木㋺國訓なぎ（喬木の一）竹柏

【條】（デウ）

㋑えだ、こえだ（小枝）ずわえ㋺ながし（長）㋩とほし（遠）㋥すぢ、すぢみち（條理）㋭逐一に數へあげるにいふ字、又細長きものを數ふる語㋬おきて、箇條書の規則㋮なは（繩）㋯とほる（條達）のびのびす㋰のぶ（暢）㋱うそぶく（貌）㋲枝を切りおとす㋳東北より吹く風㋴よりてゆへに、ばかりの、ほどの㋵木の名、柑橘の一種、ゆづりはの屬

【條文】（デウブン）　箇條書の文面。

【條目】（デウモク）　事のすぢを立てゝ書きつらねた箇條がき、條項、又事柄の項目。

【條件】（デウケン）㋑事柄の項目、くだり㋺むすびたる約束の箇條。

【條決】（デウケツ）　筋道をたゞす。

【條列】（デウレツ）　區別をたてゝ並べる。

【條例】（デウレイ）　法律命令のいはれを示して一々列擧したるもの。

【條制】（デウセイ）　法律の項目。

【條折】（デウセツ）　區別を立てること。

【條風】（デウフウ）　東北の風。

【條枝】（デウバイ）　小さきえだ。

【條約】（デウヤク）㋑約束の條文㋺權利義務を定めたる國際間の約束

【條鬯】（デウチヤウ）　のびゝ〳〵せるさま。

【條理】（デウリ）　事のすぢみち。

【條規】（デウキ）　條文の規定、規則、法律。

【條貫】（デウクワン）　條理に同じ。

【條答】（デウタフ）　箇條を立てゝ答へる。

【條書】（デウシヨ）　條理を立てゝ測り定む。

【條款】（デウクワン）　條目に同じ。

【條項】（デウカウ）　物事の筋みち。

【條達】（デウタツ）　木の枝のゝびゝろがる貌。

【條舒】（デウヂヨ）　のびやかなるさま。

【條對】（デウタイ）　條答に同じ。

【條棗】（デウキ）　箇條の部類。

【條暢】（デウチヤウ）　のびやかなるさま。

【條綱】（デウカウ）　條理と法則。

【條線】（デウセン）　すぢ、すぢめ。

【條約國】（デウヤクコク）　條約を結びて互ひに通商互市する國。

類語

箇條（カデウ）　綱條（カウデウ）　衰條（スヰデウ）　徼條（ドンデウ）
鴻條（コウデウ）　繁條（ハンデウ）　垂條（スヰデウ）　政條（セイデウ）
寛條（クワンデウ）　朽條（キウデウ）　應條（オウデウ）　纖條（センデウ）

【梟】（ケフ）

㋑ふくろふ、ふくろ（鳥の名、みゝづくの屬）㋺古の極刑、さらしくび、さらす㋩たけし（健）あらくつよし、又そのこと㋥山のいたゞき㋭すぐれたるもの（雄）㋬ちよぼ（さいの目の一點）

【梟木】（ケウボク）　ごくもんのだい、首をさらす木。

【梟仔】（ケウシ）　ふくろふの雛。

【梟名】（ケウメイ）　猛く勇ましき名。

【梟勇】（ケウユウ）　あらくつよし。

【梟首】（ケウシユ）　昔の酷刑、ごくもん、さらしくび。

【梟悍】（ケウカン）　わる強くしてあらし。

【梟猛】（ケウマウ）　たけくしてあらし。

【梟桃】（ケウタウ）　桃の實の冬に至りて落ちざるもの、桃梟。

【梟惡】（ケウアク）　性質あらくして惡し。

【梟將】（ケウシヤウ）　勇猛なる大將。

【梟雄】（ケウユウ）　たけく強き英雄。

【梟盧】（ケウロ）　ばくち、かけごと。

【梟騎】（ケウキ）　たけき騎兵、強き騎兵。

【梟鷽】（ケウラン）　梟は惡鳥、鷽はめでたき鳥、小人と君子とに喩ふ。

【梟帥】（タクル）　上古の野蠻人の酋長。

【梠】（リヨ　ロ）

ひさし、のき、屋根の端

【梡】（クワン）

㋑まないたの名（虞舜時代にありし四本足の俎）㋺きりたる木（斷木）

【梢】（セウ）

㋑こずゑ（木末）こぬれ㋺こしば（小柴）㋩枝の末の細長き所、ずわえ㋥かぢ、船の舵㋭樂者の執る竿

【梧】（ゴ）

㋑あをぎり（桐の一種）㋺枝梧はさゝふ（支）㋩魁梧は壯大なるさま

【梧下】（ゴカ）　机下に同じ。

【梧右】（ゴウ）　前に同じ。

【梧前】（ゴゼン）　同上。

【梧桐】（ゴドウ）　桐、あをぎり。

【梧櫃】（ゴカ）　梧桐とひさぎ、共に良材。

【梨】（リ）

なし（果樹の一）

【梨花】（リクワ）　梨の花。

【梨食】（リシヨク）　芍藥の一名。

【梨雪】（リセツ）　梨の白き花を雪に喩へし語。

【梨園】（リエン）　唐の玄宗皇帝が梨園に人を集めて俗樂を學ばしめたる故事に因み演劇又は俳優のこと。

【梨膏】（リカウ）　梨の實から製したヂヤム。

【梨糕】（リカウ）　梨の實と砂糖にて製したる一種の菓子。

【梨穰】（リジヤウ）　梨の實のしん。

【梨地】（ナシヂ）　蒔繪の地に金銀粉にて梨の實の膚の斑紋の如く塗りたるもの。

【梨園弟子】（リエンテイシ）　梨園に同じ。

【梩】（リ）

㋑ふご、又つちぐるま、土馨㋺すき（鍤）くは（鍬）

【楊】（キク）

かんじき、登山のとき滑らぬやうに履の下につける釘を打つた履物

【梭】（サ）

ひ（機織の具）管を入れ緯糸を通すもの

【梭投】（サトウ）　物の經過の急なる貌。

【梭杼】（サジヨ）　はたのひ、梭杼。

【梯】（テイ）

㋑きだはし（木階）はしご、かけはし㋺よる（凭）㋩上の級に登る手引となるべきもの

【梯形】（テイケイ）　はしごがた。

【梯航】（テイカウ）　山河を越え遠方から來ると

【梯階】（テイカイ）　はしご、階梯。

類語

雲梯（ウンテイ）　懸梯（ケンテイ）　突梯（トツテイ）　階梯（カイテイ）

【械】（カイ）

㋑かせ、かし（罪人の手足等にはめる刑具）又かせを加へて自由にせざることいましめ㋺うつは、道具㋩術のたくみなるもの、たくみ（巧）からくり、しかけ㋥つはもの、兵器

【械杜】カイシウ かせ、刑具の名。
【械桎】カイシツ 前に同じ。
【械梏】カイコク 同上。
【械器】カイキ うつは、道具類。
【械枋】カイバウ かせを施し笞にて撃つ。
【械鬪】カイトウ 武具をもつてたゝかふ。
【械繫】カイケイ かせをはめ獄につなぐ、又囚へしばる。

類語

機械キカイ　器械ナカイ　戎械ジユウカイ
甲械カフカイ　木械モクカイ　糧械リヤウカイ　手械シユカイ

梱 コン

㋑しきみ（閫）㋺なる（就）㋩ひとしくす ㋥國訓こり（旅行用の鞄の類、包裝せる荷物）、又それを數ふる語
【梱外】コングワイ 門外、又都城の外。

梳 セツ

うだち、うだつ（梁上の短き柱）

梳 ソ

㋑くしけづる㋺くし（櫛）齒のあらき櫛
【梳沐】ソモク くしけづる、髮をあらふ。
【梳洗】ソセン 前に同じ。
【梳盥】ソクワン 髮をくしけづり手を洗ふ。
【梳櫛】ソシツ 髮をくしけづる、又くし。
【梳綿機】ソメンキ 綿をくるきかい。

類語

爬梳ハソ　櫛梳シツソ　叙梳サイソ　雪梳ケイソ

梵 ボン

㋑清淨にしてけがれなき意㋺佛教、僧、寺院、又印度の事物に冠する字、梵字、梵語㋩印度の貴族にて婆羅門教の信者㋥婆羅門教の眞理、又は梵天王
【梵天】ボンテン ㋑佛の住する所㋺梵天王の略㋩修驗道にて新禱に用ゐる幣束。
【梵王】ボンワウ 佛教の守護神として帝釋天と共に佛像の左右に侍するもの。
【梵本】ボンポン 梵字の書物。
【梵册】ボンサツ 佛教の經典、佛書。
【梵字】ボンジ 印度古代の文字。
【梵行】ボンギヤウ ㋑佛法の修業、又淨なる生活㋺佛門三行の一。
【梵宇】ボンウ てら、寺院。
【梵夾】ボンケウ 經文、おきやう。
【梵坊】ボンバウ てら、寺院。
【梵貝】ボンバイ ほらがひ。
【梵地】ボンチ 佛教のゆきわたりたる土地。
【梵刹】ボンサツ 寺院、てら。
【梵典】ボンテン 梵字にて書きし經文。
【梵唱】ボンシヤウ 佛法のうたひもの、御經。
【梵妻】ボンサイ 僧の妻、だいこく。
【梵衲】ボンナフ 僧侶、出家。
【梵衆】ボンシユウ 梵天の下に居る民、すべての人。
【梵唄】ボンバイ 節をつけて經をよむ聲。
【梵宮】ボンキユウ 寺院。
【梵音】ボンオン ㋑讀經のこゑ㋺佛のこゑ。
【梵嫂】ボンサウ 僧の妻、だいこく。
【梵家】ボンカ 梵宮に同じ。
【梵偈】ボンゲ 佛を讃美する詩詞。
【梵殿】ボンデン 寺院の堂。
【梵語】ボンゴ 昔の印度の語、即ち天竺の言葉、サンスクリット。
【梵閣】ボンカク 寺の堂、佛堂、佛殿。
【梵樂】ボンガク 佛樂、印度の音樂。
【梵磬】ボンケイ 佛家の使用する石製の樂器
【梵僧】ボンソウ 佛教を奉ずる者、ばうず。
【梵經】ボンキヤウ 佛書に同じ。
【梵鐘】ボンシヨウ てらのかね、つりがね。
【梵讃】ボンサン 經文を梵語のまゝにうたへるもの。

【梵天王】ボンテンワウ 婆羅門教の造化の神。
【梵天宮】ボンテンキユウ てら、寺院。
【梵天國】ボンテンコク 放逐せらるゝこと。

類語

淸梵セイボン　釋梵シヤクボン　夜梵ヤボン　幽梵イウボン
啓梵ケイボン　曉梵ゲウボン　午梵ゴボン　晨梵シンボン

梶 ビ

㋑こぎ具（楫）㋺國訓かぢ（船を進退する具、楮の一種、七夕の夜に文字をかきて神に供ふるもの、車の前にある木）かぢぼう

梺 國字

ふもと（麓）やまのすそ、山麓

棚 國字

しきみ（山中に生ずる有毒な常綠灌木）

八畫

棯

梱に同じ

梨

梨の本字

棄 キ

㋑すつ（捐）見すてる、うちやる、すたるやむ（廢）㋺わする（忘）放置してかまはぬ㋩周の先祖后稷の名
【棄去】キキヨ しりぞけすてる。
【棄日】キジツ 時間を空費すること。
【棄市】キシ 殺して屍を市中にさらす、又その刑。
【棄世】キセイ ㋑死亡すること㋺世をのがれること。
【棄卻】キキヤク ㋑棄てしりぞける㋺上訴を裁判所が理由なしと認め或は條件の缺漏せるものとしてしりぞけること。
【棄兒】キジ すてられし嬰兒、すてご。
【棄捐】キエン すてる、すてられる。
【棄唾】キダ をしげなくすてるさま。
【棄筆】キヒツ 書くことをやめる意。
【棄敗】キハイ 敗れし者を棄てゝ顧みぬ。
【棄毀】キキ 破りすてる。
【棄孩】キガイ すてご。
【棄擲】キテキ なげやりにす、うちすてる。
【棄疑】キギ まどひをさる。
【棄廢】キハイ すてる、すてやぶる。
【棄遺】キキ すてる、みすてる。
【棄軀】キク いのちをなげだす。
【棄權】キケン 己の權利をすてゝ用ゐぬ。

類語

遐棄カキ　遺棄キ　怠棄タイキ
屏棄ヘイキ　昏棄コンキ　放棄ハウキ　惰棄ダキ
剪棄センキ　背棄ハイキ　措棄ソキ　餘棄ヨキ
委棄イキ　割棄カツキ　棄棄ブンキ　黜棄チユツキ

棉 メン

わた、きわた（植物の名）もめん

棊 キ ギ

㋑ご、ごいし、ごをうつ㋺さい、こま（賭博の具）㋩ね（根拠）
【棊子】キシ ごいし。
【棊布】キフ 棊石を敷く如く散ばり並ぶ。
【棊列】キレツ ごばんの目の如くきちんとならぶさま。
【棊局】キキヨク ごばん、棊盤。
【棊客】キカク 棊をうつ人、ごうち。
【棊罔】キマウ あざむきいつはる。
【棊峙】キチ 棊石のならびたるさま、すべ

てならび立つ貌。
【棊枰】キヘイ　棊局に同じ。
【棊盤】キハン　同上。
【棊戰】キセン　棊をうつこと。

類語

奕棊エキキ　高棊カウ　閑棊カンキ　象棊シャウキ
將棊シャウギ　置棊チキ

【棋】キ

棊に同じ

【棌】サイ

木の名、かしは（槲）くぬぎ（櫟）
【棌條不レ刮】サイテンケヲラズ　粗造の建築物。

【棍】コン

㋑ぼう（杖梃）㋺惡漢、わるもの
【棍棒】コンボウ　ぼう、杖梃。
【棍匪】コンヒ　くせもの、わるもの、惡漢。
【棍騙】コンヘン　騙詐、かたり。
【棍頭槍】コントウサウ　しこみづゑ。

【棐】ヒ

㋑たすく（輔）㋺木の名、かや（榧）

【棒】ハウ　ボウ

㋑ぼう、つゑ（杖梃）㋺うつ（打）
【棒棍】ボウコン　ぼう、棍棒。
【棒喝】ボウカツ　禪宗の修業法の一。

【棕】

櫻に同じ

【棖】タウ

㋑ほこだち、又はこだて（門の兩旁に立て扉を押す木）㋺つゑ（杖）

【棗】サウ　ソウ

㋑なつめ（果樹の一）㋺國訓なつめ（茶器の一、抹茶の容器）

【棘】キヨク

㋑いばら、うばら（灌木の一）㋺すみやか（速）せはし（急）いそがはし㋩外朝の位階の稱、昔外朝の庭の左右に九株づゝの棘を植ゑ位階によりて其の下に列せしめしよりいふ㋥ひとや（牢獄）㋭ほこ（戟）㋬刺ある小木の總稱㋣棗の一種
【棘矢】キヨクシ　いばらの木の矢、魔よけのまじなひとして用ふ。
【棘刺】キヨクシ　いばらのとげ。
【棘門】キヨクモン　ほこ槍などを備へし門。
【棘茨】キヨクシ　いばら、うばら。
【棘針】キヨクシン　いばらの針、又寒氣の甚だしきにいふ語。
【棘薪】キヨクシン　そだ、しば。
【棘叢】キヨクソウ　いばらのむらがり生じたる所。
【棘鰭魚】キヨクフギヨ　鯛の漢名。
【棘皮動物】キヨクヒドウブツ　うに・なまこ等の如く體に前後左右の區別なき動物。

類語

天棘テンキヨク　叢棘ソウキヨク　苞棘ハウキヨク　茨棘シキヨク
荊棘ケイキヨク　杞棘キキヨク　孔棘コウキヨク　槐棘クワイキヨク
楚棘ソキヨク　枳棘キキヨク

【棙】レイ

㋑ばち、琵琶のばち（撥）㋺からくり、ぜんまひじかけ（機械）

【棚】ハウ

㋑たな（物をのせ置く所）架㋺やなぐひやづゝ（矢藏）㋩かけはし（棧）
【棚子】ハウシ　わく、絲をかけるもの。
【棚棧】ハウサン　かけわたせるたな、棧橋。
【棚經】ハウギヤウ　盂蘭盆會の生靈祭の時供物を供へたる棚に向ひてよむお經。
【棚卸】タナヲロシ　㋑商品の賣殘品を調査し其數量品質を確め價格を評定すること　㋺人の缺點短所をあばきたてること。
【棚機】タナバタ　七夕に祭る星の名、織女。

【棡】ヨ

樗を承くるもの、さかだるのだい

【棡】コク

鼠を捕ふる器、ねずみおとし

【棡】

棡に同じ

【棟】トウ

㋑むね（屋根の最高部）むなぎ（屋脊の横にわたす主要の材）㋺星の名㋩かしら、をさ、主要なる人物
【棟梁】トウリヤウ　㋑むねとはり㋺國の重職に居りて大政に任ずる人㋩大工の頭。
【棟甍】トウバウ　むながはら。
【棟折榱崩】トウヲレスキクツル　上の者が倒れる時は下の者も共につぶれること。

類語

楹棟エイトウ　紅棟コウトウ　甍棟バウトウ　連棟レントウ
上棟ジヤウトウ　屋棟ヲクトウ　梁棟リヤウトウ　厚棟コウトウ
累棟ルイトウ　孤棟コトウ　雲棟ウントウ

【棠】タウ

㋑車の兩旁の横木㋺甘棠は木の名、こりんご、やまなし㋩海棠は花樹の名
【棠梨】タウリ　からなし、べにりんご。
【棠毬子】タウキウシ　さんざし。

【棣】テイ　タイ

㋑にはざくら（ゆすらうめに似たる果を結ぶ果樹）㋺とほる（通）㋩車の下の木二擧動の落つきたるさま、又なれたる貌㋭唐棣はすもゝの一種
【棣通】テイツウ　とほる、通ずる。
【棣棠】テイタウ　木の名、やまぶき。
【棣々】テイテイ　落つきたるさま。

【棧】サン　ザン　セン

㋑かけはし（險阻な所に木を架けて造りしみち）㋺たな（棚）㋩はたごや（旅舍）㋥商品を貯へる所㋭床の下の横木、ねだへやらい（木柵にてかこひ動物を飼ふ所）㋬さん、戸障子の骨、又は板物のそりを防ぐ爲めに取付けし横木㋣さる戸を開閉せしめる木栓
【棧板】サンバン　いたじき。
【棧徑】サンケイ　かけはし、棧道。
【棧々】サンサン　ゆたかなる貌。
【棧雲】サンウン　雲にもとゞく高き山道。
【棧道】サンダウ　棧徑に同じ。
【棧敷】サジキ　一段高く造りたる見物席。
【棧閣】サンカク　崖によりかゝれる家。
【棧橋】サンバシ　岸から水上へつき出したる橋、又岸から船に渡す板橋。

類語

雲棧ウンサン　奇棧キサン　朽棧キウサン　曲棧キヨクサン
緣棧エンサン　梁棧リヤウサン　接棧セツサン　石棧セキサン
磴棧トウサン　棚棧ハウサン　細棧サイサン

【棣鄂之情】テイガクノジヤウ　兄弟の情合の親密なるをいふ、又略して棣鄂ともいふ。

棨 ケイ

㋑わりふ（傳信）㋺ほこ（赤黑のきぬにて包み君主の前驅者が持つ木のほこ）たて、やり

棧 ヨク イク

たらのき（叢生小木）とりとまらず（木の名）一說にはゝそ（柞）

棬 ケン

まげもの（盂）わげもの（木を曲げて作りし器）

【棬樞】ケンスウ 木をまげて戸の樞としたるもの、貧家のさま。

棲 エキ

木の名

森 シン

㋑木の多き貌、木の長き貌㋺盛なる貌㋩しげる（茂）あつまる、ならぶ㋥おごそかにてぞつとする と㋭國訓もり（木の多く叢生せる所）

【森立】シンリツ 多く並び立つさま、又いかめしく立つ。

【森列】シンレツ いかめしくならぶ。

【森林】シンリン もりとはやし、よく茂る貌。

【森衰】シンスヰ たれさがる貌。

【森挺】シンテイ 高くそびえ立つさま。

【森閑】シンカン しづかなるさま。

【森々】シンシン ㋑茂れる貌、又高く聳え立つさま㋺さかんなる貌。

【森然】シンゼン ㋑並び立つさま㋺おごそかなるさま㋩木のしげれる貌。

【森竦】シンショウ しげりてたかきさま。

【森蔚】シンキ 草木の生ひ繁れる貌。

【森竪】シンジュ 毛髮等の立つ貌、さかだつ。

【森聳】シンショウ 樹木などのむらがりしげりて高く立てる貌。

【森嚴】シンゲン おごそか、おも〳〵し。

【森羅】シンラ ㋑森羅萬象に同じ㋺樹木のしげるさま。

【森林生活】シンリンセイクワツ 世の煩はしきを厭ひ靜寂なる森林中に隱れて安らかな生活をすること。

【森羅萬象】シンラバンシヤウ 天地間にある一切の現象、あらゆるものゝこと。

棰 スヰ

㋑むちうつ、たゝく㋺罪人をうつむち（笞）しもと㋩木の叢り生ずるさま

【棰楚】スヰソ 罪人をうつむち、しもと。

棱 ロウ レウ

㋑かど（尖り出たるところ）すみ（隅）かどかどしきこと、又威嚴ありて現はれぬさま㋺神靈の威嚴、みいづ㋩ひときは角立つ貌㋥勢つよきさま

【棱々】ロウロウ レウレウ 目立ちてかど立つさま。

棲 セイ サイ

㋑すむ（栖）すみか、やすむ㋺車馬をしらべるさま㋩往來するさま、又揃ふさま㋥ねどこ、ねま

【棲伏】セイフク 志を得ざること。

【棲息】セイソク ㋑すむ、生存㋺鳥などの木にやどること。

類語

嚴森ゲンシン　蕭森セウシン　清森セイシン　陰森インシン　疎森ソシン　稟森リンシン　林森リンシン

【棲草】セイサウ うきぐさ。

【棲屑】セイセツ 往來しげく煩はしき貌。

【棲宿】セイシユク とまる、やどりすむ。

【棲遑】セイクワウ たちさまよふこと、進退のきはまること。

【棲偃】セイエン 世をのがれかくれる。

【棲遲】セイチ ゆつくりと遊ぶ、やすむ、遊息する。

【棲神之域】セイシンノヰキ 魂の休みすむ所、墓所。

棹 タウ

㋑かい、かぢ、さを（船具）㋺さをさす（船を進める）㋩國訓さを（竹にてつくりし棒、三絃の杆、はかりの度盛せし所算筯などを數ふる語）

【棹歌】タウカ 舟をこぎながらうたふ歌。

棺 クワン

㋑ひつぎ（屍を藏める箱）うちぐわん、くわんをけ㋺屍を柩に入れる

【棺柩】クワンキウ 屍をゝさめたるひつぎ。

【棺桶】クワンヲケ 棺に用ゐる桶、はやをけ。

【棺蓋】クワンガイ ひつぎの覆布。

【棺槨】クワンクワク ひつぎ、棺は屍を入れるはこ、うちぐわん、槨はそとぐわん。

【棺櫝】クワントク ひつぎ。

【棺櫬】クワンシン 屍を入れざるひつぎ。

訓讀

【棺を蓋ふて事定まる】蓋レ棺事方定（をおふてことさだまる）くわん 死後に至つて初めてその人の善惡が定まる。

棼 フン

㋑みだる（亂）㋺木の多きさま

【棼々】フンフン 亂れたるさま。

【棼錯】フンサク 樹木の多きさま。

椀 ワン

㋑食物を盛る小さきはち（小盂）㋺國訓わん（木製の食器、それに盛る料理、わんもり）

【椀器】ワンキ はち、わん等の食器。

椁 クワク

㋑棺を納るゝそとばこ、うはひつぎ㋺はかる（度）

椅 イ

㋑いひぎり（梓の類の木の名）㋺こしかけ、いす（後によりかゝりのあるもの）

【椅几】イキ おしまづき、脇息。

【椅子】イス 後ろにもたれのある腰かけ。

椋 リヤウ ラウ

㋑むくのき（喬木の一）㋺むくえのき、ちしやの木

植 ショク チ

㋑うゑる（種）㋺根より生ずるもの、うゑもの㋩たつ（立）㋥戸のとざしを維持するもの、又塀のおやばしら㋭よる（倚）㋬工事を取しまる人

【植木】ショクボク うゑ木。

【植民】ショクミン 人を海外の地に移しうゑること。

【植字】ショクジ 活字を原稿に合せて活版に

椄 セフ セツ

㋑つぐ、木を繼ぐ㋺くさび、かすがひ

組むこと、又その職工。
【植耳】ショクジ　耳を鍊てゝ聽く。
【植物】ショクブツ　地に生える生物、うゑ物。
【植林】ショクリン　新しく山林をしたてる。
【植種】ショクシュ　草木をうゑつける。
【植類】ショクルキ　うゑものゝ總稱。
【植樹】ショクジュ　うゑる、草木をうゑる。
【植藝】ショクゲイ　草木をうゑるわざ。
【植齡】ショクチヤウ　少年の時より官署に奉仕すること。
【植物學】ショクブツガク　植物に關する一切のことを研究する學問。

類語

偃植エンショク　耕植カウショク　播植ハショク　種植シュショク
淮植クワンショク　蒔植ジショク　勁植ドウショク　富植フウショク
移植イショク　列植レツショク　蟄植コンショク　操植サウショク
封植ホウショク　培植バイショク　藝植ゲイショク　黨植タウショク
固植コショク　蒔植ハンショク　樹植ジュショク

【椎】ツキ　スキ

椎

㋑つち、かなづち（鐵槌）㋺うつ（擊）槌にてうつ、うちつける、たゝく㋩すき（耒）㋥おろか（愚）にぶし㋭曲りたわまぬことゝ㋬しひ（常綠喬木の一）

【椎打】ツキダ　うつ、うちつける。
【椎政】ツキセイ　簡易質樸なる政治。
【椎埋】ツキマイ　打殺してうづむ、甚しき亂暴をいふ。
【椎破】ツキハ　槌にて打ちやぶる。
【椎剽】ツキヘウ　人を殺して物をうばふ。
【椎輪】ツキリン　車の粗末なるもの、轉じて物事のはじめ。
【椎魯】ツキロ　愚かにして氣のきかぬこと。
【椎擊】ツキゲキ　椎打に同じ。
【椎窶】ツキサク　つちとのみ、又大工道具。
【椎蕈】シヒタケ　椎の木等に生ずるきのこ。

【椏】ア

㋑また、木のえだ㋺木の名、みつまた

【椒】セウ

㋑さんせう（落葉喬木の一）又いたはじかみ、山椒㋺いたゞき、山頂、みね㋩藥種を加味せる酒㋥かうばしきさま
【椒房】セウバウ　皇后の御殿。
【椒屋】セウヲク　前に同じ。
【椒庭】セウテイ　同上。
【椒酒】セウシュ　山椒等の藥物を加味せる酒
【椒壁】セウヘキ　山椒をぬりこめしかべ。

【椓】タク

㋑うつ（擊）たゝく㋺土をたゝきかため㋩陰部を去る刑、宮刑

【椛】國字

もみぢ（紅葉）、かへで（楓）

【椚】國字

くぬぎ（櫟）

【椙】國字

すぎ（杉）

九畫

【椰】ヤ

やし（果樹の一）
【椰子】ヤシ　やしの木、又その實。
【椰酒】ヤシュ　椰子の實より製したる酒。
【椰漿】ヤシヤウ　椰子の實のしる。

【椢】ワイ

くるゝ、戸のくるゝ、門扉

【椨】タン

㋑白楊に類する喬木㋺むくげ（落葉灌木の一）㋩國訓とど（松の一種）

【椢】ソウ　スウ　シュ

椢棚は常綠喬木の一、びらう
【椢排】ソウフツ　棕櫚の毛のはたき。

【椿】イ

椿

いかう（衣架）ころもかけ
【椿架】イカ　ころもかけ、衣架。

【椶】チン　シン　ジン

㋑あてぎ、物をきるだい（櫃）㋺桑の實㋩斫りたる木に生ずるきのこ㋥國訓さばら（常綠喬木の一）
【椶質】チンシツ　罪人を乘せて斬る臺、轉じて刑罰、刑戮。

【椽】テン

椽

たるき（棟より檐に架する材）
【椽柄】テンカク　椽は圓きたるき、柄は四角のたるき。
【椽大之筆】テンダイノフデ　大論文、大文章のことをいふ。

【椿】チュン　チン

椿

㋑喬木の一㋺大椿（支那上古の人）の長壽に因み長命を保つにいふ㋩國訓つばき（常綠喬木の一）かはりごと、珍奇
【椿事】チンジ　意外の出來事、珍らしき事。
【椿府】チンプ　次に同じ。
【椿堂】チンダウ　父の稱、長壽を祝していふ。
【椿萱】チンケン　ちゝとはゝ、兩親。
【椿壽】チンジュ　長壽、ながいき。

【椹】サ

杯に同じ

【椹】サ

㋑いかだ（査）うきゞ㋺鵠の聲㋩木の名（ぼけの小なるもの）

【楊】バウ

よつみ、ねずみばり（門のくゝるの上に渡す木）

【楅】ヒョク　フク

㋑牛の角の端に横にして結びたるつのよけの木㋺つかねる（束）㋩やづゝ（矢を入れる器）

【楊】ヤウ

楊

㋑やなぎ、かはやなぎ（柳の一種にて水邊に生じ枝を垂れざるもの）ねこやなぎ㋺戰國時代周末の哲學者楊朱の稱㋩つげ（木の名）
【楊弓】ヤウキユウ　長さ三尺許の弄具の弓。
【楊去】ヤウキヨ　とびあがりゆくさま。
【楊枝】ヤウジ　㋑こやうじ、つまやうじ、㋺齒をみがく具、齒ブラツシュ。
【楊柳】ヤウリウ　やなぎ、楊はかはやなぎ、柳はしだれやなぎ。
【楊桐】ヤウトウ　南天の異名。
【楊梅】ヤウバイ　やまもゝの異名。
【楊島】ヤウテウ　鳥の名、みさご。
【楊墨】ヤウボク　楊朱と墨翟、楊朱は利己主義、墨翟は兼愛說を唱へ共に孔孟派より異端邪說と見なされしもの。

【楊州夢】ヤウシウノユメ 楊州といふ國の事の夢、酒をのみ春を買ひて遊蕩に日を暮すこと。
【楊貴妃】ヤウキヒ 唐の玄宗皇帝に愛せられ安祿山の亂に殺された絶世の美人。
【楊梅瘡】ヤウバイサウ 病の名、かさ。
【楊朱泣レ岐】ヤウシユキニナク 足の向け方にて北にも南にも行ける如く心の持ち様一にて善にも惡にもなる意、楊朱が岐路に立ちて悲しみし故事に因みていふ。

類語
移楊(イヤウ) 朱楊(シユヤウ) 枯楊(コヤウ) 白楊(ハクヤウ)
青楊(セイヤウ) 垂楊(スヰヤウ) 蒲楊(ホヤウ) 黄楊(クワウヤウ)

〔楆〕 キ
柊楆はつち(木で造つた小づち)

〔楓〕 フウ ヘン ハン
かへで(落葉喬木の一)もみぢの木
【楓宸】フウシン 天子の宮殿、又皇居の意。
【楓錦】フウキン もみぢの錦、かへでの紅葉。
【楓香樹】フウカウジユ かへでの木、もみぢ。

類語
江楓(カウフウ) 籬楓(リフウ) 霜楓(サウフウ) 錦楓(キンフウ)
靈楓(レイフウ) 丹楓(タンフウ) 赤楓(セキフウ) 晩楓(バンフウ)
落楓(ラクフウ) 觀楓(クワンフウ)

〔楔〕 セツ ケツ
㋑くさび(楔子)ほこだち、ほうだて(棖)門の兩旁の木の機㋺さゝふ㋩木の名、ゆすらうめ㋥小説等を作るに甲の事より乙の事を引出す爲めの一節をいふ。
【楔狀突破】ケツジヤウトツパ 楔形の陣容にて敵中に突入すること、軍隊用語。

〔楕〕
橢の略字

〔楗〕 ケン
㋑くわんぬき(閂)くわんのき㋺せき(堰)竹を立て草を以てこれを塞ぎ土にて塡め水流を防ぐもの㋩馬の歩み遲きこと

〔楚〕 ソ
㋑うばら、いばら、おどろ、そだ、叢生散木、又こま〳〵した雜木㋺しもと、むち、つゑ㋩いばら等の生ひ茂るさま㋥あざやか(鮮明の貌)㋭列ぶ貌㋬いたむ(痛)かなしむ、くるしむ(苦)㋣うつ、むちうつ㋠春秋戰國時代の國の名(今の湖南・湖北・兩江・浙江・河南々部の地)又五代の時馬殷の建てし國
【楚切】ソセツ 悲しくいたましき音調。
【楚囚】ソシウ 他國にとらはれし楚人、即ち捕虜。
【楚服】ソフク 立派なる服。
【楚朴】ソボク いばらのむち。
【楚俘】ソフ 楚囚に同じ。
【楚毒】ソドク 苦痛と同じ、くるしみ、いたむ、いたみ。
【楚棘】ソキヨク いばら、荊棘。
【楚痛】ソツウ 痛みくるしむ。
【楚々】ソソ ㋑くるしむ㋺あざやか㋩生ひしげるさま。
【楚雀】ソジヤク 黄鳥の異名。
【楚葵】ソキ せりの異名、芹。
【楚腰】ソエウ 美人の腰つき、ほそごし。
【楚歌】ソカ 項羽が漢軍に圍まれし故事にて四面皆敵の中にありて呻吟すると。
【楚撻】ソタツ うつ、むちうつ。
【楚蘅】ソカウ 香草の一、かんあふひ。

【楚材晉用】ソザイシンヨウ 楚國の產物を晉國人が用ゐる義、賢人を擧げ用ゐざれば終には他國の用をなすこと。
【楚王失レ弓楚人得レ之】ソワウユミヲシツソジンコレヲウ 考へのあさはかなるを喩へし語。
【楚王愛二細腰一宮中多二餓死一】ソワウサイエウヲアイシキウチユウガシオホシ 楚の靈王が女の腰の細き者を寵愛せし爲め多くの宮女は何れも腰を細くすることに腐心し減食した結果餓死する者が生じた故事。

〔楛〕 コ
㋑わるし(惡)品がわるい、道具のこしらへが粗末である㋺樹の一、にんじんぼくの屬

〔楝〕 レン
あふち(落葉喬木の一)せんだん

〔楞〕
棱に同じ

〔楠〕 ナン
ゆづりは、又うめの屬、國訓くすのき(常綠喬木の一)

〔楤〕 ソウ
たら(山地に生ずる灌木の一)

〔楡〕 ユ
にれ(喬木の一)
【楡揚】ユヤウ 譽める辭。
【楡錢】ユセン にれのみの異名。

〔楢〕 シウ イウ
なら(落葉喬木の一)かしはの一種

〔楣〕 ビ
㋑はり(梁)㋺のき(檐)なげし㋩まぐさ(門の入口の上の横木)

〔楨〕 テイ
㋑ねずみもち(椿に似たる常綠喬木の一種)ひめつばき、たまつばき㋺塀の兩端に立てる木
【楨幹】テイカン 貞幹に作る、塀の兩端に立てる木と兩旁の柱、轉じてもと、根本。

〔楩〕 ヘン ベン
くすのきに似たる喬木
㋑ゆか、すのこ㋺まど、又くさび

〔楫〕 シフ
㋑かぢ、かい(櫂)㋺水路の交通、水運㋩やはらぐ、あつむ(輯)

〔楬〕 ケツ
㋑つけふだ、かけふだ、又かんばん、高札㋺しるす(識)あらはす(表)

〔業〕 ゲフ ゴフ
㋑わざ、しわざ、てわざ、しごと、つとめ學問藝術㋺てがら、いさを㋩鐘鼓などをかける横の棒を覆ふ板㋥すでに、もはや㋭あやふし、又そのさま㋬つとむ、仕事をつとめる㋣つよし、盛んなり、又そのさま㋠はじむ、はじめ㋷善惡のむくひの原因となる行爲㋦くらし(生計)なりはひ、よすぎ

【業已】スデニ　とうに、もはや。
【業力】ゴフリキ　㋑仕事を勤める力又はたらき㋺業因の力、ごうのちから。
【業火】ゴフクワ　㋑火の如く怒り立つ心㋺惡業の苦報たる地獄の猛火。
【業因】ゴフイン　果報を引き起す原因となる昔行、又現世未來一切事相の因緣。
【業苦】ゴフク　惡業のむくいの苦痛。
【業病】ゴフビヤウ　惡業のむくいの病氣、又不治の病氣。
【業報】ゴフハウ　業因のむくい。
【業次】ゲフジ　しごとの手順。
【業務】ゲフム　つとめ、しごと、わざ。
【業々】ゲフゲフ　㋑あやうき鋭㋺さかんなるさま、強いさま。
【業體】ゲフタイ　なりはひのすぢ。
【業精ニ於勤ニ荒ニ於嬉ニ】ゲフハウトムルニクハシクタノシムニスサム　何事も勉强すれば進歩し樂しみおこたればおとろへる。

訓讀

【業を創め統を垂る】創レ業垂レ統ゲフヲはじめトウヲたる　帝王が國家の基礎をきづいて子孫につたへること。

類語

學業ガクゲフ　修業シウゲフ　浩業コウゲフ　組業ソゲフ　守業シユゲフ　餘業ヨゲフ　遺業イゲフ　成業セイゲフ　開業カイゲフ　職業シヨクゲフ　勸業クワンゲフ　農業ノウゲフ　婦業フゲフ　廢業ハイゲフ　操業サウゲフ　受業ジユゲフ　興業コウゲフ　德業トクゲフ　宿業シユクゲフ　緒業シヨゲフ　敗業ハイゲフ　産業サンゲフ　家業カゲフ　基業キゲフ　行業カウゲフ　生業セイゲフ　課業クワゲフ　所業ショゲフ　授業ジユゲフ　作業サゲフ　功業コウゲフ　雜業ザツゲフ　官業クワンゲフ　盛業セイゲフ　卒業ソツゲフ　帝業テイゲフ　就業ジユゲフ　淫業インゲフ　天業テンゲフ　統業トウゲフ　賤業センゲフ　本業ホンゲフ　非業ヒゴフ　勳業クンゲフ　末業バツゲフ　先業センゲフ　雅業ガゲフ

〔楮〕チヨ

㋑かうぞ（叢生する落葉灌木の一）かみのき㋺かみ（紙）文書などの稱㋩さつ（紙幣）

【楮册】チヨサツ　紙の書物。
【楮券】チヨケン　紙のわりふ、又紙幣。
【楮桃】チヨタウ　かうぞの實。
【楮幣】チヨヘイ　さつ、紙幣、楮券。
【楮先生】チヨセンセイ　紙の異名。

類語

豪楮ガウチヨ　敗楮ハイチヨ　券楮ケンチヨ　尺楮セキチヨ　別楮ベツチヨ　剝楮ハクチヨ　片楮ヘンチヨ

〔楯〕ジユン

㋑たて（盾）㋺てすり、おばしま㋩ぬく（拔）㋥喪に用ゐる車

〔楡〕ユ

ねずみもち（常綠喬木の一）

〔楳〕

梅に同じ

〔楴〕テイ

㋑かんざし、かうがい、頭髮にさし髮を整へる具㋺ね（根）

〔極〕キヨク　ゴク

㋑きはむ、きはまる、きはまり、かぎり、はて、とどく、物事の最上又は最終、どんづまり㋺むね（棟）むなぎ、家のしんばしら㋩大なる惡事、惡事を十分にす㋥仁德の最上、眞善、道德の大本、最も正しき道、大中至正の公道㋭物事の至りつくして微妙なる所㋬とる（取）とゞむ（止）㋣つく（盡）はてる、絕無㋠はなつ㋡つかる（疲）㋢天位、又無上の位、帝位㋤もと（本）㋥さかひ（境）㋦きはめて、はなはだ（副詞として用ゐらる）どく㋧星の名、又天地の本體㋨地軸の兩端㋩磁石の兩端、電氣の陰陽の集中する所㋪國訓きはめ（道具の鑑定）きめ、きまり（決定・約束）きめる（決定す、斷定す）

【極力】キヨクリヨク　力いつぱい。
【極天】キヨクテン　㋑極めて高き所㋺天地のつゞく限り。
【極目】キヨクモク　目の屆く限り、見渡し得るかぎり。
【極品】キヨクヒン　㋑最もよきしな㋺同部內にても最も善き地位。
【極光】キヨククワウ　地球の兩極に於て夜中に現はれる弓がたの美しき光、オーロラ。
【極刑】キヨクケイ　極めて重き刑、死刑。
【極星】キヨクセイ　北極星の略。
【極東】キヨクトウ　東のはて、日本又は支那。
【極言】キヨクゲン　憚らず眞直に言ひ盡すにいふ。
【極位】キヨクヰ　此上なき位、第一位。
【極夜】キヨクヤ　よもすがら、徹夜。
【極度】キヨクド　きはまりの程、どんづまり、最高點。
【極流】キヨクリウ　地球の兩極より赤道方面に流るゝ潮流。
【極限】キヨクゲン　物のはて、至り盡せる所、きはまり。
【極浦】キヨクホ　遠方にある浦ざと。
【極致】キヨクチ　究め盡したる所、極點。
【極圈】キヨクケン　地球の南北回歸線より各二十三度半のところにある圓線。
【極望】キヨクバウ　限りなく見わたす。
【極視】キヨクシ　視力を盡して見る。
【極端】キヨクタン　㋑程度を越え中正を失ふ㋺どくのはて。
【極尊】キヨクソン　父母の尊稱。
【極惡】キヨクアク　極めて惡きこと、又その者。
【極陽】キヨクヤウ　十月がみづのとに當りたる月の稱。
【極論】キヨクロン　思ふ存分に說きつめる。
【極際】キヨクサイ　極限に同じ。
【極瑞】キヨクズイ　極めてめでたきしるし。
【極樞】キヨクスウ　㋑中心、かなめ㋺北斗の第一星。
【極談】キヨクダン　憚らず思ふ儘に述べる。
【極攀】キヨクシ　極まり至る所、極至。
【極諫】キヨクカン　嚴しくいさめる。
【極戰】キヨクセン　必死のたゝかひ。
【極罰】キヨクバツ　此の上もない重い刑。
【極點】キヨクテン　極度の所、どんづまり。
【極麗】キヨクレイ　いたくうるはし、美麗きはまる。
【極歡】キヨククワン　心のまゝにたのしむ。
【極上】ゴクジヤウ　この上ない、第一等、最上、第一位。
【極內】ゴクナイ　極めて祕密、ないしよ。
【極月】ゴクゲツ　十二月、しはす。
【極印】ゴクイン　㋑昔通貨に對し發行所・量目等の證據にその貨幣にうちこんだ符號㋺しるし、きはめの證據。
【極祕】ゴクヒ　極めて祕密にする、又其事。
【極寒】ゴクカン キヨクカン　非常に寒い、又其寒さ。
【極寇】コクイ　おくのて、奧儀。
【極樂】ゴクラク　㋑樂みを充分に極める、又此上もない樂み㋺佛敎の理想の世界。
【極彩色】ゴクサイシキ　極めてうつくしき彩色又その繪畫。

訓讀

【極を建つ】建レ極きよくをたつ　道德の大本又は標準をたて定める。

類語

坤極コンキヨク　臨極リンキヨク　登極トウキヨク　窮極キユウキヨク　究極キウキヨク　太極タイキヨク　兩極リヤウキヨク　皇極クワウキヨク

無極ムキョク　北極ホクキョク　天極テンキョク　終極シュウキョク
底極テイキョク　南極ナンキョク

楷 カイ
㋑かた、のり（法式）てほん㋺なほし、たゞし（直）㋩書法三體の一
【楷式】カイシキ　法度、手本、のり。
【楷則】カイソク　手本、のり。
【楷書】カイショ　書法の一、字畫正しく直立の形に書くもの。
【楷素】カイソ　模範となること。
【楷模】カイボ　楷式に同じ。

楸 シウ
㋑ひさぎ、きさゝげ（桐に似たる木の名）㋺ごばん（碁局）
【楸枰】シウヘイ　ごばん、碁局。

楹 エイ
はしら（柱）圓く大なる柱
【楹柱】エイチュウ　はしら。
【楹帖】エイチフ　聯語を書き柱に掛けるものれん。
【楹柄】エイカク　柱とたるき。
【楹棟】エイトウ　柱とむなぎ、又最もかなめとなるもの。

橋 國字
かつら（桂）

椏 國字
はぎふ、はにざふ、はんざふ（半插）水を注ぎ入れるに用ゐる器、柄に水の通路がある

楜 國字
むろ（針葉喬木の一）

椰 國字
こまひ（木舞）壁の下地

十畫

榑 カ
㋑ひさぎ（榁）㋺國訓え、えのき（落葉喬木の一）

榔 ラウ
㋑桄榔はくろつげ㋺檳榔は熱帶地に生ずる木の名

榑 フ
日の出る所にありと傳ふる神木

榕 ヨウ
あこう（熱帶地方に生ずる常綠の大木）

穀 コク　コウ
かうぞ、かぞ（皮の白い楮）

榛 シン
㋑はしばみ、はんのき（荊に似て叢生する木）㋺木の聚る貌又その所（雜木林）㋩草木の亂れ生ずる貌（蕪）㋥さかんなり（草木の盛んに生ずること）㋭國訓はり（山地に自生する落葉喬木の一）はんのき、はりのき

【榛卉】シンキ　生ひ茂れる草木。
【榛刺】シンシ　いばら、荊刺。
【榛荊】シンケイ　前に同じ。
【榛荒】シンクワウ　荒れはてたるくさむら。
【榛莽】シンマウ　草木の亂れ生ひ茂れる所。
【榛蕪】シンブ　㋑草木の亂れしげること㋺道路の妨害になる雜木雜草の義、轉じて正道のさはりになる物事。
【榛々】シンシン　草木の亂生するさま。
【榛菅】シンクワン　くさむらのかや。
【榛薈】シンワイ　草などのしげりたる處、薈はくさむら。
【榛蕪】シンエフ　茂りたる木のかげ。
【榛穢】シンアイ　雜草の亂れて生ひたる貌、又その所。
【榛蕊】シンアイ　前に同じ。
【榛叢】シンソウ　あら草のくさむら。

榜 ハウ　ボウ
㋑かい、かぢ（梶）㋺こぐ、ろ、かいにて漕ぐ㋩むち、むちうつ（鞭）㋥ゆだめ、ふだ、たてふだ（立札）かんばん（看板）又官吏登用試驗の及第者を公示する表札㋭表識すること、しるす、あらはす、掲げ示す㋬士を取りて官に選ぶ順序
【榜人】バウジン　ふなのり、ふなこ、舟人。
【榜令】バウレイ　板に書きたる命令書。
【榜札】バウサツ　ふれを示すたてふだ。
【榜示】バウジ　立札を立てゝ掲示すること。
【榜具】バウグ　拷問の道具。
【榜掠】バウリャク　むちうちて拷問すること。
【榜服】バウフク　むちうちて伏罪せしむ。
【榜眼】バウガン　昔支那の官吏登用試驗に第二番に及第せしこと。
【榜笞】バウチ　罰としてむちうつ。
【榜楚】バウソ　前に同じ。
【榜歌】バウカ　船頭の歌、ふなうた。
【榜額】バウガク　がく、又がくを掲げる。

訓讀
【榜を放つ】放レ榜（はうをはなつ）官吏登用試驗の合格者を表示すること。

榠 ベイ　メイ　ミヤウ
㋑榠櫨は木瓜に似たる喬木、くわりん㋺晩く取りたる茶

榎 セキ
木の名、ひさかき（常綠の一にて榊に代用す）

槇 ベイ
㋑槇は木瓜に似たる喬木、くわりん㋺晩く取りたる茶

榧 ヒ
かや（常綠喬木の一）

榨 サ
㋑油しぼり、しめぎ㋺さけこし、酒をこす具

榭 シャ

榦 カン
㋑築牆等のさゝへ木㋺木の名、やまぐは㋩みき、もと㋥たゞす（正）㋭え（柄）㋬ゑげた、又その形のもの

槇 クワウ
㋑書を讀むつく糸、ふづく糸㋺まどかけ、又一說にまど、又ひさし㋩ついた㋥國訓くるみ（胡桃）

榧 エン
㋑わく（糸を卷く具）㋺磬・鐘などの樂器を掛ける具

榨 ヒ
かや（常綠喬木の一）

榭 サ
㋑油しぼり、しめぎ㋺さけこし、酒をこす具

榭 シャ

㋑うてな、屋根ある臺㋺器具を藏むる處、又樂器を藏むる所㋩道場（武を講ずる屋）

榮 エイ エイ

㋑さかえ、草木のしげること㋺ほまれ名譽、物の盛んなること㋩さかゆ、名譽が高くなる、草木がしげる㋥さかんにす、さかる、繁昌㋭やねづま、屋根のひさしの反り上りし所㋬はな（花）草の花、はなさく

【榮名】エイメイ 名譽ある評判。

【榮光】エイクワウ ほまれ、はえあるひかり瑞氣。

【榮利】エイリ 榮達利益、ほまれと利益。

【榮品】エイヒン 貴き官位。

【榮泉】エイセン きよき水。

【榮昌】エイシヤウ さかえること。

【榮美】エイビ うつくし、立派。

【榮枯】エイコ 榮えることゝ衰えること、又草木の繁ることゝ枯れること。

【榮茂】エイモ しげりさかえる。

【榮班】エイハン 名譽ある位置、高位。

【榮辱】エイジヨク ほまれとはぢ。

【榮凋】エイチウ 榮枯に同じ。

【榮秩】エイチツ 榮譽ある官位。

【榮問】エイモン よきほまれ、榮名。

【榮華】エイグワ ㋑草木がさかえ繁ること㋺身分が良くて榮え時めくこと。

【榮進】エイシン 榮え進む、地位が高まる。

【榮達】エイタツ 出世する、地位が進む。

【榮貴】エイキ 隆盛にして位たかし。

【榮羨】エイセン 富み榮えて物がありあまること、富みて餘裕あること。

【榮悴】エイスヰ 次に同じ。

【榮瘁】エイスヰ さかんなることゝ病みつかれること。

【榮々】エイエイ さかえるさま、勢の盛んなるさま。

【榮凋】エイジユン 富みさかえて豐かなこと。

【榮落】エイラク ㋑榮枯に同じ㋺花が咲くことゝ落ちること。

【榮祿】エイロク 榮秩に同じ。

【榮慕】エイボ ほめしたはれる。

【榮養】エイヤウ 衣食住を十分にして養ふ。

【榮螺】エイラ 海産貝の一、さゞえ。

【榮覽】エイラン 我が文書を人が見る敬語。

【榮勳】エイクン 名譽ある功績。

【榮曜】エイエウ 榮えかゞやく。

【榮歸】エイキ 出世して故郷に歸ること、錦を飾る。

【榮爵】エイシヤク 名譽の位、光榮ある爵位。

【榮轉】エイテン ㋑前よりも優れる位置に轉ず、下役より上役に上る㋺他人の轉任を言ふ敬語。

【榮顯】エイチヨウ 君主にかはゆがられて高位に居ること。

【榮譽】エイヨ 立派なほまれ、光榮ある譽。

【榮耀】エイエフ ㋑榮え輝くこと㋺はで、おどり、ぜいたく。

【榮顯】エイケン 家榮え名聲世に顯る。

【榮華秀英】エイクワシウエイ 草木の花ひらきみのること。

【榮位勢利】エイヰセイリ 名譽と地位と權力と收入。

類語

家榮カエイ　盧榮キヨエイ　光榮クワウエイ　繁榮ハンエイ

衰榮スヰエイ　浮榮フエイ　尊榮ソンエイ　義榮ギエイ

勢榮セイエイ　驕榮ケウエイ　枯榮コエイ　顯榮ケンエイ

榰 シ

㋑柱のどだい、柱礎㋺さゝへ、支柱、つつかひ棒、又さゝふ（柱）

榱 スヰ シ

たるき（椽）

【榱桁】スヰカウ たるきとけた。

【榱柄】スヰカク たるき、柄は四角のもの。

【榱椽】スヰテン 前に同じ。

【榱題】スヰダイ 垂木のこぐち。

【榱檐】スヰタウ たるきのさきにつける鈴。

榥 ウン ヲン ヲツ

㋑やまなし（杜）㋺はしら（柱）㋩すぎ（杉）㋥ね（根）㋭木の盛んなる貌㋬榥桲は木瓜に似たる木、こぼけ又はこりんごに似たる果樹、まるめろ（衞蔔牙語 Marmelo の轉訛）

榴 ルウ

榴の俗字

榷 カク

㋑まるきばし（獨木橋）㋺稅を課し利益を占めること、又政府にて物品を專賣すること、官營

【榷酤】カクコ 政府で酒を專賣すること。

【榷會】カククワイ 利益を獨占する仲買。

【榷橋】カクケウ ひとつばし、丸木橋。

【榷管利】カククワンノリ 政府が物品を專賣して得る利益。

椿 チン

桔に同じ

榱 タフ

㋑こしかけ、細長き牀几、ねだい㋺白きぬ、答布（地あつくきめあらきもの）

【榻子】タフシ せまく高き寢臺。

【榻本】タフホン 碑帖等をすりうつせし帖。

【榻布】タフフ 布の一種、きめ荒くして厚きもの。

【榻牀】タフシヤウ ねだい、こしかけ。

【榻登】タフトウ ふみつぎ、ふみだい。

榾 コツ

㋑酒を入るゝもの、酒器、たる㋺水を盛る器、又器の口を覆ふもの、ふた（蓋）㋩あけびに似たる一種の藤

【榾火】コツクワ こつばの焚火、ほだび。

【榾柮】コツトウ 木のきれはし、きりかぶ、こつば。

槁 カウ

㋑かる（枯）㋺かわく（乾）又ひもの、ひざかな（乾魚）

【槁悴】カウスヰ かれしほれる。

【槁死】カウシ 飢渴に迫りて死す、又かれしぼむ。

【槁梧】カウゴ 琴の異名。

【槁項】カウコウ やせたくびすぢ、細くび。

【槁魚】カウギヨ ひうを、ひもの。

【槁壤】カウジヤウ 乾きたる土。

【槁木死灰】カウボクシクワイ 枯れ木と火氣のない灰、轉じて形體は枯木の如く心は冷灰の如く無慾無心の狀態。

槃 ハン バン

㋑たのしむ（樂）散歩してたのしむ㋺とゞまりて遲まざるさま、とゞこほる㋩たらひ、手に持つ小さきたらひ（承盤）

【槃散】ハンサン びつこを引いて歩くさま。

【槃跚】ハンサン 前に同じ。

【槃礴】ハンパク　兩足を前に投出し坐る貌。

〔槙〕テン　シン

㋑こずゑ(梢)㋺ひつくりかへりたる貌
㋩しげる(茂)木がしげる　㋥國訓まき(常綠喬木の一)松・檜類の總稱

〔槊〕サク

㋑ほこ(矛)周尺にて一丈八尺のもの㋺すごろく、すごろくばん(博局)又そのさい

訓　讀

【槊を横へて詩を賦す】横レ槊賦レ詩　さくをよこたへてしをふす　戰場に於て詩歌を詠ずる風流をいひし語。

〔構〕コウ

㋑かまふ、家屋等を組立てる、建築す、つくる(作)思考する、詩文等の作成を思案す㋺あはす(合)㋩なる(成)成りたゝせる、又元來なきことをつくる、こじつける、附會する㋥むすぶ(結)敵對す㋭すきひま(間隙)㋬計畫する、物事を拵へる㋣國訓かまふ(武器をもち敵をまつ貌、相手に對して姿勢を整へる、なぶる、かゝはる、關係す、追放の刑にあてる)かまへ(家づくり)かまひ(關係、追放の刑)

【構内】コウナイ　かこひのうち。
【構引】コウイン　ひく、ひつばる。
【構成】コウセイ　組立てつくる、成立さす。
【構兵】コウヘイ　戰爭の準備をなす、戰備をとゝのへる。
【構刺】コウシ　無實の事を仕組みて誣ひ誹ること。
【構殺】コウサツ　無實の罪をつくつて殺す、いひがゝりをつくつて殺す。
【構陷】コウカン　無實の罪におとす。
【構造】コウゾウ　くみたて、造り方、かまへ。
【構想】コウサウ　假りに組立てたる考案。
【構會】コウクワイ　讒言にて罪におちる。
【構圖】コウヅ　製作中の物體を巧みに按配して各部の統一調和を得たるものを作り出すこと、コンポジション。
【構築】コウチク　つくりきづく。
【構讒】コウシン　讒言を以て罪をつくる。

類　語

傅構　カイコウ　結構　ケツコウ　天構　テンコウ　造構　ゾウコウ
修構　シウコウ　從構　ジウコウ　先構　センコウ　成構　セイコウ
重構　チヨウコウ　改構　カイコウ　經構　ケイコウ　築構　チクコウ
素構　ソコウ　安構　アンコウ　巧構　カウコウ　奇構　キコウ

〔槌〕ツキ

㋑つち、つゐ、ぼう、物を擊ちたゝくもの㋺うつ、槌にてうつ

【槌打】ツキダ　つちにてうつ。
【槌杵】ツキシヨ　つち、槌。
【槌碎】ツキサイ　うちくだく。

〔槍〕サウ

㋑やり(竹木等の兩頭を剡りて人を傷ける具)㋺いたる(抵)㋩草を刈る具

【槍手】サウシユ　槍をつかふ人。
【槍術】サウジユツ　槍をつかふ武藝。
【槍旗】サウキ　茶の芽の稱。
【槍銃】サウジウ　てつばうと槍。
【槍號】サウガウ　槍につける目じるし。
【槍鐔】サウトン　槍のいしづき。
【槍衾】ヤリブスマ　槍を多く立て並べると。
【槍標】サウヘウ　槍につけたる帛などのしるし、やりじるし。

〔槎〕サ

㋑いかだ(査)うきぐ(浮木)㋺きる(斫)木をなゝめにきる

【槎牙】サガ　木の枝をそぎし如く角だちて入りくむさま。
【槎杵】サガ　前に同じ。
【槎杵】サヅ　切口より出る芽、ひこばえ。
【槎櫱】サゲツ　前に同じ。

〔槭〕

栒に同じ

〔槐〕クワイ

㋑ゑんじゅ(落葉喬木の一)㋺周時代に朝廷に植ゑたる槐に向つて三公の座位ありしことに因み三公の位階をいふ

【槐位】クワイキ　槐鼎に同じ。
【槐門】クワイモン　大臣の異稱。
【槐宸】クワイシン　帝王の宮殿、御所、禁中。
【槐秋】クワイシウ　官吏の登用試驗に應ずる年のこと。
【槐鉉】クワイゲン　槐鼎に同じ。
【槐庭】クワイテイ　槐門に同じ。
【槐座】クワイザ　槐鼎に同じ。
【槐棘】クワイキヨク　三公・九卿の稱。
【槐鼎】クワイテイ　大臣の位、三足が鼎身を支へてゐる狀を三公が天子を輔佐するに比して云ふ。
【槐嶽】クワイガク　高位高官をいふ。
【槐鶴】クワイカク　ゑんじんに生ずる菌。
【槐安王】クワイアンワウ　蟻の異名。
【槐安國】クワイアンコク　蟻のみやこ。
【槐安夢】クワイアンノユメ　ゆめ、南柯の夢。

訓　讀

【槐に登りて元を贊く】登レ槐贊レ元　くわいにのぼりてげんをたすく　三公の位にのぼりて天子の政治を輔佐す。

〔槓〕コウ

てこ、ぼう、槙杆

【槙杆】コウカン　㋑ぼう、てこ㋺物理學上には力點・支點の作用にて物の抵抗力に打かつ裝置に使用する棒。

〔榊〕

國字

㋑さかき(常綠喬木の一、榮木、賢木)㋺常磐木の總稱

十一畫

〔槧〕セン　サン　ザン

㋑支那の古代文字を書くに用ゐしふだ轉じて文書・書籍㋺てがみ(書簡)

【槧人】サンジン　讀書する人。
【槧本】サンボン　印刷したる書物。

〔槨〕

椁に同じ

〔槩〕

概に同じ

〔概〕カイ　ガイ

㋑とかき、ますかき、たひらにはかる、ならす、たひらにす㋺大むね、あらましほゞ、大體㋩あたる(當)ふる(觸)㋥みさを(節)㋭人品のけだかき樣子、おもむき(態度)㋬なげく(慨)㋣さかだる(酒樽)㋠そゝぐ(灌)㋡けなす、おさへる㋢心を感ぜしめ動かす

【概見】ガイケン　㋑あらまし見る、大體の見當がつく㋺ざつと見た所、ざつとしたみかた。
【概況】ガイキヤウ　概略の景況、大略の情況、あらましのありさま。
【概言】ガイゲン　あらましを述べる、大意を述べる、又そのこと。

【概念】ガイネン　心理學の語、個々の事物より共通點を引き出して作り得た觀念。
【概則】ガイソク　大體の規則。
【概括】ガイクワツ　似よつた事物を一まとめにすること、大きくすべくゝる。
【概要】ガイエウ　大體の眼目、大要。
【概略】ガイリヤク　あらまし、大體、梗概。
【概算】ガイサン　ざつと見積りたる勘定。
【概說】ガイセツ　一通りまとめて說く、大要を論じ述べる。
【概論】ガイロン　前に同じ。
【概念論】ガイネンロン　概念は唯心の中にある普遍的の觀念なりとなす學說。
【概念作用】ガイネンサヨウ　個々の事象に共通なる要素を統一して一の全體たらしむる作用。
【概稱命題】ガイシヤウメイダイ　論理學の語、大略の意味によつて命じたる題目の義。

概

概

クワ

鑑のひらたく大なる貌、又その鑑

槭

シユク　ソク　セキ

㋑楓の屬、かへで、もみぢ㋺いたる（至）㋩枯れしぼむ、葉おちて枝空しき貌

槮

シン　サウ　サン

㋑木の長き貌㋺葉落ちて枝空しき貌㋩ふしづけ（柴を水中に積みて魚を取るもの）㋥木の實の名

槱

イウ

㋑やく、たく、もやす㋺かゞり（柴を焚き天をまつる庭火）

【槱燎】イウリヤウ　かゞり、天を祭る庭火。

槲

コク

かしは（落葉喬木の一）大葉櫟

槳

シヤウ

かぢ、かい、ろ（船具にして舷にあるもの）

槵

クワン

むくろじ（山野に自生する喬木の一）むくれじ、むくげ

槿

クワイ

㋑そこ、はこのそこ（筐當）はこ（筐）㋺國訓くぬぎ（櫟）

槸

ケツ

㋑すれ合ふ、物が觸りしぶる㋺土地の高低を測る時用ゐる柱㋩まとのくろぼし㋥門の中じきり㋭うつ、くさび

樺

カウ

はねつるべ（水を汲む仕掛）

槻

キ

つき、けやきの一種、つきけやき

槽

サウ

㋑かひをけ（家畜の食器）かひばをけ㋺酒を貯ふる器、さかぶね、又凡て液體を入るゝ器、ふね、をけ、タンク、かめ㋩太鼓などの胴

【槽頭】サウトウ　驛にて人馬に役をあてる者
【槽櫪】サウレキ　畜類に飼料を與へる桶。

槿

キン

むくげ（落葉喬木の一）もくげ
【槿籬】キンリ　槿のいけがき。
【槿花一日榮】キンクワイチニチノエイ　むくげの花が朝開いて晩にしぼむ如く人生の榮華のはかなきを形容したる語。

樁

タウ　トウ　ショウ　シヨ

㋑くひ（杙）㋺つく（撞）

樂

ガク　ラク　ガウ　ラウ

㋑音樂（なりものゝ總稱）音曲のしらべ、音樂を奏す㋺たのしむ、たのしみ、快よく感ず、たのします、愉快でたのし㋩やすし（安）やすらか（康）㋥ねがひ、たのむ、ねがふ（希）㋭このむ（好）さいはい（幸）㋬伯樂は善く馬を相せし人、轉じて馬を相する人、博勞

【樂土】ラクド　樂しき所、樂しい身分境遇。
【樂天】ラクテン　天命を樂しむ、其境遇地位に安じて人生を樂觀すること。
【樂只】ラクシ　たのし、たのしむ。
【樂生】ラクセイ　この世に生存せることを樂しむ、生存のたのしみ。
【樂宅】ラクタク　たのしき住居。
【樂地】ラクチ　樂土に同じ。
【樂易】ラクイ　やすらかに樂し。
【樂郊】ラクカウ　樂土に同じ。
【樂所】ラクショ　たのしき處。
【樂事】ラクジ　ゆくわいなる事、快事。
【樂胥】ラクショ　たのしみよろこぶ。
【樂國】ラクコク　樂土に同じ。
【樂土】ラクタシ　たのしみにふける、深くたのしむ。
【樂逸】ラクイツ　たのしみ遊ぶ。
【樂軼】ラクイツ　樂逸に同じ。
【樂康】ラクカウ　たのしみやすんず、安樂。
【樂娛】ラクゴ　たのしみ、たのしむ。
【樂園】ラクエン　人界を離れたる快樂郷、天國、極樂。
【樂境】ラクキヤウ　樂土に同じ。
【樂歲】ラクサイ　五穀のよくみのりたる年、豐年。
【樂鄕】ラクキヤウ　樂土に同じ。
【樂々】ラクラク　㋑大いにたのし㋺安らかなるさま、又くつろぐ。
【樂燒】ラクヤキ　手でつくねて燒きたる陶器
秀吉が楽樂第の樂字を印したものに始まる。
【樂窮】ラクキウ　キウフタノシム　困窮の裡にも樂しみを求めて滿足すること。
【樂戰】ラクセン　氣もちよく戰ふ、又其戰爭。
【樂觀】ラククワン　來るべき結果のよきことを想像し安心する心情。
【樂人】ガクジン　音樂を業とする人、樂師。
【樂正】ガクセイ　音樂師の長、樂長。
【樂典】ガクテン　音樂のふし、音曲。
【樂官】ガククワン　音樂を奏する役人。
【樂曲】ガクキヨク　音樂のふし。
【樂府】ガクフ　漢代に起つた詩の一體。
【樂律】ガクリツ　音樂の調子。
【樂音】ガクオン　物理學上の語にして一定の振動が規則正しく連續して起り其の音清朗にして人の感情を感動せしむるが如きをいふ。
【樂容】ガクヨウ　音樂に合せてする身ぶり。
【樂屋】ガクヤ　能・歌舞伎などの役者の裝束をするへや。
【樂章】ガクシヤウ　音樂用のうた。
【樂師】ガクシ　樂人に同じ。
【樂隊】ガクタイ　音樂隊、又軍中の音樂の組。
【樂調】ガクテウ　音樂の調子。
【樂歌】ガクカ　音樂に用ゐる歌。
【樂器】ガクキ　音樂用のうつは。
【樂譜】ガクフ　音樂の調子を書いた書物。
【樂觀說】ラククワンセツ　世界及び人生を最善

にして快樂なりとする說。

【樂屋落】ガクヤオチ　内部の人又は其道の人にのみ分りて他人に通ぜぬこと。

【樂天主義】ラクテンシユギ　すべての事物を希望と快樂との心を以て觀察しその結果を常に光明の一面より推斷する主義。

【樂極哀生】タノシミキハマリテカナシミシヤウズ　歡樂の永續すべからざるを言ふ語。

類語

音樂オンガク　禮樂レイガク　古樂コガク　奏樂ソウガク
女樂ヂヨガク　鼓樂コガク　雅樂ガガク　燕樂エンガク
和樂ワガク　聲樂セイガク　嘉樂カガク　文樂ブンガク
武樂ブガク　僭樂センガク　妓樂ギガク　伎樂ギガク
軍樂グンガク　祕樂ヒガク　萬歲樂マンザイガク

樅

ショウ

㋑もみ（落葉喬木の一）㋺うつ（撞）鳴物をうちならす㋩青葉色のふかみどり

【樅々】ショウシヨウ　樹葉の綠色濃きこと、深みどり。

樊

ハン

㋑かご（籠）かこひ（圍）かこふ㋺かき、まがき（籬）㋩馬のはらおび㋥みだれる貌（紛雜）㋭人の姓

【樊然】ハンゼン　物事の紛雜せる貌。

【樊籠】ハンロウ　とりかご、轉じて自由を束縛すること。

【樊籬】ハンリ　かき、まがき。

樋

トウ

㋑木の名㋺國訓ひ、とひ、かけひ（水を通ずる器）

【樋代】ヒシロ　伊勢大神の御神體を納め奉る箱。

樑

ルキ

㋑かんじき㋺木の名㋩國訓るゐ（雪道を歩く時の履物）

樒

ビツ　ミチ　ミツ

㋑熱帶產の香木、沈香の木㋺國訓しきみ（櫁）

樓

ロウ

㋑たかどの、二階家㋺やぐら、ものみ、城のやぐら、城觀㋩ほがらか（朗明）㋥あつまる（聚）

【樓上】ロウジヤウ　やぐらのうへ。

【樓子】ロウシ　たかどの。

【樓月】ロウゲツ　たかどのより見る月。

【樓角】ロウカク　たかどのゝまがりかど。

【樓車】ロウシヤ　やぐらのついてゐる車。

【樓居】ロウキヨ　二階ずまひ。

【樓門】ロウモン　二階造の門、櫓のある門。

【樓船】ロウセン　二階造りの屋形船。

【樓宮】ロウキユウ　二階建のごてん。

【樓鼓】ロウコ　やぐらだいこ。

【樓婢】ロウヒ　茶屋女、はしため。

【樓榭】ロウシヤ　たかどの、ものみ。

【樓臺】ロウダイ　前に同じ。

【樓閣】ロウカク　同上。

【樓櫓】ロウロ　やぐら、たかどの。

【樓艦】ロウカン　屋形船、樓船。

【樓觀】ロウクワン　たかどの、ものみ。

類語

歌樓カロウ　空樓クウロウ　庫樓コロウ　船樓センロウ
舫樓ハウロウ　琴樓キンロウ　丹樓タンロウ　珠樓シユロウ
倡樓シヤウロウ　娼樓シヤウロウ　禁樓キンロウ　雙樓サウロウ
水樓スイロウ　荒樓クワウロウ　舵樓ダロウ　城樓ジヤウロウ
離樓リロウ　飛樓ヒロウ　戍樓ジユロウ　玉樓ギヨクロウ
鐵樓シヨウロウ　白玉樓ハクギヨクロウ　蜃氣樓シンキロウ

樅

ソク

生する小木、柴の類

樗

クワ　チヨ

㋑用途なき一種の惡木、こんずゐ、轉じて役立たぬしろもの㋺あふち（木の名、山樗）

【樗散】チヨサン　役に立たぬ人のことにいふ。

【樗才】チヨエン　才能無きこと。

【樗櫨】チヨボ　ばくち、博奕。

【樗櫟】チヨレキ　役に立たぬ惡木、轉じて無能の人、又自家の謙稱。

標

ヘウ

㋑こずゑ（梢）端末㋺たかし、高き枝㋩しるし（表）めじるし、目標㋥はた（旌旗）㋭しるす、かく、あらはす、あらはる、表出する㋬まと（的）めあて㋣しな、きりやう（品格・器量）㋠物の上に字を書きしるす

【標本】ヘウホン　一物を示して他の等しき物の標準となすもの、見本。

【標札】ヘウサツ　門戶にかゝげる名ふだ。

【標秀】ヘウシウ　目にたつめじるし。

【標季】ヘウキ　すゑ、はし、末端。

【標枝】ヘウシ　高きところの枝。

【標注】ヘウチユウ　書物の欄外又は本文の上に書きしるす註釋、頭註。

【標的】ヘウテキ　めあて、まと、めじるし。

【標致】ヘウチ　趣旨を表示すること。

【標指】ヘウシ　目的とする主旨、方針。

【標高】ヘウカウ　高いこと、又高さ。

【標峻】ヘウシユン　高きこと、又たかさ。

【標挺】ヘウテイ　著しく際立ち秀づること。

【標格】ヘウカク　㋑目じるし、目あて㋺のつとる、よる。

【標紙】ヘウシ　しるしの紙ふだ。

【標程】ヘウテイ　標格に同じ。

【標記】ヘウキ　しるしをつける、記號。

【標揭】ヘウケイ　目じるしとして揭ぐ、目印。

【標準】ヘウコウ　里程を示す爲めに路傍に建てるもの、里程標。

【標章】ヘウシヤウ　しるし、記號。

【標軸】ヘウヂク　表裝と卷軸。

【標註】ヘウチユウ　標注に同じ。

【標置】ヘウチ　あらはれ立つ、目じるしとする。

【標準】ヘウジユン　㋑めじるし、めあて、見當㋺又のつとる。

【標旗】ヘウキ　目印にたてる旗。

【標榜】ヘウバウ　㋑人の善行を賞揚して之を札に記し門戶等に揭げて衆人に示すこと㋺名目をつけてほめたゝへる㋩主義主張又立場をかんばんにすること。

【標儀】ヘウギ　表面のなりふり、外の樣子。

【標幟】ヘウシ　めじるし、標章。

【標徵】ヘウチヨウ　其の事物の他に異なる點を表はすしるし。

【標樹】ヘウジユ　あらはれ立つ。

【標紙】ヘウチ　容貌の美しきこと。

【標題】ヘウダイ　目じるしとしてかき記せる題目、みだし、表題。

【標簽】ヘウセン　つけがみ、附箋。

【標識】ヘウシキ　標幟に同じ。

【標鑾】ヘウカン　人の目につく、目立つ、あらはれ見える。

【標顯】ヘウケン　示し現はす、目立つ如くす。

【標繩】シメナハ　引き延べて內外の界とし人畜を入れぬしるしとなるもの。

【標準時】ヘウジユンジ　經度に依りて異なる地方時の不便をさける爲め一定の子午線上に於ける地方時に基き之をその區域內に於ける時間の標準とするもの。

【標準語】ヘウジユンゴ　㋑一國內の標準たるべき言葉㋺全國に對して標準となるべき

權威を有する語。

類語

孤標（コヘウ）　早標（サウヘウ）　兩標（リヤウヘウ）　器標（キヘウ）
風標（フウヘウ）　世標（セウヘウ）　龍標（リヨウヘウ）　小標（セウヘウ）

〔樛〕キウ

㋑まがる、くねる、木の枝の曲り下れるもの㋺くゝる（絞）㋩まとふ（繆）めぐる、むすぼれる

【樛木】（キウボク）木の枝のさがりまがると。
【樛枝】（キウシ）曲りたる木の枝。
【樛結】（キウケツ）まつはりつく。

〔樝〕サ

しどみ（木瓜の一種）しどめ、くさぼけ

〔樞〕シユ　スウ

㋑とぼそ、くるゝ、戸を開閉する軸、轉じて門戸㋺動を制するもと㋩からくりしかけ㋥かなめ（主要）大切なる所㋭もと（本）なか（中）㋬北斗星の第一位にある星、北極星㋣木の名、やまにれ㋠をり（攫會）り天下の大政

【樞府】（スウフ）樞密院の略稱。
【樞要】（スウエウ）最も肝要なる所。
【樞星】（スウセイ）北斗星の主なる星、轉じて大切なところ。
【樞相】（スウシヤウ）官職の名、樞密使。
【樞柄】（スウヘイ）政治上の權力。
【樞祕】（スウヒ）肝要にして祕密なる事柄、又政事。
【樞務】（スウム）樞要なる事務。
【樞密】（スウミツ）政治上の大問題を祕密に相談すること。
【樞紐】（スウチウ）文章中の主眼となす所。
【樞奥】（スウオウ）物事の主なる所、藪奥、又祕密なる所。
【樞管】（スウクワン）樞要に同じ。
【樞被】（スウエキ）宮庭、天子のごでん。
【樞軸】（スウヂク）物事の最も大切なる所、樞要なる所。
【樞路】（スウロ）政治上の重要なる地位。
【樞憲】（スウケン）肝要なる法規。
【樞機】（スウキ）かなめ、天下の大政。
【樞衡】（スウカウ）樞要なる職。
【樞轄】（スウカツ）かなめとなる所、樞要。
【樞密使】（スウミツシ）唐代に設けたる官名。
【樞密院】（スウミツヰン）㋑樞密使の役所㋺天皇の諮詢に對して顧問官が議する役所。
【樞密顧問】（スウミツコモン）天皇の最高顧問にして天皇の諮詢に奉答する憲法上の機關。

類語

要樞（エウスウ）　天樞（テンスウ）　金樞（キンスウ）　極樞（キヨクスウ）
道樞（ダウスウ）　門樞（モンスウ）　機樞（キスウ）　萬樞（バンスウ）
政樞（セイスウ）　宸樞（シンスウ）　戸樞（コスウ）　輪樞（リンスウ）

〔樟〕シヤウ

くす、くすのき（常綠樹の一）

【樟樹】（シヤウジユ）くすの木。
【樟腦】（シヤウナウ）樟の心を煎じた汁より製したる芳香ある結晶物。

〔構〕ラウ　モン　マン

㋑木の名（松の類）㋺木より脂の出づる貌㋩あきにれ（楡の一種）

〔模〕ボ　モ

㋑かた、のり（法式）てほん（範）㋺もやう（文象）あや㋩いがた（型）㋥のつとる（則）にせる、擬す、うつす㋭かたどる㋬なづ（撫）

【模子】（モシ）ひながた、てほん。
【模型】（モケイ）原物と同じ形に似せて造つたかた、ひながた。
【模造】（モザウ）原物に似せてつくる、又その物。
【模樣】（モヤウ）㋑ありさま、やうす、形狀㋺あや、かた、文理。
【模範】（モハン）模表に同じ。
【模糊】（モコ）はつきりせぬさま。
【模擬】（モギ）にせる、かたどりまねる。
【模本】（ボホン）繪のしたがき、粉本。
【模表】（ボヘウ）模範、てほん、かた、のり。
【模則】（ボソク）前に同じ。
【模效】（ボカウ）似せてつくる、まねる。
【模倣】（ボハウ）前に同じ。
【模倣】（ボカウ）同上。
【模楷】（ボカイ）模表に同じ。
【模寫】（ボケン）從ひ守るべきのり。
【模擬店】（モギテン）園遊會などで客を饗應する爲め本物に似せてつくりし飲食店。

類語

規模（キボ）　軌模（キボ）　師模（シボ）　世模（セイボ）
洪模（コウボ）　遺模（キボ）

〔樣〕ヤウ

㋑かた、かたち、ありさま、やうす、狀態㋺のり（法）てほん（範）法式㋩もやう（文象）あや㋥國訓さま（人の姓名の下に附する敬語）又語の下に附して即時の意を表はす、すがた、なりふり、容貌やう（何々の如く、何々の通りの意）ゆへ、わけ、仔細、ざま、べく、語の下に附する卑稱

【樣子】（ヤウス）㋑かた、形式㋺なりふり、容姿、又ありさま、情況、又わけ、仔細。
【樣式】（ヤウシキ）㋑きまつたしかた、かた、のり㋺かたち、ふり、式樣。
【樣制】（ヤウセイ）かたちづくる、かたどる。
【樣々】（サマザマ）いろ〳〵、種々。

訓讀

【樣に依りて葫蘆を畫く】（やうによりころをえがく）依レ樣畫二葫蘆一　かたにばかり拘泥して新らしき發見のなきこと。

類語

一樣（イチヤウ）　歌樣（カヤウ）　式樣（シキヤウ）　官樣（クワンヤウ）
圖樣（ヅヤウ）　花樣（クワヤウ）　形樣（ケイヤウ）　新樣（シンヤウ）
舊樣（キウヤウ）　模樣（モヤウ）　今樣（コンヤウ）

〔樵〕セウ

くひ（杙）牛をつなぐ杙

㋑木の名、さねぶとなつめ（酸棗）㋺くるまのはどめ

〔樵〕セウ

㋑ざうき（雜木）たきゞ（薪）散材㋺たきゞを採る人、きこり（樵夫）㋩こる、木を伐りとる㋥やく（焚）燒に通ず、ものみ、やぐら

【樵子】（セウシ）きこり、樵夫。
【樵女】（セウヂヨ）きこりの女。
【樵夫】（セウフ）きこり、やまびと、そま。
【樵戶】（セウコ）きこりの家。
【樵舍】（セウシヤ）きこりの小屋。
【樵斧】（セウフ）まさかり。
【樵柯】（セウカ）斧の柄。
【樵采】（セウサイ）薪をとること。
【樵採】（セウサイ）たきゞを伐り取る。
【樵叟】（セウソウ）きこりのおやぢ。
【樵家】（セウカ）樵戶に同じ。
【樵徑】（セウケイ）きこりの通行する狹き道。
【樵唱】（セウシヤウ）きこりのうた。

〔樵〕ジ

十二畫

【樵歌】セウカ　前に同じ。
【樵漁】セウギョ　きこりとすなどり。
【樵擔】セウタン　きこりの荷。
【樵薪】セウシン　木を切り草をかる。
【樵隱】セウイン　世に離れ山間に住む隱者。
【樵斧】セウシン　薪をきること、又たきゞ。
【樵謳】セウオウ　樵唱に同じ。

樸

叢の古字

ハク　ボク

㋑きぢ、地質のまゝにて加工せぬ木材㋺けづらざる木、あらき、轉じて凡て事物の彫飾を加へざるもの、又飾りなきことㄅ僞らざること、まこと、天眞、ありのまゝ

【樸竹】ボクチク　高さ四五尺にて扇の骨に作る竹のこと。
【樸拙】ボクセツ　ぢみにして不器用なり。
【樸直】ボクチョク　質朴にして正直なること。
【樸陋】ボクロウ　表面をかざらず無作法なるさま。
【樸重】ボクヂウ　樸直に同じ。
【樸質】ボクシツ　ぢみ、かざりけなし。
【樸素】ボクソ　木地のまゝ、ありのまゝ。
【樸純】ボクヂン　すなほにしてのろし。
【樸斲】ボクタク　あら削りにして飾らぬ貌。
【樸純】ボクジュン　㋑むきだしのまゝにて愚かなこと㋺樸直に同じ。
【樸魯】ボクロ　有りのまゝにしておろか。
【樸淳】ボクジュン　質素で眞面目なること。
【樸野】ボクヤ　かざりけなし。
【樸弧】ボクキウ　ありのまゝにして意志つよし。
【樸愚】ボクグ　飾りけなく愚なること。
【樸壹】ボクイツ　まじめにしてすなほなり。
【樸稚】ボクチ　すなほにして正直。
【樸慎】ボクシン　質素にして慎み深し。
【樸鄙】ボクヒ　飾りけなくいやし。
【樸實】ボクジツ　心に飾りなく正直なり。
【樸樕】ボクソク　小木、小才、凡人に喩ふ。
【樸學】ボクガク　當代に向かぬ古代の質素なる學問。

類語

玄樸　純樸　拙樸
粗樸　素樸
謹樸　愚樸

樹

ジュ

㋑き、たちき、木本㋺植物の總稱、くさき、草木ㄅへい（屏）かきおほひ、又屏をたてる㋩ゆか（牀）㋭うゑる（植）ㄆたつ（立）

【樹子】ジュシ　天子の命令にて相論人とせられた大名の子。
【樹木】ジュモク　木、たち木
【樹立】ジュリツ　固く立ちて動かざること。
【樹末】ジュマツ　こずゑ、樹稍。
【樹稍】ジュセウ　前に同じ。
【樹空】ジュクウ　木のうつろ。
【樹杪】ジュベウ　樹末に同じ。
【樹砧】ジュチン　接木のだい木。
【樹脂】ジュシ　木より出るやに。
【樹陰】ジュイン　木のかげ、こかげ。
【樹植】ジュショク　草木をうゑること。
【樹敎】ジュケウ　をしゑを敷く。
【樹腰】ジュエウ　木の幹の下部。
【樹種】ジュシュ　草木をうゑる。
【樹聖】ジュセイ　柳の異名。
【樹蔭】ジュイン　樹陰に同じ。
【樹々】ジュジュ　のこらずの木、きゞ。
【樹藝】ジュゲイ　植物をうゑつけること。
【樹頭】ジュテン　木のさき、こずゑ。
【樹黨】ジュタウ　徒黨を結ぶこと。
【樹鶏】ジュケイ　きのこの異名。
【樹欲レ靜而風不レ止】キシヅカナラントホツスレドカゼ

ヤマメ木が靜かにならうとしても風が吹いて靜かになれない、子が孝行をしようと思ふても親は既に此世の人ではない、事は爲すべき時になさざれば後に悔ゆるとも及ばざることのいましめ。

類語

朱樹　異樹　孤樹　香樹
空樹　叢樹　朽樹　雜樹
深樹　幽樹　鞏樹　遠樹
郊樹　綺樹　嶺樹　麗樹
間樹　苑樹　接樹　孔樹
翠樹　峽樹　禿樹　獨樹
芳樹　華樹　社樹

樺

クワ

かば（喬木の一）かには、かばざくら

【樺色】カバイロ　黃に赤味を帶びたる色。
【樺茶】カバチャ　樺色に褐色の多き色。
【樺櫻】カバザクラ　黃櫻の一名。
【樺刱】クワイン　矢のはぐきの處を樺の皮にて卷きたるもの。

樽

ソン

㋑たる、さかだる、酒樽と同じつくりの樽の總稱㋺やむ（止）とゞむ

【樽拔】タルヌキ　たるがきにして盃を拔くことをいふ。
【樽杓】ソンシャク　たるとさかづき。
【樽俎】ソンソ　樽とまないた、平和の交際にたとふる語。
【樽酒】ソンシュ　たるの酒、樽中の酒。
【樽節】ソンセツ　禮節に同じ。
【樽鼎】ソンライ　さかだる。
【樽榼】ソンカフ　さかだる。
【樽鑽】ソンサン　酒樽の栓をとるきり。
【樽俎折衝】ソンソセツショウ　平和の交際のうちに敵をくぢくをいふ語。

類語

芳樽　瓦樽　晩樽　殘樽
空樽　雙樽　酒樽

樾

エツ

㋑こかげ（木蔭）㋺なみき（街路樹）

樺

セン

つげ（常綠木の一）黃楊

【樺杓】センシャク　つげの木のさかづき。
【樺梔】センシツ　つげのくし。

橈

カン

橄欖は熱帶地方に產する果樹、かんらん

【橄欖油】カンランイウ　橄欖の樹の實より採る油、オリーブ油ともいふ。

橈

ボ　モ

㋑模に同じ㋺國訓ぶな（落葉喬木の一）とばの木、山ぶな

橈

ケウ　ゼイ

そり（形箕の如くにして雪又は泥の上を踏みすべらして行く乘り物）雪舟

橈

セイ

櫪橈は刑具の一

橈

ダウ　ネウ　ヒウ

㋑さがりたる木㋺まぐ（枉）たわむ（撓）まがる、まげる、かゞむ（屈）ㄅよわし（弱）柔弱、よわみ易し、よわる、よわめる㋩ちる（散）㋭みだる（亂）ㄆくだく

（碎）㋑をる（折）㋺しへたぐ（虐）くじく、抑へつける㋩くじける、たゆむ、閉口す㋥かぢ、かい（舟具）

【橈凶】ダウキヨウ　弱りてわるくなる。
【橈直】ダウチヨク　直なるものを曲げ撓む。
【橈敗】ダウハイ　くじけやぶれる。
【橈脚】ダウキヤク　鰕の腹部にある鰭狀のものにて游泳の用をなす。
【橈々】ダウダウ　まがりたわみたる貌。

〔櫑〕リウル

ざくろ（果樹の一）じやくろ、丹若

【櫑花】リウクワ　ざくろの花。
【櫑彈】リウダン　次に同じ。
【櫑散彈】リウサンダン　彈丸の內部に數十個の小彈を裝置し到著點に至りて一時に爆發する如く仕掛けたる大砲のたま、ざくろだま。

〔橋〕ケウ　カウ

㋑はし（河に架けて交通往來に便ずるもの、又凡て物の兩方よりかけ渡したるもの〻總稱）㋺はねつるべの上の橫木㋩もどる（戾）㋥一種の木の名、高くして上を向くより父道にたとへ用ふ㋭あなどる（侮）㋬つよくはやし（勁疾）㋣たかし（高）

【橋松】カウシヨウ　枯れたる松の木。
【橋起】カウキ　たかくなる、たかまる。
【橋架】ケウカ　はしのけた。
【橋津】ケウシン　はしとわたしば。
【橋直】ケウチヨク　高くして眞直なること、峭直。
【橋畔】ケウハン　橋のほとり。
【橋梓】ケウシ　父子の尊卑に喩ふ。
【橋梁】ケウリヤウ　はし、橋は橋の總名、梁は水上の橋。
【橋脚】ケウキヤク　はしぐひ。
【橋閣】ケウカク　谷川や谷間に架けたる橋のこと。
【橋榜】ケウバウ　橋側に橋の名などを記せる標木。
【橋頭】ケウトウ　橋のほとり、橋のたもと。
【橋桁】ハシケタ　橋板を支ふる材木。
【橋廊】ハシラウ　橋形に作りたる廊下。

類語

架橋カケウ　浮橋フケウ　道橋ダウケウ　斷橋タンケウ
溪橋ケイケウ　小橋セウケウ　飛橋ヒケウ　屈橋クツケウ
雲橋ウンケウ　長橋チヤウケウ　板橋ハンケウ　鐵橋テツケウ
棧橋サンケウ　船橋センケウ

〔臺〕タク

㋑ふくろ（底なきふくろ）又小さき袋㋺ふいご（鞴）火をおこす器㋩杵にてたゝく𨻶

【臺土】タクド　穴の多き土地。
【臺吾】タクゴ　つはぶき、蕗に似たる草。
【臺梠】タクリヨ　衣食を盛る器。
【臺駝】タクダ　㋑駱駝の異名㋺せむし、くゞせ㋩植木屋の異名。
【臺々】タクタク　㋑杵にてたゝく𨻶㋺力を用ゐつとめはげむさま。
【臺箭】タクヤク　鍛冶屋の用ゐるふいご。
【臺駝師】タクダシ　植木屋。

類語

革臺カクタク　布臺フタク　囊臺ナウタク　行臺コウタク
爐臺ロタク　褚臺チヨタク　壞臺クワイタク　空臺クウタク
森臺エンタク　巨臺キヨタク

〔櫓〕タウ

㋑さゝふ、さゝへ、つゝかふ㋺つゝかひばしら、支柱

【櫓刺】タウセキ　舟にさをさす、船をこぐ。

〔橘〕キツ

㋑たちばな（柑橘類の總稱）又夏みかん㋺國訓四姓の一（葛城王諸兄に始まる）

【橘子】キツシ　みかん。
【橘井】キツセイ　醫者の異稱。
【橘月】キツゲツ　陰曆五月の異名。
【橘包】キツパウ　蜜柑などの果實。
【橘柚】キツイウ　たちばなとゆず、蜜柑類の總稱。
【橘花】キツクワ　たちばなの花。
【橘顆】キツクワ　橘包に同じ。
【橘中樂】キツチユウノタノシミ　菲をうつ樂しみ。
【橘化爲枳】タチバナクワシテカラタチトナル　淮南の橘を淮北に移植すれば枳になる、人も境遇によつて性質がゝはることの喩。

類語

甘橘カンキツ　綠橘リヨクキツ　金橘キンキツ　朱橘シユキツ
丹橘タンキツ　香橘カウキツ　黃橘クワウキツ

〔橙〕タウ

㋑だい〳〵（橘の屬）㋺つくゑ、おしまづき（几の屬）

【橙黃色】タウクワウシヨク　橙の實の如きいろ、だい〳〵いろ。

〔槩〕

概に同じ

〔概〕ケツ

㋑くひ（杙）㋺とじきみ（門梱）㋩きりかぶ（斷木）㋥くつわ、くつばみ（馬銜）㋭車鉤の心木㋬ばち、鼓をうつゝち

【概子】ケツシ　食物の濕りを防ぐ爲に入れ置く器。
【概杙】ケツヨク　くひ。
【概銜】ケツカン　くつわ、轡。

〔機〕キ

㋑きざし（物の發動を司るもの）をり、しほ㋺萬物自然の變化㋩星の名㋥からくり、しかけ㋭かなめ（要）重要㋬わけめの場合㋣あふ（會）㋠こまやか（密）㋡木の名㋢はづみ（機會）物のおこるきつかけ㋤はた（織りもの〻具）はたおり㋥分別をこらす、たくむ

【機心】キシン　機械之心の略。
【機兆】キチウ　吉凶禍福のきざし。
【機巧】キカウ　仕事のたくみなること。
【機先】キセン　事の未だ起らざる先。
【機杼】キヂヨ　㋑はたのひ㋺よき文章をつくること。
【機宜】キギ　うまく間に合ふ、都合良くあてはまる。
【機致】キセイ　重大なる政治上の事柄。
【機根】キコン　佛語、さとりをひらく心。
【機計】キケイ　はかりごと。
【機祕】キヒ　主として政治上・軍事上の祕密。
【機悟】キゴ　さとり、物を推考して悟る。
【機速】キソク　事に處するに巧にして速なること。
【機梭】キサ　はたのひ。
【機敏】キビン　事に當りてさとく速かなること、氣がきく。
【機略】キリヤク　はかる、はかりごと。
【機能】キノウ　㋑身體各部の機關のはたらき㋺物の有するはたらき。
【機務】キム　樞要なる事務、政治上の事務。
【機密】キミツ　事の奧そこの祕密、特に政治上愼重に守るべき祕密をいふ、亦軍事上の機密。
【機械】キカイ　㋑からくり㋺命令により動くこと㋩心中のたくらみ。
【機畫】キクワク　謀策、はかりごと。

【機捩】キタン・ 氣がきゝて分別よし。
【機檻】キカン からくりしかけを施したるをり、野獸などを陷れ捕へるに用ふ。
【機謀】キケフ いつはりのはかりごと。
【機警】キケイ さとく敏捷なること。
【機辯】キベン たくみにして變化妙運なるべんぜつ。
【機變】キヘン 臨機應變の策略。
【機械的】キカイテキ 單に機械の如く動作して臨機應變の處置を採らざること。
【機密費】キミツヒ 支途を明示せず責任者が機密の事を取運ぶに使ふ費用。
【機業地】キゲフチ 織物を產出する土地。
【機業家】キゲフカ 織物を製造する實業家。
【機器局】キキキヨク 兵器製造所。
【機關砲】キクワンハフ からくり仕掛の火砲。
【機關紙】キクワンシ 機關新聞に同じ。
【機會均等】キクワイキントウ 各人又は各國が利益を受ける機會を平等にすること。
【機械之心】キカイノココロ いつはりたくらみて策略をめぐらす心。
【機械水雷】キカイスヰライ 海中に裝置して敵艦を爆破せしめる水雷。
【機動演習】キドウエンシフ 陸軍にて毎年秋期に各種の兵科を連合して行ふ演習。
【機關新聞】キクワンシンブン 政治家又は政府などが自己の意見を發表して輿論を喚起する爲めに發行する新聞紙をいふ。
【機事不レ密則成レ害】キジフナラザレバスナハチガイ 機微の事は愼密ならざれば漏れて遂に事を誤り害を來すの意。

訓讀

【機を失ふ】失レ機 キをうしなふ 乘ずべき時をうしなふ、手おくれとなる。
【機を見る】見レ機 キをみる よき時期をさとり知る。

類語

綺機キ　樞機スウ　禍機クワ　眞機シン
危機キ　大機タイ　戎機ジユウ　軍機グン
忘機バウキ　世機セイ　時機ジキ　事機ジキ
禪機ゼンキ　衝機ショウ　投機トウ　兵機ヘイキ
塵機ヂンキ　心機シン　神機シン

橡

シヤウ

イとち（七葉樹）栃ロつるばみ（櫟の實）どんぐり

橢

ダ

イ細くして長し、闊くして長し、又その器、こばんがたロつちくれのつゝみ

（塤鼓）

【橢金】ダキン 橢圓形の金、小判。
【橢圓】ダエン イ長圓形、たまごがたロ數學上にては圓錐曲線の一。

桑

ズキ

イしべ（蕊）はなしべロたる（垂）【桑々】ズキズキ 物の垂れ下る貌。

橦

トウ　ショウ
シユ　タウ

イ木の名（花をつむぎて布とす）ロ天幕の頂ハ木のひときれ、きゞれニ敵陣を突破るに用ゐる車ホさす（刺）つく（突）ヘさを（竿）

横

クワウ　ワウ
カウ

イよこ（縱の對）よこはひ、よこはら、側面、よこざま、よこの方、東西の方向、又左右の方向ロよこたふ、よこに置く、よこにする、よこに佩ぶ、よこにもつハよこたはる、よこぎりたふす、よこになるニよこぎる、よこざまに過ぐ、よこがはより誣つホよこしま、わがまゝ、ほしいまゝ、又勢盛んにしてわがまゝなる貌ヘ威權相犯かすことトぬき（緯）チ星の名リ學舍（饗に通ず）ヌ草の名ルト兆の名ヲ盛んなる氣の滿てることワ俎のあしの横木

【横分】ワウブン 横に仆れる、首が落ちる。
【横文】ワウブン よこもじ、歐文。
【横夭】ワウヨウ わかじに、夭死。
【横民】ワウミン 暴擧をはかる人民。
【横目】ワウモク 人の眼の横になり居るより人をさしていふ。
【横死】ワウシ よこしまな死にやう、正當ならざる死。
【横佚】ワウイツ 氣まゝにふるまふ、横逸。
【横行】ワウカウ イ横にあるくロ勝手氣儘に歩く、又その行動をなす。
【横放】ワウハウ わがまゝ、よこしま。
【横政】ワウセイ 法度に從はざる政治、惡政。
【横恣】ワウシ きまゝ、わがまゝ。
【横披】ワウヒ 書畫等のよこにひらく長い卷物、横長。
【横帕】ワウハク 巾を頭の後より回して前にて結ぶこと、はちまき。
【横被】ワウヒ 廣くゆきわたるさま。
【横柄】ワウヘイ 人をさげすみたかぶること。
【横臥】ワウグワ 身をよこたへてねる。
【横逞】ワウテイ 滿足する、充分に盡すこと。
【横虐】ワウギヤク 我儘にして人をいぢめること。
【横逆】ワウギヤク わがまゝにして無理を押し通す。
【横流】ワウリウ 水があふれ流れると、氾濫。
【横笛】ワウテキ 樂器の一、よこぶえ。
【横逸】ワウイツ ほしいまゝなること、勝手にふるまふ。
【横斜】ワウシヤ なゝめ、はすかひ。
【横眸】ワウボウ いろめづかひ、ながしめ。
【横禍】ワウクワ 不正當なる慘禍、不慮の災難。
【横溢】ワウイツ 水があふれ流れるさま。
【横道】ワウダウ よこみち、不正なるおこなひ、邪道。
【横幅】ワウフク ヨコハバ 横に長いはゞの布帛。
【横塞】ワウソク 横あひよりふさげ止める。
【横貫】ワウクワン よこにつらぬく。
【横絶】ワウゼツ 横ぎりわたる、よこぎる。
【横著】ワウチヤク イ我儘、勝手ロなまけること ハ内心正直でないこと。
【横費】ワウヒ 無駄に費す、冗費。
【横厖】ワウクワク 横にひろげるさま。
【横勢】ワウセイ 各國が連合して己に從はしむる形勢、勢ひ盛んなるさま。
【横截】ワウセツ よこにたち切る。

【橫塾】ワウジユク　まなびのには、學校。
【橫談】ワウダン　氣まゝに話す、又その話。
【橫暴】ワウバウ　我儘にして亂暴なり。
【橫領】ワウリヤウ　無理にとる、橫どり。
【橫酷】ワウコク　甚だむごく人を苦めること、殘酷。
【橫槊】ワウサク　矛をよこたへる。
【橫奪】ワウダツ　むりにうばふこと、よこどりする。
【橫肆】ワウシ　我まゝ、よこしま、專橫。
【橫徵】ワウチヨウ　勝手に税金を徵收す。
【橫磨】ワウマ　橫磨劍に同じ。
【橫戮】ワウリク　みだりに殺す。
【橫歷】ワウレキ　橫行に同じ。
【橫擊】ワウゲキ　橫合より打つ、敵軍の橫合から攻めたてる。
【橫轉】ワウテン　宙返りの對、飛行機が空中にて機體を橫ざまにして旋轉すること。
【橫斷】ワウダン　よこぎる、橫にきりたつ。
【橫溢】ワウラン　水があふれ流れる、橫溢。
【橫難】ワウナン　不慮の災難、思はぬ禍厄。
【橫議】ワウギ　憚りなく議論すること。
【橫海鱗】ワウカイリン　海を橫ぎる大きな魚、轉じて大人物の義。
【橫草功】ワウサウノコウ　首を橫に倒すの功、轉じて戰陣に臨んで山野をかけまはつてたてる功勞、軍功、戰功。
【橫隔膜】ワウカクマク　胸腔と腹腔との間にある筋肉膜。
【橫磨劍】ワウマケン　とぎすましたる劍を佩ぶ兵士。
【橫斷機】ワウダンキ　大陸・海洋等を橫斷して長途を行く飛行機。
【橫戀慕】ヨコレンボ　戀慕すべからざる人を戀ひしたふこと。
【橫行介士】ワウカウカイシ　蟹の異名。
【橫行濶步】ワウカウクワツポ　大手を振つて步きまはる、遠慮なくふるまふさま。
【橫線小切手】ワウセンコギツテ　小切手面に並行せる二線を引き受取人の預金ある銀行に對してのみ支拂はしめる小切手。

類　語

豪橫ガウワウ　强橫キヤウワウ　暴橫バウワウ
食橫ドンワウ　兼橫ケンワウ　從橫ジユウワウ
天橫テンワウ　連橫レンワウ

〔橪〕ネン　ゼン

となつめ（果樹の一、棗の一種）

〔樫〕國字

かし（橿）落葉喬木の一

十三畫

〔橿〕キヤウ　カウ

㋑え（枋）一に鋤の柄㋺もちのき（萬年木）㋩つよし（强）㋥國訓かし（橿）
【橿々】キヨウキヨウ　强くさかんなる貌。

〔檀〕タン　ダン

㋑まゆみ（喬木の一）㋺せんだんの屬㋩佛家にて施主の意
【檀那】ダンナ　㋑佛教に歸依し僧に布施する信者㋺主人を呼ぶ稱、又商人が客を呼ぶ稱㋩亭主、をつと、又一家の主人㋥尊長者を呼ぶ敬稱。
【檀車】ダンシヤ　にぐるま、貨車。
【檀板】ダンバン　樂器の一、拍子を取る板。
【檀林】ダンリン　寺院、又佛教の學問所。
【檀度】ダンド　佛教に歸依し僧に布施する信者。
【檀香】ダンカウ　香木の一、せんだんの異名。
【檀徒】ダント　檀度に同じ。
【檀家】ダンカ　檀那たる家。

【檀越】ダンヲチ　檀那の㋑に同じ。
【檀紙】ダンシ　まゆみの皮を原料としてつくりし上等の紙。
【檀欒】ダンラン　竹の細くして長き貌。
【檀槽】ダンサウ　紫檀にて作りし琵琶の胴。
【檀弓】マユミ　にしき木、弓を作る材料にしたるにより此名あり。
【檀那寺】ダンナデラ　菩提所のある寺。
【檀香梅】ダンカウバイ　蠟梅の異名。

〔檃〕イン

㋑ため木、曲れる材をため直す具㋺ため、ため木にてため直す。
【檃栝】インクワツ　曲つたものを直しくする具、ためぎ、轉じて誤りを正すこと。

〔檄〕ゲキ

㋑めしぶみ、てがみ、ふれ、さとしぶみ、廻狀、通告文㋺通告文を發することゝ㋩枝なき木
【檄文】ゲキブン　急にふれだす廻狀。
【檄召】ゲキセウ　檄文を發して人を集める。
【檄皎】ゲキコウ　我が使命を明記して使者に渡す文書。
【檄書】ゲキシヨ　檄文の書類。
【檄致】ゲキチ　檄召に同じ。
【檄耀】ゲキテキ　極めて速かなるさま。

訓　讀

【檄を飛ばす】飛レ檄げきをとばす　廻狀を發して四方にふれ知らす。

類　語

軍檄グンゲキ　文檄ブンゲキ　羽檄ウゲキ　飛檄ヒゲキ
露檄ロゲキ　傳レ檄ゲキヲツタフ　奉レ檄ゲキヲホウズ

〔檉〕テイ

ぎよりう（落葉樹の一）河柳

〔檋〕キヨク

かんじき（檋）又轅のまつすぐの棒

〔檎〕キン　ゴン

木の名、りんご、苹

〔檐〕エン　タン

㋑ひさし、のき、屋根の葺おろしたる端、又ひさしの形せるもの、帽子又は笠などの出でたる所㋺たるき（桷）㋩になふ、かつぐ（擔）
【檐鈴】エンレイ　軒にさげたる風鈴。
【檐端】エンタン　のきさき、のきば。
【檐桶】タゴ　繩をつけ棒にて擔ふ桶。

類　語

重檐チヨウエン　破檐ハエン　層檐ソウエン　屋檐ヲクエン
飛檐ヒエン　廣檐クワウエン　帽檐バウエン

〔檗〕ハク　ビヤク

㋑きはだ（寒地に産する喬木の一にて皮を黃色の染料とす）㋺たらひ

〔檛〕タ

㋑むち（鞭）馬のむち、又むちうつ㋺笛簫等の長き管

〔檜〕クワイ

㋑ひ、ひのき（常綠喬木の一）圓柏㋺棺のかざり㋩周代の國名
【檜皮】クワイヒ　檜の皮を割きたるもの、ひはだ。
【檜扇】ヒアフギ　檜の薄き板を骨として造り

たる扇。
【檜垣】ヒガキ　檜の板を以て作りたる垣。
【檜葉】ヒバ　ひのきの類の總稱。
【檜皮葺】ヒハダブキ　檜皮にて葺きし屋根。
【檜御門】ヒノミカド　檜にて作りたる御門、又宮殿。
【檜舞臺】ヒノキブタイ　檜にて作りたる舞臺、又はれの場所。

類語
貞檜テイクワイ　壽檜ジユクワイ　蒼檜サウクワイ　崇檜シユウクワイ

檝
楫に同じ

檞
カイ
㊀まつやに（松脂）㊁國訓かしは（柞の誤用）

檟
カ
木の名、ひさぎ（梓）棺の材料とす

檠
ケイ
㊀ゆがめ、ためぎ（弓をため正す具）たむ、ため直す㊁ともしび（燃火）ともしびのだい（燈架）㊂食物を盛る器

類語
排檠ハイケイ　榜檠バウケイ　燈檠トウケイ　短檠タンケイ

檄
檠に同じ

檢
ケン
㊀ふう、ふういん、しるし、文書を封じたるしるしの印㊁ほんばこ㊂とりしまる、とゞむ、しめくゝり㊃のり（式）模範、てほん㊄文書のしたがき（草案）㊅しらぶ、かんがふ、たゞす、案驗㊆おこなひ、行儀
【檢子】ケンシ　文書のしたがき、草稿。
【檢分】ケンブン　役人などが立ち合ひて物事を檢べ見屆くること、調査。
【檢出】ケンシユツ　化合物中にある元素又は根等を見出して測定すること。
【檢句】ケンク　しらべる、取しらべ。
【檢死】ケンシ　變死者等をしらべること。
【檢正】ケンセイ　身にしまりありて邪曲ならざること。
【檢式】ケンシキ　てほん、のり、法式。
【檢字】ケンジ　漢字辭書の索引の一法。
【檢同】ケンドウ　おなじ、ひとし、同等。
【檢考】ケンカウ　しらべ考へる。
【檢印】ケンイン　搜査して認める證として押す印。
【檢地】ケンチ　宅地・田畑・山林等の廣狹等をしらべはかる。
【檢束】ケンソク　㊀とりしまる㊁官權を以て人民の自由を一時束縛すること。
【檢究】ケンキウ　しらべきはめること。
【檢定】ケンテイ　調べてよしあしをきめる。
【檢査】ケンサ　とりしらべたゞす。
【檢使】ケンシ　事實を調べ吟味する役人。
【檢知】ケンチ　しらべしる。
【檢疫】ケンエキ　傳染病を豫防する爲めの診斷又は消毒。
【檢制】ケンセイ　とりしらべおさへる。
【檢事】ケンジ　㊀罪人を訴へ又訴訟の手續裁判執行の監督等をなす法官㊁事件をとりしらべる。
【檢屍】ケンシ　檢死に同じ。
【檢括】ケンクワツ　取りしまる、掠めとる。
【檢案】ケンアン　しらべる。
【檢校】ケンカウ　㊀しらべ考ふ㊁たづねる、探討する㊂內外官にして他司のことを兼ね攝すること、又一寺の統領にして法事を點檢する役㊃盲人の官名。

【檢書】ケンショ　書物をしらべる。
【檢番】ケンバン　藝者屋の事務所。
【檢革】ケンカク　しらべ改む。
【檢視】ケンシ　しらべみる。
【檢訪】ケンバウ　しらべとふ、問ひたゞす。
【檢過】ケンアウ　しらべておさへ制す。
【檢測】ケンソク　しらべはかる。
【檢督】ケントク　取りしまる、監督する。
【檢跡】ケンセキ　あとをしらべる。
【檢節】ケンセツ　拍子を取ること。
【檢算】ケンザン　運算の結果の正否をしらべためす算法。
【檢察】ケンサツ　しらべみる、ぎんみする。
【檢閱】ケンエツ　㊀しらべみる㊁軍事上の事柄を實地調査すること。
【檢審】ケンシン　しらべて明らかにす。
【檢踏】ケンタウ　檢査のために實地をふむ、はかる、踏査。
【檢擧】ケンキヨ　犯罪の疑あるものゝ罪跡を集めること。
【檢證】ケンショウ　裁判官が證據物件を得る爲め現場を取り調べること。
【檢斷】ケンダン　理非をしらべさだむ。
【檢點】ケンテン　一々しらべて記す。
【檢鏡】ケンキヨウ　病菌などを顯微鏡にてらして調べること。
【檢覈】ケンカク　調べきはむ、檢考。
【檢籍】ケンセキ　帳簿を吟味すること。
【檢覆】ケンフク　しらべあきらかにす、くはしく調べる。
【檢驗】ケンシウ　しらべたゞす。
【檢驗】ケンケン　徵證をしらべあげる。
【檢事正】ケンジセイ　地方裁判所に屬する上席の檢事。
【檢察官】ケンサツクワン　臺灣の檢察局に置かれたる官職にして檢事に相當す。
【檢震器】ケンシンキ　地震をはかる器械。
【檢斷職】ケンダンシヨク　鎌倉時代に於ける裁判官。
【檢非違使】ケビキシ　古昔人民の非法非違を檢せし官衙、當今の警視廳。

類語
印檢インケン　細檢サイケン　禮檢レイケン　量檢リヤウケン
拘檢コウケン　操檢サウケン　羈檢キケン　行檢カウケン
格檢カクケン　考檢カウケン　臨檢リンケン　収檢シウケン
禁檢キンケン　儀檢ギケン　搜檢ソウケン

檣
シヤウ
ほばしら（帆柱）
【檣等】シヤウカン　ふねのほばしら。
【檣桁】シヤウカウ　ほばしらとそのよこぎ。
【檣櫓】シヤウロウ　帆柱の上のものみ臺。

檥
ギ
舟じたく、出帆の用意、舟よそほひ

十四畫

檬
ボウ　モウ　ム
㊀槐に似たる木の名㊁檸檬はれもん

檮
タウ
㊀木のきりかぶ（斷木）㊁おろか（愚）無智
【檮昧】タウマイ　おろか、無智。

檳
ヒン　ビン
檳榔は熱帶地に產する一種の木、びらう

檸
ダウ
檸檬はれもん（熱帶產の果樹の一）

〔𣘗〕イ
㋑木の長きさま㋺なびく貌、不正なる貌

〔檻〕カン
㋑てすり、おばしま（欄干）㋺れんじ（檻）㋩をり（罪人又は猛獸などを繫ぐ所）又をりに入れること㋥檻々は車の行く聲㋭泉の正しく湧き出づるもの㋬濫に通ず、たらひ（浴器）
【檻車】カンシヤ　板にて四方を圍みたる車、罪人を載せ又は猛獸を入るゝもの。
【檻送】カンソウ　罪人を檻車に入れて送る。
【檻泉】カンセン　まつすぐに湧き出る泉。
【檻穽】カンセイ　をりとおとしあな。
【檻倉】カンソウ　ひとや、をり、檻房。
【檻致】カンチ　罪人を送りつけること。
【檻塞】カンソク　かこひをして止めふさぐ。
【檻獄】カンゴク　牢屋、監獄、刑務所。
【檻槽】カンソウ　器に細く長くほりたる溝。
【檻々】カンカン　車の行くときの聲。
類語
江檻（カウカン）　殿檻（デンカン）　虚檻（キヨカン）　朱檻（シユカン）　彩檻（サイカン）　圈檻（ケンカン）　横檻（ワウカン）　獸檻（ジウカン）

〔檿〕エン
やまぐは、又桑の點文あるもの
【檿絲】エンシ　山桑にて飼ひし蠶の糸。
【檿弧箕服】エンコキフク　周の滅亡の前兆となりし山桑の弓と箕の服。

〔檿〕
檿に同じ

〔櫃〕
櫃に同じ

〔櫂〕タウ
かい、かぢ（舷に取りつけて船を漕ぐ具）
【櫂歌】タウカ　ふなうた、棹歌。
類語
輕櫂（ケイタウ）　戰櫂（セントウ）　迅櫂（ジンタウ）　孤櫂（コタウ）　桂櫂（ケイタウ）　征櫂（セイタウ）　楫櫂（シフタウ）

〔櫃〕キ
ひつ、はこ（篋）
【櫃櫝】キトク　ひつ、はこ。

十五畫

〔櫌〕イウ
㋑すき（田をならす器）又鋤の柄㋺塊をうち碎く槌㋩鋤にて地面をならすこと

〔櫍〕シツ
㋑かなとこ（鑕）㋺あし（柎）器物の脚㋩物を斷ち切る臺

〔櫑〕ライ
㋑たる、雲又雷の象を刻みたる酒樽㋺長劍の首に玉を嵌めて鹿盧の形に作り其上に木を刻みて山の形を作りたるもの
【櫑具】ライグ　劍の上の鹿盧の飾。
【櫑劍】ライケン　古の木劍の稱。

〔櫓〕ロ
㋑おほだて、大なるたて（大盾）㋺やぐら、屋根なきもの㋩戰陣の高巢車㋥ろ、船を進むる具㋭國訓やぐら（ものみの高樓、城壁や門の上のものみ、おやぶねの甲板、木を組みて高くかまへし棧敷、こたつの上をおほふ枠）
【櫓韻】ロヰン　船のろの聲。
【櫓聲】ロセイ　船をこぐ聲。
【櫓錢】ヤグラセン　芝居の語、興行權を有する人が帳元より受取る座の使用料。
【櫓太鼓】ヤグラダイコ　相撲場所の始まる前に櫓の上で打つ太鼓。
類語
干櫓（カンロ）　樓櫓（ロウロ）　楯櫓（ジユンロ）　望櫓（バウロ）　銜櫓（シヨウロ）　矛櫓（ボウロ）　修櫓（シウロ）

〔櫚〕リヨ　ロ
㋑棕櫚はしゆろ㋺くわりん（熱帶地に産する喬木の一）㋩果樹の一（總體ぼけに似て十月頃に實を結ぶ）

〔櫕〕
櫕に同じ

〔櫑〕ラフ　ロフ
いぼた（女貞に似たる木にて幹より油・蠟等を採る）

〔櫛〕シツ
㋑くし、髮毛を整へる具㋺くしけづる、けづりのぞく（剔除）㋩つむ（積）㋥櫛の齒の如くこまかくならぶ
【櫛比】シツピ　櫛の齒の如く澤山人家の立並ぶさま。
【櫛沐】シツモク　髮をくしけづり身を洗ふ。
【櫛梳】シツソ　くしけづる、髮をとく。
【櫛盥】シツクワン　毛髮をくしけづり顏や手を洗ふこと。
【櫛形】クシガタ　太鼓形に曲げたる貌。
【櫛笥】クシゲ　櫛を入るゝ匣、くしばこ。
【櫛風沐雨】シツプウモクウ　風雨にさらされて勤める、外に働き苦勞すること。
類語
巾櫛（キンシツ）　密櫛（ミツシツ）　盥櫛（クワンシツ）　象櫛（ザウシツ）　滑櫛（クワツシツ）　沐櫛（モクシツ）　風櫛（フウシツ）　梳櫛（ソシツ）

〔櫜〕カウ
㋑ゆみぶくろ（弓衣）㋺よろひぶくろ（甲衣）㋩やづゝ（矢を容るゝ器）㋥虎の皮を以て武器を包みたるもの、又その袋㋭つゝむ、武器をつゝみ藏ふこと
【櫜韔】カウチヤウ　ゆみぶくろ、弓を入る器。
【櫜鞬】カウケン　弓袋と矢ぶくろ。
【櫜韜】カウタウ　武器を仕舞ひ置く袋。

〔櫝〕トク
㋑ひつ（匱）はこ（函）㋺ひつぎ（棺）㋩几案の屬

〔櫞〕エン
枸櫞はれもんの一種、まるぶつしゆかん

〔櫟〕レキ
㋑くぬぎ（落葉喬木の一）實をどんぐりといふ㋺不用の木、轉じて無用のもの
【櫟散】レキサン　役にたゝぬもの。
【櫟樗】レキチヨ　不用の木、轉じて役に立たぬ人物に譬へていふ。
類語
苞櫟（ハウレキ）　社櫟（シヤレキ）　栲櫟（カウレキ）　長櫟（チヤウレキ）

十六畫

〔櫧〕　ショ　ソ
かし（喬木の一）いちひがし

〔櫨〕　ロ
❶はぜ、はじ（落葉喬木の一）❷柱の上のますがた、斗拱

〔櫪〕　レキ
❶うまやのねだ（廐棧）馬をつなぐ木❷馬のかひをけ（馬槽）❸木の名、くぬぎ（櫟）❹櫪撕はゆびゝしぎの刑具（十本の指を縛りつけるもの）
【櫪皁】レキサウ　牛馬を畜ふをり。
【櫪馬】レキバ　厩に繋がれし馬の義、束縛されて自由にならぬこと、籠の鳥の類。

類語
故櫪コレキ　廢櫪ハイレキ　槽櫪サウレキ　皁櫪サウレキ

〔櫬〕　シン
ひつぎ、はだつきの棺、くわんをけ
【櫬宮】シンキユウ　天子の御棺。

訓讀
【櫬を輿す】輿レ櫬しんをよす　死罪に服する意。

〔櫱〕　ゲツ
❶きりかぶより生ずる芽、ひこばえ❷きりかぶ、くひぜ❸一旦絶えたるものが復生すること

〔櫲〕　ヨ
櫲樟はくすのき、くす

〔櫳〕　ロウ
❶をり（檻）❷まど、へやの大まど、れんじまど

〔龒〕
櫳に同じ

十七畫

〔櫸〕　キョ
けやき（落葉喬木の一）欅柳

〔櫺〕　レイ
れんじ、からし窓の桟、臙桟、又は格子などをいふ
【櫺子】レイシ　窓に取りつけたる格子。
【櫺軒】レイケン　のき、のきづけ。
【櫺檻】レイカン　まどのてすり、格子の圍ひ。

〔櫻〕　アウ
❶ゆすら、ゆすらうめ（灌木果樹の一）❷國訓さくら（落葉樹の一）日本の名花
【櫻桃】アウタウ　果樹の名、ゆすらうめ。
【櫻雲】アウウン　さくらの花を白雲にたとへていふ語。
【櫻川】サクラガハ　女郎花に似たる草の名。
【櫻月】サクラヅキ　陰暦三月の異名。
【櫻狩】サクラガリ　櫻花をたづねて遊びくらすこと。
【櫻湯】サクラユ　鹽漬の櫻花を白湯の中に入れたるもの。
【櫻鯛】サクラダヒ　赤鯛の異名。
【櫻蘭】サクララン　蔓草の名。
【櫻海苔】サクラノリ　壹岐國より産する海藻の名

〔櫽〕
檃に同じ

〔欂〕　ハク
❶たるき（椽）一説に壁の柱❷ますがた（柱の上に立てる方形の木）とがた
【欂櫨】ハクロ　ますがた、とがた。

〔欄〕　ラン
❶てすり、おばしま、らんかん❷をり、牛馬を入るゝをり（圈）❸木を横にしるかこひ❹文書等の周圍に畫したる線　郛線、又その外まはりの輪郭の線
【欄干】ランカン　てすり、おばしま。
【欄外】ラングワイ　❶文書の本文を圍む輪郭のそと❷欄干のそと。
【欄杆】ランカン　欄干に同じ、
【欄阻】ランソ　やらい、らち。
【欄角】ランカク　らんかんの曲り角。
【欄畔】ランハン　てすりのあたり。
【欄間】ランマ　かもゐの上にすかし模樣を施せる板、又格子造りのあかりまど。
【欄楯】ランジユン　かこひ、てすり。
【欄檻】ランカン　欄干に同じ。

類語
勾欄コウラン　藩欄ハンラン　危欄キラン　朱欄シユラン
倚欄キラン　石欄セキラン　甍欄ゾウラン　玉欄ギョクラン　車欄シヤラン　橋欄ケウラン

〔欖〕
欖の俗字

十八畫

〔權〕　ケン　ゴン
❶おもり、はかりのおもり❷はかり、物の重量を計る具❸輕重の標準、めやす❹物のつり合ひ、平均、又つりあひをとる❺はかる、目方をはかる❻いきほひ、ちから、勢力❼はかりごと、臨機應變の處置❽かり、かりそめ、一時の都合、まにあはせ❾はぢまり、はじめ❿人をだますこと、いつはり、術數⓫そへ、正に對する副
【權力】ケンリヨク　他人を服從させる力、人を統御する威力。
【權右】ケンイウ　權力又は地位ある人。
【權臣】ケンシン　下に對し勢力ある家來。
【權利】ケンリ　❶權力と利益❷法律上自己の意志を主張し得る力。
【權宜】ケンギ　事の輕重をはかりて宜しき處置をなすこと。
【權官】ケンクワン　ゴンクワン　❶權力ある官吏❷其時限りの官吏、又正官に對して副官をいふ❸一時的に兼攝する官職。
【權門】ケンモン　權力ある家柄。
【權幸】ケンカウ　勢力あることゝ君主のおぼえめでたきこと、權寵。
【權度】ケンド　規則、又はかりとものさし。
【權奇】ケンキ　たくらみたる仕方、細工。
【權便】ケンベン　都合よし、程よきこと。
【權能】ケンノウ　其の人の力に依つて爲し得るはたらき、權利能力。
【權爭】ケンサウ　權略をもつて競ふ。
【權制】ケンセイ　威權と法則。
【權柱】ケンサウ　權力ありてよこしまなる者　權力を笠に著る惡者。
【權妻】ケンサイ　ゴンサイ　めかけ、てかけ。
【權要】ケンエウ　權力ある地位。
【權柄】ケンペイ　上に立つて人民を左右する力、生殺與奪の權力。
【權首】ケンシユ　首謀、發頭人。
【權限】ケンゲン　法令約束等に依りて其の人に委せられた仕事の範圍。
【權家】ケンカ　權門に同じ。
【權原】ケンゲン　權利取得の原因。
【權戚】ケンセキ　權力ある親戚。

【權威】ケンキ　權力、威勢、泰斗、英語ストーソリティーの譯。
【權略】ケンリヤク　時に應じてのはかりごと　權謀術數。
【權術】ケンジユツ　他を欺むくはかりごと。
【權智】ケンチ　はかりごと。
【權貴】ケンキ　權力ありて地位高きこと。
【權詐】ケンサ　いつはりのはかりごと。
【權軸】ケンヂク　權要の地位。
【權勢】ケンセイ　權力に同じ。
【權道】ケンダウ　一時間に合せの仕方、方便。
【權稱】ケンショウ　はかりのおもりとさを、はかり。
【權數】ケンスウ　權謀術數の略。
【權謀】ケンボウ　たくらみ、てだて。
【權衡】ケンカウ　はかり、又つり合ひ。
【權輿】ケンヨ　始め、起りはじめる。
【權藉】ケンシヤ　權力に同じ。
【權攝】ケンセツ　かりに代理して事務をとること。
【權寵】ケンチョウ　權幸に同じ。
【權變】ケンペン　權略に同じ。
【權化】ゴンゲ　神佛が衆生を救ふ爲めかりに人間の姿に現はれること。
【權現】ゴンゲン　㋑神佛がかりに人間の姿となつて此世に生れること㋺昔神の尊號として用ゐたる稱（例）東照權現。
【權教】ゴンケウ　大乘に入る方便の佛道。
【權萃】ゴンスキ　喬木の名、きつねのちやぶくろ。
【權殿】ゴンデン　先帝の御靈代をかりに奉安する宮中の室。
【權利株】ケンリカブ　會社の株式募集に際し株主たらんとして少許の證據金を拂込み其の權利を得たる受取證。
【權與國】ケンヨノクニ　權力ありて與國と爲る者。
【權掌侍】ゴンシヤウジ　掌侍の下にある女官。
【權謀術數】ケンボウジユツスウ　人をあざむくはかりごと、たくらみ。

類語

厚權コウケン　勢權セイケン　大權タイケン　利權リケン
兵權ヘイケン　衡權カウケン　執權シツケン　重權ジユウケン
國權コクケン　威權イケン　誦權ケウケン　朝權テウケン
人權ジンケン　民權ミンケン　債權サイケン　政權セイケン
兵馬權ヘイバノケン　所有權ショイウケン　選擧權センキヨケン

十九—二十四畫

【欖】レイ

㋑むね（棟）㋺うつばり、はり

【欑】サン

㋑つゝ、竹槍をかさねあはたせる杖㋺え、ほこのえ㋩あつむ、つむ（叢）あつまる㋥叢欑は草木をあつめて山川を祭ること

【欒】ラン　欄の僞字

【欒】ラン

㋑あふち（楝）㋺竹の集り生えたるさま㋩身體のやせたるさま㋥團欒はまどらか、まどか、圓く坐ること㋭ひぢき（柱の上のますがた）
【欒友】ランイウ　和らぎ親しむ。
【欒荊】ランケイ　木の名、あうち。
【欒櫨】ランロ　ひぢき（柱の上のますがた）
【欒々】ランラン　身體のやせたること。

【欖】ラン　橄欖は木の名

【欟】ケン　欄に同じ

【欄】タク　ショク

㋑すき（鋤）農具の一㋺え、斧の柄

【欄】ハ

つか、刀の柄、又物の握る所
【欄柄】ハヘイ　刀のつか。

【欝】欝の俗字

【欟】欟に同じ

欠部

【欠】ケン

㋑あくび（氣の倦む時自然に出る息）あくびす、あくぶ㋺かく（缺）不足す、不足させる㋩かり、負債、怠納
【欠日】ケンニチ　坎日、外出を凶とする日。
【欠々】ケンケン　あくびすをるさま。
【欠安】ケンアン　病氣、不快。
【欠字】ケンジ　章句の配列中に脫字あると又その文字、缺字の誤用。
【欠伸】ケンシン　あくびと脊のび。
【欠崖】ケンガイ　がけ、斷岸絕壁。
【欠數】ケンスウ　ふそく、又その數。
【欠錢】ケンセン　借錢、負債。

二畫

【次】ジシ

㋑つぎ、つゞく、つゞく、第二、その二、第二番目、一段下つた等級㋺ついで（次第）ついづ、順序を立てる、つゞき、順番㋩引つゞき、後の方の番、やどる（舍）やどり、とまり㋥くらゐ（位次）㋭とゞまる、やどる、宿泊すべとまるところ、場所、又やどる所㋬をる（處）ところ、場所、又わる場所、位置㋮崛を張りたる所㋯門外にありて衣を更むる所㋰しゆくば（市亭）㋱星のやどり、星座㋲なか（中）うち、あひだ（間）㋳いたる（至）㋴髮を編みて首の飾りとなすこと㋵あはたゞし、又そのさまを逸まんとして逸まざること、又そのさま㋶度數又は回數を表はす語、め、たび
【次且】シショ　ためらふ、進みかねる貌。
【次序】シジヨ　ついで、順序。
【次男】ジナン　二番目の男の子。
【次舍】シシヤ　宮中のとのゐの詰所。
【次配】ジハイ　のちぞひ、後妻。
【次副】シフ　そへ、ひかへ。
【次第】シダイ　㋑順序をたつ、ついづ（儀禮）㋺事の順序、由來、顚末㋩事の場合、ぐあひ㋥まゝ、まに〳〵㋭だんだん、漸次㋬直ちに、即時に。
【次幹】ジヒ　帝王乘用の車。
【次韻】ジヰン　他の韻字と同樣の韻字にて作詩すること。

類語

校次カウジ　行次ギヤウジ　列次レツジ　年次ネンジ
露次ロジ　野次ヤジ　亭次テイジ　朝次チウジ
巷次カウジ　路次ロジ　階次カイジ　條次デウジ
準次ジユンジ　齒次シジ　賓次ヒンジ　星次セイジ
世次セイジ　抽次チウジ　客次カクジ　輕次ケイジ
幕次バクジ　類次ルイジ　順次ジユンジ　案次アンジ
旅次リヨジ　信次シンジ　造次ザウジ

四—六畫

欣　キン

イよろこぶ、又そのさま㋺草木の生々したるさま。

【欣々】キンキン　喜ぶさま。

【欣悅】キンエツ　よろこぶさま、うれしきこと、歡喜。

【欣服】キンフク　喜び從ふ。

【欣喜】キンキ　よろこぶ、喜悅。

【欣愉】キンユ　よろこびたのしむ。

【欣然】キンゼン　喜び樂む貌。

【欣厭】キンエン　喜ぶことゝいみ嫌ふこと。

【欣賞】キンシヤウ　ほめる、稱美する。

【欣嘉】キンカ　よろこぶ、氣に入る。

【欣懌】キンエキ　欣喜に同じ。

【欣慕】キンボ　よろこびしたふ。

【欣歎】キンタン　欣賞に同じ。

【欣躍】キンヤク　よろこびをどりたつ。

【欣讚】キンサン　よろこびほめる。

【欣矚】キンショク　喜びて見る。

【欣求】ゴングヂ　よろこび願ひ求める。

【欣々然】キンキンゼン　欣然を强めていふ。

款　カイ　ガイ

イしはぶき、せき、息が急に出て音を發するもの、又せく㋺せきの出る病㋩せきばらひ、又わざとせきをしてこはづくろひをすること㋥笑ひつゝ語ることつばき。

【款唾】ガイダ　せきしてつばを吐く、又其つばき。

【款嗽】ガイソウ　せき、しはぶき。

七畫

欲　ヨク

イほつす、ねがふ、のぞむ㋺物事に感じて性情の動くこと㋩しかなりかゝつてゐる、しかせねばならぬ㋥むさぼる心、願ひ求める念。

【欲火】ヨククワ　欲望の心を火にたとへていふ、欲の熱情。

【欲有】ヨクイウ　佛語にて三有の一、欲界。

【欲求】ヨクキウ　ねがひもとめる。

【欲念】ヨクネン　求めほつする心。

【欲界】ヨクカイ　佛語にて三界（欲界・色界・無色界）の一、卽ち欲心盛んなる世界。

【欲流】ヨクリウ　佛語、欲界に流轉して遂に欲界を出離する能はざるに至ること。

【欲望】ヨクバウ　のぞみ、ねがひ、又その心。

【欲不レ可レ從】ヨクハホシイマヽニスベカラズ　人の欲心は之を制しおさへねばならぬ。

類語

財欲ザイヨク　美欲ビヨク　利欲リヨク　奢欲シヤヨク
嗜欲シヨク　色欲シキヨク　情欲ジヤウヨク　寡欲クワヨク
私欲シヨク　多欲タヨク　貧欲ヒンヨク　無欲ムヨク

欺　款の俗字

歉　キ

㋺なく、すゝりなき、むせびなく、すゝる、すゝり泣く㋺なげく（哀みて止まざること）㋩涙にむせぶ、むせびなき㋥おそる（懼）

【歉泣】キキウ　むせびなく、すゝりなき。

【歉獻】キキヨ　すゝりなくこと

欬　アイ

漁夫の歌、又船歌をうたひあふ聲

【欬乃】アイタイアイナイ　船うたの聲。

八畫

欹　イ

イよる（椅）かたよる、かたむく、依倚する㋺そばだつ、そびえたつ

【欹危】イキ　傾きて危きさま。

【欹側】イソク　かたむく、なゝめになる。

【欹斜】イシヤ　なゝめになる。

【欹壁】イヘキ　けはしき岩のきりぎし。

欺　キ

イあざむく、いつはる、うそ、いつはり、だます㋺自ら己れの心を昧くすること

【欺罔】キマウ　だましゝひる、欺誣。

【欺冒】キバウ　いつはり、あざむく。

【欺負】キフ　あざむきそむく、欺騙。

【欺訛】キクワ　あざむく、たぶらかす。

【欺惑】キワク　あざむきまどはす。

【欺紿】キタイ　いつはる、あざむく。

【欺詐】キサ　あざむきいつはる。

【欺誣】キフ　欺罔に同じ。

【欺誑】キキヤウ　あざむきたぶらかす。

【欺詔】キテン　あざむきへつらふ。

【欺誕】キタン　いつはり、うそ、ほら。

【欺蔽】キヘイ　たぶらかしかくす。

【欺謾】キマン　あざむきあなどる。

【欺騙】キヘン　あざむきかたる。

類語

詐欺サギ　誕欺ギン　信欺シン　誣欺ブギ
調欺テウギ　詆欺ギイ　自欺ジギ　謾欺マンギ

欻　クツ

イおこる（起）氣が發し起る、風が吹きおこる㋺うごく（動）㋩たちまち（忽）にはか㋥かすか（幽）

欽　キン

イつゝしむ（敬）おそれ敬ふ㋺思ひ望む貌、したふ（慕）又そのさま㋩天子に關する事物に冠する語㋥鐘の聲の節あること㋭うらやむ（羨）

【欽仰】キンカウ　うらやみあふぐ。

【欽命】キンメイ　天子よりの御使、敕使。

【欽尙】キンシヤウ　うやまひたつとぶ。

【欽定】キンテイ　詔に基きて定まりたると、天子の御きめ。

【欽念】キンネン　つゝしみ思ふ、敬思。

【欽若】キンジヤク　つゝしみ從ふ。

【欽差】キンサ　敕命を以つてさしつかはされたる使者。

【欽挹】キンイウ　敬ひてへりくだる。

【欽崇】キンシユウ　敬ひ尊ぶ。

【欽敕】キンチヨク　天子の御言葉、みことのり、詔勅。

【欽々】キンキン　㋺思ひのぞむ、思ひしたふ㋺鐘聲の調子あるさま。

【欽羨】キンセン　したひうらやむ。

【欽慕】キンボ　その人となりをしたふと。

【欽舞】キンブ　大に喜ぶさま。

【欽賜】キンシ　天子より賜ふもの、恩賜。

【欽鴟】キンシ　鳥の名、みさご。

【欽愛】キンアイ　おもひしたふこと。

【欽天曆】キンテンレキ　支那五代の時のこよみ

【欽明文思】キンメイブンシ　堯帝の仁德を賞したる語。

款　クワン

イまこと（誠）まごゝろ、よしみ、眞情㋺たゝく（叩）門をたゝきて通行を求むる義㋩いたる（至）とゞまる（留）㋥こまやか、委曲、委細㋭きざむ（刻）金石に文字をきざむ、款は陰字にて凹入せしむるもの、轉じて印形㋬むなし（空）あな（穴）あく、すく、うつろ㋣ひろし（闊）㋠ゆるやか（緩）ゆるし㋡約束又は帳簿等の條書

【款冬】クワントウ　野草の一、ふき。

【款曲】クワンキョク ㋑打とけて交はる㋺いろいろの事のいりくむさま、又その事。
【款言】クワンゲン ねなしごと、そらごと。
【款伏】クワンフク 自白して罪に伏す。
【款東】クワントウ ふき、款冬。
【款刻】クワンコク 石などに字を刻み誌す。
【款狎】クワンカフ よしみを通じてなれ親しむこと、近づき親しむと。
【款服】クワンフク 眞心をもつて從ふ。
【款凍】クワントウ 款冬に同じ。
【款晤】クワンゴ よろこびうちとける。
【款接】クワンセツ 丁寧に應接すること。
【款待】クワンタイ よくもてなすこと、優待。
【款然】クワンゼン うちとけて交はるさま。
【款誠】クワンセイ まごゝろ、忠實。
【款々】クワンクワン ㋑忠實なるさま㋺緩やかなる貌。
【款話】クワンワ 親しく語る。
【款語】クワンゴ 前に同じ。
【款署】クワンショ 書畫等に落款を記す。
【款識】クワンシキ 銘、金石に彫刻した文字では陰文（凹刻）を款、陽文（凸刻即ちうきぼり）を識といふ。
【款懷】クワンクワイ 忠實なる考へ、まめな心。
【款冬花】クワントウクワ 枇杷の花の一名。
【款々風】クワンクワンフウ 緩く吹く風。
【款々愚】クワンクワンノグ 己の眞心の謙稱。
【款項目】クワンカウモク 大別と中別と細別の區別をいふ。

調讀

【款を通ず】通レ款 くわんをつうず 他國と懇意に交はること、又內通する。
【款を納る】納レ款 くわんをいる 前に同じ。

類語

談款 タンクワン　忠款 チユウクワン　愿款 ゲンクワン　誠款 セイクワン
丹款 タンクワン　衷款 チユウクワン　游款 イウクワン　交款 カウクワン
舊款 キウクワン　篆款 テンクワン　懇款 コンクワン

〔歆〕 カン

㋑あきたらぬさま、不滿足のさま㋺あな、坎に同じ
【歆然】カンゼン 意に滿たざるさま、あきたらぬ貌。

〔歇〕 サツ セツ

九畫

すゝる（啜）吸ひ飲む、又盟約の時に犧牲の血をすゝること

〔歌〕 キン

㋑うく、神靈の驗あること、神が供物を受けたまふ意、祭事が神意にかなふ㋺ごちさうになる㋩うごく（動）㋥うらやむ（欣羨）㋭むさぼる（貪）
【歌羨】キンセン うらやむ。
【歌嘗】キンシヤウ 神に物を供してまつる。

〔歇〕 ケツ カツ アツ

㋑やむ（息）㋺つく（竭）もる（泄）もらす㋩はなづらの短かき犬㋥人の名
【歇後】ケツゴ 成語の一、一つの成語の上語を取りて後語を略し全體の意味を持たせる語法。
【歇息】ケツソク やすむ、休息す。
【歇欵】ケツクツ かすかに遠きさま。

類語

休歇 キウケツ　耗歇 カウケツ　消歇 セウケツ　凋歇 テウケツ
零歇 レイケツ　衰歇 スヰケツ　憩歇 ケイケツ

十畫

〔歉〕 ケン カン

㋑あきたらず、不足におもふ、不足に思ひうらむ㋺すくなし（少）㋩うらみて口に出さゞること㋥むさぼる（貪）㋭ついばむ（喙）穀物が十分に實らぬこと
【歉歉】ケンケイ 穀物がきゝん、實らずして疲弊すること、凶年で困る。
【歉然】ケンゼン 心中の不滿なるさま、不滿足、不滿。
【歉歲】ケンサイ 凶年、きゝん年。

〔歌〕 カ

㋑のぼる、氣上りて出づる貌㋺氣盛んなる貌㋩熱き氣㋥かまびすし（囂）

㋑聲に節をつけてとなへる、うたふ㋺曲を樂に合せてうたふこと、うたへるやうに述べる、うたにつくる、又そのもの㋩詩に對して日本のうたをいふ㋥うたふゝしまはし、曲節㋭歌ふやうに作りし文詞㋬樂鐘の名㋣國訓うた（和歌）やまとうた
【歌人】カジン うたよみ、和歌の作者。
【歌女】カヂヨ ㋑みゝずの異名㋺歌妓。
【歌仙】カセン 和歌の名人。
【歌曲】カキヨク うたのふし、歌謠の音譜。
【歌笑】カセウ うたひわらふ、たのしみ興ずるさま。
【歌唱】カシヤウ うたをうたふ。
【歌抃】カベン うたをうたひ拍子をとりて手をたゝくこと。
【歌妓】カギ うたひめ、歌女。
【歌集】カシフ 和歌を多く集めたる書物。
【歌板】カハン 歌の拍子を取る板。
【歌書】カシヨ 和歌を記したる本。
【歌童】カドウ うたを歌ふ子供。
【歌呼】カコ 大聲にて歌をうたふ。
【歌媛】カエン うたひめ、歌妓。
【歌會】カクワイ 和歌をつくるよりあひ。
【歌詩】カシ 和歌と漢詩、詩歌。
【歌道】カダウ 歌をつくる法式。
【歌嘔】カオウ 歌をうたふ。
【歌頌】カシヨウ 功績等をほめたゝへる歌。
【歌榜】カバウ 歌を歌ひながら船をこぐ。
【歌聖】カセイ うたのひじり、和歌の名人。
【歌舞】カブ うたとまひ。
【歌樣】カヤウ 歌の法式、又うたひぶり。
【歌稿】カカウ うたのしたがき。
【歌篇】カヘン うた、うたことば。
【歌學】カガク 和歌のがくもん。
【歌僮】カドウ 藝妓、うたひめ。
【歌樓】カロウ 藝妓などの居る家、妓樓。
【歌謠】カエウ うた、うたふ、うたひ。
【歌謳】カオウ 前に同じ。
【歌劇】カゲキ うたを本として仕組みし芝居、オペラ。
【歌戲】カギ うたひ興ずること、又其遊び。
【歌口】ウタグチ ㋑歌のよみぶり、又歌を詠むことの巧みなること㋺笛などの穴の口に當て吹く所。
【歌合】ウタアハセ 歌人が左右に分れ方式を立てゝ其詠みたる和歌を合せ優劣を定めること。
【歌枕】ウタマクラ ㋑國々の名ある所㋺歌によみ入るべき名所。
【歌垣】ウタガキ 昔男女相集りて歌をよみかはし又はうたを歌ひし遊。
【歌袋】ウタブクロ 歌の草稿などを入れて置くふくろ。
【歌姫】ウタヒメ 歌をうたふことを業とする女、げいしや。
【歌吹海】カスヰカイ 歌をうたひ笛などをふき遊ぶところ、遊興の場所。
【歌舞伎】カブキ ㋑歌舞の藝㋺慶長年間にはじめて出雲の國にて演じたる舞曲、今の芝居。

類語

樞歌タク　高歌カウ　樵歌セウ　踏歌タフ
村歌ソン　聲歌セイカ　好歌カウ　嬌歌ケウカ
詩歌シカ　徵歌ビカ　榜歌バウカ　名歌メイカ
俗歌ゾクカ　妍歌ケンカ　戎歌ジウカ　宸歌シンカ
情歌ジヤウカ　狂歌キヤウカ　鄕歌キヤウカ　逸歌イツカ
樓歌バンカ　牧歌ボクカ　舊歌キウカ　舞歌ブカ
途歌トカ　和歌ワカ　宴歌エンカ　放歌ハウカ
奏歌ソウカ　短歌タンカ　優歌イウカ　吟歌ギンカ
哀歌アイカ　唱歌シヤウカ　漁歌ギヨカ　頌歌ショウカ

十一畫

歎 タン

❶なげく、なげき、うめく（吟）ためいきをつく❷感心してほむ（稱美）又そのことハたすけうたふ（歌の終りの辭を曳きて助くること）❸いきどほる（慷慨）❹いたみ悲しむ

【歎伏】タンブク　感じて從ふ、成程と思ふ。
【歎服】タンブク　前に同じ。
【歎恨】タンコン　うらみなげく。
【歎美】タンビ　感心してほめる、歎譽。
【歎息】タンソク　❶歎いてためいきをつく❷ふかく感心するさま。
【歎惋】タンワン　なげきいかる。
【歎悼】タンタウ　いたみかなしむ。
【歎異】タンイ　感心してめづらしく思ふさま、珍らしく思ひて感心す。
【歎訴】タンソ　事情を述べて願ふ。
【歎傷】タンシヤウ　なげきいたむ、憂へ思ふ。
【歎感】タンカン　ふかく心に感ずるさま。
【歎嗟】タンサ　いたみなげくこと、歎慨。
【歎稱】タンシヤウ　ほめる、歎譽。
【歎賞】タンシヤウ　歎美に同じ。
【歎慨】タンガイ　なげきいきどほる。
【歎聲】タンセイ　ためいき、うめき。
【歎願】タングワン　事情をうち明けてなげき願ふ。
【歎譽】タンヨ　感心して稱美すること。
【歎願書】タングワンショ　なげきて助けをねがふ書面。

類語

感歎カン　嗟歎サタン　永歎エイタン　悲歎ヒタン
哀歎アイタン　憂歎イウタン　譽歎ヨタン　詠歎エイタン
褒歎ハウタン　仰歎ギヤウタン　歌歎カタン　欣歎キンタン
憤歎フンタン　稱歎シヤウタン　長歎チヤウタン　敬歎ケイタン
怨歎エンタン　驚歎キヤウタン　嘉歎カタン　懊歎アウタン
哭歎コクタン　賞歎シヤウタン　吟歎ギンタン　泣歎キフタン
悅歎ワンタン　沈歎チンタン　悶歎モンタン　愁歎シウタン
讚歎サンタン　深歎シンタン　浩歎カウタン

歐 オウ

❶はく（嘔）あげる、もどす、口から出す、へどをつく❷毆に通ず、うつ（擊）杖でうつハ謳に同じ、うたふ❸罪人を刑する刀、くびきりがたな❹歐羅巴の略、西、外國

【歐刀】オウタウ　罪人の首を斬る刀。
【歐文】オウブン　西洋文字。
【歐化】オウクワ　西洋の風物に感化すること。
【歐吐】オウト　もどす、はく、へどつく。
【歐打】オウダ　たゝく、なぐる。
【歐米】オウベイ　歐羅巴と阿米利加の二洲。
【歐亞】オウノ　歐羅巴と亞細亞の二洲。
【歐泄】オウセツ　歐吐に同じ。
【歐洲】オウシウ　歐羅巴洲、西洋。
【歐逆】オウギヤク　歐吐に同じ。
【歐冶子】オウヤシ　古代支那の名劍の名。

十二畫

歉 キヨ

なく、すゝりなく、むせびなく、涙にむせぶ

【歔泣】キヨキフ　すゝりなき、咽びなく。
【歔欷】キヨキ　前に同じ。

歔 嘘に同じ

歔 歎の本字

歙 キフ

❶すふ（吸）氣を體内にすひこむ❷あふあはす（翕）あつまる、一つにす❸おびやかす（脅）❹おそる（懼）❺をさむ、とりこむ、收斂す❻鼻口をちゞめる、息をひそめる

【歙然】キフゼン　物事の一致するさま。

十三—十八畫

歟 カン

❶ほっす（欲）❷あたふ（与）

歟 ヨ

か、や（與に同じ）疑問、推測、不定などの意味をあらはす助辭、語氣のゆるやかなる場合に用ふ

歠 セツ

のみものを吸ふ、すゝる、すふ、すひのむ

歡 クワン

❶よろこび、たのしみ（喜樂）❷したしみ（親）❸よろこぶ、たのしむ

【歡心】クワンシン　喜ぶ心、うれしく思ふこころ。
【歡伯】クワンパク　酒の異名。
【歡呀】クワンガ　歎に同じ。
【歡呼】クワンコ　よろこびて大聲を發す（例）歡呼の聲をあぐ。
【歡迎】クワンゲイ　よろこびむかへる。
【歡待】クワンタイ　悅びて厚くもてなす、心持ちよくあしらふこと。
【歡和】クワンワ　たのしみやはらぐ。
【歡泰】クワンタイ　たのしみて安らかなり。
【歡故】クワンコ　親しみよろこぶ事柄。
【歡康】クワンカウ　よろこびたのしむ。
【歡娛】クワンゴ　よろこびたのしむ。
【歡宴】クワンエン　愉快なるさかもり。
【歡涼】クワンソク　よろこびたのしむ。
【歡喜】クワンキ　甚だしくよろこぶ、大悅、欣喜。
【歡榮】クワンエイ　よろこびとさかえ。
【歡楚】クワンソ　よろこびとかなしみ、悲喜、喜憂。
【歡會】クワンクワイ　心打ち解けてたのしむ、寄りあふこと、又そのよりあひ。
【歡適】クワンテキ　心うれしく滿足する說。
【歡遊】クワンイウ　よろこびあそぶ。
【歡愉】クワンユ　よろこぶ、たのしむ。
【歡愜】クワンケフ　歡適に同じ。
【歡樂】クワンラク　歡娛に同じ。
【歡諧】クワンカイ　よろこびやはらぐ。
【歡謔】クワンギヤク　男女の狎れ戲れること。
【歡騰】クワントウ　喜びてをどりあがる。
【歡鬱】クワンエフ　喜びて出るゑくぼ。
【歡喜天】クワンギテン　人に幸福と平和を與へるといふ神、歡喜佛。
【歡未再】ヨロコビハフタタビセズ　快樂を盡くすべき時節の二度となき意、好機の逸すべからざるをいふ。
【歡天喜地】クワンテンキチ　をどり上りて大いに喜ぶさま。

止部

〔止〕シ

㋑とゞまる(留)たちどまる、とまる、ふみとまる、又とめる、禁止する、くひとめる、遮る㋺安堵して居る、住み居る㋩動かぬ、靜まる、心を落つけて居る㋥やむ、やすむ(息)又やめる、爲さぬ㋭う(獲)とりこむべえらる、とりこになる㋬すがた、容儀㋮わづかに、たゞり意味なき助辭として用ふ

【止水】シスイ 流れぬ水、たまり水。

【止戈】シクワ ほこをとゞむ、戰爭をやめる義。

【止艮】シゴン とまる、とゞまる。

【止戾】シレイ とゞまる。

【止泊】シハク とまる、とめる。

【止留】シリウ 滯らせてとめおく。

【止息】シソク とゞまり休む、又やめる。

【止宿】シシユク とまる、やどる。

【止遏】シアツ さへぎりとゞむ、停まる。

【止頓】シトン 軍隊が一つ所に留り居ると

【止蹕】シヒツ 王者が一時車を停めると。

【止觀】シクワン 妄念を押へて物の眞相を觀じさとる。

【止湯計】シカフノケイ 方便のはかりごと。

類語

呵止カシ 休止キウシ 憩止ケイシ 栖止セイシ
住止ヂユウシ 遲止シシ 居止キヨシ 息止ソクシ
遮止シヤシ 儀止ギシ 中止チユウシ 制止セイシ
諫止カンシ 閑止カンシ 退止タイシ 依止イシ
永止エイシ 終止シユウシ 戾止レイシ 仰止ギヤウシ

一畫

〔正〕セイ シヤウ

㋑たゞし、まつすぐである、きちんとして居る、又そのこと、たゞす、たゞしくす、正直にす、きちやうめんにする、まつすぐにする㋺そなはる(備)たる(足)㋩役人のかしら、をさ(長)又官の名㋥つね(常)なみ㋭さだむ(定)きめる(決)罪をさだむ、是非をきはめ定むへなほし(直)よこしまでない事㋬たひらにたゞす(平實)㋮物を以て憑據となすことりをさめさばく㋯あらかじめ期すること、あてにす、豫期す㋰賢くすぐれたる人、先哲㋱政と通ず、まつりごと㋲室の明るき方に向ふ處㋳まなか、的の中央、又ほんもの、表向のもの㋴支那の曆學上歲暮の標準となるもの㋵たゞしく、まさに、たゞ、まさしく、たしかに、ちやうど㋶位階を甲乙に分ち甲の稱㋷或數に加はりてふへる性質の數㋸順當である、適當して居る

【正人】セイジン 正しき人、善人。

【正大】セイダイ 正しくして大なるさま。

【正中】セイチユウ まなか、まんなか。

【正文】セイブン 註解・附記等に對し本文をいふ。

【正士】セイシ 德のたゞしき人、正義の士。

【正内】セイナイ ㋑家に在りて婦人たる道を守ること㋺路寢を掌る官の名。

【正平】セイヘイ 當を得ておだやかなる貌。

【正出】セイシユツ 本妻の腹より生れし意。

【正本】セイホン 副本・謄本に對しもとの文書、原本。

【正旦】セイタン 正月元日の朝。

【正名】セイメイ 大義名分を明らかにす。

【正立】セイリツ たゞしくまつすぐに立つ。

【正史】セイシ ㋑記事の正確なる歷史㋺傳說・稗史等に對して正式の歷史。

【正妃】セイヒ ㋑本妻、正妻㋺君主・皇族の

奥がた。

【正札】セイサツ 商品の掛値なき價の札。

【正百】セイヒヤク 數多の者をして惡を爲さざらしむ。

【正字】セイジ 字畫の正しき文字、本字。

【正式】セイシキ たゞしき仕方、本式。

【正邪】セイジヤ たゞしきと然らざること、又よこしまなる心をたゞす。

【正攻】セイコウ 眞正面より攻立てること。

【正否】セイヒ 正しきとと然らざると。

【正位】セイキ たゞしき位、正當の位置。

【正客】セイキヤク おもなる客、主賓。

【正色】セイシヨク ㋑顏色を嚴正にする、まじめになる㋺純粹なる色。

【正妻】セイサイ ほんさい、正室。

【正忌】セイキ 死亡せし時に當る年月日。

【正系】セイケイ 正統の血すぢ。

【正見】セイケン 佛法のさとり、邪見の對。

【正言】セイゲン はゞからず直言す。

【正命】セイメイ 天命、正當なる壽命。

【正室】セイシツ ㋑本妻㋺嫡子、そうりやう。

【正服】セイフク 儀式の時の衣服。

【正法】セイハフ 正當なる方法、のり、みち。

【正直】セイチヨク シヤウヂキ 邪ならずして正しきこと心がまつすぐであること。

【正軌】セイキ 正しき法規、正規。

【正格】セイカク ㋑一定のかたにはまる動詞の活用㋺正當なる仕方。

【正書】セイシヨ 書體の一、楷書。

【正門】セイモン おもてもん。

【正計】セイケイ たゞしきはかりごと。

【正氣】セイキ ㋑至公至大なる天地の根源㋺正しき氣性㋩忠孝の心㋥氣がたしかであること、ほんき。

【正朔】セイサク 正は年の始め、朔は月の初め、轉じて曆。

【正副】セイフク 正と副、本來のものとそへのもの、又正本と副本。

【正員】セイヰン 實際に資格ある人員。

【正貨】セイクワ 紙幣に對して金銀貨等の硬貨をいふ。

【正眼】セイガン 劍術にて相手の眼を目標として刀を構ふる仕方。

【正晝】セイチウ まひる、正午。

【正統】セイトウ シヤウトウ ㋑正しき血統㋺天子の御血すぢ。

【正黑】セイコク まつくろ、純黑。

【正眞】セイシン まこと、眞實。

【正閏】セイジユン ㋑平年と閏年㋺もとからあるべきものと餘計なもの。

【正衙】セイガ 唐の宣政殿の稱。

【正裝】セイサウ 正服を著用せし裝ひ。

【正陽】セイヤウ ㋑陰曆正月㋺まひる、正午。

【正會】セイクワイ 正月元日に朝廷に參內すること。

【正意】セイイ まことの心、たゞしき心。

【正道】セイダウ 人のふむべき正しき道。

【正殿】セイデン 儀式を行ふ表御殿。

【正業】セイゲフ 正しきわざ、眞面目な家業。

【正僞】セイギ ほんとうとうそ、本物とにせ物、たゞしいといつはり。

【正誤】セイゴ あやまりたる事をたゞす。

【正確】セイカク たしか、確實。

【正價】セイカ 本當のねだん、正札。

【正德】セイトク 人道にかなひたる善き德。

【正義】セイギ たゞしきすぢみち、善良の道義。

【正路】セイロ たゞしきみち、人の公然と歩く可き道。

【正經】セイケイ まじめ、正當。

【正當】セイタウ 理の當然、あたりまへ、さうあるべきこと。

【正寢】セイシン 表座敷、正殿。

【正數】セイスウ 加へる時に數價をます數、卽ち普通の整數・分數、負數の對。

【正營】セイエイ 不安にして落つかぬさま。

【正論】セイロン 正しき議論。

【正臘】セイラフ 冬至後第三の戌の日の祭。

【正聲】セイセイ ㊀たゞしきこゑ ㊁聲調をたゞしくすること。
【正鵠】セイコク セイカウ 弓のまと、ねらひどころ、中心點。
【正續】セイゾク 正篇と續篇。
【正議】セイギ たゞしきはかりごと。
【正體】セイタイ シヤウタイ ㊀たゞしきさま ㊁心身が常の狀態にあること。
【正寢】セイシヤウ おもてざしき。
【正午】シヤウゴ 晝の十二時、まひる。
【正月】シヤウグワツ セイゲツ ㊀年の一月 ㊁正陽、四月。
【正米】シヤウマイ 現物にて取引する米。
【正味】シヤウミ 實際の用に立つ部分、なかみ、又なかみだけのめかた。
【正見】シヤウケン 佛法のさとり。
【正面】シヤウメン まむき、まとも。
【正風】シヤウフウ 芭蕉の始めし俳諧の流派
【正金】シヤウキン 現金、なま、正貨。
【正覺】シヤウガク 佛法のさとりを開くこと。
【正方形】セイハウケイ 平方形、ましかく。
【正反對】セイハンタイ 全くちがふさま、うらはら、あべこべ。
【正交點】セイカウテン 月が南半球より北半球に移るとき通過する交點。
【正氣歌】セイキノウタ 宋の文天祥がつくりし忠君愛國のうた、我國の藤田東湖・吉田松陰等も之に類したる詩を作れり。
【正蒙レ難】セイナンヲカウムル 正道を守りながら災害をうけること。
【正覺坊】シヤウガクバウ 海龜の異名。
【正親司】ヲホギミノツカサ 古皇族諸王の名籍の事を掌りし役所。
【正々堂々】セイセイダウダウ 正面より明らかに事を行ふさま。
【正式裁判】セイシキサイバン 警官の即決に對し訴訟法によりて行ふ裁判。
【正則打荷】セイソクウチニ 船舶が航行中暴風雨に逢ひし時その危難を避けるために積荷を海中に投ずること。
【正貨準備】セイクワジユンビ 兌換紙幣をいつでも引換へる爲に正貨を用意すること。
【正當防禦】セイタウバウギヨ 國法の力を借る邊のなき時腕力を以て己を害せんとする者を防ぎ破る行爲。
【正當防衛】セイタウバウエイ 前に同じ。
【正金銀行】シヤウキンギンカウ 普通銀行の營業外に特に外國爲替・外國荷爲替及び貨幣の交換等を營業とし專ら正金の取引をなす銀行。
【正々之旗堂々之陣】セイセイノハタダウダウノヂン 公明正大なる行爲、正々堂々の行動。

訓讀

【正朔を奉ず】奉二正朔一 せいさくをほうず 帝王の定めし曆を奉ずる意にして新帝即位の時その臣民となること。

類語

夏正カセイ　繩正ジヨウセイ　鑑正ケイセイ　貞正テイセイ
守正シユセイ　幹正カンセイ　矯正ケウセイ　中正チユウセイ
董正トウセイ　勁正ケイセイ　農正ノウセイ　經正ケイセイ
方正ハウセイ　是正ゼシセイ　端正タンセイ　糾正キウセイ
齊正セイセイ　忠正チユウセイ　切正セツセイ　規正キセイ
諫正カンセイ　順正ジユンセイ　改正カイセイ　公正コウセイ
考正カウセイ　準正ジユンセイ　修正シウセイ　化正クワセイ
雅正ガセイ　沈正チンセイ　判正ハンセイ　辯正ベンセイ

二一三畫

〔此〕 シ

㊀こ、これ、この（彼に對する語）㊁ここ、このところ（最も近き場所、又は物）㊂こなた、こちら ㊃こゝに、そこで ㊄かくべとゞまる（止）
【此君】シクン 竹の異名。
【此方】コナタ こちら、こちらのはう。
【此處】ココ このところ、自分の居るところ。

〔歩〕 ホ フ

㊀あゆむ、あるく、足を運ばせてゆく、かちあるき、あゆみ、又そのこと ㊁あし（足）足のはこび、ひとあし、又足にて度る尺度（二足あるくだけをいふ）又土地丈量の尺度（六尺或は六尺四寸など時代によりて差あり）曲尺六尺四方 ㊂あゆます、あるかせる、ひきゆく ㊃てごしにて行く（輦行）㊄しづかに行く（徐行）㊅おほまたにあゆむ（濶行）㊆みぎは（水際）はとば、ふなつき（埠）わたしば ㊇徒にて鼓を擊つこと ㊈ならはす ㊉さかづきをめぐらす（歩爵）㊊酬に同じ、救害をなす神 ㊋機運、めぐりあはせ、運命 ㊌わりあひ（率）又口錢 ㊍位につく ㊎天文をはかる、又そのこと
【歩士】ホシ かちの兵、歩兵。
【歩水】ホスキ 河川を徒歩にてわたる。
【歩行】ホカウ かちで歩む、かちあるき。
【歩々】ホホ ひとあしごと、又歩みながら。
【歩走】ホソウ かちではしる。
【歩兵】ホヘイ 歩士に同じ。
【歩武】ホブ ㊀六尺を歩と爲し半歩を武とす、わづかのへだゝり ㊁あるきぶり、あゆみ。
【歩卒】ホソツ 歩士に同じ。
【歩往】ホワウ あゆみて行く。
【歩哨】ホセウ 見張番の歩兵。
【歩毬】ホキウ 蹴鞠、けまり、まりけり。
【歩搖】ホエウ 婦人の髮かざり。
【歩渉】ホセフ 陸をゆくことと水を渡ること。
【歩道】ホダウ 人のあるく道路。
【歩廊】ホラウ わたどの、えんがは。
【歩調】ホテウ あしなみ、あしどり。
【歩輦】ホレン 人の歩行してひく車、手ぐるま。
【歩障】ホシヤウ ㊀竹を立て幕を張りて屏障とせるもの ㊁昔婦人の外出の時顏にかぶりし物。
【歩曆】ホレキ 天文をはかる術。
【歩戰】ホセン 歩卒で戰ふ、歩兵の戰爭。
【歩趨】ホスウ こまたに行くことゝ大またにて歩くこと。
【歩環】ホクワン あゆむとき調子を取るために帶ぶ飾り玉。
【歩驟】ホシウ 歩むことと走ること。
【歩騎】ホキ 歩兵と騎兵。
【歩合】ブアヒ 割合、比率。
【歩板】フユミイタ 根切の上又は足代などに渡しかけたる板。
【歩屈蟲】ホクツチウ 蟲の名、しやくとり蟲。
【歩挽車】ホバンシヤ 歩輦に同じ。

類語

考歩カウホ　卻歩キヤクホ　仙歩センポ　蓮歩レンポ
放歩ハウホ　寸歩スンポ　登歩トウホ　傍歩フホ
巧歩カウホ　徒歩トホ　推歩スヰホ　天歩テンポ
國歩コクホ　安歩アンホ　虎歩コホ　微歩ビホ
逸歩シンポ　咫歩シホ　輕歩ケイホ　飛歩ヒホ
潤歩クワツポ　閑歩カンホ　玉歩ギヨクホ　蹋歩キヨクホ
寒歩ケンホ　遠歩エンホ　行歩カウホ　疾歩シツポ
坦歩タンポ　促歩ソクホ　捷歩セフホ　健歩ケンホ
遊歩イウホ　水歩スヰホ　船歩センポ

四畫

〔武〕 ブ ム

㊀たけし（健）つよし、いきほひ（威）いきほひつよし ㊁謀法の一 ㊂周の武王のつくりし樂の名 ㊃あと（迹）あしあと、つぐ（繼）㊄（冠卷）又冠の名 ㊅長さの名、一歩（六尺）の半分 ㊆玉に似たる石 ㊇無と通ず ㊈いくさ、又戰鬪の術、兵事軍事及兵軍に關せる人、又つよき人 ㊉周の名君武王の稱、又その作になる音樂

【武人】ブジン いくさびと、武士。
【武士】ブシ 武人、ものゝふ、つはもの。
【武力】ブリョク 戰ふちから、兵の威力、戰鬪力。
【武夫】ブフ ㊀武人又は武士㊁玉に次ぐほどの美石。
【武火】ブクワ いきほひ盛んなる火。
【武功】ブコウ たけきいさを、戰事に關して樹てしいさを。
【武弁】ブベン 武官の冠、轉じて武人のこと。
【武伎】ブギ 武術、武藝。
【武名】ブメイ 武術のほまれ。
【武刑】ブケイ 武をもつて罪をたゞすこと征伐すること。
【武技】ブギ 武伎に同じ。
【武考】ブカウ 軍事上の試驗。
【武臣】ブシン 武道をもつて仕へるけらい
【武克】ブコク 武力を以て勝つ。
【武具】ブグ いくさ道具、よろひかぶと。
【武戚】ブキ 武力に同じ。
【武官】ブクワン 文官の對、武事に關する官吏、又陸海軍の將校。
【武勇】ブユウ たけくいさまし。
【武門】ブモン 武士の家がら。
【武庫】ブコ 武器を入れ置く藏、轉じて博學多識の者を賞していふ。
【武士道教育】ブシダウケウイク 騎士的教育に同じ、我國では日本魂を鼓吹する教育。
【武裝的平和】ブサウテキヘイワ 裏面にては武備を嚴にしながら表面のみを裝ふ平和。

訓讀

【武を偃す】偃レ武ニ(ヲ)ス 天下太平のさまにいふ語。

類語

豪武ガウブ 英武エイブ 雋武シュンブ 烈武レツブ
神武シンブ 靈武レイブ 聖武セイブ 偃武エンブ
威武イブ 剛武ガウブ 勇武ユウブ 壯武サウブ
驍武ゲウブ 雄武ユウブ 健武ケンブ 毅武キブ
廉武レンブ 材武ザイブ 顯武ケンブ

〔歧〕キギ

㊀むつゆび(跂に同じ)足の指の普通より多きこと、又その者㊁ふたまたみち、又えだみち㊂また、ふたまた(岐)麥などの一つの莖より多くの穗を出すにいふ㊃飛び行く貌
【歧々】キキ 飛び行くさま。
【歧路】キロ えだみち、わかれみち、ふたまたみち。

〔歪〕ワイ

ゆがむ、ひずむ、まつすぐでない、たゞしくない

〔峙〕チヂ

㊀ためらふ、たちもとほる、しりごみする㊁そなふ、たくはへる

九畫

〔歲〕セイ サイ

㊀とし、(地球の一公轉の間)一箇年、一年㊁みのる(穀物の成熟すること)よきみのり、豐年㊂よはひ(年齡)又年齡を示す語㊃つきひ(光陰)日月のすぐること㊄とし〻〻㊅星の名、木星、歲星㊆時節、時候、又新年
【歲入】サイニフ 一年間の收入。
【歲月】サイゲツ 年とつき、つきひ。
【歲旦】サイタン 年のはじめの朝、歲辰。

【武処】ブコク 武力を以て打かつこと。
【武烈】ブレツ 戰場のてがら、戰功。
【武家】ブケ 武士の家柄、又武士。
【武猛】ブマウ たけ〻〻し。
【武數】ブクフ 武士道のをしへ。
【武經】ブケイ 兵法の書物。
【武運】ブウン ㊀武道の運氣㊁戰爭の勝敗。
【武將】ブシヨウ 武人のかしら、戰陣の大將。
【武道】ブダウ ㊀武士道㊁兵事に關する事柄、ぶへん。
【武裝】ブサウ いくさのしたく、戰爭のそなへ。
【武略】ブリヤク 兵略、いくさのてだて。
【武備】ブビ いくさのそなへ、戰爭の準備。
【武術】ブジユツ 武伎に同じ。
【武幹】ブカン 武勇のわざ、武術の腕前。
【武器】ブキ いくさ道具、武具。
【武德】ブトク 武威を以て人を服せしむる德、武道の威光。
【武學】ブガク 軍事教育、武士の學問。
【武術】ブエイ たけきまもり、强き護衛。
【武勳】ブクン 戰爭によるいさをし。
【武强】ブキヨウ 猛くしてつよし。
【武辨】ブベン 武事に關する事柄。
【武戲】ブギ 武術に關する遊戲。
【武斷】ブダン 武力を以ておさへつけ事を取りきめる。
【武獸】ブジウ 馬の異名。
【武羅】ブラ 神の名、山の神。
【武邊】ブヘン 武道の事がら。
【武職】ブシヨク 軍事のつかさ。
【武藝】ブゲイ たけきわざ、武技。
【武鑑】ブカン 大・小名の姓名・紋章・知行及臣屬の姓名等を載せたるもの。
【武晃】ムベン 武弁に同じ。
【武者】ムシヤ 武士、武人。
【武士道】ブシダウ 武士の日常守るべき道。
【武家窓】ブケマド 武者窓に同じ。
【武德殿】ブトクデン 天皇の騎射競馬などを見給ふ御殿、柔劍道を競ふ晴の場所。
【武者所】ムシヤドコロ 御所では瀧口、院の御所では下北面の武士の詰所、又其武士。
【武者振】ムシヤブリ 武士の甲冑をつけた姿
武者のはたらきぶり、武人の態度。
【武者窓】ムシヤマド 舊幕時代に表側の長家に設けたる竪格子付の窓。
【武士氣質】ブシカタギ 武人のきだて。
【武陵桃源】ブリヤウトウゲン 支那の仙境の名。
【武者修行】ブシヤシユギヤウ 武士が諸國を巡りて武術を練習すること。
【武裝解除】ブサウカイヂヨ 武備をとりのけていくさをせぬやうにすること。

【歲用】サイヨウ 一年間の經費。
【歲出】サイシユツ 一箇年に出す金の高。
【歲末】サイマツ 年のくれ、せつき。
【歲次】サイジ 木星のやどり、一年間に一次を行き十二年にて天を一周す。
【歲有】サイイウ みのりよきこと、豐年。
【歲刑】サイケイ 曆の上にて八將神の一。
【歲成】サイセイ 一年間の總計算。
【歲在】サイザイ 歲次に同じ。
【歲尾】サイビ としのくれ、歲末。
【歲杪】サイセウ 陰曆十二月、しはす。
【歲首】サイシユ 年のはじめ、年頭。
【歲計】サイケイ 會計年度間に於ける一年間の收支計算。
【歲除】サイジヨ おほつもごり、除夜。
【歲星】サイセイ 五星中の一、木星。
【歲時】サイジ ㊀四季のをり〻〻㊁とき、時間。
【歲差】サイサ 春分點が年々五十秒づゝ黃道を逆行するため春分の時期が年ごとに少しづゝ進む度の名。
【歲晏】サイアン 年の暮。
【歲陰】サイイン えと、十二支。
【歲終】サイシウ 歲末に同じ。
【歲破】サイハ 八將神の一、水神。
【歲陽】サイヤウ えと、十干。

【歳登】サイトウ 五穀のよきみのり、豐作。
【歳神】サイシン 武士道の神。
【歳倍】サイバイ 年々に增し加はる意。
【歳費】サイヒ ㋑衆議院議員が一年に受ける手當㋺一年間の入費。
【歳莫】サイバク 歳晩に同じ。
【歳朝】サイチウ 歳旦に同じ。
【歳華】サイクワ としつき、光陰。
【歳德】サイトク その年一年の間有德の方位に居るといふ神。
【歳晩】サイバン としのくれ。
【歳暮】サイボ ㋑歳末㋺年末の贈物。
【歳幣】サイヘイ 年毎にきめて贈る金品。
【歳餘】サイヨ 一年あまり。
【歳時記】サイジキ 一年中の行事を季節に應じてしるしたるもの。
【歳寒之三友】サイカンノサンイウ ㋑冬時友としてめづべきもの三つ即ち松・竹・梅㋺山水・松竹・琴酒。
【歳寒松柏】サイカンノシヤウパク 松柏の嚴寒に堪へることを君子の逆境に處して節を變ぜざるにたとへていふ。
【歳々年々】サイサイネンネン としゝ、毎年。
【歳之初吉】トシノショキツ 一月元旦のこと。

類語 嘉歳サイ 末歳サイ 暮歳サイ 時歳ジイ 登歳トウ 故歳コイ 去歳キヨ 豐歳ホウ 荒歳クワウ 連歳レン 初歳シヨ 守歳シユ 萬歳バン 往歳ワウ 富歳フウ 凶歳キヨウ 太歳タイ 寧歳ネイ 累歳ルイ 弱歳ジヤク 歴歳レキ 迎歳ゲイ 宿歳シユク 首歳シユ 發歳ハツ 來歳ライ 比歳ヒイ 嚢歳ノウ 周歳シウ 儉歳ケン 小歳セウ 善歳ゼン

十二畫

【歴】レキ リヤク

㋑すぐ(過)すごす、ふ(經)わたる、すぎゆく(行)時日を經過す、通りすぎる、場所を經過す㋺ついづ(次)順々に傳へる、次順に及ぼす㋩つくす(盡)ことどとく、あまねく㋥こゆ(超)こす(越)こえる、飛びこす㋭まばら(疎)へまじる、まじふ(錯)くみかはす㋬みだる(亂)又そのさま㋣歴々は行列の貌りあきらか(明)又そのさま㋠ならぶさま㋷としかた(經過したる事柄)㋮こよみ(曆)

【歴日】レキジツ としつき、又こよみ。
【歴世】レキセイ だい〳〵、よゝ。
【歴仕】レキシ 代がはりの君主に引つゞき仕へること。
【歴代】レキダイ 歴世に同じ。
【歴史】レキシ ㋑こしかた、來歴㋺世の變遷を書きしるしたる書物。
【歴年】レキネン 年を經ること、だい〳〵、世々の年。
【歴巡】レキジユン 所々を巡りあるく。
【歴階】レキカイ 段ごとに踏み登ること。
【歴渉】レキセフ まはりめぐる。
【歴問】レキモン いち〳〵とひ訪ねる。
【歴訪】レキハウ おちなくたづねる、人をたづねまはる。
【歴亂】レキラン 花のみだれ咲くさま。
【歴朝】レキテウ 歴代に同じ、代々の天皇。
【歴々】レキレキ ㋑あきらかなるさま㋺物の行儀よくならぶさま㋩身分ある人々。
【歴遊】レキイウ 諸所を遊びまはる。
【歴歳】レキサイ 年を過ぎ去る、又過ぎ來れる年。
【歴覽】レキラン ひとつ〳〵見ること。

類語 閲歴エツ 覽歴ラン 探歴タン 資歴シキ 綿歴メン 累歴ルイ 來歴ライ 典歴テン

清歴セイ 勤歴キン 變歴ヘン 横歴ワウ 辟歴ヘキ 經歴ケイ 周歴シウ 履歴リ 踐歴セン 遊歴イウ

十四畫

【歸】キ

㋑かへる(還)いる(入)かへす(反)もどす、もどる(戻)もと通りにす、もとの方にかへる、返卻す、取りし物を返還す㋺おくる(餽)贈り與へる㋩よる(依)つく(附)㋥とつぐ(嫁)よめに行く㋭まかす、ゆだぬ(委)他の所爲にまかすへくみす(與)ゆるす(許)㋬あふ(合)㋣をはる(終)をはり、おもむく所、又落つく所㋠おもむく(指趣)なづく㋷いたる、外よりいたること㋮をさむ(藏)㋡したがふ(服)㋢珠算に於て一桁の法にて割ること

【歸一】キイツ 歸著する所の同じきこと、同じ所におちつく。
【歸土】キド 土にかへる、人の死をいふ。
【歸化】キクワ 本國の籍を脱して他國の籍に編入してその臣民となること。
【歸心】キシン 家鄉等に歸ることを望む心
【歸田】キデン 官を辭して故鄉にかへる。
【歸伏】キフク 歸順して降る。
【歸任】キニン 官吏が任地に歸り來ると。
【歸向】キカウ 心をよせてなづく。
【歸帆】キハン 歸り來る帆かけぶね。
【歸沐】キモク 官吏が休暇を得て家にかへること。
【歸忌】キキ 陰陽術の上にて遠く行くことをいむ日。
【歸妹】キマイ 易の卦の名。
【歸依】キエ 佛を信仰すること。
【歸命】キメイ キミヤウ ㋑なづき從ふ、歸順㋺佛の教にしたがふ。
【歸來】キライ かへり來る。
【歸臥】キグワ 隱居すること。
【歸思】キシ 歸心に同じ。
【歸服】キフク 身を寄せ從ふ。
【歸洛】キラク みやこにかへる。
【歸首】キシユ 降服すること。
【歸俗】キゾク 一旦僧となりし者が再び俗人となること。
【歸省】キセイ 故鄉に歸つて父母の安否をたづねる。
【歸耕】キカウ 歸田に同じ。
【歸航】キカウ 船にて歸る、歸り來る船。
【歸寂】キジヤク 僧侶の死をいふ。
【歸降】キカウ きたり從ふ、歸伏。
【歸參】キサン 暇を取りし者が再び元の主人のもとにかへり仕へること。
【歸國】キコク 自分の國元にかへる。
【歸途】キト かへり道、もどりのみち。
【歸雁】キガン かへり行く雁。
【歸宿】キシユク 議論意見などの主要なる點に到達すること。
【歸第】キテイ 官をやめて私家に歸る。
【歸程】キテイ かへりのみちすぢ。
【歸朝】キテウ 外國に行きし者がその本國にかへること。
【歸期】キキ かへるとき、歸りのほど。
【歸順】キジユン なづきて來り從ふ。
【歸禽】キキン ねぐらに歸り行く鳥。
【歸農】キノウ 百姓になり農業を營む。
【歸裝】キサウ 歸りの支度。
【歸著】キチヤク ㋑主要なる所に達す㋺かへりつく。
【歸嫁】キカ よめに行く、とつぐ。
【歸路】キロ かへりみち。
【歸寧】キネイ 寧は父母の安否を見舞ふこと、嫁のさとがへり。
【歸趨】キスウ 方向、おもむき。
【歸鴉】キア 集にかへるからす。

【歸還】キクワン　元の所にかへる。
【歸藏】キザウ　殷代のうらなひの名。
【歸懷】キクワイ　從ひなづく。
【歸屬】キゾク　相續人なき財産が國家の所有となるが如く自然又は當然に或者の所有となること。
【歸休兵】キキウヘイ　定期の現役を終らずして特に家に歸ることを許されたる兵士。
【歸納法】キナフハフ　個々の事實より一般的の規則原理を組立てる仕方。
【歸去來】キキョライ　かへりさる、歸らうよさあといふ意、かへりなんいざと讀む。
【歸命頂禮】キミヤウチヤウライ　命を神佛に歸して禮拜する意。

類語

三歸サン　姉歸シキ　旋歸セン　逸歸イツ
凱歸ガイ　脫歸ダツ　當歸タウ　復歸フク
一レ歸ニスキライツ　同レ歸ジクスキフオナ

歹部

〔歹〕ガツ

肉をけづり取りし後の骨

一—二畫

〔歩〕 歹に同じ

〔朽〕 キウ　くつ（朽）くさる

〔死〕 シ

㋑しぬ、生命竭く、息がたえる、生氣つきる、命をとられる、殺される、活動がやむ、始めてしぬ、新たに死ぬ㋺しなす、しなせる㋩庶人の死（崩・薨・卒等の對）㋥しにものぐるひ、命をなげだす㋭命に拘はる、危險の甚しきさま㋬かれる（枯）ほろぶ（亡）ころす（殺）

死

【死人】シニン　死したる人、しびと。
【死力】シリヨク　死物狂の力、あるだけの力。
【死亡】シバウ　いのちたゆ、しにうせる。
【死士】シシ　命をなげだしてつくす人。
【死友】シイウ　㋑死亡せる友だち㋺死ぬまで心の變らぬ友達。
【死子】シシ　㋑死せし子㋺蕣のあげいし。
【死火】シクワ　きえたる火。
【死水】シスキ　たまりみづ、止水。
【死去】シキヨ　しんでゆく、しぬ。
【死句】シク　詩歌文章の意味淺く人を感動せしむるに足らざる句。
【死生】シセイ　死ぬることゝ生きること、死活。
【死守】シシユ　いのちがけにて守る。
【死刑】シケイ　命をたつ刑、死罪。
【死灰】シクワイ　火の氣のない灰。
【死地】シチ　死ぬべき場所、危き所。
【死肌】シキ　くされたゞれたる肉。
【死交】シカウ　死ぬまで變らぬ固き交り。
【死別】シベツ　しにわかれ。
【死歿】シボツ　死去に同じ。
【死法】シハフ　實地に役立たぬ法則。
【死後】シゴ　死したるあと、歿後。
【死物】シブツ　生命なき物、活動せぬ物。
【死命】シメイ　死ぬことにきまつた命。
【死所】シシヨ　死ぬべき適當の所、又死せし所。
【死活】シクワツ　死と生、死ぬるか生きるか休止するか活動するか。
【死屍】シシ　しがい、したい。
【死相】シサウ　死にさうな顏つき。
【死期】シキ　今や死なんとする時、いまはのきは、末期。

【死草】シサウ　かれたる草。
【死敗】シハイ　しにほろぶ。
【死罪】シザイ　㋑死刑にあたるつみ㋺上奏する時恐惶の意を表はす語。
【死傷】シシヤウ　死者と負傷者、死することと傷をおふこと。
【死節】シセツ　操のために命をすてること。
【死語】シゴ　實際に用をなさぬ語。
【死境】シキヤウ　せつぱ詰りて免れ難き所、極めて危險なる所。
【死骸】シガイ　死屍に同じ。
【死魄】シハク　陰曆朔日の異稱。
【死學】シガク　活用せぬ學問、役に立たぬ學問。
【死黨】シタウ　力の限りをつくして徒黨を結ぶ、又その黨類。
【死難】シナン　國家の難事に當りて死すること。
【死證】シシヨウ　役にたゝぬ證據。
【死體】シタイ　死屍に同じ。
【死靈】シリヤウ　死者のたましひ、死人のをんりやう。
【死火山】シクワザン　現在噴火せぬ火山。
【死靈說】シリヤウセツ　死人の靈魂を長れて崇拜することを以て宗教の起原なりとするスペンサーの說。

死

【死之五等】シノゴトウ　身分に依つて異なる死の呼稱五等（天子は崩・諸侯は薨・大夫は卒・士は不祿・庶人は死）。
【死中求レ生】シチユウセイヲモトム　窮境にありて尙ほ挽回の策をめぐらすこと、卽ち死地に陷りて活路を見出す。
【死且不レ朽】シストモカツクチズ　死んで後も尙ほ名は後世に殘る意。
【死生有レ命】シセイノイアリ　死ぬるも生きるも天命にして人力の及ばざるをいふ。
【死灰復燃】シクワイマタモユ　勢を失ひし者が再び熾んになるに喩ふ。
【死而後已】シシテノチヤム　生ある限り努力し死してはじめてやめる。
【死或重二於泰山一】シアルヒハタイザンヨリオモシ　時によつて人の生命の甚だ貴重なることをいひし語。

訓讀

【死を必す】必レ死シにをひつす　死を覺悟してかゝる。
【死を決す】決レ死シにをけつす　前に同じ。
【死を賜ふ】賜レ死シにたまフ　臣下が君主より切腹を命ぜらるゝこと。
【死屍に鞭つ】鞭二死屍一ししにむちうつ　死體をうちて生前のうらみをはらす。
【死を生かし骨に肉す】生レ死肉レ骨しにいきかしほねにくす　大恩を蒙むる意。
【死を視る歸するが若し】視レ死若レ歸しにをみるかへるがごとし　死ぬることをあだかも我家にかへる如くたやすく思ふ意。

類語

夭死エウ　生死セイ　決死ケツ　必死ヒツ
殊死シユ　病死ビヤウ　敗死ハイ　戰死セン
慘死ザン　餓死ガ　頓死トン　縊死イ
半死ハン　轢死レキ　壓死アツ　從死ジユウ
焚死フン　燒死セウ　水死スキ　殉死ジユン

四—五畫

〔歿〕 ボツ　フン　沒の古字

㋑しす（歿）㋺ほろぶ（亡）古文の沒の字㋩くびはぬ（刎）

【歿後】ボツゴ　死後。
【歿落】ボツラク　死す、みまかる、ほろぶ。

〔殀〕 エウ

㋑わかじに（夭）短折㋺ころす、きりこ

ろす（斷殺）

【殀折】エウセツ わかじに、夭逝。

【殀壽】エウジユ 短命と長壽。

【殂】ソ

祖に作る、㋑ゆく（往）しぬ（死）死んでゆく㋺王者の死をいふ、後世には正統外の天子にいふ

【殂落】ソラク 王者の死すること。

【殃】アウ

㋑わざはひ（禍）わざはひす㋺とがめ（咎）天の罰、神明のとがめ㋩つみ（罪）㋥ばつす（罰）㋭やぶる（敗）そこなふ、不幸にする

【殃厄】アウヤク さいなん、わざはひ。

【殃咎】アウキウ わざはひ、あやまち。

【殃禍】アウクワ 殃厄に同じ。

【殃慶】アウケイ わざはひとよろこび。

【殃戮】アウリク 禍にかゝり殺さるゝこと。

【殃及二池魚一】ワザハヒチギヨニオヨブ 思はぬ災難にあふ、そばづゑをくふこと。

【殄】テン

㋑つく、つくす（盡）たつ、たゆ（經）なくす、滅しつくす㋺やむ（病）やまず

【殄滅】テンメツ ほろぼしつくす、絶滅。

【殄瘁】テンスイ 病み疲れて亡ぶ。

【殄戮】テンリク ころしつくす。

【殄殲】テンセン 絶滅に同じ。

類語

戮殄 カンテン　淪殄 リンテン　暴殄 バウテン

消殄 セウテン　誅殄 チユウテン　擺殄 サイテン　澀殄 イシテン

撲殄 ボクテン　蠹殄 トテン　凌殄 リヨウテン　破殄 ハテン

【殆】タイ

㋑あやふし（危）あぶないさま、又そのこと、不安心、危險㋺ちかづく（近）ちかし㋩おほかた、ほとんど、多分、今すこし、十中の八九、すんでのこと

六畫

【殉】ジユン

㋑したがふ、死者の後を追つて死ぬこと、從死、又其の人㋺一身を捨てゝ或事のためにつくすこと

【殉死】ジユンシ 主君の死に際し臣下がその後を追ひて自殺すること。

【殉國】ジユンコク 殉難に同じ。

【殉教】ジユンケウ 宗教の爲めに一身をさゝげること。

【殉道】ジユンダウ 正義のために命を落す。

【殉難】ジユンナン 國家の急難を救はんとして命を捨てること。

【殊】シユ

㋑ころす（誅）しす（死）㋺さだむ（定）きめる、決す、決心す㋩たつ（絶）たやしつくす㋥ことに、とりわけて㋭きずつく傷つきて未だ死せざるさま㋬わかつ（別）ことなり（異）ことにす㋣すぐ（過）

【殊力】シユリヨク すぐれたる力、すぐれたるはたらき。

【殊方】シユハウ ㋑違つた仕方㋺別の所。

【殊功】シユコウ すぐれたるいさを。

【殊好】シユカウ 極めてよし、又甚だすぐれたること。

【殊刑】シユケイ 特別に重きしおき。

【殊死】シユシ ㋑命がけでかゝる、決死の覺悟にてなす㋺死刑にきまつたもの。

【殊位】シユキ 特別に尊きくらゐ。

【殊技】シユギ 他にすぐれたるわざ。

【殊妙】シユメウ すぐれてたへなること。

【殊服】シユフク 異なる衣服を著る者、外國人。

【殊狀】シユジヤウ めづらしき形。

【殊怪】シユクワイ 不思議、奇異、奇怪。

【殊品】シユヒン 違ひたる類の物、異品。

【殊俗】シユゾク ㋑ちがつた風俗の國、他國、外國㋺風俗のちがふこと。

【殊恩】シユオン 特別のなさけ、大なる惠み。

【殊珍】シユチン すぐれたるたから、珍寶。

【殊致】シユチ おもむきを異にす、ちがつたおもむき。

【殊特】シユトク まるきり異つて居ること、殊異。

【殊效】シユカウ ㋑特別なるてがら㋺特別なるきゝめ。

【殊能】シユノウ 特別にすぐしはたらき。

【殊荒】シユクワウ 遠方のゑびす。

【殊域】シユキ 外國、異域、遐域。

【殊族】シユゾク 血族の異なる者。

【殊常】シユジヤウ 優れまさること。

【殊異】シユイ ことなる意、又特別。

【殊渥】シユアク 特別にあつきこと。

【殊眷】シユケン 特別なる恩顧。

【殊滋】シユジ とりわけて味のよきこと。

【殊勝】シユシヨウ ㋑別段にすぐれて居ること㋺けなげ、神妙。

【殊絕】シユゼツ ㋑他にすぐれる㋺ほろぶ。

【殊遇】シユグウ 特別なる取扱ひ、非常に手あつき待遇。

【殊越】シユエツ 特に他にすぐれる。

【殊裔】シユエイ 遠方の國、邊國。

【殊號】シユガウ 特別なる名目。

【殊境】シユキヤウ 殊域に同じ。

【殊操】シユサウ すぐれたるみさを。

【殊稱】シユシヨウ よき名稱。

【殊奬】シユシヨウ ㋑鄭重にもてなすこと㋺特別に引き立てること。

【殊選】シユセン 特別に選擇すること。

【殊勳】シユクン 特に秀でたるてがら、非常なるてがら。

【殊績】シユセキ 非常にすぐれたるいさを。

【殊轍】シユテツ 車の進む道の異なること、轉じて方法の異なる意。

【殊類】シユルヰ 異なりたるたぐひ、異類。

【殊寵】シユチヨウ 殊恩に同じ。

【殊鬪】シユトウ 死物狂ひに奮戰すること。

【殊塗同歸】シユトドウキ 行く道は異なるも歸する所の同じきこと。

類語

優殊 イウシユ　詭殊 キシユ　卓殊 タクシユ　魁殊 クワイシユ

七—八畫

【殍】ヘウ フ

うゑじに（莩に同じ）餓死、餓死する者

【殍餓】ヘウガ 餓死すること。

【殖】ショク

㋑うゑる（種）植物をうゑつける、はやす（生）㋺ふえる、子孫が生れる、財貨に利息が生ずる、物の數が多くなる、又ふやす㋩しげる（蕃）繁昌する、隆盛になる㋥そだつ（長）㋭たつ（立）㋬平らかなるさま

【殖民】ショクミン 植民に作る、內國の人民を國外の遠地又は未開の土地に移し住ませること、又其人民。

【殖利】ショクリ かねまうけ。

【殖財】ショクザイ 財產をふやす、金をためる、富を作る。

【殖產】ショクサン ㋑殖財に同じ㋺生產物をふやすこと。

【殖貨】ショククワ 殖財に同じ。

【殖々】ショクショク 平らかなるさま。
【殖穀】ショクコク 穀類を植ゑふやす。

類語
耕殖 カウショク　學殖 ガクショク　貨殖 クワショク　封殖 ホウショク
蒔殖 ハシショク　繁殖 ハンショク　滋殖 ジショク　生殖 セイショク
豊殖 ホウショク　播殖 ハンショク　富殖 フウショク

【殘】 サン ザン

㋑そこなふ(賊)しへたげる、殺しきづゝける、やぶる(壞)こぼつ、ほろぼす、ふむ(踐)㋺そこなはる㋩多く殺傷すること、又はなちおふ(放逐)ころす(殺)㋥くひのこり(食餘)のこり、のこる、のこす、あまり、あまる、あます㋭無慈悲なる者、惡人㋬かく(缺)㋣あしざまにのゝしる(惡罵)そしる、讒言す㋠置り存す、遺置す、又置め置く

【殘日】ザンジツ ㋑夕日、夕陽、殘陽㋺殘りの日數。
【殘月】ザンゲツ ありあけづき、夜明けがたの月。
【殘冬】ザントウ 冬の末の頃。
【殘兒】ザンキヨウ 生き殘れる惡者。
【殘年】ザンネン 生きながらふべき年、餘命。
【殘存】ザンゾン のこつてゐる。
【殘更】ザンコウ 夜ふけ、深更。
【殘念】ザンネン ㋑思ひが殘る、未練㋺口惜しいこと。
【殘兵】ザンペイ 生きのこつた兵。
【殘花】ザンクワ ちり殘りの花。
【殘夜】ザンヤ しのゝめ、よあけがた。
【殘氓】ザンバウ ほろびずに殘つて居る民。
【殘春】ザンシユン のこりの春、春の末つ方。
【殘恨】ザンコン のこるうらみ。
【殘秋】ザンシウ 秋のすゑつ方。
【殘忍】ザンニン むごたらし、不人情。
【殘虐】ザンギヤク しへたげそこなふ。
【殘英】ザンエイ 殘花に同じ。
【殘苛】ザンカ むごたらし、同情心なし。
【殘星】ザンセイ あけ方の星。
【殘害】ザンガイ むごくそこなひ殺す。
【殘夏】ザンカ 夏の末の頃。
【殘徒】ザンシト のこりのともがら。
【殘凍】ザントウ 谷間の氷が未だ解け殘る義にて、春の末。
【殘梅】ザンバイ おくれざきの梅。
【殘病】ザンビヤウ 病氣にて不具となること。
【殘部】ザンブ のこりの部分。
【殘高】ザンダカ のこりの數量又は金額。
【殘殺】ザンサツ むごくころす。
【殘缺】ザンケツ かけてなくなること。
【殘息】ザンソク 殘りのいのち、生き永らへたるいのち。
【殘猛】ザンマウ きびし、むごたらし。
【殘留】ザンリウ のこりとゞまる。
【殘葩】ザンパ 殘花に同じ。
【殘雪】ザンセツ 春のゆき、のこりのゆき。
【殘掠】ザンリヤク そこなひかすむ、殺傷して强奪す。
【殘程】ザンテイ 行くべき殘りの里程。
【殘穀】ザンカク 食ひのこしたさかな。
【殘陽】ザンヤウ 沒せむとする日、夕日。
【殘尊】ザンソン 飲みのこしたさかだる。
【殘喘】ザンゼン 絶えんとして未だ殘つて居る氣息、死にかゝつたいのち。
【殘寒】ザンカン 春になつてからの寒さ、餘寒。
【殘業】ザンゲフ しのこりの仕事、又夜業。
【殘剽】ザンヘウ 人をおびやかして害を加ふること。
【殘毀】ザンキ そこなひやぶる。
【殘暑】ザンショ 殘りのあつさ。
【殘滅】ザンメツ 害ひ亡ぼす。
【殘暉】ザンキ 夕日の光り、殘照。
【殘賊】ザンゾク ㋑殘害㋺人道を亂す者㋩のこりの惡黨。
【殘夢】ザンム のこりの夢、見はてぬ夢。

【殘傷】ザンシヤウ 殘賊に同じ。
【殘照】ザンセウ 夕日、夕やけ。
【殘桂】ザンガフ 殘尊に同じ。
【殘樽】ザンソン 前に同じ。
【殘酷】ザンコク むごたらしきこと。
【殘戮】ザンリク むごたらしく殺す。
【殘蟬】ザンセン 秋の末つ方の蟬。
【殘燈】ザントウ 消え殘りたる燈火。
【殘餘】ザンヨ のこり、あまり、又其物。
【殘曙】ザンショ 夜の全く明けきらぬこと。
【殘鶯】ザンウ 春すぎてなく鶯、老鶯。
【殘墟】ザンキヨ のこつてゐる、昔のあと。
【殘黨】ザンタウ のこつて居るともがら。
【殘瀝】ザンレキ のこりの酒。
【殘醜】ザンシウ 捕へ殘したる惡者。
【殘壞】ザンクワイ やぶれる、こはれる。
【殘礎】ザンソ 殘れるいしずゑ。
【殘蠹】ザントウ 書物などが損じること、又しみが食ふこと。
【殘額】ザンガク 差引して殘りたる金高。
【殘懷】ザンクワイ 思ひのこす、殘念。
【殘山剩水】ザンサンジヨウスイ 景色の眺望の小なるものをいふ。
【殘杯冷炙】ザンパイレイシヤ のみ殘りの酒と燒きざましのさかな、轉じて冷遇せられる意。
【殘頭落脚】ザントウラクキヤク 殘りもの、あまり物。
【殘編斷簡】ザンペンダンカン 書物のきれはし。

類語
膾殘 クワイザン　羊殘 ヤウザン　零殘 レイザン　侵殘 シンザン
荒殘 クワウザン　彫殘 テウザン　摧殘 サイザン

九—十畫

【殛】 キヨク

㋑つみす、刑罰にあてる、ころす(殺)罪をもつて殺す、せめころす(誅)㋺しす(死)㋩せめる、とがめる、又そのこと

【殞】 キン ウン

㋑みまかる(歿)㋺おつ(落)おとす、落下す、命をおとす、死ぬ
【殞石】キンセキ 天より落ち來る石。
【殞泣】キンキウ 涙を落して泣く、流涕。
【殞碎】キンサイ 死ぬ、命をおとす。
【殞殁】キンエイ たふれ死す。
【殞斃】キンペイ 仆れ死ぬ。

【殞】 シウ キウ

㋑あしきにほひ、腐つた氣、惡氣㋺くさし、臭ひがわるい
【殞氣】シウキ 惡しきにほひ。
【殞惡】シウアク 昧の惡いと、まづい。

十一—十二畫

【殫】 テイ

つかれくるしむ、困弊する

【殣】 キン

㋑うゑじに(餓死)又其者㋺路のほとりのつか、又うづむ(死骸をうづめる)

【殤】 シヤウ

㋑わかじに、夭死(未成年の死をいふ、十九歳以下十六歳以上を長殤、十五歳以下十二歳以上を中殤、十一歳以下八歳以上を下殤、七歳以下を無服之殤といふ)㋺喪法の一

【殪】 エイ

㋑しぬ(死)㋺しにたゆ(殄絶)㋩つく

（盡）㊁たふす、ころす、たふる（仆）㊂うづむ（埋）

【殪仆】エイフ　死ぬ、たふれ死す。

〔殫〕タン

㊀つく、つくす（盡）なくなる、取りつくす㊁きはまる

【殫亡】タンバウ　うせつきる。

【殫力】タンリヨク　力が盡きる。

【殫神】タンシン　思ひをつくす。

【殫殘】タンザン　ほろぼしつくす、殄滅。

【殫極】タンキヨク　つきはてる。

【殫滅】タイメツ　つき亡ぶ、亡ぼしつくす。

【殫盡】タンジン　次に同じ。

【殫竭】タンケツ　つくす、つきる。

十三—十七畫

〔殮〕レン　ロン

㊀死人に衣をきせる㊁死人を棺にをさめる、斂に同じ

〔殯〕ヒン

㊀かりもがり（屍を棺に入れ未だ埋めぬ間）かりもがりす（死者を棺に入れ祭る）㊁うづむ（埋沒）又使用せずして藏す

【殯宮】ヒンキウ　崩御せられた天子の御棺を葬送する迄安置する御殿。

【殯殿】ヒンデン　前に同じ。

〔殲〕セン

つく、つくす（盡）ほろぼしつくす、みなごろしにす、つきたえる

【殲撲】センボク　うちほろぼす、撲滅。

【殲滅】センメツ　みな殺にす、ねだやしす。

殳　部

〔殳〕シュ

㊀ほこ（周尺にて長さ一丈二尺の戈）又戈の如き兵器㊁戟の柄㊂書法の名㊃國訓るまた（漢字畫上の稱）

五—六畫

〔段〕タン　ダン

㊀きだ、きれめ、わかち、くぎり㊁てだて、手術㊂きは、際㊃こわけ（部分）くぎり、語りもの、一段㊄田畝を度る標準（歩の三百倍）㊅距離をはかる名（一丈の長さといひ又六間ともいふ）㊆技藝の優劣の等級㊇だん、だん〳〵、きざはし㊈たん、一人前の衣服とすべき布帛（鯨尺の二丈六尺）㊉布帛を一定の寸法にてたち切りしもの㊋書簡文の廉・件・次第等の意

【段丘】ダンキウ　河岸より起り段々と高くなれる平地。

【段別】タンベツ　㊀田畑を一反毎に區分する㊁土地のひろさ、地積。

【段落】ダンラク　文章中の切れ目、轉じて物事のくぎり、事件のをはり。

【段々】ダンダン　㊀きざはし㊁次第々々に。

【段階】ダンカイ　㊀前の㊀に同じ㊁位・品位・階級。

【段通】ダンツウ　麻などを原料とし羊毛を交へて織りたる敷物。

【段錢】ダンセン　足利時代の地租にて反別に應じて割りあてたる稅金。

〔殷〕

殷に同じ

〔殷〕イン　アン

㊀さかんなり、豐富盛大㊁なか（中）㊂たゞし（正）たゞす㊃おほいなり（大）㊄あたる（當）まん中になる㊅朝の名㊆ねんごろ（慇に通ず）㊇雷のとゞろく聲㊈もろ〳〵、又おほし（衆）うれへるさま㊉赤黑き色

【殷色】インショク　赤黑色、卽ち血色。

【殷足】インソク　豐かなること、裕福。

【殷昌】インシヤウ　榮えて盛んなること。

【殷序】インジヨ　殷時代の學校。

【殷阜】インブ　盛んなるさま、盛大。

【殷々】インイン　㊀憂へるさま㊁とゞろく聲の形容。

【殷紅】インコウ　黑ずんだ赤色。

【殷富】インプ　さかんにして富む、榮えて豐かなり。

【殷起】インキ　盛んにおこる。

【殷商】インシヤウ　支那古代の湯王の創めし王朝の名。

【殷盛】インセイ　甚だ盛大なるさま。

【殷雷】インライ　なりとゞろく雷。

【殷勤】インギン　ねんごろ、親切。

【殷軫】インシン　甚だにぎやかなるさま。

【殷樂】インラク　さかんに樂むこと。

【殷憂】インイウ　甚しくうれへること。

【殷實】インジツ　盛んに滿ち殖えること、物の豐かなること。

【殷賑】インシン　豐かに富みて榮えること。

【殷劇】インゲキ　盛んなること、繁忙なる貌。

【殷盤】インバン　殷の天子盤庚のことを記した文章、卽ち書經の盤庚篇。

【殷繁】インパン　さかんにして多し。

【殷熾】インシ　さかんなること、繁昌。

【殷懷】インクワイ　盛んなる思ひ、飛立つ思ひ

【殷曠】インクワウ　盛んにして久し。

【殷鑑】インカン　殷鑒に作る、他人の失敗を見て我身の戒めとなす義。

類語

朱殷シユイン　寧殷ネイイン　豐殷ホウイン　鈍殷ジユイン　彌殷ビイン

七畫

〔殺〕サツ　セツ　サイ

㊀ころす（戮）刃にてころす、命をたつ、死なせる㊁かつ（克）㊂う（獲）㊃死に同じ、又ほろぼす（亡）㊄なでる、拭ふ、消す、草をなぐ㊅からす（枯）かる㊆やぶる（敗）ちる（散）㊇そぐ、へらす、等級をへらす㊈毛羽の藏はるゝこと㊉くさる、くさらす㊋屍をつゝむ（其上なるを質といひ下なるを殺といふ）㊌とし、はやし（疾）はなはだ（太）はなはだし

【殺人】サツジン　人をころす、ひとごろし。

【殺下】サツカ　やせて頰のこけしさま。

【殺矢】サツシ　近距離を射るに用ゐる矢。

【殺生】サツシヤウ　セツシヤウ　十惡の一、生きものを殺すこと、轉じてむごたらしき所爲。

【殺伐】サツバツ　㊀ころすこと、殺害㊁あらあらしくきびし。

【殺到】サツタウ　はげしく押しよせる貌。

【殺青】サツセイ　竹を火にあぶつて青みを除き消すこと、昔まだ紙の無かつた時代竹の札を用ゐたもの、竹の札を豫め火に炙つて汗ばみ出る油を去り青みを除き文字を書き易からしめしことより轉じて文書の義に用ゐる。

【殺害】サツガイ　セツガイ　ころす、きりころす。

【殺傷】サツシヤウ　殺すことと傷をつけること。

【殺意】サツイ　人を殺さんとする心。

【殺戮】サツリク　殺す（戮は罪し殺すこと）。

【殺氣】サツキ　㊀殺伐の氣、又悽愴の氣㊁草木を凋落させる秋冬の寒氣。

【殺掠】サツリヤク　人をころし財物を奪ふ。
【殺略】サツリヤク　前に同じ。
【殺獲】サツクワク　殺すことゝ捕へること。
【殺人犯】サツジンハン　人ごろしの罪。
【殺風景】サツフウケイ　風雅なる風致を損すること、又その風趣。
【殺菌劑】サツキンザイ　病毒の微菌を殺す藥。
【殺身爲仁】ミヲコロシテジンヲナス　生命をすてて心の德を全うす。

類語

撲殺ボクサツ　格殺カクサツ　騷殺サウサツ　肅殺シユクサツ
踏殺タフサツ　誤殺ゴサツ　拘殺コウサツ　生殺セイサツ
强殺キヤウサツ　笞殺チサツ　流殺リウサツ　殘殺ザンサツ
掩殺エンサツ　斬殺ザンサツ　鎚殺ツイサツ　屠殺トサツ
鮮殺センサツ　族殺ゾクサツ　俘殺フサツ　響殺シヤウサツ
壓殺アツサツ　幽殺イウサツ　餓殺ガサツ　按殺アンサツ
構殺コウサツ　炙殺シヤサツ　杖殺ヂヤウサツ　襲殺シウサツ

八—九畫

〔殼〕カク　コク

イから（卵・貝類のから）ロ果實の厚き皮、物の表面をおほふ堅き外皮の總稱　ハうつ（打）たゝく、ぶつ

【殼族】カクゾク　かひがらの類、貝類。
【殼實】カクジツ　まこと、正直なること。

〔殺〕カウ

イまじはる、まじる、まじふ　ロみだる、みだす（亂）淆に同じ　ハさかな（肴）ニ神にそなへるいけにへのからだ（俎實）ホ肉つきの骨

【殺函】カウカン　支那の殺山と函谷關。
【殺核】カウカク　さかな、もりもの。
【殺雜】カウザツ　いりまじる、錯雜。
【殺亂】カウラン　みだれまじる貌。

〔殿〕テン　デン

イ堂の高く大なるもの、との、ごてん（後に天子の住居の稱）貴人の住居（後に神佛などの祠堂の稱）ロしんがり、又おさへ（軍後）退軍の時後に踏止まりて敵を防ぐ軍務、しんがりす　ハ功績の下等なるもの　ニしづむ（鎭）さだむ（定）ホうめく（呻吟）ヘうつ　ト國訓との（主人とせる貴人、城主、夫又は男子の稱呼）どの（敬意を表する語）

【殿下】デンカ　貴人の敬稱、又皇族の敬稱。
【殿上】デンジヤウ　イ殿中に同じ　ロ我國にては禁中の清涼殿と紫宸殿。
【殿中】デンチユウ　宮中、ごてんのうち。
【殿宇】デンウ　神佛を安置する所、お宮。
【殿舍】デンシヤ　ごてん、殿堂。
【殿守】デンシユ　將軍には天守、諸侯には殿守といふ、即ち天城の天守閣。
【殿軍】デングン　戰列の最後にある軍隊、おさへの軍隊、しんがりの軍。
【殿堂】デンダウ　イ貴人の住屋、殿宇　ロ神社佛閣の建物。
【殿後】デンゴ　イ下の下、最下等　ロ殿軍。
【殿陛】デンペイ　ごてんの階段。
【殿階】デンカイ　前に同じ。
【殿閣】デンカク　宮殿、ごてん。
【殿最】デンサイ　官吏が執務上の成績。
【殿戰】デンセン　後軍となりて戰ふこと。
【殿試】デンシ　天子親ら殿中にて行ふ准士の試驗。
【殿衙】デンガ　役所、官廳、官衙。
【殿騎】デンキ　しんがりの騎兵。
【殿御】トノゴ　婦人より男子を呼ぶ稱。
【殿樣】トノサマ　貴人又は主君の敬稱。
【殿儕】トノバラ　男子の敬稱。
【殿壓】トノゴモル　天子が寢につき給ふ敬語
【殿上之虎】デンジヤウノトラ　天子を直諫すること甚しき臣下。

類語

輕殿ケイデン　便殿ベンデン　佛殿ブツデン　正殿セイデン
宮殿キユウデン　內殿ナイデン　御殿ゴデン　寢殿シンデン
前殿ゼンデン　重殿チヨウデン　上殿ジヤウデン　昇殿シヨウデン
升殿シヨウデン　涼殿リヤウデン　玉殿ギヨクデン　禁殿キンデン
梵殿ボンデン　虛殿キヨデン　翠殿スイデン　錦殿キンデン
金殿キンデン　朱殿シユデン　寶殿ハウデン　高殿カウデン

〔毀〕キ

イかく（缺）やぶる、やぶれる、こぼつ（壞）こはす、こぼたる、破りそこなふ　ロそしる（譽）そしらる　ハさる（去）ニを（折）くじく　ホかなしみやせる　ヘ小兒の齒を去ること

【毀折】キセツ　やぶれくぢける。
【毀削】キサク　やぶりけづる、廢し去る。
【毀屋】キヲク　あばらや、破家。
【毀敗】キハイ　こぼちやぶる。
【毀梓】キシ　版木を破りこぼつ。
【毀敵】キヘイ　破りこぼつ。
【毀損】キソン　イこはれ損ず、やぶれいたむ　ロきずつける、ねうちをおとす。
【毀短】キタン　そしる、けなす、毀誘。
【毀詆】キテイ　前に同じ。
【毀訾】キシ　けなす、そしる。
【毀棄】キキ　こはしすてる、こはれすたる。
【毀頓】キトン　こぼちやぶる。
【毀墓】キボ　身體が痩せるほど戀ひ慕ふ。
【毀惡】キヲ　あしざまにそしる。
【毀齒】キシ　小兒の乳齒を拔くこと、又齒がぬけかはること。
【毀裂】キレツ　やぶりひきさく。
【毀碎】キサイ　こま〳〵に破り碎く。
【毀傷】キシヤウ　やぶりそこなふ、いためきづゝける。
【毀瘠】キセキ　悲しみて身體がやせる。
【毀誹】キヒ　そこなひそしる。
【毀廢】キハイ　そしり斥ける。
【毀壞】キクワイ　こぼちやぶる。
【毀誘】キバウ　毀短に同じ。
【毀譖】キシン　惡く言ひつげる、ざんげん。
【毀譽】キヨ　そしることゝ譽めること。
【毀譏】キギ　毀譖に同じ。
【毀譽褒貶】キヨハウヘン　そしることゝほめることを語辭を强めていふ語。

類語

憎毀ゾウキ　除毀ヂヨキ　排毀ハイキ　頹毀タイキ
銷毀セウキ　荒毀クワウキ　破毀ハキ　積毀セキキ
根毀コンキ　誓毀シキ　詆毀テイキ　謗毀バウキ

〔殽〕キ

【殽亂】ゼン　譖毀シン

十一—十五畫

〔毅〕キ

イつよし、たけし（剛）こはし、おもひきりよし、果斷である　ロみだりにいかる（妄怒）

【毅武】キブ　毅くしてたくまし。
【毅勇】キユウ　意志固くして物に動ぜぬ貌。
【毅然】キゼン　つよくたくましきさま。
【毅魄】キハク　英雄豪傑のたましひ。

〔毆〕オウ

うつ、たゝく、むちうつ

【毆打】オウダ　うつ、ぶつ、たゝく。
【毆殺】オウサツ　うちころす。
【毆擊】オウゲキ　毆打に同じ。
【毆打創傷】オウダサウシヤウ　身體を毆打して創傷せしむること。

【毋】 ブム

毋部

【毋】 ホウ ボモ

一畫

㋑禁止の辭、なかれ(勿)㋺なし(無)㋩母寧又は母乃と連用して反語とす

【母望之福】ブバウノフク 望むことなき幸福の義、思ひがけなきさいはひ。

【母】 ホウ ボモ

㋑はゝ、父の配、たらちね(己を生みたる女親)轉じて物を生ぜしめるもと㋺うば(乳母)㋩貪獸の牝㋥大小相連れるものゝ大を母といひ小を子といふ㋭もときん(元金)

【母子】ボシ 母とその子。

【母氏】ボシ はゝおや、女おや、はゝ。

【母兄】ボケイ 同じ母より生れし兄。

【母字】ボジ 漢字音韻法に於て二字が相合して新らしき一音を構成する時其上の字を父字といひ下の字を母字といふ。

【母弟】ボテイ 同じ母より生れし弟。

【母妹】ボマイ 同じ母より生れし妹。

【母校】ボカウ 自分の出身したる學校。

【母國】ボコク ㋑海外に居て其生國をいふ㋺分國よりその元の國をいふ。

【母音】ボイン 單純なる發音にして父韻と結合し子韻を發する音聲。

【母堂】ボダウ 他人の母を呼ぶ尊稱。

【母範】ボハン 人の母たる者のてほん。

【母道】ボダウ 人のはゝたるものゝ行ふべきみち、母としての道德。

【母憂】ボイウ はゝの喪。

【母儀】ボギ 母範に同じ。

【母錢】ボセン もとがね、元金。

【母韻】ボヰン 母音に同じ。

【母衣】ホロ ㋑馬上にて背に負ひ矢を防ぐ昔の武具㋺馬車・人力車などの雨よけのおほひ、幌。

【母代】ハハシロ 母に代つて子の後見となる人をいふ。

【母屋】オモヤ ㋑家屋中にて主たる室㋺主として住居に用ゐる家。

【母刀自】ハハトジ 一家の主婦を刀自といふより母上といふに同じ、又婦人の敬稱。

類語

家母カボ　後母コウボ　祖母ソボ　伯母ハクボ
叔母シュクボ　嫡母テキボ　生母セイボ　哲母テツボ
父母フボ　日母ニチボ　鬼母キボ　雲母ウンボ
水母スイボ　貝母バイボ　庶母シショボ　喜母キボ
養母ヤウボ　慈母ジボ　保母ホボ　世母セイボ
老母ラウボ　大母タイボ　假母カボ　王母ワウボ
賢母ケンボ　同母ドウボ　親母シンボ　出母シュツボ

三—九畫

【毎】 バイ マイ

㋑つね、つねに(常)㋺ごと、ごとに、そのつど、そのたび〳〵、おの〳〵(各)ものごとに㋩およそ(凡)㋥いへども(雖)㋭むさぼる(貪)㋬かず、かぞふ(數)㋮草の盛んに生ずる貌

【毎日】マイニチ にち〳〵、日ごと。

【毎月】マイゲツ つき〴〵、月ごと。

【毎戸】マイコ 家ごと、いへ〳〵。

【毎次】マイジ 其たび〴〵、其つど。

【毎回】マイクワイ たびごと、たび〴〵。

【毎々】マイマイ ㋑たび〴〵、しば〴〵、つね〴〵㋺草の盛んに生ずる貌。

【毎度】マイド いつも、其度ごとに、毎次。

【毎箇】マイコ 一つひとつ。

【毎宵】マイセウ 毎晩、毎夜。

【毒】 アイ

みだらなる行爲

【毒】 トク ドク

㋑どく(健康を害し命を危くするものの總稱)すべて物を害するもの㋺毒をのませる、又毒を物に混和す㋩あし(惡)そこなふ(害)そこなひ害す㋥いたむ(痛)くるしむ(苦)うらむ(恨)㋭藥の名(毒藥)㋬つかふ(役)㋮をさむ(治)㋯やしなふ、そだつ(育)

【毒刃】ドクジン 人を殺すやいば。

【毒手】ドクシュ 憎むべき惡だくみ、又兇手。

【毒水】ドクスキ 有毒なる水。

【毒矢】ドクヤ 鏃の先に毒を塗つた矢。

【毒牙】ドクガ 毒あるきば、毒蟲の牙。

【毒舌】ドクゼツ どくぢち。

【毒言】ドクゲン 人の信用を傷ける言葉。

【毒忌】ドクイミ 毒氣を忌み嫌ふこと。

【毒氣】ドクキ 生物の害となる氣、瘴氣。

【毒恥】ドクキ 毒あるまむし。

【毒害】ドクガイ ㋑毒藥を服せしめて殺すこと

【毒殺】ドクサツ いためそこなふ。

【毒酒】ドクシュ 毒藥をまぜたる酒。

【毒殺】ドクサツ 毒害の㋑に同じ。

【毒草】ドクサウ 毒となる草。

【毒消】ドクケシ ㋑身體の毒を化學的に消すと㋺解毒劑の俗稱。

【毒茫】ドクジン 木の名、大戟科落葉喬木の一、山ぎり、いぬぎり。

【毒液】ドクエキ 毒のあるしる。

【毒婦】ドクフ 人を迷はし人に害を加ふる心だての女、妖婦。

【毒蛇】ドクジャ 人命に害を加ふる蛇。

【毒惡】ドクアク 大いにあしきことにいふ。

【毒筆】ドクヒツ 人を傷つけそこなふ文章。

【毒暑】ドクショ 暑さの甚しきをいふ。

【毒箭】ドクセン 毒矢に同じ。

【毒蝮】ドクフク 有毒なるまむし。

【毒蟒】ドクマウ 有毒なる大蛇。

【毒熱】ドクネツ 毒暑に同じ。

【毒瘴】ドクシャウ 毒氣に同じ。

【毒試】ドクシ 食物に毒の混じたりや否やをなめこゝろむ、どくみ。

【毒蟲】ドクチュウ 有毒なる蟲類の總稱。

【毒藥】ドクヤク ㋑人身に害を及ぼす藥㋺中毒作用の極めてはげしきもの。

【毒霧】ドクム 毒氣あるきり。

【毒斷】ドクダチ 病に毒となる食物を制し又藥の効力を失ふ食物を避けること。

【毒蟲】ドクコ 人を病害するもの、毒蟲。

【毒瓦斯】ドクガス ㋑有毒の瓦斯體㋺歐洲大戰當時より戰爭に用ゐられ敵をなやます猛毒の瓦斯。

訓讀

【毒を以て毒を制す】以レ毒制レ毒どくをもつてどくをせいす 惡人を以て惡人をおさへつける、惡人を利用する意。

類語

烏毒ウドク　忍毒ニンドク　餘毒ヨドク
侵毒シンドク　茶毒トドク　酖毒チンドク　黴毒バイドク
戎毒ジュウドク　中毒チュウドク　鴆毒シンドク

【毓】 イク

育に同じ、そだつ、はぐゝむ、やしなふ

比部

【比】 ヒ

イくらべる、照し合す㋺ためし、先例㋩わりあひ、比率㋥ちかづく(近)したしむ(親)したがふ(從)㋭おもねる、へつらふ㋬周制にて五家一組の稱、轉じて鄉里、近鄰㋣ころ、ころおひ、又およぶ㋠しきりに、まい〳〵㋡このごろ、ちかごろ㋢ならぶ、つらなる、しらべる、對する㋣ならぶもの、つれあひ(配遇)㋤たぐひ(匹儔)くらべもの㋥人民の學德を試驗したる周代の制度㋦易の卦の名㋧詩の六義の一

【比日】ヒジツ　毎日、このごろ。

【比丘】ビク　佛に參じて法を乞ひ施主に就て食を乞ふ者、即ち僧侶。

【比々】ヒヒ　しば〳〵、しきりに。

【比年】ヒネン　まいとし、毎年。

【比方】ヒハウ　くらべる、比較。

【比余】ヒヨ　櫛の名、匈奴の用ゐしもの。

【比次】ヒジ　ついで、次第、順序。

【比行】ヒカウ　ならび歩く、並行。

【比和】ヒワ　なかよく交はる。

【比居】ヒキヨ　同居すること。

【比來】ヒライ　近來、このごろ、近頃。

【比例】ヒレイ　イ典例、ためし㋺前例になぞらへる㋩二數の割合が他の二數の割合に等しき關係。

【比伴】ヒバウ　くらべる、比較。

【比郡】ヒグン　接近せる郡部。

【比周】ヒシユウ　周は正しい道を以て交る、比はへつらひ交る、後世轉じて惡い方の意味となる。

【比附】ヒフ　つき從ふ。

【比肩】ヒケン　イ肩をならべる㋺並びゆく㋩對等の地位を保つ。

【比重】ヒヂユウ　或容積の物體の重量と同容積の攝氏四度の蒸餾水の重量との比。

【比校】ヒカウ　比較して考へる。

【比時】ヒジ　先の時、前の頃。

【比倫】ヒリン　比類に同じ。

【比部】ヒブ　魏より明初まで在りし官名にして詔書・律令の改正其他會計事務を取扱ひしもの。

【比較】ヒカク　くらぶる、比べ合して見る。

【比歲】ヒサイ　比年に同じ。

【比疎】ヒソ　比較にならぬ意。

【比境】ヒキヤウ　領地がならびつゞく、地つゞき。

【比喩】ヒユ　一事物を他事に比べ喩へる。

【比閭】ヒリヨ　周制にて比は五家、閭は二十五家、轉じて近所、又村ざと。

【比熱】ヒネツ　或る物質の溫度を攝氏の一度だけ高めるに要する熱量とこれと同質量の水の溫度を一度だけ高めるに要する熱量との割合。

【比翼】ヒヨク　イ衣服の仕立方の稱㋺比翼連理に同じ。

【比親】ヒシン　したしむ、ちかしくす。

【比連】ヒレン　相前後して續き絶えざる貌

【比隣】ヒリン　のきならび、きんじよ。

【比擬】ヒギ　くらべなぞらへる。

【比縣】ヒケン　接近せる縣、近縣。

【比類】ヒルイ　くらぶべきもの、たぐひ。

【比驗】ヒケン　くらべる。

【比黨】ヒタウ　互になかまを結ぶこと、又其やから。

【比目魚】ヒモクギヨ　ひらめ、かれひ等の總稱

【比丘尼】ビクニ　女僧、あま。

【比翼塚】ヒヨクヅカ　情死せる男女を同穴に葬りたる墓。

【比比皆然】ヒヒミナシカリ　何れも同じくその通りとの意。

【比肩接踵】ヒケンセフシヨウ　肩を並べて立ち跡より續き至ること、つぎ〳〵と續いて絶えぬさま。

【比翼連理】ヒヨクレンリ　比翼の鳥と連理の枝　比翼鳥は一鳥一翼の鳥で二鳥相並んで始めて兩翼をなして飛び、連理は兩木の枝が相接して癒合し木理を共通するもの、夫婦のちぎりの深きに譬ふ。

【比較心理學】ヒカクシンリガク　人の精神現象と他動物の精神現象或は各人種間の精神現象とを比較研究する學。

類語

高比カウ　儀比ギ　他比タ　倫比リン
校比カウ　邦比ハウ　案比アン　整比セイ
象比シヤウ　鱗比リン　櫛比シツ　排比ハイ
駢比ヘイ　疏比ソ　連比レン　無比ム

五畫

〔毖〕ヒ

イつゝしむ(愼)㋺いたはる、ねぎらふ(勞)つかる㋩泉の流れる貌

〔毗〕ヒ　ビ

イあきらか(明)㋺あつし(厚)㋩たすく(輔)補助す㋥あはす(併)㋭益す

【毗尼】ヒニ　持戒堅固の女僧。

【毗益】ヒエキ　助けて人の爲めになるやうにすること。

【毗倚】ヒイ　すがりつく、たよる。

【毗翼】ヒヨク　助ける、力を添へる。

【毗補】ヒホ　毗益に同じ。

【毗贊】ヒサン　毗翼に同じ。

【毗沙門】ビシヤモン　梵語にて福德四方に聞える意、四天王の一、多聞天のこと。

〔毘〕毗に同じ

【毘沙門天】ビシヤモンテン　四天王の一、武裝して東方を衛り財貨を掌るもの、我が國にては七福神の一。

毛部

〔毛〕マウ　モウ　モ　パウ

イけ(動物の表皮に生ずる細かきすぢ)㋺髭又は髮、又身の毛、轉じて極めて輕きもの、又些細なるもの㋩けもの、獸類の汎稱㋥犧牲の純白なるもの㋭くさ(草)又は桑麻五穀の屬、又草木がはえる㋬毛を去ること㋣竹の名(毛竹)㋠なし(無)㋡毛色の黑白により席次を定めること㋢國訓け(髮毛に似たるものの總稱)稻のみのり

【毛孔】マウコウ　毛の生ずる穴、けあな。

【毛布】マウフ　毛織もの、ケット、まうせん。

【毛衣】マウイ　けごろも。

【毛羽】マウウ　獸類の毛と鳥類の羽、又けものと鳥類。

【毛狗】マウク　狼の異名。

【毛刷】マウサツ　毛擦、ブラッシュ。

【毛莨】マウコン　毒草の一、きんぽうげ。

【毛物】マウブツ　けだもの、獸類。

【毛毬】マウキウ　いが、栗などのいが。

【毛起】マウキ　恐れてぞつとするさま。

【毛翎】マウレイ　鳥類のはね。

【毛毯】マウセン　毛氈に同じ。

【毛族】マウゾク　獸類、けだもの。

【毛桃】マウタウ　桃の一種、にがもゝ。

【毛毳】マウゼイ　鳥の柔かい毛。

【毛筆】マウヒツ　石筆・鉛筆等の對、獸の毛にて作りし筆。

【毛群】マウグン　獸類の群を云ふ。

【毛詩】マウシ　支那古代の詩、今の詩經の古書。

【毛銖】マウシユ　極めて少き分量。

【毛髮】マウハツ　かみのけ、かみ。

【毛錐】マウスヰ　筆の別名。

【毛嬙】マウシヤウ　支那古代の美人の名。

【毛穎】マウエイ　筆の異名。

【毛頭】マウトウ　すこしのこと、毛のさきほ

どのこと、いさゝか、みぢんも。
【毛擧】マウキヨ 毛のさき程の小罪迄も取り上げて罪すること。
【毛氈】マウセン ㋑鳥獸の毛が落ちて更に潤澤鮮好なるものゝ生えること ㋺毛と綿絲とをまじへてあらく織り又壓して作つた織物。
【毛鱗】マウリン 毛と鱗、獸類と魚類。
【毛蠹】マウト けむし。
【毛拔】ケヌキ 髮・鬚などを拔き取る具。
【毛細管】マウサイクワン ㋑血管の末端の細くなりたる管 ㋺極めて細きくだ。
【毛錐子】マウスキシ 筆の異名。
【毛繻子】ケジユス 毛織の一種。
【毛語絮說】マウゴジヨセツ 些細な事をくどくどしく述べること。
【毛管引力】マウクワンインリヨク 細管中に液體を引上げ或は引き下げる力。
【毛管現象】マウクワンゲンシヤウ 細き管を液體中に挿入したる時液體が管中を上騰する現象。

訓讀

【毛を吹いて疵を求む】吹レ毛求レ傷（けをふいてきずをもとむ） 些細なる點まで立入りて他人の欠點をさがし求めること。

毛 四—七畫

國字

むしる、ひきむしる

カウ ガウ

㋑けゝ、細き毛、長く鋭どき毛 ㋺數量の名（一釐の十分の一、十絲）㋩筆のほさき又罫に筆 ㋥わづかなるもの、すこし。

【毫毛】ガウマウ ほそげ、又細小の義。
【毫末】ガウマツ 毛のさきほど ㋑すこし、わづか ㋺ごく小さいこと、又其物。
【毫芒】ガウバウ 微細なる意。
【毫眉】ガウビ ほそきまゆげ。
【毫楮】ガウチヨ ふでとかみ、筆紙。
【毫揮】ガウキ 筆にて書畫を書くこと。
【毫端】ガウタン 筆のさき、筆端。
【毫髮】ガウハツ ㋑けすぢ、毫毛 ㋺ごく僅かなこと。
【毫釐】ガウリ 極めて少しの量、毫末。
【毫絲】ガウセン わづかばかり、些少。
【毫釐差致二千里謬一】ガウリンノサヒテリノアヤマリヲイタス 最初は僅かの差なれど終りには大なる差を生じて事をあやまる。

類語

逸毫 分毫 霜毫 長毫
描毫 粉毫 彩毫 小毫
健毫 禿毫 絲毫 秋毫
勁毫 鋒毫 柔毫 微毫
錐毫 揮毫

美毛 鴻毛 髮毛 柔毛
皮毛 旃毛 鱗毛 鬻毛
寒毛 踐毛 純毛 毫毛
回毛 旋毛 翰毛 諸毛
翠毛 鮮毛

毬 キウ

まり（鞠）たま、又毬の形をなした圓きもの

【毬子】キウシ ㋑まり ㋺まりの形をなしたるまるきもの。
【毬燈】キウトウ まるがたの燈籠、球燈。

類語

戲毬 綵毬 氈毬
蹴毬 擊毬 繡毬
打毬

八—十三畫

氈 セイ

㋑細き毛、むくげ、にこげ ㋺晃服の名（周代に子・男爵の人の著せしもの）㋩かんむりの一 ㋥柔かき肉、又やはらかなる物 ㋭鳥の腹の羽毛 ㋬柔かき毛の織物又は衣服

【氈毛】ゼイマウ 柔かき獸の毛、むくげ ㋺鳥のはらの毛。
【氈衲】ゼイダフ 毛のころも。
【氈弱】ゼイジヤク 脆弱、よわ〳〵しきこと。
【氈冕】ゼイベン 周代の冠の一、四方及び山川を祀るとき氈衣を服して被る冠。
【氈幕】ゼイバク 毛氈を垂れたまく。
【氈褐】ゼイカツ 細毛にて作れる毛織物、又毛織の衣、又其を著る賤しき者。

氅 サン

毛の長き貌、又物の細ながく垂れたる貌

【氅々】サンサン 毛の長き貌、又毛のもじやもじやせる貌、又ふさ〳〵せる貌。

氅 リ バウ ライ

㋑牛の尾、又馬の尾 ㋺毛の强く曲れる物 ㋩縺りある毛 ㋥長き毛 ㋭旄牛の一種

氈 ジヨウ ネン セン

㋑毛の盛んなること、けぶかい ㋺にこげ、やはらかな細毛、むくげ、わたげ

【氈毛】ジヨウマウ 鳥の毛の如く柔く細き毛

氅 シヤウ

鳥のはね、又鳥の羽毛にて織りし衣服

氈 セン

毛を踏みてつくりたるしきもの、毛むしろ、まうせん

【氈衣】センイ 毛織の衣服。
【氈案】センアン 毛氈をしきたる机。
【氈帽】センバウ 毛にてつくりし帽子。
【氈毳】センゼイ 細くやはらかなる毛にて織りたる敷物。
【氈裘】センキウ けごろも、毛衣、えびすの衣服、轉じてえびすの義。

氏 シ

類語

佳氈 毛氈 戎氈 花氈
好氈 臥氈 馬氈

氏部

㋑うぢ、みやうじ、やから（同姓より分れたる一支族の稱、後に姓と混用す）㋺婦人の姓の下に用ゐる語 ㋩人の稱號の下に用ゐて敬語とす ㋥種族の稱 ㋭世襲の官職の下に添へる語 ㋬昔朝又は國の名の下に添へし語 ㋮墮ちかゝれる崖 ㋯國訓うぢ（家門又は家柄の稱）敬意を表する語

【氏名】シノイ 苗字と名まへ。
【氏族】シゾク うぢ、うから、やから。
【氏上】ウヂノカミ 氏長者に同じ。
【氏子】ウヂコ 氏神の子孫、氏神をまつる人、氏神の守護を受ける者。
【氏文】ウヂフミ 系圖の類。
【氏神】ウヂガミ ㋑其氏の祖先のみたま ㋺其氏と特別の關係ある神 ㋩其土地の神、

鎮守神、產土神。
【氏長者】ウヂノチャウジャ 昔同じ氏の一族を支配した總本家。

類語　姓氏セイシ　某氏ボウシ　舅氏キウシ　仲氏チユウシ　伯氏ハクシ　師氏シシ　母氏ボシ　釋氏シヤクシ

一一四畫

【氏】テイ　タイ

㋑いたる（至）㋺もと（本）ねもと㋩おほよそ（抵）㋥古昔支那巴蜀地方に住せし部落㋭ふす（俛）たる㋬いやし（賤）

【氏羌】テイキヤウ 支那に於ける漢時代のえびす。
【氏首】テイシユ うなだれる、頭をたれる。
【氏賤】テイセン いやし、價がやすゝ。

【民】ビン　ミン

㋑たみ（生を此世に受けたる人は君主をのぞきて皆たみといふ）㋺位又は官にあらざるもの㋩自己以外の衆くの人㋥星の名

【民人】ミンジン 民庶に同じ。
【民力】ミンリヨク 人民の勞力又は財力。
【民心】ミンシン 一般人民のおもはく。
【民戶】ミンコ 一般人民の住家。
【民主】ミンシユ ㋑人民が一國の主權を握ること㋺人民のかしら、君主。
【民有】ミンイウ 官有・國有等の對、人民の所有、又そのもの。
【民兵】ミンペイ 徵兵令等によらず人民の意志によつて編成したる軍隊。
【民法】ミンパフ 私權を規定した法律。
【民表】ミンペウ 一般人民の手ほん。
【民俗】ミンゾク 人民のならはせ、民風。
【民度】ミンド その時代の文明の程度。
【民政】ミンセイ 國民の幸福をはかる爲めに行ふ政治。
【民治】ミンヂ 人民ををさめる政治。
【民事】ミンジ ㋑農事、百姓のわざ㋺私權に關する裁判事件。
【民風】ミンフウ 民俗に同じ。
【民庶】ミンショ たみ、蒼生、人民、民衆。
【民設】ミンセツ 人民の經營、私設。
【民家】ミンカ 民戶に同じ。
【民衆】ミンシユウ 民庶に同じ。
【民情】ミンジヤウ 人民の心、しも〳〵の狀態
【民族】ミンゾク 國民の種族、人種の種別。
【民間】ミンカン 人民のあひだ、しも〳〵。
【民望】ミンバウ ㋑たみのねがひ、人民の希望㋺一般人民のてほん㋩社會の人氣。
【民業】ミンゲフ 人民の經營する事業。
【民產】ミンサン 人民の財產。
【民部】ミンブ 人事戶籍等を司る官。
【民瘼】ミンバク 人民が惡政にくるしむこと。
【民德】ミントク 社會の德義、人民の道德。
【民團】ミンダン 外國の一定の區域內に住する本國人にて組織せる法人團。
【民選】ミンセン 人民が適任者を選ぶこと。
【民隱】ミンイン 民瘼に同じ。
【民謠】ミンエウ 民間にひろがりたるはやりうた。
【民聲】ミンセイ 社會一般の輿論。
【民籍】ミンセキ 人民の國籍、又は人民の戶籍簿。
【民彝】ミンイ 人として守るべき道。
【民權】ミンケン 政治上の人民の權利。
【民賊】ミンゾク 人民に害をなす者、國賊。
【民部省】ミンブシヤウ 王朝時代の八省の一。
【民政部】ミンセイブ 臺灣總督府と關東都督府の一部局（司法・行政の事務を掌る）。
【民約說】ミンヤクセツ 國家は人民の契約により成立すとの說、佛蘭西人ルツソーの創說。
【民本主義】ミンポンシユギ 人民の幸福を增進することを本として政治を行はんとする主義、英語デモクラシーの譯。
【民力休養】ミンリヨクキウヤウ 人民をいたはりて發展の餘力を與ふること。
【民主政治】ミンシユセイヂ 人民が一國の主權を有せる政治、共和制の政治。
【民族精神】ミンゾクセイシン 思想・氣質の如き民族に特有なる精神。

類語　善民ゼンミン　天民テンミン　末民バツミン　荒民クワウミン　姦民カンミン　頑民グワンミン　四民シミン　小民セウミン　賈民コミン　牧民ボクミン　士民シミン　荒民クワウミン　細民サイミン　放民ハウミン　先民センミン　俊民シユンミン　重民ヂユウミン　野民ヤミン　奇民キミン　鄕民キヤウミン　衆民シユウミン　兆民テウミン　生民セイミン　庶民シヨミン　移民イミン　幸民カウミン　豪民ガウミン　邊民ヘンミン　良民リヤウミン　下民カミン　黎民レイミン　遊民イウミン　國民コクミン

【氓】バウ

たみ、庶民

氣部

【气】キ　ケ

㋑氣に同じ、いき㋺雲の氣㋩もとむ（求）一說にとる（取）

四—十畫

【氛】フン

㋑き（氣に同じ）㋺氣の盛んなる貌、もやもやすること㋩あしき氣（妖氣・惡氣）㋥凶事の象

【氛妖】フンエウ わざはひ。
【氛邪】フンジヤ 惡しきこと、不吉。
【氛氣】フンキ 雲煙の如く見える空中の氣のこと。
【氛埃】フンアイ たち上るちり、ほこり、飛散するちり。
【氛祥】フンシヤウ 不吉なる氣象とめでたい氣象、凶徵と祥瑞。
【氛厲】フンレイ 惡い病氣。
【氛曖】フンエイ くもる、くもり。
【氛氳】フンウン 氣の盛んなる貌。
【氛翳】フンエイ わるき氣氛。
【氛霾】フンバイ 薄ぐらきくもり 土ぐもりの氣。
【氛圍氣】フンキキ 地球を取卷く空氣、大氣。

【氣】キ　ケ

㋑いき（息）呼吸㋺がす（瓦斯）又五感にふれて形なきもの㋩自然界に起る現象㋥いきほひ（勢）ちから、生命を保つ勢力㋭天地生成の原因㋬一年間を二十四分したる一期、轉じて時候㋮鼻を物に觸れてかぐこと㋯ありさま、おもむき（情景）おもしろみ㋰こゝろもち、意思、感情㋱うまれつき、持前の氣質

【氣力】キリヨク 元氣、根氣、事を行ふに堪へる力。
【氣位】キグラヰ けんしき、心がまへ、氣格。
【氣孔】キコウ ㋑葉の表皮にありて呼吸作用を營む小孔㋺昆蟲などの體の側面にありて呼吸作用をなすあな。
【氣化】キクワ 液體が熱又は壓力の作用にて氣體となる現象。
【氣分】キブン ㋑こゝろもち、きもち、こゝろ㋺きだて、もちまへ、氣性。
【氣戶】キコ 呼吸の出入する穴。
【氣宇】キウ 人の度量、はたらき。
【氣母】キボ 虹の異名。

【氣色】キショク ㊀きもち、心持㊁やうす、顔いろ、おもむき。
【氣死】キシ 氣を失ひて死す。
【氣丈】キヂヤウ ㊀元氣、物に動ぜぬ心㊁相場などの下りさうで下らず氣、强き狀態にあるをいふ。
【氣附】キツケ ㊀注意させる、勇氣を添へる、蘇生さす、又氣附藥の略㊁書翰の表などに某氏方等の意味に書く語。
【氣泡】キハウ あわ、あぶく。
【氣息】キソク いき、呼吸。
【氣尙】キシヤウ 氣高きこと、けだかし。
【氣門】キモン 氣孔の㊁に同じ。
【氣味】キミ ㊀にほひと味㊁きもち、かんじ㊂おもむき、けはひ。
【氣性】キシヤウ きだて、心だて。
【氣俠】キケフ をとこだて、義俠。
【氣胞】キハウ 肺臟内の氣管の細枝の先端につらなる囊。
【氣骨】キコツ 義を立て通す氣象、いぢ。
【氣格】キカク きぐらゐ、氣風。
【氣配】キハイ ㊀けはひ、やうす㊁正式の取引前に行はるゝ取引又は物價の暗默の動きをいふ。
【氣迷】キマヨヒ 相場の高低變動が判らず唯一時的に多少動く狀態。
【氣風】キフウ 氣だて、氣格。
【氣根】キコン ㊀こんき、精力㊁氣生根。
【氣球】キキウ 内部に氣體を入れたる球、輕氣球の略。
【氣脈】キミヤク 血のかよひみち、轉じて連絡をつける義。
【氣海】キカイ ㊀おほぞらの氣㊁ほぞの下一寸ばかりの所。
【氣候】キコウ ㊀一年間を區劃した期間の稱、十五日を一氣・五日を一候とし・一年を二十四氣七十二候に分つ㊁四季の寒暖の模樣。
【氣圈】キケン 地球を圍む大氣、氣圍氣。
【氣溫】キヲン 大氣の溫度、地上の溫度。
【氣焰】キエン ㊀火氣の燃え立つほのほ㊁盛んな勢ひ。
【氣管】キクワン いきのかよふ道。
【氣發】キハツ 蒸氣となりて發散すること。
【氣象】キシヤウ ㊀風雨晴曇等凡て空中に於ける諸現象㊁きだて、こゝろだて。
【氣絕】キゼツ いきのたゆること、又假死。
【氣稟】キヒン きだて、きまへ、氣象。
【氣節】キセツ 意氣と節操、氣象がしつかりして操あること。
【氣運】キウン いきほひ、めぐりあはせ。
【氣勢】キセイ いきほひ、いきごみ、又げんき。
【氣質】キシツ ㊀きだて、こゝろだて、きまへ、氣性㊁かたぎ、身分に應じてのきまへ。
【氣樂】キラク のんき、安樂。
【氣慾】キママ おのれの欲するまゝ、わがまゝ。
【氣慾】キヨク 氣慾に同じ。
【氣焰】キエン 氣焰に同じ。
【氣榮】キガイ 氣榮に同じ。
【氣隨】キズキ わがまゝ、心のまゝ。
【氣壓】キアツ 空中の壓力、寒暖・雷・雨・風等を起す原因となるもの。
【氣韻】キイン 詩文・繪畫などの高尙なるおもむき。
【氣囊】キナフ ㊀鳥類の胸腹部にあるふくろ㊁飛行船等にある瓦斯をつめた袋。
【氣體】キタイ 空氣・瓦斯・水蒸氣等の如く放散性ある物體。
【氣鬱】キウツ きふさぎ、氣分のしづむこと。
【氣生根】キセイコン 地上にあつて空中から水分をとる植物の根。
【氣苦勞】キグラウ 心のわづらひ、心配。
【氣象臺】キシヤウダイ 天氣を觀測する物見臺
【氣蓋一世】キヨツオホフ 意氣の甚しく盛んなるをいふ。

訓讀

【氣を下す】下レ氣 キをくだす 心をしづめる。
【氣を使ふ】使レ氣 キをつかふ ㊀血氣にはやりていさみ立つ㊁俗にきがねすると。
【氣を負む】負レ氣 キをたのむ 血氣にまかせて行動す。
【氣を候す】候レ氣 キをうかがふ 天地の諸兆候を觀察すること。

類語

客氣カク　生氣セイ　夜氣ヤ　秋氣シウ
才氣サイ　海氣カイ　白氣ハク　正氣セイ
暑氣ショ　暖氣ダン　風氣フウ　食氣ショク
狡氣セキ　陰氣イン　陽氣ヤウ　和氣ワ
順氣ジユン　秀氣シウ　心氣シン　寒氣カン
佳氣カ　爽氣サウ　短氣タン　覇氣ハ
淑氣シユク　芳氣ハウ　浮氣フ　妬氣ト
激氣ゲキ　蒸氣ジヨウ　怒氣ド　平氣ヘイ
純氣ジユン　濕氣シツ　邪氣ジヤ　逆氣ギヤク
靈氣レイ　英氣エイ　倨氣キヨ　古氣コ
游氣イウ　高氣カウ　豪氣ガウ　俠氣ケフ
時氣ジ　元氣ゲン　意氣イ　盛氣セイ
使氣シ　勇氣ユウ　養氣ヤウ　義氣ギ
志氣シ　血氣ケツ　活氣クワツ　驛氣キイ

氤 イン

氣の盛んなる貌、又天地の氣

【氤氳】インウン 氣の盛んなる貌。
【氤絪】インウン 前に同じ。

氳 ウン

天地の氣合ひて盛なる貌、又天地の氣

水部

水 スイ

㊀みづ（酸素と水素とより成れる液體）かは（河川）洪水、大水㊁たひらかにす（準）横に平らかなる貌㊂北方の位㊃五行の一㊄うるほす（潤）㊅凡て水に關することにいふ、又水に似たるもの㊆水をくむ、水仕事

【水力】スイリヨク 水が物を動かす力。
【水土】スイド 水と土、河海と陸地。
【水上】スイジヤウ ㊀川の上流㊁水のほとり又水面。
【水干】スイカン ㊀水ばりして干した絹㊁我が國古代の衣服の一。
【水化】スイクワ 地質・岩石等が水の作用により變ずる作用。
【水巴】スイハ 水のうづまき。
【水天】スイテン 水面とおほぞら。
【水手】スイシユ 船頭、かこ、船人。
【水分】スイブン みづけ、しめりけ。
【水心】スイシン 川の水流、水面のなかほど。
【水牛】スイギウ 熱帶の水邊に住む獸の一。
【水火】スイクワ ㊀水と火㊁甚だ危險なるものに喩ふ㊂水害と火事㊃正反對を表はす語㊄勢の盛んなるをいふ語。
【水尺】スイシヤク 水準に同じ。
【水仙】スイセン 草花の一。
【水平】スイヘイ ㊀水面の如く平かなること㊁水準に同じ。
【水玉】スイギヨク 水晶の異名。
【水田】スイデン 水をためて稻をつくる田。
【水死】スイシ おぼれじに、溺死。
【水交】スイカウ 君子の交をいふ。
【水伯】スイハク 水神に同じ。
【水行】スイカウ 水ある所をわたること。
【水母】スイモ 海中を浮游する動物の一、くらげ。
【水兵】スイヘイ 海軍の兵卒。
【水村】スイソン 水郭に同じ。
【水旱】スイカン 洪水と旱魃。
【水攻】スイコウ 城などを水ぜめにすること。

【水災】スキサイ 水患に同じ。
【水芝】スキシ 蓮の異名。
【水利】スキリ 灌漑又は船楫の都合をよくすること。
【水虎】スキコ 水中に住むと云ふ怪物。
【水青】スキセイ 草の名、一名鼠尾。
【水車】スキシャ ㋑みづぐるま、低い水を高所に注ぎ込むもの㋺水力にて回轉せしむる車。
【水松】スキシャウ みると稱する海草。
【水泡】スキハウ ㋑水のあは㋺有るかと思へば忽ち消えてはかないと、むだごと。
【水波】スキハ なみ、波濤。
【水府】スキフ 星の名、又水神の居所。
【水泳】スキエイ みづおよぎ。
【水狗】スキク かはせみ、又かはをその異名
【水性】スキシャウ 浮氣者、心の移り易き人。
【水底】スキテイ 川・海等の水のそこ。
【水花】スキクワ うきぐさの異名。
【水芹】スキキン 香草の一、せり。
【水客】スキカク ㋑ひしの花の異名㋺舟人。
【水門】スキモン 水道の口、閘門。
【水亭】スキテイ 水邊に構へたるちん。
【水苔】スキタイ みづごけ。
【水茄】スキカ ながなすび。
【水星】スキセイ 太陽系統の惑星の一。
【水英】スキエイ 水芹に同じ。
【水面】スキメン 水の上面、水上。
【水楫】スキサク しがらみ。
【水軍】スキグン 海軍、又ふないくさ。
【水流】スキリウ 水のながれ、川流。
【水栗】スキリツ 菱の異名。
【水浴】スキヨク 水をあび身體を洗ふこと。
【水馬】スキバ ㋑水上にすめる小蟲、みづすまし㋺水中にて馬を御すること。
【水畔】スキハン 水のほとり、水邊。
【水素】スキソ 原素の一。
【水神】スキジン 河の神、水を守る神。
【水蜜】スキウ 水中に自生する微細な蟲、みぢんこ。
【水害】スキガイ 大水の爲めに被る損害。
【水草】スキサウ みづくさ、又水と草。
【水豹】スキヘウ 海豹の異名。
【水鳥】スキウ 鵜の異名。
【水師】スキシ 海軍、水軍。
【水國】スキコク 河沼等の多き國。
【水涯】スキガイ 水のほとり、水邊。
【水患】スキクワン 水災、水害に同じ。
【水梁】スキリヤウ 水上にかけ渡せる橋。
【水郭】スキクワク 水邊の村ざと。
【水魚】スキギヨ 水と魚と離ること能はざると等しく親密なる義。
【水蛆】スキシヨ 蛭の異名。
【水訟】スキシヨウ 水のことから起るうつたへ、水のあらそひ。
【水鳥】スキテウ みづとり、水禽。
【水族】スキゾク 魚介類の總稱、又水中に生活する動物。
【水陸】スキリク みづとくが、河海と陸地。
【水産】スキサン ㋑水中に生ずること㋺河海に生ずるものゝ總稱。
【水脚】スキキヤク 船の水につかる部分、船あし、喫水。
【水量】スキリヤウ みづかさ。
【水準】スキジユン 水を盛り地面の高低・水平等を檢する器、みづもり。
【水萍】スキヘイ ㋑うきぐさ㋺慈姑の異名。
【水運】スキウン 水路により荷物を運ぶこと。
【水華】スキクワ 蓮花の異名。
【水蛟】スキカウ みづち。
【水程】スキテイ 水上の里程。
【水蛭】スキシツ 水中に生ずる蟲、ひる。
【水飯】スキハン 粥の異名。
【水筆】スキヒツ 筆の一、さばき、ばら筆。
【水晶】スキシヤウ 石英の一種にして六方石ともいふ。
【水筒】スキトウ 飲み水を入れて携帶する器
【水道】スキダウ ㋑水のながれる道すぢ㋺水

のかよふみち㋩上水を引込むながれ。
【水腫】スキシヨウ みづぶくれ、身體のむくみはれるさま、又そのはれ。
【水楊】スキヤウ 水邊に生ずる柳、川やなぎ。
【水勢】スキセイ 流水のいきほひ。
【水鼠】スキバウ 水中に居る蟲、みづすまし。
【水源】スキゲン 川又は水道のみなもと。
【水葬】スキサウ 死骸を水中に沈めて葬ること
【水鄉】スキキヤウ 水郭に同じ。
【水路】スキロ 水のながれるみち、又水路。
【水禽】スキキン みづとり、水鳥。
【水綿】スキメン 藻の一、あをみどろ（青い綿の如く溜り水に浮くもの）。
【水雷】スキライ 水中にて爆發するやうにしかけたるもの。
【水銀】スキギン 錫白色の液體金屬。
【水殿】スキデン 水邊のたかどの。
【水精】スキセイ ㋑月の異名㋺水晶の異名。
【水葵】スキキ じゆんさいの異名。
【水閣】スキカク 水殿に同じ。
【水煙】スキエン 水面よりたち上る蒸氣。
【水際】スキサイ 水のほとり、水邊。
【水碓】スキガイ 水車のからうす。
【水榭】スキシヤ 水邊のうてな、水亭、水樓。
【水滴】スキテキ 水のしたゝり、水のしづく。
【水槽】スキサウ みづをけ、みづぶね。
【水墨】スキボク うすゞみ、轉じてすみゑ。
【水棲】スキシヤウ のみもの、飲料物。
【水濱】スキヒン 水邊に同じ。
【水調】スキテウ なまめかしき歌。
【水練】スキレン 水泳を稽古すること、又游泳のわざ。
【水樓】スキロウ 水邊にたてたるやぐら。
【水盤】スキバン 水ばちの大なるもの。
【水鷄】スキケイ 水邊に住む鳥。
【水藥】スキヤク みづぐすり。
【水蓼】スキタイ 蜻蛉の異名。
【水蝕】スキショク 雨又は水流が土石を削り又は崩すこと。
【水漲】スキチヤウ 水かさのましたること。
【水鴨】スキオフ 水鳥の一、かも。
【水戰】スキセン ふないくさ。
【水蝨】スキシフ 水邊に居る小蟲、とびむし。
【水壓】スキアフ 水が物を四方におす力。
【水瀉】スキシヤ 下痢のはげしきもの。
【水簾】スキレン ㋑たき、瀑布㋺浮草の異名。
【水邊】スキヘン 水のほとり、みづぎは。
【水霧】スキム かはぎり。
【水癖】スキチ 蛭の異名。
【水獺】スキタツ 獸の名、かはをそ。
【水蘇】スキソ 水花に同じ。
【水鏡】スキキヤウ みづかゞみ、亀鑑。
【水雜】スキナン 水より起る災害。
【水饗】スキトウ みぞ、水道。
【水驛】スキエキ 舟をつぐ所、ふなつぎば。
【水灣】スキワン 海水の陸地に入りこみたる所、入江。
【水脈】スキミヤク ㋑水の通行するみち㋺水の流れ出るすぢ。
【水引】ミズヒキ ㋑贈答品にかける紅白又は黑白のこより㋺芝居などの舞臺に張る細長い幕の稱。
【水色】ミヅイロ 藍色の極めて薄きもの。
【水屋】ミヅヤ ㋑神社にて參詣人が手を洗ふ所㋺茶室の隅にありて器物を洗ふ所㋩冷水を賣る店。
【水嵩】ミヅカサ 水の滿へたるかさ。
【水半球】スキハンキウ 英國とニユージーランドとを兩極として地球を上下に二分し其の南半を云ふ。
【水平動】スキヘイドウ 横にゆれ動く地震。
【水老鴉】スキラウア 鵜の異名。
【水交社】スキカウシヤ 海軍將校の集會所。
【水成岩】スキセイガン 風雨に破壞されたる岩石の粉末が水底に沈みて出來たる岩。
【水紅色】スキコウシヨク 薄き赤いろ、もゝ色。
【水飯僧】スキハンソウ 人の無勢力なるを罵りていふ語。

【水梭花】スキサクワ 魚の異名、僧家にていふ
【水彩畫】スキサイグワ 水に溶したる繪具にてかきたる洋風の繪畫。
【水萵苣】スキクワキヨ 草の名、かはちさ。
【水晶花】スキシヤウクワ 灌木の一、うのはなうつぎ。
【水晶體】スキシヤウタイ 眼球の角膜の後方にある透明體。
【水雷火】スキライクワ 火藥を水中に仕掛けて敵艦をうちくだくに用ゐるもの。
【水準器】スキジユンキ 水を盛つて土地の高低又は水平をはかる器械。
【水蒸氣】スキジヨウキ 熱の作用によつて水が氣體となりたるもの。
【水墨色】スキボクシヨク うすねづみ色。
【水樣液】スキヤウエキ 眼球の角膜と水晶體との間にある液。
【水垢離】ミヅゴリ 神佛に祈願のため水を浴びて身體を清めること。
【水淺黄】ミヅアサギ あさぎ色の薄きもの。
【水無月】ミナヅキ 陰曆六月の異稱。
【水天一碧】スキテンイツペキ 晴れたる時水と空とが同じ澄みたる色に見えること。
【水平運動】スキヘイウンドウ 社會的待遇の平等を要求せんとして起す運動。
【水師提督】スキシテイトク 水師は海軍、艦隊を指揮する長官。
【水魚之交】スキギヨノマジハリ 親密にしてはなるべからざる間柄をいふ。
【水滴穿レ石】スキテキイシヲウガツ 微々たるものも積る時は强大となるをいふ。
【水鏡之人】スキキヤウノヒト 人の師となるべき者、人のてほん、かゞみ。
【水先案内】ミヅサキアンナイ 水路の案内をすること、又其人。
【水到渠成】ミヅイタリテキヨナル 水のながれによつて自然にみぞの出來ること。
【水落石出】ミヅオチテイシイヅ 冬になれば水がかれて石があらはれ出づる義、轉じて露見する、又判明する。
【水送山迎】ミヅオクリヤマムカフ 山水の景色の次第にうつりかはる貌。
【水積成レ川】ミヅツモリテカハヲナス 事は勉强により成功するをいふ。
【水清則無レ魚】ミヅキヨケレバスナハチウヲナレ 清くすんだ水には大魚は居らぬ、轉じて餘りに嚴重にすぎる時は人がなづかぬ。
【水廣則魚浮】ミヅヒロケレバスナハチウヲウカブ 仁義を積めば人が歸服する義。
【水隨二方圓器一】ミヅハハウエンノウツハニシタガフ 水は容器の形により圓くもなり四角にもなる如く人も君主の善惡に感化せらるる又善惡の友による。
【水天髣髴青一髮】スキテンハウフツセイイツパツ 水と空との間が髮を一すぢ引きたる如く接近して見えるさま。

訓讀

【水草を逐ふ】逐二水草一 すいさうをおふ 水や草のある所に轉々として移住し一定の住居なきさま。

類語

渦水クワスキ　新水シンスキ　洪水コウズキ　霸水ハスヰ
大水タイスキ　泉水センスキ　流水リウスキ　弱水ジヤクスキ
明水メイスキ　止水シスキ　湍水タンスキ　春水シユンスキ
澄水チヨウスキ　清水セイスキ　背水ハイスキ　魚水ギヨスキ
秋水シウスキ　曲水キヨクスキ　聖水セイスキ　溪水ケイスキ
覆水フクスキ　墨水ボクスキ　寒水カンスキ　江水コウスキ
碧水ヘキスキ　峽水ケフスキ　烟水エンスキ　雲水ウンスキ
香水カウスキ　漏水ロウスキ　山水サンスキ　溫水ランスキ
毒水ドクスキ　惡水アクスキ　噴水フンスキ　潮水テウスキ
海水カイスキ　猛水マウスキ　治水チスキ

氷 ヒヨウ ヒ

❶冰の俗字□こほり八つらゝ(氷柱)二矢筒の蓋
【氷人】ヒヨウジン なかうど、結婚の媒介者、月下氷人。
【氷山】ヒヨウザン ❶こほりの山、寒帶の海上に浮流する氷の巨塊□權威富貴のつきやすく恃みにならざるに譬ふ。
【氷心】ヒヨウシン わだかまりなく清き心。
【氷柱】ヒヨウチユウ つらゝ、たるひ。
【氷河】ヒヨウカ 高山より流下する氷の河。
【氷炭】ヒヨウタン 氷と炭❶性質を全然異にせるもの□君子と小人。
【氷夷】ヒヨウイ 川の神、水伯。
【氷肌】ヒヨウキ ❶梅の花の形容□すきとほりて美しきはだ。
【氷雪】ヒヨウセツ ❶氷と雪□心の清く操の固きをいふ。
【氷叟】ヒヨウソウ 妻の父。
【氷室】ヒヨウシツ ひむろ、氷を貯藏する所。
【氷凍】ヒヨウトウ 水のこほれるもの、氷。
【氷解】ヒヨウカイ ❶氷のとけること□疑の晴れること。
【氷翁】ヒヨウワウ 氷叟に同じ。
【氷塊】ヒヨウクワイ 氷のかたまり、單に氷。
【氷條】ヒヨウデウ 氷柱に同じ。
【氷清】ヒヨウセイ すき通りて清きもの。
【氷筋】ヒヨウキン 氷柱に同じ。
【氷結】ヒヨウケツ 液體がこほること。
【氷語】ヒヨウゴ 仲介のことば、なからうど口。
【氷壺】ヒヨウコ 清潔純白なるもの〻形容。
【冰魂】ヒヨウコン 梅花の形容。
【氷紈】ヒヨウグワン 純白にて艷ある練り絹。
【氷臺】ヒヨウダイ 蓬の異名。
【氷釋】ヒヨウシヤク ❶氷の如く解けて跡かたなき貌□心に一點の疑惑をも殘さず了解すること。
【氷輪】ヒヨウリン 月の異名。
【氷點】ヒヨウテン 水が氷結しはじめる時の溫度。
【氷酒】ヒヨウシユ 酒も凍る嚴冬の寒さ。
【氷鏡】ヒヨウキヤウ 月の異名。
【氷嚢】ヒヨウナウ 熱をくだす爲め氷を入れて局部にあてる醫具。
【氷雪操】ヒヨウセツノミサヲ 清く潔白なる意氣
【氷肌玉骨】ヒヨウキギヨクコツ 梅花の異名。
【氷炭不二相容一】ヒヨウタンフヒイレズ 善惡・黑白の併立すべからざるをいふ。
寒氷カンピヨウ　伐氷バツピヨウ　積氷セキヒヨウ　垂氷タルヒ

永 エイ エイ

❶ながし、距離ながし、ながくす□とほし(遠)はるか(遐)八時の長きにいふ、ひさし(久)
【永久】エイキウ ながくひさし、とこしへ。
【永日】エイジツ 日がながい、春の日ながが。
【永代】エイタイ ながい時代、永年。
【永世】エイセイ ながきよ、ながねん。
【永々】エイエイ ながく〳〵、とこしなへに。
【永生】エイセイ ながく生きる、長壽の意。
【永年】エイネン ながのとしつき、多年。
【永住】エイヂユウ 一定の場所にながくすまひすること。
【永劫】エイゴフ 極めて永き年月、未來永劫。
【永固】エイコ いつまでも壯健であると。
【永夜】エイヤ 夜がながい、秋の夜ながが。
【永晝】エイセイ いつも青し、常綠。
【永巷】エイコウ ❶宮中の長廊下□宮女、官女八後宮の牢屋。
【永哀】エイアイ ながくかなしむ。
【永康】エイカウ 永く安らかなること、ながくやすんず。
【永眠】エイミン とこしへに眠る、人の死ぬ

氵 さんずゐ

水が字畫の偏となる時の形

一畫

ること。

【永訣】エイケツ　永く別れる、死別の義。
【永晝】エイチウ　ながき日のひる。
【永遠】エイエン　ながく久し、行末ながし。
【永逝】エイセイ　人の死ぬこと。
【永答】エイタフ　いつ迄も期待にかなふ意。
【永當】エイタウ　永くひいきを受ける。
【永歌】エイカ　節をながくうたふこと。
【永圖】エイト　將來の爲めのはかりごと。
【永歎】エイタン　ため息を吐いてなげく貌。
【永福】エイフク　久しく幸福を受ける。
【永懷】エイクワイ　ながくおもふ。
【永續】エイゾク　ながくつゞく、ながもちす。
【永代經】エイタイキヤウ　死者の靈を弔ふ爲めに常になす讀經。
【永諾圖】エイカイヅ　婚禮の時のかけもの。
【永樂錢】エイラクセン　明の永樂年間に鑄造したる錢。
【永樂燒】エイラクヤキ　京都の陶工善五郎が明の永樂年間に製造せしものを模造したる陶器。
【永小作權】エイコサクケン　一定の小作料を支拂つて耕作又は牧畜の爲め他人の土地を使用する權利。
【永久中立】エイキウチユウリツ　他國の間の抗爭に關係せず他國も又亦侵害し得ざる中立。
【永久磁石】エイキウジシヤク　磁石にて鋼鐵を摩擦して作りし磁石。
【永字八法】エイジハツパフ　永字をもつて運筆の八法をあらはしたるもの。

類語

日永ヒナガ　悠永エイ　隆永リユウエイ　雋永センエイ

二畫

氾 ハン

氾

㋑水がひろがりあふれる、はびこる㋺うかぶ、うごく、定まらぬさま㋩あまねし（普）ひろし（博）㋥川の名

【氾乎】ハンコ　動搖して定らぬさま。
【氾々】ハンハン　水に浮ぶ貌。
【氾流】ハンリウ　水の溢れ流れること。
【氾論】ハンロン　ひろく大體についての論說
【氾濫】ハンラン　水があふれ流れること。

汎 キ

汎

わきより流れ出づる泉

【汎泉】キセン　わきより流出する泉。
【汎濫】キラン　わき出づる泉、又水のわき出づるさま。

汀 テイ

汀

㋑みぎは、きし、なぎさ㋺す、小さい洲

【汀曲】テイキヨク　岸の入りこみし所。
【汀沙】テイサ　水邊の沙原。
【汀岸】テイガン　みぎは、汀濱。
【汀洲】テイシウ　水邊に土砂の積りて出來たる島。
【汀柳】テイリウ　水際のやなぎ。
【汀渚】テイシヨ　次に同じ。
【汀濱】テイフン　みぎは、なぎさ、汀岸。
【汀蘭】テイラン　水際に生じたる蘭。

類語

烟汀エンテイ　廣汀クワウテイ　遙汀エウテイ　遠汀エンテイ
蘆汀ロテイ　綠汀リヨクテイ　江汀カウテイ　廻汀クワイテイ
長汀チヤウテイ　沙汀サテイ　洲汀シウテイ　柳汀リウテイ

汁 シフ ジフ

汁

㋑しる（液）㋺つゆ、すひもの㋩國訓しる、味噌しる

【汁液】シフエキ　しる、流動物。
【汁粉】シルコ　小豆の餡と砂糖でつくつた汁の中に餅を入れた食物。

類語

豐汁ジフ　墨汁ボク　膽汁タン　目汁ジフ
若汁ノイジフ　漆汁シツジフ　醬汁ジフ　糞汁フンジフ
灰汁クワイジフ　肉汁ニクジフ　米汁ベイジフ　乳汁ニユウジフ

求 キウ グ

求

㋑もとむ、さがす（索）㋺ねがふ（願）のぞむ（望）㋩招く、來たす㋥せめる、責めとがむ㋭つとめる、要する㋬むさぼる（貪）㋣所望する、無心する

【求刑】キウケイ　處刑すべきことを要求すること又その刑罰。
【求索】キウサク　さがしもとむ。
【求道】キウダウ　㋑正しき道理をもとめる㋺宗教にたよりて安心を得んとすること。
【求積】キウセキ　平面形の線の長さ・面積・體積を算出すること、又其算法。
【求法】グハフ　まことの道をたどり佛の教を願ふこと、求道。
【求心力】キウシンリヨク　物體が圓運動をなす時之を圓心にひきつけんとする力。
【求則得レ之】モトムレバスナハチコレヲウ　ねがふ時は與へられる、萬事心のまゝなること。

汎 ハン

汎

㋑うかぶ（浮）水にうかぶ、浮びたゞよふ㋺ひろし、あまねく博し

【汎々】ハンハン　水に浮び流るゝ貌、又水の廣く流れるさま。
【汎沛】ハンハイ　盛なる貌、又雨などの盛んに降るさま。
【汎涉】ハンセフ　廣く萬事に行きわたる貌。
【汎採】ハンサイ　廣く材料を求め集める。
【汎游】ハンイウ　水にうかぶ貌。
【汎溢】ハンイツ　水のあふれ流れること。
【汎愛】ハンアイ　廣く總ての人を愛すること。
【汎稱】ハンシヨウ　ひろく呼ぶ名、總名。
【汎說】ハンセフ　總括して說明す、又その說。
【汎論】ハンロン　㋑文章・書物等の內容をひろく全般に亘つて說明する論㋺原理・原則を一般的に論ずること。
【汎漲】ハンチヤウ　大水の溢り流れる貌。
【汎濫】ハンラン　水のあふれみなぎること。
【汎心論】ハンシンロン　萬物皆心ありと說く學說。
【汎理論】ハンリロン　理性或は思考のみを以て宇宙の原理は絕對的のものとする哲學說。
【汎愛主義】ハンアイシユギ　廣く總ての人類を愛するを以て道德の根元なりとする倫理上の主義。

類語

大汎タイハン　滿汎マンハン　長汎チヤウハン　普汎フハン

汐 セキ

汐

しほ、うしほ（夕潮）夕に起る汐のさしひき（朝のは潮）ゆふしほ

汕 サン セン

汕

すくひあみ、さであみ

汗 カン

汗

㋑あせ（皮膚からしみ出る汗）㋺あせすあせかく㋩水廣くしてかぎりなきさま㋥曾長の號

【汗血】カンケツ　汗を血の如く流すこと、非常の勞力。
【汗衣】カンイ　はだぎ、じゆばん。
【汗青】カンセイ　昔まだ紙のない時代に竹の札に文字を書きしことより文書・書册の意に用ふ。

【汗眩】カンゲン　あせが出でゝ目がくらむ。
【汗背】カンハイ　おそれ恥ぢて脊にひや汗をかくこと、汗顔。
【汗衫】カンサン　㋑あせとり、はだぎ、襦袢㋺かざみ、中古宮女・童子等の用ゐし夏のうはぎ。
【汗馬】カンバ　㋑汗血馬㋺馬にあせする、戰場を馳驅する。
【汗腺】カンセン　汗を分泌する管。
【汗漫】カンマン　遙かにひろきさま。
【汗蒼】カンサウ　あせぼ、あせも。
【汗濕】カンシツ　汗が肌にゝじむこと、汗にてうるほふこと。
【汗簡】カンカン　汗背に同じ。
【汗顏】カンガン　慚愧の貌、恐れ又ははぢて顏より汗を出すさま。
【汗襦】カンジユ　はだぎ、はだじゆばん。
【汗血馬】カンケツバ　血の如き汗をかく馬、名馬。
【汗馬勞】カンバノラウ　㋑戰場にてたてし功勞㋺運搬等に馬を勞すること。
【汗牛充棟】カンギウジウトウ　車でひく時は牛が汗をかき積みあげる時はむなぎにとゞく程の書物、藏書の多きにいふ。
【汗出沾レ背】アセイデテハイヲウルホス　汗背に同じ

類語

朱汗シユカン　緒汗シヤカン　黴汗ビカン
白汗ハクカン　腋汗エキカン　洽汗カフカン
慄汗シヨウカン　惶汗クワウカン　沐汗モクカン
浩汗カウカン　香汗カウカン　粉汗フンカン
發汗ハツカン　涙汗ルイカン　漫汗マンカン
羞汗シウカン　愧汗キカン

【汗】ヲウ　ワ

㋑けがす、きたなくする、はづかしめる、けがらはしくする㋺けがる、けがれたるもの㋩たまり水、濁つた池㋥低い土地、窪地㋭衰へる、低くなる㋬意をまげる㋮きよむ、不淨を洗ひさる㋯ほる、土地を掘りくぼめる
【汗吏】フリ　心のよこしまなる官吏。
【汗名】フメイ　けがれたる名、不名譽。
【汗邪】ヲヤ　低き土地、くぼ地。
【汗泥】フデイ　きたなきどろ、どぶ。
【汗俗】ヲゾク　惡いならはし、惡風。
【汗垢】ヲコウ　けがれとよごれ。
【汗辱】ヲジヨク　けがしはづかしむ、又はぢ。
【汗染】ヲセン　惡事にそまること。
【汗隆】ヲリウ　おこるとすたる、盛衰。
【汗渠】ヲキヨ　どぶ、泥溝。
【汗萊】ヲライ　土地の荒れ果てしこと。
【汗墨】ヲボク　けがれよごれる。
【汗點】ヲテン　㋑缺點、きず㋺惡風に染る。
【汗濁】ヲダク　けがれる、よごれる。
【汗濆】ヲトク　きたなき溝、けがれたる水。
【汗穢】ヲワイ　㋑きたなし、又その物㋺よごす、けがす㋩けがらはし、不淨。
【汗蔑】ヲベツ　血にてけがす。
【汗竇】ヲユ　ゆがむ、いびつになる。

類語

蠢汗カンヲ　垢汗コウヲ　沾汗テンヲ　困汗コンヲ
前汗ゼンヲ　虧汗キヲ　混汗コンヲ　點汗テンヲ
濁汗ダクヲ　塵汗ヂンヲ　愚汗グヲ　醜汗シウヲ

【汚】

汗に同じ

【氾】シイ

㋑とゞまる（止）㋺復び本流に入る支流㋩流れ道の無い川㋥川の名
【氾水】レスキ　水が一旦流れて再び元の所に流れもどる貌。

【汝】ジヨ

㋑なんぢ（爾）おまへ（古く女に作る）㋺川の名
【汝輩】ナンヂガハイ　なんぢら、おまへたち。
【汝曹】ナンヂガトモガラ　前に同じ。

【汞】コウ

みづかね、水銀

【江】カウ　コウ

㋑支那の揚子江の略稱㋺え（河川の汎稱）㋩星の名㋥國訓え（いりえ）
【江山】カウザン　川と山、山河。
【江心】カウシン　川のまんなか。
【江口】カウコウ　かはぐち、河口。
【江水】カウスキ　川、かはみづ、又揚子江。
【江月】カウゲツ　川の水面にうつる月かげ。
【江左】カウサ　揚子江の左方、江南地方。
【江汀】カウテイ　川のみぎは、江渚。
【江村】カウソン　川べりの村。
【江河】カウカ　揚子江と黃河、轉じて大きなる川。
【江東】カウトウ　揚子江東方の地方、昔の吳國
【江表】カウヘウ　江左に同じ。
【江南】カウナン　揚子江の南方の地方、昔の楚・越の國。
【江流】カウリウ　川のながれ、水流。
【江海】カウカイ　川と海。
【江亭】カウテイ　水流にそひつくりしちん。
【江珠】カウシユ　琥珀の一種。
【江畔】カウハン　水のほとり、水ばた。
【江渚】カウシヨ　川のみぎは。
【江豚】カウトン　いるか、海豚。
【江楓】カウフウ　川べりにあるかへで。
【江湖】カウコ　川とみづうみ、又世の中にたとふ。
【江潮】カウテウ　川に起るしほのさしひき。
【江陰】カウイン　川の南の地方。
【江煙】カウエン　かはぎり、川霧。
【江樓】カウロウ　河畔にあるたかどの。
【江豬】カウチヨ　海豚に同じ。
【江頭】カウトウ　かはのほとり、河畔。
【江檻】カウカン　河水にのぞみたる欄干。
【江膵】カウヒ　江畔に同じ。
【江靄】カウアイ　江煙に同じ。
【江鱸】カウロ　かはのすゞき。
【江南竹】カウナンチク　もうそうだけ。
【江山之助】カウザンノタスケ　山川の景色明媚にして詩情を助くること。
【江西書院】カウセイシヨヰン　江州の西にある書院の意、中江藤樹の書院。
【江湖山人】カウコサンジン　身に何のかゝりあひもなき人。
【江鮮海鱗】カウセンカイリン　川海の魚類。

類語

寒江カンカウ　曲江キヨクカウ　春江シユンカウ　荒江クワウカウ
大江タイカウ　遠江エンカウ　楚江ソカウ　鳥江ウカウ
雲江ウンカウ

【池】チ

㋑いけ、土地が凹んで水のたまつてゐる所㋺地を掘つて水を貯へたる處、ほり㋩城郭の周圍の濠㋥棺の飾り、柩を埋むるあな㋭琴の上面へ飛ぶさま
【池上】チジヤウ　池の水面。
【池沼】チセウ　いけとぬま。
【池隍】チクワウ　城のまはりの池。
【池潢】チクワウ　潢は水たまり、池。
【池頭】チトウ　池のほとり。
【池塘】チタウ　池のつゝみ。
【池邊】チヘン　池頭に同じ。
【池閣】チカク　池に臨めるたかどの。
【池藝】チギヨ　水中の養魚所、いけす。
【池殿】イケドノ　池畔に建てたる殿舍。
【池中物】チチユウノモノ　世にあらはれずひそみ居るもの。

【池塘夢】チタウノユメ 晉の謝惠連の兄靈連が永嘉の草堂にて詩を作らんとして句を得ず心勞れてまどろみし夢に弟惠連を見て忽ち「池塘生芳草」といふ句を得たる故事。
【池見草】イケミグサ 蓮の異名。
【池涌金蓮】チヨウキンレン 一種の植物、だるまぎく。
【池魚之殃】チギヨノワザハヒ 思ひがけなき災難そばづる。
【池魚籠鳥】チギヨロウテウ 池の魚と籠の鳥、身の不自由なることに喩ふ。

訓讀

【池中の物に非ず】非二池中物一 ちちゆうのものにあらず 龍が時を得て天上する如く隱れたる英雄が好機に乘じて傑出すると。

類語

通池チウ　故池コチ　溝池カウチ　周池シウチ
古池コチ　荒池クワウチ　溟池メイチ　空池クウチ
枯池コチ　蒼池サウチ　小池セウチ　墨池ボクチ

四畫

【汨】 ベキ コツ

❶川の名㊁をさむ(治)水にひたす㊂みだす、まぜる、錯亂㊃しづむ(沒)㊄わきたつ波へなくなる、かくれる
【汨々】コツコツ ❶波の音の形容㊁沈み埋まるさま。
【汨沒】コツボツ しづみはてる、埋沒。
【汨活】コツクワツ 水流の急なる貌。
【汨暗】コツアン みだれて明かならざる貌。
【汨陳】コツチン 交へならべる。

類語

滑汨コツ　蕩汨タウコツ　墮汨ダコツ　泉汨センコツ
陵汨リヨウコツ　私汨シコツ　紛汨フンコツ　渙汨テンコツ

【汩】 キツ イツ

❶水の疾く流れる貌㊁又歩くさま
【汩々】イツイツ 水のよどみなく流れる貌。
【汩遙】イツエウ 足ばやに歩くこと。
【汩越】イツエツ かどやくさま、光明。

【汪】 ワウ

❶水のふかくしてひろき貌㊁濁つた池
【汪々】ワウワウ 水の多きさま。
【汪洋】ワウヤウ ❷海などのひろ〳〵としたる貌㊁ゆつたりした貌。
【汪茫】ワウバウ 水の廣大なる貌。
【汪浪】ワウラウ 水の盛んに流れる貌。
【汪然】ワウゼン ❶涙が盛んに流れる貌㊁廣く靜なるさま、又奥深きさま。
【汪濊】ワウワイ 廣くふかきさま。

【汭】 ゼイ

水のめぐつて流れこむ所、川のくま

【汰】 タイ タダ

❶おごる(身分不相應に贅澤をする)㊁すぐ(過)㊂よなげ、えらびわける
【汰沙】タサ タイサ 水と共にかき廻して物の善惡を擇び分けること。
【汰金】タイキン タキン 水によなげて沙金をえりとること。

類語

精汰セイダ　淘汰タウダ　沙汰サタ　洗汰センダ
簡汰カンダ　冷汰レイダ　篩汰タウダ　澄汰チヨウダ

【汲】 キフ

❶くむ、水をくみあげる㊁ひく(引)ひきこむ、又人物を引き上げ用ゐる㊂いそがしき貌、休まず力める貌㊃いつはりの貌
【汲引】キフイン 水をひき込む意より轉じて人を擧げ用ゐること。
【汲水】キフスイ 水をくむ。
【汲々】キフキフ せはしく力めるさま。
【汲泉】キフセン 泉の水をくむこと。
【汲索】キフサク もとづな、つるべなは。
【汲栁】キフトウ つるべ。
【汲道】キフダウ 水をくむ道。
【汲量】キフリヤウ くみわけて察す、推量。
【汲綆】キフカウ つるべ繩。

【汴】 ヘン ベン ハン バン

❶川の名、泗川の一支流㊁都の名

【汶】 ブン モン ボン

❶川の名(山東省所在)㊁けがれ、はぢ、はづかしめ
【汶々】ボンボン けがらはしき意。
【汶辱】ボンジヨク はづかしむること。

【決】 ケツ

❶きる、堤がきれて水が溢れ出る㊁齒で物をかみきる㊂きまる、きむ、心を定む、是非曲直を分つ㊃きまり、さだめ㊄ゆがけ(弓具の名)㊅思ひきるさま㊆わかる(譯に通ず)㊇けつして、打消の斷定をあらはす副詞
【決心】ケツシン 意を決す、覺悟する。
【決去】ケツキヨ わかれること、訣別。
【決死】ケツシ 死する覺悟、必死の覺悟。
【決行】ケツカウ 思ひ切りて行ふ。
【決定】ケツテイ ケツヂヤウ ❶明らかに取りきめる㊁佛のすくひを固く信ずること。
【決拾】ケツシウ 弓ごてとゆがけ。
【決裂】ケツレツ さけやぶるさま、わかつと。
【決答】ケツタウ たしかなる返事をする、又その返事。
【決起】ケツキ 決然として起つこと、急に身を起す、意を決して立つ。
【決勝】ケツシヨウ 必ずかつ意。
【決然】ケツゼン ❶思ひ切つてするさま㊁はかに、又急に。
【決絕】ケツゼツ たちはなつ、たちきる。
【決著】ケツチヤク きまりをつける、とゞのつまり。
【決意】ケツイ 決心に同じ。
【決隙】ケツゲキ かべのあな、すきま。
【決獄】ケツゴク 罪を決定すること。
【決算】ケツサン 總勘定、毎半期又は年度末に仕上げる収支の總計算。
【決鼻】ケツビ 兎の異名。
【決潰】ケツクワイ ❶水の勢にて堤防が崩れること㊁腐りしものがつぶれること。
【決戰】ケツセン ❶勝負を決せんとして戰ふこと、㊁戰ふことにきめる。
【決斷】ケツダン ❶きつぱりと取りきめる㊁さばきゝめる。
【決壞】ケツクワイ 決潰に同じ。
【決議】ケツギ 會議して決定す、又その案
【決驟】ケツシウ 疾く走るさま。
【決鬪】ケツタウ いのちがけに奮戰して雌雄を決す、はたしあひ。
【決雲兒】ケツウンジ 鷹の異名。
【決勝點】ケツシヨウテン 勝負を定める所、勝敗の定まる所。
【決二雌雄一】シユウヲケツス 勝敗を定める。
【決斷所】ケツダンシヨ 裁判訴訟を司る役所。
【決河之勢】ケツカノイキホヒ 水が堤を切つて流れ出す如きいきほひ。
【決選投票】ケツセントウヘウ 何れを當選者と定め難き場合に其の中の最高點者二名に就きて當落を定める投票。
【決算報告】ケツサンハフコク 會社にて計算期毎

に定時總會を開きその決算を株主に報告すること。

【決二積水於千仞溪一】セキスイヲセンジンノタニニケツス 勢烈しくして當るべからざること。

【決二江河源一障レ之以レ手】カウカノミナモトヲケツシテコレヲフセグニテラモツテス 根源の研究を沒卻し徒らに其末流のみに努力すること、轉じて何の効もなき意。

類語

引決インケツ　斷決ダンケツ　判決ハンケツ　氣決キケツ
壞決クワイケツ　白決ハクケツ　譏決キケツ　溢決イツケツ
闕決クワツケツ　堅決ケンケツ　奏決ソウケツ　評決ヒヤウケツ
勇決ユウケツ　潰決クワイケツ　卽決ソクケツ　策決サクケツ
敢決カンケツ　果決クワケツ　擂決サイケツ　漏決ロウケツ
斬決ザンケツ　披決ヒケツ　聽決チヤウケツ　處決シヨケツ
按決アンケツ　專決センケツ　先決センケツ

【汽】キ

みづけ、水氣、ゆげ、水蒸氣

【汽車】キシヤ 蒸氣力にて軌道を運轉する仕掛の車。

【汽氣】キキ ゆげ、じようき。

【汽笛】キテキ 蒸氣にて鳴らす笛。

【汽船】キセン 蒸氣力にて運轉し疾走する船、蒸氣船。

【汽器】キキ 汽器に同じ。

【汽艇】キテイ 軍艦に附屬する小型の汽船ランチ。

【汽機】キキ 蒸氣を應用せる機械の總稱、蒸氣機關。

【汽罐】キクワン 水を蒸氣に化する仕掛のかま、ボイラー。

【汾】フン

川の名（山西省所在）

【沿】

沿の俗字

【沁】シン

しむ、しみこむ、しみる

【沁痕】シンコン しみこみたるあと。

【沁徹】シンテツ しみこむ、しみとほる。

【沂】ギ キ

川の名（山東省所在、泗水の支流）

【沃】ヨク

❶そゝぐ（水をかけて手を洗ふ）ロさかんなり（盛）ハわかくしてみめよし（壯姣）ニやはらか（柔）木の葉の若く柔かなるさま ホ地味の肥えたること、又其土地へながあめ（霖雨）ト特に「ヨー」と發音して元素の音譯にあてる（沃度）

【沃土】ヨクド 地味のこえたる土地。

【沃日】ヨクジツ おほうなばら、大海。

【沃田】ヨクデン 肥えたる田地。

【沃洗】ヨクセン すゝぎあらふ。

【沃地】ヨクチ 沃土に同じ。

【沃度】ヨード 鹽素に類似する元素の名。

【沃若】ヨクジヤク 鮮美にして艷あること。

【沃衍】ヨクエン 土地肥えて平らかなり。

【沃素】ヨード 沃度に同じ。

【沃野】ヨクヤ 地味の肥えたる田野。

【沃腴】ヨクユ 土地の肥えたること、肥土。

【沃瘠】ヨクセキ 地味の肥えたることゝやせたること、又その土地。

【沃霖】ヨクリン よきあめ、慈雨。

【沃嚙】ヨクチウ 肥えたるはたけ。

【沃盥】ヨククワン 水をそゝぎ手を洗ふ。

【沃饒】ヨクゼウ 地味の肥えて穀物のゆたかにみのる土地。

【沃壤】ヨクジヤウ 沃土に同じ。

【沃化銀】ヨークワギン 沃度と銀の化合物。

【沃度丁幾】ヨードチンキ 沃度をアルコールに溶解せしめし藥液。

【沃度加里】ヨードカリ 沃度とカリウムとの化合物、沃化カリウム。

【沃度仿謨】ヨードホルム 沃度より製したる黃色の防腐劑。

【沃野千里】ヨクヤセンリ 沃土のひろ〳〵とつらなるさま。

類語

衍沃エンヨク　膏沃コウヨク　良沃リヤウヨク　饒沃ゼウヨク
肥沃ヒヨク　汎沃ハンヨク　灌沃クワンヨク　灌沃クワンヨク

【沃】ウン

❶めぐりながるゝさまロ轉流するさま

【沃々】ウンウン 字解を見よ。

【沅】ゲン

川の名（湖南省所在）

【沆】カウ

❶水深く廣々とせるさまロ沆瀣は露の氣或は海の氣

【沆茫】カウバウ 水の廣々として深きさま。

【沆漢】カウカン 前に同じ。

【沆瀣】カウカイ 字解のロを見よ。

【沇】エン イン キ

❶川の名（山東省所在）ロ水が谷間を流れるさま

【沇々】キキ 水の流れゆくさま。

【沇溶】キヨウ 水が谷間を流れゆくさま。

【沈】チン ヂン シン タン

❶しづむ、水底に落ちるロ酒色にふける、迷ふハ思ひつめるニおちぶれて浮ばぬホおぼる（溺）へとゞこほる（滯）ふす（伏）トふかし（深）奥ぶかいさま、又宮殿の奥深いさまチ心のおちつきたる貌リ廣く際涯のない平地、水が干て鹽分の多い澤地、ひかたヌあまみづル支那の古の國名、又姓

【沈心】チンシン 心をしづめ深く考へる。

【沈玉】チンギヨク 玉を水に沈めて水神を祭る禮、又その玉。

【沈正】チンセイ おちつきて正しきこと。

【沈斥】チンセキ ひかた、干潟。

【沈朱】チンシユ 濃き赤色。

【沈伏】チンブク 志を得ず埋れて居ること。

【沈年】チンネン 久しきとし、ながの年月。

【沈々】チンチン タンタン ❶夜のふけゆくさま、又靜かなさまロ宮殿の奥深きさまハ盛んなるさま、又木の茂れるさま。

【沈沒】チンボツ 水中に沈むこと。

【沈降】チンカウ よどむ、沈みおりる。

【沈金】チンキン 漆器に畫を畫がき金粉を入れたるもの。

【沈吟】チンギン ❶かすかに口ずさむロ考へ込みて決せぬこと。

【沈果】チンクワ 沈著にして果斷なること。

【沈勇】チンユウ 落つきて勇氣に富めること。

【沈重】チンチヨウ 落つけるさま。

【沈迷】チンメイ ふかくまよひこむ。

【沈香】チンカウ 香料に用ひる熱帶產の木の名、又その香料。

【沈厚】チンコウ 落つきて物に動ぜぬ貌。

【沈深】チンシン 落つきて考へる。

【沈猜】チンセイ 落つきて疑ひぶかし。

【沈思】チンシ 深くかんがへる。

【沈浮】チンブ しづむことゝうかぶこと、轉じて榮枯盛衰。

【沈魚】チンギヨ 美人の形容、沈魚落雁。

【沈寂】チンセキ 靜かなり、又淋しき貌。

【沈停】チンテイ 沈滯に同じ。

【沈設】チンセツ 海底電線・水雷等を水中に取りつけること。
【沈陰】チンイン 雲霧にとざゝれて今にも雨の降らんとする貌。
【沈研】チンケン 深く物事を研究すること。
【沈翔】チンシヤウ 魚と鳥、水に沈むものと空を飛ぶものゝ意。
【沈淪】チンリン 不仕合なること、溺れ漂ひて深くしづむ。
【沈頓】チントン 心しづみてうかばぬ貌。
【沈酒】チンノン 酒色に耽りおぼるゝこと。
【沈著】チンチヤク 落つきあるさま。
【沈愁】チンシウ 物思ひにしづむさま。
【沈寥】チンレウ さびし、さびしきさま。
【沈酣】チンカン 酒に醉ふ。
【沈痛】チンツウ 深く苦痛を感ずるさま。
【沈憂】チンイウ 沈愁に同じ。
【沈痾】チンア 長の病氣、ながわづらひ。
【沈滓】チンシ 沈みたるをり、沈澱物。
【沈潛】チンセン ㋑心を落つけ考へるさま㋺水底ふかくしづむこと。
【沈隕】チンキン くだり落つ、しづみおつ。
【沈雅】チンガ 沈著にして雅量あること。
【沈邃】チンスヰ 沈深に同じ。
【沈遠】チンエン 思慮などのふかきこと。
【沈痼】チンコ 沈痾に同じ。
【沈醉】チンスヰ 酒の醉ひのまはれること。
【沈滯】チンタイ ㋑沈み滯る、よどむ㋺物事のはかどらぬと㋩官位の昇らぬと。
【沈靜】チンセイ おちつきて靜かなること。
【沈毅】チンキ おちつきありて意志の固きこと。
【沈溺】チンデキ ㋑沈み沒す、沈みおぼれる㋺困難におちいる。
【沈默】チンモク ㋑落つきありて妄りに口を開かぬこと㋺音聲を發せぬさま。
【沈澱】チンデン 水中によどみ沈むこと、又その物。
【沈斷】チンダン 落つきて物事を決定す。
【沈翳】チンエイ ひそみかくれること。
【沈鬱】チンウツ 氣の深くしづむさま、氣がふさぐ。
【沈木】シズミギ うもれぎ、埋木。
【沈丁花】チンチヤウゲ 沈香に同じ。
【沈思凝想】チンシギヤウサウ 深く思案工夫をこらすこと。
【沈魚落雁】チンギヨラクガン 美人の形容。
【沈鹽産レ毒】チンサウフラサンス 智伯が趙襄子の城を水攻にした時城中のかまどは悉く水中に沈みて蛙が生じたる故事。
【沈レ船破レ釜】フネヲシヅメカマヲヤブル 死を決して決戰する覺悟にいふ語。

沈

類語

投沈トウチン　稽沈ケイチン　抑沈ヨクチン　侵沈シンチン
實沈ジツチン　綠沈リヨクチン　浮沈フチン　深沈シンチン
銷沈セウチン　勇沈ユウチン

沉

沈に同じ

沌

トン

㋑物事の未だ分明に成り立たぬさま、判別せぬ狀態㋺ふさがる㋩水の勢の形容㋥めぐるさま（轉）
【沌々】トントン 水の勢を形容する語、又ぐる〳〵めぐる貌。

沍

コ　ゴ　カク　グ

㋑ふさぐ（塞）とづ（閉）又ふさがる㋺こほり、こほる（凍）㋩かれる（涸）
【沍寒】ゴカン 寒くして物の凍りつめること、又凍るほど寒きこと。

沐

モク

㋑髪を洗ふ、かしらをあらふ㋺うるほふ（潤澤）めぐみを受く㋩をさむ（治）㋥官吏の休暇、又ひま、やすみ
【沐洗】モクセン 湯水にて身を清めること。
【沐汗】モクカン 水をあびし如く汗をかく。
【沐雨】モクウ 雨で髪を洗ふ義、風雨を冒して奔走すること。
【沐恩】モクオン めぐみを蒙ること。
【沐浴】モクヨク ㋑湯あみして身を清める㋺めぐみを受けること。
【沐澡】モクサウ 前の㋑に同じ。
【沐濯】モクタク 前に同じ。
【沐櫛】モクシツ 髪を洗ひくしけづる。
【沐髮】モクハツ 髪の毛をあらふこと。
【沐露】モクロ 露にうたれること。
【沐猴而冠】モクコウニシテクワンス 猿が冠をかぶる、人格なくして表面を飾る者。

類語

歸沐キモク　晩沐バンモク　休沐キウモク　雨沐ウモク
梳沐ソモク　櫛沐シツモク　洗沐センモク

沒

ボツ　モツ

㋑しづむ（沈）おぼる（溺）うづまる㋺つくす（盡）悉す、をへる㋩つく、なくなる、をはる（命終る）㋥かくす（匿）かくれる㋭ほろぶ、ほろびる（滅）㋬なし（無）㋮人民の物を官廳に取上げる
【沒了】ボツレウ なくなる、つきる。
【沒入】ボツニフ ㋑昔罪人を政府の奴隸としたことと㋺轉じて人民の物品を政府又は裁判所にて取りあげること。
【沒人】ボツジン 水底にもぐつて物を捕ふる人、潛水夫。
【沒世】ボツセイ ㋑一生を終る迄、生涯㋺何時迄も、永久に。
【沒年】ボツネン 人の死したる年齡。
【沒々】ボツボツ 沈み滅ぶ、沈溺する貌。
【沒收】ボツシウ 沒入の㋺に同じ。
【沒後】ボツゴ 歿後に作る、人の死したるあと、死後。
【沒骨】ボツコツ 畫法の一。
【沒情】ボツジヤウ 人情なし、無情。
【沒論】ボツリン 沈みて浮ばぬさま。
【沒書】ボツショ 雜誌・新聞等に寄せし原稿を掲載せずに置くこと。
【沒落】ボツラク おちいるとほろびる、陷落。
【沒溺】ボツデキ 水中におちて溺れる。
【沒齒】ボツシ ㋑終生、又生涯㋺男子八才女子七才の時の稱。
【沒頭】ボツトウ 專らその事に拘ること。
【沒分漢】ボツフンカン 物の道理のわからぬをとこ、わからずや。
【沒分曉】ボツフンゲウ 前に同じ。
【沒交渉】ボツカウセウ かゝり合はぬこと。
【沒字漢】ボツジカン あきめくら、文盲。
【沒字碑】ボツジヒ 文字を書かざる石碑、轉じて無學の者。
【沒風流】ボツフウリウ 風流でない、殺風景。
【沒常識】ボツジヤウシキ 常識がない、非常識。
【沒意義】ボツイギ 意味なし、理由なし。
【沒趣味】ボツシユミ 面白味がない。
【沒々求活】ボツボツキウクワツ ぐづ〳〵と日をくらすこと。
【沒關心的動作】ボツクワンシンテキドウサ 哲學上の語、自己の快樂・利害・觀念等に對し少しも意を用ゐざる動作。

類語

陷沒カンボツ　掩沒エンボツ　隱沒インボツ　貪沒トンボツ
盜沒タウボツ　淪沒リンボツ　死沒シボツ　游沒イウボツ
顯沒ケンボツ　溺沒デキボツ　覆沒フクボツ　沈沒チンボツ
乾沒カンボツ　埋沒マイボツ　浮沒フボツ　蕩沒タウボツ
混沒コンボツ　抑沒ヨクボツ　漂沒ヒヨウボツ　冒沒バウボツ
滅沒メツボツ　出沒シユツボツ　神出鬼沒シンシユツキボツ

沓

タフ

㋑かさなる、まじりあふ㋺水のよどま

ずして流れる貌㋑むさぼる（貪）㋺怠るさま、ゆるむ、ゆるやか（弛緩）㋩國訓くつ（藉に同じ）

【沓至】タフシ　重なり來るさま、こみあふ。

【沓々】タフタフ　㋑ゆるむさま、ゆるやかなるさま㋺水の流れるさま。

【沓茫】タフバウ　はるかなり、緩く遠き貌。

【沓潮】タフチフ　朝しほと夕しほと相合ふことをいふ。

【沓石】クツイシ　緣の束柱の下に用ゐるいしづゑ。

類語

合沓ガフタフ　雜沓ザフタフ　積沓セキタフ　驕沓ケウタフ

紛沓フンタフ　稠沓チウタフ　貪沓ドンタフ

【沔】ベン　メン

㋑川の名（漢江の上流）㋺水の流れる貌㋩おぼる（溺）

【沕】ブツ

深くかすかなる貌

【沕穆】フツボク　深くかすかなる貌。

【沖】チユウ

沖

㋑むなし（虛）㋺やはらか、やはらぐ（和）㋩ふかし（深）㋥ひゝる、とぶ（飛）㋭いとけなし（幼小）をさなし、又その人へたれさがる貌㋠辭の形容㋡國訓おき（岸より遠く離れた海上）

【沖人】チユウジン　をさない者、こども。

【沖天】チユウテン　空高くのぼること。

【沖々】チユウチユウ　物の垂れ下る貌、又辭の形容。

【沖和】チユウクワ　能く和らぎ穩かなる貌。

【沖氣】チユウキ　天地間の調和せる元氣。

【沖退】チユウタイ　謙遜して高ぶらざる貌。

【沖寂】チユウセキ　奥深くして靜かなる貌。

【沖虛】チユウキヨ　むなし、から。

【沖富】チユウフウ　物事の盛んなるさま。

【沖損】チユウソン　沖退に同じ。

【沖凝】チユウギヨウ　沖和に同じ。

【沖讓】チユウジヤウ　虛心にしてへりくだる。

【沖積土】チユウセキド　水の作用によりて自然に堆積せる土壤。

【沖津風】オキツカゼ　海上を吹く風。

【沖津島守】オキツシマモリ　沖の島の守、島のかみ、島司。

【沖和之氣】チユウワノキ　沖氣に同じ。

類語

幼沖エウチユウ　和沖ワチユウ　謙沖クンチユウ　盈沖エイチユウ

飛沖ヒチユウ　淵沖エンチユウ　虛沖キヨチユウ　寬沖クワンチユウ

爽沖ソウチユウ　深沖シンチユウ　清沖セイチユウ

【沙】サ　セ　シヤ　ジヤ

沙

㋑すな、いさご、まさご、水中の細かい石、すなのある所、川ばた、はま（濱）㋺みぎは㋩すなはら㋥よなぐ、よなげる（汰）㋭梵語シユラ（Sra）の音の訛シヤのあて字

【沙戶】サコ　沙上の家、漁師の家。

【沙木】サボク　杉の異名。

【沙汀】サテイ　水邊の沙原、はま。

【沙汰】サタ　㋑米を水にてよりわけ沙を去る、轉じて物の善惡をよりわける㋺おとづれ、通告㋩うはさ、評判。

【沙石】サセキ　沙と石、まさご。

【沙堀】サクツ　沙とゞろ。

【沙果】サクワ　林檎の異名。

【沙虹】サコウ　鰕の異名。

【沙書】サシヨ　地上に沙にて書畫をかくこと、すながき。

【沙洲】サシウ　すはま、すなはら。

【沙魚】サギヨ　魚の名、さめ、又はぜ。

【沙參】サシン　草の名、つりがね草。

【沙淤】サヨ　沙泥に同じ。

【沙鹵】サロ　しほけあるすな地。

【沙渚】サシヨ　すなはま、沙原。

【沙棠】サタウ　果樹の一、材は造船用として使用さる。

【沙漠】サバク　大なる沙原。

【沙窖】サチヨ　海產植物の一、うみやなぎ。

【沙蒄】サシ　海中に突出でたる沙原。

【沙糖】サタウ　甘蔗より製する甘味料、砂糖

【沙鵝】サジユン　雁の異名。

【沙蟲】サチウ　射影に同じ。

【沙礫】サレキ　すなと小石、じやり。

【沙羅】サラ　娑羅に同じ。

【沙壤】サジヤウ　すなはら、すなぢ。

【沙門】シヤモン　僧侶、出家。

【沙金】シヤキン　沙の形にて現はれる黃金。

【沙狗】シヤク　すながに。

【沙筆】シヤヒツ　かすりふで。

【沙場】シヤジヤウ　すなはら、又戰場。

【沙漏】シヤロウ　砂を少しづゝ落して時間をはかる器、すなどけい。

【沙塵】シヤヂン　すなほこり、すなけむり。

【沙鍋】シヤクワ　素燒土器の一、ほうろく。

【沙彌】シヤミ　佛に歸依して斷髮せる者、初心の僧。

【沙鷺】シヤサン　沙泥中に住む蟲、ごかい。

【沙仔魚】サシギヨ　臺灣にて鱶のこと。

【沙羅樹】サラジユ　とちのきの異名。

【沙中偶語】サチユウグウゴ　漢の高祖が功臣二十余名を封じで論功が其他の者に及ばなかつた時諸兵士が沙上に集つて謀反の相談をせし故事に因み臣下がひそひそと謀反の相談をすること。

【沙羅雙樹】サラサウジユ　釋迦が此の木の下にて涅槃に入りたりといふ樹。

類語

素沙ソサ　長沙チヤウサ　風沙フウサ　汰沙タサ

平沙ヘイサ　泥沙デイサ　流沙リウサ　銀沙キンサ

白沙ハクサ　陶沙タウサ　土沙ドサ

【沚】シ

なぎさ、みぎは、汀渚、小渚

【沛】ハイ

沛

㋑地名（今の江蘇省沛縣）㋺雨のさかんなるさま㋩大なるさま、盛大なるさま㋥さは、水中に草の生ずる所㋭離れること、根據を失ふこと、流離、又倒れること㋬すみやか、はやし（疾）

【沛乎】ハイコ　盛んにして大なり。

【沛艾】ハイガイ　あら馬、たけき馬。

【沛然】ハイゼン　㋑物事のさかんなるさま㋺雨のさかんに降るさま、轉じて惠みの下る義。

【沛澤】ハイタク　さは、草の生えてゐる水地。

【沫】バツ　マツ

沫

㋑あわ、うたかた、みなわ、あぶく㋺つばき、よだれの類㋩水のとばしり、みづたま㋥ゆばな（湯華）

【沫沸】バツヒ　あわだつさま、又よだれの流れること。

【沫泽】マツシ　みづあか、あぶく。

類語

噴沫フンバツ　血沫ケツバツ　蜜沫ミツバツ　沸沫フツバツ

浮沫フバツ　汎沫ハンバツ　遊沫ユウバツ　濺沫センバツ

漂沫ヘウバツ　泡沫ハウマツ　旋沫センバツ　迸沫ハウバツ

珠沫シユバツ　怒沫ドバツ　流沫リウバツ

【沫】バイ　メ　マイ

沫

㋑地名（今の河南省洪縣）㋺うすあかり（微明）

沮 ショ ソ

㋑はゞむ、くひとめる、勢がなくなるさまたげる㋺しめり氣の多い土地㋩川の名（陝西省鄜州所在）又所の名、又人名

【沮止】ソシ　妨げとめる、又そのこと。
【沮色】ソショク　心の逸まざる顏付。
【沮洩】ソセツ　もれる、もれ出る。
【沮抑】ソヨク　とゞめおさへる、抑止。
【沮洳】ソジョ　低くて濕氣の多き土地。
【沮岸】ソガン　けはしきゝし、斷崖。
【沮衂】ソヂク　はゞみくぢける、勢を失ふさま。
【沮害】ソガイ　さまたげ害する。
【沮索】ソサク　はゞみくじける。
【沮格】ソカク　さゝへはゞむ、とゞめる、遮り支へる、防止する。
【沮敗】ソハイ　沮止せられてやぶれる。
【沮喪】ソサウ　氣のくじけるさま、氣力を失ふ。
【沮誹】ゾヒ　命令に服從せずして反つてのしること。
【沮慄】ソズキ　氣がくじけて恐れるさま。
【沮散】ソサン　遮られて四方に散り失る。
【沮菅】ソシ　氣おくれして恐れる。
【沮澤】ソタク　沮洳に同じ。
【沮駭】ソガイ　さまたげる、邪魔する。
【沮膽】ソタン　心氣の喪失する義。
【沮勸】ソクワン　惡をとゞめ善をすゝむ。
【沮壞】ソクワイ　くぢけやぶれる、くづれる。
【沮慊】ソセフ　沮慄に同じ。

沱 タ ダ

㋑川の名（揚子江の一支流）㋺涕の流れる貌㋩大雨の降る貌

【沱若】タジャク　涙のながれ落ちるさま。

河 カ ガ

㋑川の名（黃河の略稱）㋺かは（川の大なるもの）㋩あまのがは、天漢

【河上】カジャウ　かはかみ、川の上。
【河干】カカン　支那の黃河のほとり、又かはゞた。
【河口】カコウ　川の海にそゝぐ所、河口。
【河心】カシン　川のまんなか、中流。
【河目】カモク　甚しくゝぼんでゐる目。
【河洛】カラク　㋑黃河と洛水の二大河㋺河圖洛書の略。
【河流】カリウ　川のながれ、川すぢ。
【河海】カカイ　川とうみ。
【河朔】カサク　黃河の北方、河北の地。
【河畔】カハン　川のほとり、川ばた。
【河魚】カギョ　淡水にすむ魚、かはうを。
【河伯】カハク　川の神、水神。
【河系】カケイ　川の本流と支流全體の稱。
【河身】カシン　川すぢの水のある部分。
【河岸】カガン　川のふち、かし。
【河東】カトウ　支那黃河の東の地、即ち戰國時代の魏國。
【河柳】カリウ　植物の名、ぎよりう。
【河脈】カミヤク　かはすぢ、河系。
【河馬】カバ　アフリカ南部に產する大獸の名。
【河域】カキキ　河系に同じ。
【河梁】カリヤウ　河にかけたる橋梁。
【河鹿】カジカ　蛙の一種。
【河豚】カトン　有毒なる海魚の一、ふぐ。
【河童】カドウ　獸の名、かつぱ。
【河雲】カウン　あまのがは、銀河。
【河源】カゲン　河川のみなもと、水源。
【河溝】カコウ　川と溝、又ほりわり。
【河漢】カカン　あまのがは、天漢、銀河。

【河靈】カレイ　水の神。
【河鼓】カコ　牽牛星の異名。
【河嶽】カガク　支那の黃河と五嶽。
【河潤】カジユン　おめぐみ、おかげ、恩惠。
【河濱】カヒン　黃河のほとり。
【河貝子】カバイシ　淡水に住む蟲の名、にな。
【河梁別】カリヤウノベツ　人を見送り橋のたもとまで行つて別れること、轉じて離別訣別等の意。
【河原者】カハラモノ　德川時代に芝居の役者・非人・穢多などをいへる語。
【河不レ出レ圖】カトライダサズ　聖代には黃河より河圖が出たが今は亂世にてその奇瑞がないとの嘆息の意。
【河原乞食】カハラコジキ　德川時代に俳優のことを卑しめていひし語。
【河東三鳳】カトウサンブウ　人の兄弟を賞していふ。
【河魚之疾】カギヨノシツ　水中の魚は表面より見えざるより轉じて腹中の病氣の義。
【河梁之吟】カリヤウノギン　人を送る詩の意。
【河漢之言】カカンノゲン　天河の如くとりとめもなき言葉。
【河圖洛書】カトラクショ　河圖は黃河より出でし易の卦の根本となつた圖、洛書は洛水より出でし神龜の背にある文にて洪範の基礎となりしもの。
【河東獅子吼】カトウノシシク　黃河東岸の地で獅子がほえる意、轉じて妻がゞみ〳〵となり立てるのを夫が畏れるに喩ふ。
【河海不レ擇二細流一】カカイハサイリウヲエラバズ　大海は小川の水をも捨てず吸收する如く度量の大なる人は小人物の言と雖も容れ用ゐること。

類語

山河サン　銀河ギン　天河テン
星河セイ　馮河ヒヨウ　明河メイ　懸河ケン

沴 レイ テン デツ

㋑そこなふ（害）やぶる㋺とゞこほる、よどむ㋩あしき氣（妖氣）㋥みだる（亂）

【沴氣】レイキ　わざはひの象ある惡氣。

沸 ヒ フツ

㋑わく、わかす、わきたつ、にえたつ㋺盛んにおこりたつさま㋩水が地上にあふれ出る、噴水する

【沸子】フツシ　膳物の一、あせぼ、あせも。
【沸井】フツセイ　わきいづるゐど。
【沸水】フツスイ　わきあがる水、噴水。
【沸乎】フツコ　むつとして怒るさま。
【沸沫】フツマツ　ぶつ〳〵と泡だつと。
【沸涔】フツクワン　水が勢よく噴出すると。
【沸湯】フツトウ　わきたちたるゆ、にえゆ。
【沸熱】フツネツ　わきあがつてあつくなる。
【沸瘡】フツサウ　沸子に同じ。
【沸潰】フツクワイ　波がさかまき起つて堤防のきれること。
【沸騰】フツトウ　わきあがる、わきたつ、又人のさわぎ立つさま。
【沸騰點】フツトウテン　水のにえたつ溫度（攝氏寒暖計の百度、氷點の對）。
【沸騰散】フツトウサン　炭酸曹達と酒石酸とを調和し之れに清水をそゝぎて泡立たしめしものにて胃病の藥となる。

油 イウ ユ

㋑あぶら（可燃性の液體）㋺和ぎつゝしむ貌㋩禾穀や草などのつや〳〵と勢のよきさま㋥雲の盛んに起るさま㋭水の靜かに流れるさま㋬落つきあるさま

【油々】イウイウ　㋑水の靜かに流れるさま㋺やはらぎつゝしむさま㋩ゆつくりと落ちついて居るさま㋥穀物又は草などの勢のよいさま。

【油紙】イウシ　あぶらを塗りたる紙、あぶらがみ。
【油然】イウゼン　㋑雲の盛んに起るさま㋺進行せざるさま、又氣に止めぬ貌。
【油絹】イウケン　かつば、油衣、合羽。
【油衣】イウイ　あまがつば、油絹。
【油雲】イウウン　雨をふくむ雲、あまぐも。
【油煙】ユエン　油が燃えて生ずるすゝ。
【油團】ユトン　油紙にて製したる座蒲團。
【油斷】ユダン　王が油の這入つた鉢を臣下に持せ其一滴たりともこぼす時は生命を斷つべしと嚴命し後人をして劍を拔いて其後に附隨せしめたならば前の臣下は必ず注意を重ねて鉢を持ち續けるであらうとの涅槃敎の譬喩の敎へに因み氣をゆるすことにいふ。
【油茅】フブラガヤ　禾本科の草本にて秋初黃赤色の穗を出す。
【油桐】ユブラギリ　木の名、果實より桐油を取り傘・合羽などに塗る。
【油繪】ユブラエ　亞麻仁油にてねつた繪具を以て描く西洋風の繪。
【油斷大敵】ユダンタイテキ　事をなすに氣をゆるすことは恰も大敵を控えたる如く恐るべしとの義。

類語

香油カウ　麻油マユ　膏油カウユ　石油セキユ

沼 セウ

【沼上】セウジヤウ　ぬま（水のたまりたる處）いけ、さはいけ、沼畔。
【沼池】セウチ　いけ、ぬま、さは。
【沼氣】セウキ　池・沼等の泥の中から發する燃性の瓦斯、メタン。
【沼澤】セウタク　沼と澤。

類語

巨沼キヨセウ　清沼セイセウ　淨沼ジヤウセウ　臺沼ダイセウ
淵沼エンセウ　苑沼エンセウ　圓沼エンセウ

沽 コ

㋑うる（賣）㋺かふ（買）㋩酒をうるものさかや㋥おろそか（粗略）
【沽名】コメイ　己の名譽を擧げんことにつとめる義。
【沽卻】コキヤク　うりはらふ、賣卻。
【沽券】コケン　うりてがた、賣渡證、價値。
【沽酒】コシユ　酒を賣る、又坊間にて買ひたる酒。
【沽販】コハン　うりかひ、あきなひ、賣買。
【沽價】コカ　代價、あたひ、ねだん。
【沽賣】コバイ　ひさぐ、うる、商賣。

治 チ ヂ

㋑をさむ（政を布き民を統御す）たゞす（亂れざるやうにす）取しらべる、しづめる㋺をさまる㋩をさめ、をさまり㋥くらぶ（校）かんがふ㋭監督する、始末する、しづめる㋬うつたへを聽く、又その決定、宣告㋣政治の才能㋠道敎の家の靜室㋡地方長官の居る處㋢まつりごと、いさを（功績）
【治人】チジン　民を治める者、王者・治者。
【治下】チカ　支配するところ、配下。
【治化】チクワ　政を布き民を善導すること。
【治水】チスヰ　水をゝさめ、水害を防ぐ。
【治世】チセイ　其の時代をゝさめる、よく治まれる時代。
【治內】チナイ　㋑後宮、又は家室を取り締まる㋺身體の病氣を醫療する㋩國內を取りしまる。
【治田】チデン　田地を整理してたがやす。
【治平】チヘイ　世の中がよく治りて平安なること、太平。
【治兵】チヘイ　兵を調練すること。
【治生】チセイ　生活の道を立てる。

【治安】チアン　世の中がよく治りて平かなること、治平安穩。
【治邦】チハウ　國家を治めとゝのへる。
【治亂】チコウ　治亂に同じ。
【治定】チヂヤウ　治め定める、整理する、きまりをつける。
【治具】チグ　㋑物事の準備をなす㋺政治を行ふに必要なる事柄。
【治法】チハフ　國家ををさめる方法。
【治典】チテン　國家を治める總ての法則。
【治所】チシヨ　政務を行ふ所。
【治者】チシヤ　人民を治める者、王者。
【治要】チエウ　國家を統治するに大切なる事柄、治國の要。
【治國】チコク　治邦に國じ。
【治理】チリ　政事をとゝのへをさめる。
【治產】チサン　產業をゝさめること。
【治第】チテイ　邸宅をこしらへること。
【治亂】チラン　世のをさまることゝみだれること。
【治罪】チザイ　犯罪者を處分すること。
【治强】チキヨウ　國家が治つて兵がつよい。
【治署】チシヨ　役所のこと。
【治最】チサイ　政道が第一等なりとの意。
【治辨】チベン　物事を整理し分別すること。
【治縣】チケン　縣の政事を行ふ、又知事。
【治績】チセキ　善政を施したる功績。
【治療】チリヤウ　病氣をゝさめいやす、療治。
【治癒】チユ　病傷のいえること、なほる、平癒。
【治體】チタイ　政治の方法、施政の活用。
【治部省】ヂブシヤウ　古の八省の一にして貴族の分限を處理し僧尼又は外藩に關することを司りし役所。
【治外法權】チグワイハフケン　外國にありて其所在國の法律に制せられず自國の法律に支配せられる特權、又その特權の行はれる土地。
【治安妨害】チアンバウガイ　社會の治平安寧を妨害すること。
【治國平天下】チコクヘイテンカ　國を治め天下を平穩にすること。
【治レ絲棼レ之】イトヲツカサノチコレヲフンス　絲を治めるには和緩を先とし若し之を棼すれば益々亂れて治め難しとの意。

類語

按治アンチ　杜治トチ　自治ジチ　政治セイチ
邦治ハウチ　內治ナイチ　外治グワイチ　文治ブンチ
理治リチ　聖治セイチ　姦治カンチ　靜治セイチ

沾 セン テン チフ

㋑うるほふ、うるほす（潤）ぬらす、ひたす㋺こやす、こえる（肥）涵養す㋩ます（益）そふ（添）㋥輕薄なるさま
【沾染】センゼン　善きに惡しきにうつりそまること。
【沾洽】センカウ　廣くゆきわたる、うるほひ及ぶ。
【沾恩】センオン　めぐみをうけること。
【沾補】センポ　欠けたるをそへ補なふと。
【沾漸】センゼン　うるほふ、うるほす。
【沾潤】センジユ　雨にぬれる、ずぶぬれ。
【沾汚】テンヲ　濡れ汚れる、ぬらし汚す。
【沾濕】センシツ　うるほす、しめらす、濕潤。
【沾々】テンテン　㋑輕薄なるさま㋺うるほすさま。
【沾薄】テンパク　汁多く味の淡泊なること。

沿 エン

㋑そふ（水流又は川すぢにつきしたがふ）㋺したがふ（循）よる（因）㋩ありきたり（物事の從來する所）
【沿泛】エンハン　流にしたがひて舟をうかべる、轉じて船で川を下る。
【沿革】エンカク　昔より今までの事物のうつりかはり。

【沿岸】エンガン ㊀きし、岸にそふ、又その所㊁陸地に沿ひ水あるところ、いそ、いそばた。㊂

【沿道】エンダウ 通路の兩側、みちばた。

【沿線】エンセン 鐵道線路等にそひてあること、又そのところ。

【沿海】エンカイ 海にそふ、海にそふ陸地。

【沿習】エンシフ 古よりのならはせ。

【沿襲】エンシフ 昔からの慣例に因る、因襲。

〔況〕キヤウ

㊀いはんや、まして、なをさら（上を承けて下を說く辭にして多くは下に乎哉を附して「をや」と讀ましむ）㊁たとふ（譬）㊂こゝに（茲）㊃たまもの（貺）㊄たまふ（賜）くだされる㊅ありさま、おもむき㊆他人の訪ね來るにいふ謙辭

類語

景況キヤウ　來況ライキヤウ　情況ジヤウキヤウ　近況キンキヤウ

〔泄〕エイ セツ

㊀もる、漏洩する、內容物が外にぬけ出る、內部の事情が外部に露顯する㊁もらす㊂のぞき去る、除去する、おしだす㊃ゆるやかなるさま

【泄々】エイエイ ゆるやかなるさま。

【泄散】エイサン もれ出でゝちり〳〵にわかる、もらしちらす。

【泄痢】エイリ 下痢の病、腹くだし。

【泄氣】セツキ 放屁、おなら。

【泄澤】セツタク 雲母の異名。

【泄脫】セツダツ もれる、もれいづる。

【泄憤】セツブン いかりをもらす、悲憤を唱へる。

【泄瀉】セツシヤ くだりばら、腹くだし。

【泄露】セツロ もらしあらはす、もれあらはる、ばれる。

類語

下泄カセツ　分泄ブンセツ　發泄ハツセツ　漏泄ロウセツ
歐泄オウセツ　慢泄マンセツ　滲泄シンセツ
通泄ツウセツ　道泄ダウセツ　決泄ケツセツ

〔泗〕シウ

およぐ（浮行）水の上に浮いておよぐ

【泗兒】シウジ 水泳の達者なる者。

〔泆〕イツ

㊀あふる（溢）こぼれる㊁みだら（淫）わがまゝ、ほしいまゝ（恣）

〔泉〕セン

㊀いづみ（水の湧き出るもの、又其所、水流のみなもと）㊁ぜに（貨幣）

【泉下】センカ よみぢ、めいど、黃泉。

【泉水】センスキ いづみ、又庭の池。

【泉布】センプ ぜに、金錢（布は錢、又布き行はれる意）。

【泉石】センセキ いづみと石、山水の景色。

【泉府】センプ 官費にて不用物を買上げ之を原價にて賣下げる役所。

【泉幣】センペイ 泉布に同じ。

【泉源】センゲン 水のみなもと。

【泉龍】センリヤウ 蟲の名、とかげの異名。

【泉壤】センジヤウ 地下、泉下の地、草葉のかげ。

類語

淵泉エン　巖泉ガン　苦泉タイ　遙泉エウ
野泉ヤセン　迸泉ハウセン　肥泉ヒセン　立泉リフセン
天泉テンセン　寒泉カンセン　冽泉レツセン　涼泉リヤウセン
飛泉ヒセン　溪泉ケイセン　寒泉カンセン　谷泉コクセン
旋泉センセン　美泉ビセン　醎泉カンセン　湯泉タウセン
溫泉オンセン　桶泉ヨウセン　黃泉クワウセン　深泉シンセン

〔泊〕ハク

㊀とまる、船がとゞまる、やどる、一時身をよせる㊁とめる、とまり、船のとまる所㊂やどり、やどや（旅舍）㊃しづかなるさま㊄利慾に迷はぬさま

【泊乎】ハクコ しづかなるさま。

【泊如】ハクジヨ ㊀利慾に迷はぬさま㊁靜かなるさま。

【泊船】ハクセン 舟が碇をおろす、船をつける、ふなどまり。

類語

虛泊キヨハク　恬泊ケツパク　羇泊キハク　厚泊コウハク
寂泊セキハク　玄泊ゲンハク　栖泊セイハク　流泊リウハク
棲泊ヘイハク　停泊テイハク　碇泊テイハク　繫泊ケイハク
淹泊エンハク　憩泊ケイハク　旅泊リヨハク　止泊シハク
駐泊チユウハク　宿泊シユクハク　夜泊ヤハク

〔泌〕ヒ ヒツ

㊀ながれる、ながれ、はやきながれ（俠流）又泉がわきて流れる貌㊁しむ（滲）にじみ出る

〔泐〕リヨク

㊀石がへげて碎ける㊁てがみ（書簡）

〔泓〕ワウ

㊀ひくし、水のひくゝ深き貌㊁ふち（淵）㊂水の淸きさま㊃川の名（河南省柘城縣所在）

【泓池】ワウチ ためいけ、池。

【泓々】ワウワウ 水の深き貌、又水の淸き貌。

【泓涵】ワウカン 水の深きさま。

【泓量】ワウリヤウ 水がふかくしてその量の多きさま。

【泓滯】ワウテイ 水が低地にたまりて流れざるさま。

【泓澄】ワウチヨウ 水の淸くすめるさま。

〔泔〕カン

㊀しろみづ、米のとぎみづ㊁にる（煮）

〔法〕ハフ ホフ

㊀のり、かた、てほん、おきて、道理禮儀㊁律令、刑罰㊂てだて、方法、方術㊃のつとる、模範とする、かたどる㊄除法の割る方の數、除數㊅佛教、佛道、佛法㊆佛蘭西の貨幣フラン（Frane）のあて字

【法人】ハフジン 自然人以外の各種團體に對して自然人と同樣に權利義務の主體たることを認めたるもの。

【法令】ハフレイ 法律と命令。

【法文】ハフブン 法令の文章、法律の文面。

【法外】ハフグワイ ㊀程度をこえる㊁理屈に合はぬ。

【法式】ハフシキ のり、かた、きまり、形式。

【法印】ハフイン ㊀最高の僧侶、又修驗者㊁佛法をひろめること。

【法吏】ハフリ 裁判官、法官。

【法衣】ハフイ 僧侶のきもの、ころも。

【法臣】ハウシン 法律をよく守るけらい。

【法廷】ハフテイ 法官が裁判をする場所。

【法言】ハフゲン いましめとなるべき言葉。

【法治】ハフチ 法律によつて治めること。

【法典】ハフテン 同一性質の規則を多く蒐集して一の法律と成したるもの、のり、おきて。

【法例】ハフレイ 各種の法令を通じて適用せらるべき概理を說明するもの、法に關する凡例。

【法定】ハフテイ 法律によつて定められたる事柄、又そのさだめ。

【法案】ハフアン 法律の案文。

【法相】ハフシャウ 司法大臣の別稱。
【法炬】ハフキョ のりのともしび、法燈。
【法帖】ハフヂフ 習字の手本、法書。
【法界】ハフカイ ㋑佛教徒のなかま㋺法律家の社會㋩現象と本體の全部。
【法官】ハフクワン 裁判官、法吏。
【法服】ハフフク ㋑規定によつて定められた衣服㋺法廷にて著用する法官の正服㋩僧侶の著衣、ころも。
【法制】ハフセイ おきて、のり、又之に關する學問。
【法律】ハフリツ 國民の遵守すべき掟、法度國法。
【法削】ハフサク 法律を犯されて其の效力を失ふこと。
【法悅】ハフエツ 佛教を信仰するたのしみ。
【法科】ハフクワ 法律の條項、又は法律學の學科。
【法故】ハフコ おきてとしきたりのこと、法律故事。
【法則】ハフソク 人の從ひ守るべき規則。
【法師】ハフシ ホウシ 僧侶のこと。
【法度】ハフド ハウト 法則、制度、禁令。
【法座】ハフザ 正しきゐどころ、又佛教の道を說く處。
【法被】ハッピ 勞働者の衣服、はつぴ。
【法條】ハフデフ 法律法令等の條文。
【法家】ハフカ 法律に通じたる學者。
【法院】ハフヰン 朝鮮總督及び臺灣總督府の裁判所。
【法馬】ハフバ はかりのふんどう。
【法書】ハフショ 法制のかきもの、又習字手本。
【法酒】ハフシュ 禮法によるさかもり。
【法貨】ハフクワ 國法に基いて流通せしむる貨幣、又フランス貨幣。
【法曹】ハフサウ 裁判官、轉じて法律家。
【法規】ハフキ 法律と規則、又人民の權利義務を規定せるもの。
【法理】ハフリ 法律の原則。
【法程】ハフテイ 法則、法式に同じ。
【法道】ハフダウ 道理にのつとり從ふ。
【法術】ハフジユツ 法律にて國家を治める方法、政策。
【法敎】ハフカウ のつとりならふ、手本としてならふ。
【法禁】ハフキン おきて、禁止のおきて。
【法衙】ハフガ さいばんしよ。
【法義】ハフギ おきての筋、法律の道理。
【法語】ハフゴ ㋑戒めとなることば㋺法律を說明せる書物。
【法網】ハフマウ 法律のあみ、罪人を捕へて逃がさぬこと魚の網にかゝるが如きよりいふ、法律。
【法輪】ハフリン 佛法に同じ。
【法學】ハフガク 政治・法律・經濟の學問、法律學。
【法駕】ハフガ 天子の乘物。
【法憲】ハフケン おきて、法典。
【法經】ハフジヤウ 法律に照してたゞす。
【法體】ハフタイ ㋑僧侶のすがた、僧體㋺宇宙の萬有の眞相。
【法職】ハフショク 法律をつかさどる官職。
【法籍】ハフセキ 法律書。
【法力】ホフリキ 佛法の力。
【法王】ホフワウ ㋑孝謙天皇の時道鏡に授け給ひし位㋺羅馬教の主權者㋩佛法のかしら、ほとけ、法主。
【法主】ホフシュ ホッス 前の㋩に同じ。
【法名】ホフメイ 人の死後佛式に依りてつけたる名。
【法身】ホフシン ほとけの道をさとりたるからだ、佛の本體。
【法戒】ホフクワイ いましめとてほん。
【法雨】ホフウ 佛の惠みの厚きを雨の萬物をうるほすに喩へていふ。
【法事】ホフジ 佛法上の事がら、又佛法にて行ふまつり。

【法門】ホフモン 佛法に入る道。
【法皇】ホフワウ 佛門に入らせられた太上天皇。
【法海】ホフカイ ほとけのみち、佛道。
【法偈】ホフゲ 教法を說く佛家の詩詞。
【法眼】ホフゲン 佛法にて悟道せしこと、又僧の位、佛印につぐもの。
【法筵】ホフエン 佛法を說く所。
【法會】ホフエ ㋑佛事にて行ふまつり㋺佛法をときて人を集めること。
【法話】ホフワ 佛道に關する話、說教。
【法號】ホフガウ 法門に入りたる人にその宗門にて授くる名。
【法談】ホフダン 佛道に關する話、說教。
【法器】ホフキ 佛の弟子となるに堪へ得る器量。
【法燈】ホフトウ ホウトウ のりのともしび（燈火の闇を照すに比して言ふ）又佛家にて學に長じたる人。
【法樂】ホフラク ㋑佛法を信ずるたのしみ㋺氣保養、道樂。
【法橋】ホフケウ ㋑法眼につぐ僧位㋺佛教により衆人を濟度すること。
【法螺】ホラ 海產貝の一、ほらがひ、轉じて徒らに大言壯語すること。
【法類】ホフルヰ 同宗旨の僧侶の互に相呼ぶ稱呼。
【法華】ホッケ 日蓮上人の開きたる宗門、又佛經の名。
【法治國】ハフチコク 行政機關の臣民に對する關係が一定の法規によつて定つた狀態にある國。
【法制局】ハフセイキヨク 內閣に直屬して法規の立案及びその改廢修正に關する事務を掌る役所。
【法律案】ハフリツアン 法律の草案、天皇の御裁可ありて後法律となるもの。
【法語言】ハフゴノゲン 正しく論す言語。
【法親王】ハフシンワウ 出家したる後にて親王の宣下を受けられし皇族。
【法華宗】ホッケシウ 日蓮大師が法華經に基きて立てし宗派。
【法定利率】ハフテイリリツ 法律によつて定められたる利子の割合。
【法定果實】ハフテイクワジツ 物の使用の對價として受くべき金錢其他の物品。
【法律行爲】ハフリツカウヰ 私法上の效果を生ぜしめんとする意思の表示。
【法權主義】ハフケンシユギ 法王の權力を重視して一國の政治にも干與せしむる主義。
【法定積立金】ハフテイツミタテキン 會社などの計算に於いて利益金の或部分を法律の規定によりて積立てるもの。

訓讀

【法を撓む】撓レ法 はふをたむ 法律を濫用すること。
【法を曲ぐ】曲レ法 はふをひまげ 賄賂をとつて法律をまげ不正を行ふこと。

軍法グンパフ　作法サハフ　立法リツパフ　制法セイハフ
明法メイハフ　兵法ヘイハフ　文法ブンパフ　算法サンパウ
佛法ブツパウ　峻法シユンパフ　嚴法ゲンパフ　舊法キウハフ
故法コハフ　遣法ケンハフ　聖法セイハフ　僞法ギハフ
眞法シンパフ　心法シンパフ　妙法メウハフ　護法ゴハフ
筆法ヒツパフ　國法コクハフ　書法シヨハフ　刑法ケイハフ
古法コハフ　憲法ケンパフ　獄法ゴクハフ　王法ワウハフ

泗 シ

㋑川の名（山東省所在）㋺はなしる、水ばな
【泗上】シジヤウ 泗川のほとりの義、孔子が敎をときしところ、轉じて孔門。
【泗朱】シシユ ㋑泗川と朱水㋺孔子の學。

泙 ハウ

水勢の盛んなるさま、又そのこゑ

【泮湃】ハウハイ　水辭の盛んなるさま。

泚 セイ

㋑きよし、水清し㋺あざやかなる貌㋩汗の出づる貌

泛 ハン ホン ホウ

㋑うかぶ(浮)㋺ひろし(汎)㋩くつがへす(乘者をひつくりかへす馬の義にて常規に從はざる英雄に譬へて云ふ)

【泛宅】ハンタク　舟の異稱。

【泛々】ハンハン　㋑舟の浮べる貌㋺舟のくつがへる貌㋩微少なる貌。

【泛使】ハンシ　海を渡り來る他國の使者。

【泛浸】ハンシン　たゞよはす、ひたす、たゞよひゝたる。

【泛溢】ハンイツ　水が廣くあふれるさま。

【泛漾】ハンヤウ　たゞよふこと、たゞよひ流れるさま。

【泛漲】ハンチヤウ　水がみなぎり廣がる貌。

【泛稱】ハンシヨウ　範圍をひろく指して稱ふる意、又其のとなへ。

【泛覽】ハンラン　あちこちめをとほしみる。

【泛菊會】ハンキククワイ　陰曆九月九日菊花を酒にうかべて飲む會。

【泛駕之馬】ハンガノウマ　宇儕の㋩を見よ。

泜 テイ シ チ

川の名(胡盧河の古名、直隸省所在)

泝 ソ

㋑さかのぼる(溯)流に逆ひのぼる㋺泝斗は水をくむます　水流をさかのぼることゝながれにそふて下ること。

【泝洄】ソククワイ　流をさかのぼる。

【泝流】ソリウ　流に遡ること。

【泝游】ソイウ　河流をくだること。

泠 レイ

㋑川の名㋺水又は風の清らかなる聲㋩音樂師(伶に通ず)㋥風の和らぐさま

【泠人】レイジン　伶人に通ず、樂官。

【泠毛】レイマウ　さきのもつれ結べる毛。

【泠々】レイレイ　㋑水又は風の聲㋺清くすゞしきさま㋩音聲の盛んなるさま。

【泠官】レイクワン　寒職と同じく卑き職をいふ。

【泠風】レイフウ　おだやかに吹く風。

【泠冽】レイレツ　水のひやゝかなること。

【泠然】レイゼン　㋑輕妙なる貌㋺きよき貌。

泡 ハウ

㋑あわ、水上に浮ぶあわ、うたかた、あぶく(浮漚)㋺水の流れる貌、又水のわき出るさま、その聲㋩盛んなるさま

【泡幻】ハウゲン　あわとまぼろし、はかなきものに喩ふ。

【泡々】ハウハウ　水の湧き出るさま。

【泡沫】ハウマツ　あわ、あぶく、轉じて儚きものに譬へていふ。

【泡盛】ハウセイ　燒酎の一、あわもり。

【泡沒】ハウシウ　物の盛んにして多きさま。

【泡影】ハウエイ　水の泡と物の影、極めて儚ないものに譬へる語。

【泡劑】ハウザイ　ふり出しぐすり。

【泡濕】ハウシツ　しめしうるほす、しめりうるほふ。

【泡沫會社】ハフマツクワイシヤ　基礎薄弱にして泡の如く消滅する會社。

波 ハ

㋑なみ(浪)㋺波の如く起伏するもの㋩平穩ならざるさま㋥文章の起伏抑揚等の狀勢㋭水面の一點より環狀の波が四方に傳はり行く現象㋬なみたつ、波がおこる㋣うごく、動搖する㋠目つき、眼光㋡波の如く傳はり行く㋢亞細亞洲の一國の名、波斯(Persia)の略

【波及】ハキフ　次第〳〵にさしひゞきて傳はること。

【波心】ハシン　波の輪のまんなか、波の中、又水心。

【波光】ハクワウ　なみの色。

【波臣】ハシン　なみのけらいの意にて魚の異稱。

【波底】ハテイ　みなそこ、波のなか。

【波流】ハリウ　水のながれ、轉じて物事の變轉極りなきさまをいふ。

【波浪】ハラウ　なみ、浪波。

【波紋】ハモン　波のあや、波の如き模樣。

【波動】ハドウ　㋑なみの動き㋺又波の如く上下に起伏しつゝ進むこと㋩上下・前後又は左右に震動しつゝ進む運動(物理學上の語)。

【波菜】ハサイ　はうれんさう。

【波際】ハサイ　なみうちぎは、又波の間。

【波蕩】ハタウ　ゆれうごきてしづかならざるさま。

【波羅】ハラ　虎の異名。

【波濤】ハタウ　おほなみ、大波。

【波瀾】ハラン　㋑波は小なみ、瀾は大なみ㋺事柄の起伏、又はもめごと、葛藤等の意㋩文章の勢ひの際立つて動いてゐる所、文勢の生動。

【波靈】ハギヨ　いけす、魚を養ふ所。

【波枕】ナミマクラ　船中に眠る、船路の旅を重ねる、航海すること。

【波止場】ハトバ　水中に築き出したるどて

【波よけ】水中に築き出したるどて

【波斯草】ハシサウ　波菜に同じ。

【波稜菜】ハリヨウサイ　前に同じ。

【波羅蜜】ハラミツ　㋑果實の一種㋺彼岸に到ること、生死を脫し悟りを開くこと。

【波羅蜜多】ハラミツタ　波羅蜜の㋺に同じ。

類語

煙波エン　風波フウ　濤波タウ　洪波コウ
奔波ホン　瀾波ラン　恩波オン　連波レン
隆波リウ　紐波ヂウ　小波セウ　月波ゲツ
銀波ギン　眼波ガン　碧波ヘキ　翠波スイ
秋波シウ　金波キン　平波ヘイ　微波ビ
餘波ヨ　春波シユン

泣 キフ

㋑なく、なき、なみだす、哭す㋺國訓なき(苦勞、うきめ)わび(謝罪の意)かこちごと(愚痴)

【泣血】キフケツ　ちのなみだ、悲哀の情の非常なるを形容す。

【泣哭】キフコク　なげきかなしむ。

【泣涕】キフテイ　なく、聲を出さず泣くこと。

【泣歎】キフタン　なげきなく。

【泣感】キフカン　涙にむせびて感ず、大いに感ずるさま。

【泣諫】キフカン　ないていさむ、涙を流し誠をつくして忠告する。

【泣禱】キフタウ　涙を流して神に祈りを捧ぐ

類語

哀泣アイキフ　號泣ガウキフ　哭泣コクキフ　啼泣テイキフ
涕泣テイキフ　飲泣インキフ　啜泣セツキフ　傷泣シヤウキフ
悲泣ヒキフ　慟泣ドウキフ　感泣カンキフ　獻泣ケンキフ

泥 デイ ナイ

㋑どろ(土に水のまじりたるもの)ぬかるみ、どぶどろ、泥の狀をせるもの㋺けがす、又けがる(汚)にごる㋩よわし(弱)㋥南海にすむ一種の蟲の名㋭泥蟲

の骨なくしてぐた〳〵せるより酒にひどく酔へるを泥酔といふ㋩露の多き貌又柔くつやある貌㋥なづむ、とゞこほる（滯）㋭かゝはる（拘）

【泥人】ディジン 土人形、でく。
【泥土】ディド ひぢ、どろ。
【泥工】ディコウ 壁をぬる人、左官。
【泥水】ディスキ どろみづ。
【泥匠】ディシャウ かべをぬる人、左官。
【泥行】ディカウ 泥道を行くこと。
【泥汞】ディコウ 水銀、みづかね。
【泥々】ディディ 露のしげきさま。
【泥孩】ディガイ つちにんぎやう、泥人。
【泥炭】ディタン 石炭の一種、未だ十分に炭化せずして植物質を帶びたるもの。
【泥金】ディキン ㋑黄金のこな、金粉㋺及第せしことの通知。
【泥淖】ディタウ ぬかるみ、どろみず、泥滓。
【泥淤】ディオ どろ、泥土。
【泥淪】ディリン けがれしづむ。
【泥蛭】ディシツ 土の中にすむひる。
【泥滓】ディシ をりかす、沈澱物。
【泥塗】ディト ㋑どろみち㋺賤しき地位、又は境遇㋩いやしくつまらぬ物、糞土塵土。
【泥像】ディゼウ 泥人に同じ。
【泥滑】ディクワツ ぬかりてすべること。
【泥溝】ディカウ どろみぞ、どぶ。
【泥説】ディセツ つまらぬはなし、取るに足らぬ説。
【泥潦】ディレウ 雨水にてぬかりたる道、泥濘。
【泥酔】ディスキ 甚しく酒に酔ふこと。
【泥滓】ディシ 泥深くして行き難きみち、ぬかるみ。
【泥牆】ディシヨウ 土の塀。
【泥蝟】ディハン 泥中にかゞむこと。
【泥鰻】ディマン ぬりどて、さくわんの用ゐるもの。
【泥鰍】ディシウ 淡水産の小魚、どじやう。
【泥犂】ナイリ 梵語にて奈落又は地獄。
【泥中蓮】ディチユウノハス 泥中の中にさく蓮の花、轉じてけがれたる中に居て之にそまぬ人。
【泥塑人】ディソジン 土人形、又人を罵りて言ふ語。
【泥試合】ドロジアヒ 互ひに非をなすり合ひ結局何の得る所もなき見苦しき爭ひ。

類語

浮泥 フデイ　淤泥 オデイ　塵泥 ヂンデイ　深泥 シンデイ
濁泥 ダクデイ　雲泥 ウンデイ　塗泥 トデイ　紫泥 シデイ
佛泥 フツデイ　付泥 フデイ

泪

涙に同じ

注

シュ　チュ　チユウ

㋑そゝぐ（灌）つぐ、水が入りこむ、流入する㋺ひく、水を引入れる㋩射る、又流し入る㋥つける、水をかける㋭むけるへくはしく説明す、又そのもの

【注入】チユウニフ つぎこむ、注射。
【注下】チユウカ くだりばら、下痢症。
【注文】チユウモン ㋑注釋の文、註文㋺たのみあつらへる、所望。
【注目】チユウモク 氣をつけて見る、目をつける。
【注射】チユウシヤ つぎ込む、注入、血管へ藥劑をつぎこむ療法。
【注訓】チユウクン 註釋解義すること。
【注脚】チユウキヤク 註解を本文中に書き加へること。
【注記】チユウキ 寺院にて論議の節に題を讀み上げる役僧。
【注連】チユウレン 水を注ぎ清めて張る繩、出棺後に家の入口にはりしもの、我國にてはしめなは、又しめかざり。
【注張】チユウチヤウ 星の名。
【注進】チユウシン 事の起りたる旨を急ぎ上申すること、又其事柄。
【注解】チユウカイ 註釋に同じ。
【注視】チユウシ 注意して見る、注目。
【注意】チユウイ きをつける、心をとめる、油斷をせぬ。
【注錯】チユウソ 取り計ふ、しまつする。
【注振】チユウギ 調べはかる。
【注釋】チユウシヤク 説きあかす、文中又は其下等に書き入れる説明又は講義。
【注連飾】シメカザリ しめなはをゆひかざること。
【注意人物】チユウイジンブツ 危險なる人物として警察署に於て特に注意を拂ひ監視する者、一般に注視の的となる人物。

泛

ケン　ゲン

㋑露のしたゝる貌㋺涙をはら〳〵とこぼす貌、さめ〴〵㋩ながれる（流）

【泛泛】ゲンゲン 露のしたゝるさま。
【泛然】ゲンゼン 涙のはら〳〵と落ちる貌、さめ〴〵となくさま。

泮

ハン

㋑とく（氷がとける）㋺古代大名の鄕射禮を行ひし所㋩ちる（散）又とけちる㋥わかる、わかつ（判）

【泮汗】ハンカン 水の廣くしてはてなき貌。

泯

ビン　ミン

㋑ほろぶ（亡）つきる（盡）なくなる㋺水の流の清き貌㋩廣く暗くして分明ならざる貌、茫々㋥まじる（混合）㋭くらくして分明ならざる貌

【泯沒】ビンボツ ほろぶ、しづむ、なくなる亡失、滅亡。
【泯々】ビンビン 水の流れの清き貌。
【泯棄】ビンキ 亡びすたる。
【泯絶】ビンゼツ 滅びてなくなること。
【泯亂】ビンラン 道德・規則等が亂れること。
【泯滅】ビンメツ 泯沒に同じ。

泰

タイ

㋑おほいなり（大）ひろい㋺とほる（通）㋩はなはだ（甚）㋥やすし（安）ゆるやかに（寛）落つけるさま㋭おごる（侈）おごり

【泰山】タイザン 支那五嶽の一、又大なる山轉じて物事に動ぜぬさまに譬ふ。
【泰斗】タイト 北斗の略、轉じて人に仰がれるえらき人、オーソリティー。
【泰平】タイヘイ 世がおだやかに治まること天下太平。
【泰安】タイアン 安らかにして穩やかなる貌
【泰西】タイセイ 西洋諸國、歐米。
【泰初】タイシヨ 世界の原始、宇宙の始め、太初。
【泰風】タイフウ 西の風。
【泰然】タイゼン ゆつたりとして落つけるさま、自若としてあはてぬ貌。
【泰運】タイウン 天下の泰平となる氣運。
【泰廟】タイベウ 一番先祖のおたまや。
【泰山北斗】タイザンホクト 泰山と北斗、衆に仰がれる大人物をいふ。
【泰山壓レ卵】タイザンモテタマゴヲアツス 事物の甚だ容易なるに喩ふ。
【泰山之霤穿レ石】タイザンノリウイシヲウガツ 泰山より流れ出る水が石を穿つ如く微力もつもりて大事をなすこと。
【泰山不レ讓二土壤一】タイザンハドジヤウヲユヅラズ 泰山は小なる土くれもいとはず包容する

如く大人物は小人の言をも取り用ふ。

【泰山頽梁木折】タイザンクズレリヤウボクフラル　一代の尊ぶべき人の死亡せることを喩へる語。

訓讀

【泰山を挾んで北海を超ゆ】挾二泰山一超二北海一　たいさんをさしはさんでほくかいをこゆ　不可能なる事を企てることに喩へていふ。

類語

優泰ユウタイ　五泰ゴタイ　岱泰タイタイ　安泰アンタイ　開泰カイタイ　寧泰ネイタイ　否泰ヒタイ　驕泰キョウタイ　矜泰キョウタイ　清泰セイタイ　閉泰ヘイタイ　靜泰セイタイ　恬泰テンタイ　歡泰クワンタイ　豐泰ホウタイ

泱

アウ

㋑水の深く廣き貌㋺大なるさま、廣大なるさま㋩水の流るゝ貌

【泱々】アウアウ　水の深くして廣きさま、又雲氣の起る貌。

泳

エイ　エイ

㋑およぐ、水中をくゞりおよぐ㋺およぎ、よくおよぐこと、又その術

洄

クワイ

㋑さかのぼる（溯）流に逆つて上る㋺水の流るゝ貌

【洄汩】クワイイツ　水の流れるさま。

【洄注】クワイチユウ　水の流れ込むこと。

【洄狀】クワイフク　水のめぐり流れるさま。

【洄々】クワイクワイ　水のさかのぼり流るゝ貌

【洄湜】クワイシヨク　水のめぐりて流れる貌。水清く底の見える貌。

洊

セン

しきりに、たびく、頻繁に、再三

【洊歲】センサイ　しきりに至る凶年。

洋

ヤウ

㋑大なる海、そとうみ、又おほなみ㋺廣きさま、大きいさま、多いさま、盛んなるさま㋩他の語に添へて西洋の物であることを示す

【洋本】ヤウホン　洋風にとぢたる書物、又西洋の書物。

【洋行】ヤウカウ　㋑西洋に行くこと㋺本邦にある西洋の大商店の稱。

【洋布】ヤウフ　かなきん、金巾。

【洋式】ヤウシキ　西洋風の樣式、西洋じたて。

【洋妾】ヤウセウ　外國人の妾となれる女、らしやめん。

【洋夷】ヤウイ　西洋人を卑しみていふ語。

【洋泌】ヤウヒ　水量の多いと、又其水流。

【洋々】ヤウヤウ　㋑水勢の盛んなる貌㋺限りなく廣き貌㋩行き渡りて充滿せる貌。

【洋食】ヤウショク　洋風の料理、西洋料理。

【洋紅】ヤウコウ　紅色の舶來繪具。

【洋風】ヤウフウ　歐米のおもむき、西洋風。

【洋粉】ヤウフン　寒天の異名。

【洋貨】ヤウクワ　㋑西洋の貨幣㋺舶來品。

【洋傘】ヤウサン　西洋型のかさ、蝙蝠傘。

【洋普】ヤウフ　廣くゆき渡るさま。

【洋琴】ヤウキン　西洋樂器の名、ピアノ。

【洋畫】ヤウグワ　西洋風の繪畫。

【洋溢】ヤウイツ　水のあふれるさま、充ちて廣がり出るさま。

【洋銀】ヤウギン　ニツケル二十五分・亞鉛二十五分及び銅五十分の合金。

【洋裝】ヤウサウ　㋑洋風の服裝㋺西洋とぢの書物。

【洋癖】ヤウヘキ　むやみに舶來品を好む癖。

【洋燈】ヤウトウ　らんぷ。

【洋館】ヤウクワン　西洋風の建築物。

【洋服細民】ヤウフクサイミン　月給を取り中流の生活をなせる人を面白く現したる語、洋服を著て紳士ぶりながら貧乏なりとの意。

類語

浩洋カウヤウ　潢洋クワウヤウ　太洋タイヤウ　滂洋バウヤウ　沆洋クワウヤウ　東洋トウヤウ　海洋カイヤウ　遠洋エンヤウ

洌

レツ

㋑きよし、水きよし、酒のすみてきよきにもいふ㋺さむし、ひやゝか、つめたい

【洌風】レツプウ　冬の寒きかぜ。

泊

キ

㋑うるほふ（潤）㋺およぶ（及）㋩肉のしる（肉汁）

【泊夫蓼】キフラン　外國より渡來せし藥草。

洎

渭の俗字

洑

フク

めぐり流れる（回流）又くゞりながれる

【洑流】フクリウ　水がめぐりて流れること。

洒

サイ　セ　シヤ　セン　ソン

㋑そゝぐ（灌）㋺垢ぬけがしてさつぱりしてゐるさま㋩つゝしむ、うや〳〵しい（恭）㋥まく、散布する㋭ぞつとする㋬驚くさま㋠あらふ（洗）すゝぐ（雪）㋡名譽を恢復する

【洒心】サイシン　心をあらひきよむ、潔白なる心。

【洒掃】サイサウ　水をかけて洗ひ清める。

【洒濯】センタク　あらひすゝぐ、洗濯する。

【洒如】センヂヨ　つゝしみうや〳〵しき貌。

【洒落】シヤラク　㋑心がさつぱりしてわだかまりなきさま㋺輕口・口合の類、又みえを作りめかすこと、又動詞に活用して「しやれる」といふ。

【洒然】ソンゼン　驚きをのゝくさま。

【洒掃職】サイサウシヨク　水をかけ箒ではたく役、轉じて婦人の夫に仕ふる謙辭。

【洒落者】シヤレモノ　㋑心がさつぱりした氣象の人㋺みえを作りめかす人。

洗

センサイセイ

㋑あらふ、足を洗ふ、あらひ清む㋺けがれを去る、清潔にする㋩水を容れる器、たらひの類㋥基督教にて新たに信者となる者に施す儀式（洗禮）㋭國訓あらひ（魚の生き身をうす作りにして冷水であらひしもの）

【洗心】センシン　心中のわづらひを拂ひきよめる。

【洗如】センジヨ　さつぱりとして汚れなき貌

【洗匿】センイ　物を洗ふに用ゐる器。

【洗竹】センチク　竹の葉をまびきすかすこと。

【洗米】センマイ　神佛に供へるときたる米。

【洗汰】センタイ　あらひ落す、洗ひきよめる。

【洗足】センソク　足をあらひすゝぐ。

【洗沐】センモク　髮を洗ふ義、轉じて官吏が休暇を賜ひて歸鄕すること。

【洗刮】センクワツ　表面に附著する物を取り除く、轉じて既往の缺點・祕密をあばき出すこと。

【洗淨】センジヤウ　洗ひきよめる。

【洗宥】センイウ　罪なきことを明白にしてゆるす。

【洗拭】センショク　洗ひ拭き清める。
【洗浴】センヨク　ゆあみすること、入浴。
【洗馬】センバ　支那の官名、太子の外出する時前驅を掌る役。
【洗湯】センタウ　風呂屋、湯屋。
【洗雪】センセツ　恥をすゝぎ名譽を恢復すること。
【洗膿】センデン　鄭重にもてなすこと。
【洗筆】センピツ　ふでをあらひきよむ。
【洗煉】センレン　思想又は詩句等をねること。
【洗練】センレン　㋑前に同じ㋺絹の織物を洗ひねること。
【洗滌】センテキ　あらひきよむ、洗つて汚穢を去る、水をそゝぎ清める。
【洗澡】センサン　さかづきをすゝぐ。
【洗濯】センタク　洗ひて汚れを去り水をそゝぎて清める。
【洗髮】センキ　洗ひてひのしをかける。
【洗禮】センレイ　基督教で新たに信者となりし者に施す儀式。
【洗盥】センタウ　汚穢をあらひさる。
【洗藥】センヤク　患部を洗滌する藥。

類語

盥洗クワンセン　淨洗ジヤウセン　沐洗モクセン　滌洗デキセン
澡洗サウセン　濯洗タクセン　梳洗ソセン　磨洗マセン

洙

シュ

川の名（山東省所在、泗水に會す）
【洙泗】シユシ　魯の國に在る二川にして孔子がその川畔にて弟子を教へし所。
【洙泗學】シユシガク　泗川の畔にて孔子が弟子を教へしことに因み孔孟の學をいふ即ち儒學。

洋

カウ　コウ

おほみづ（洪水）
【洋水】カウズキ　おほみづ、洪水。

洛

ラク

㋑川の名（黃河の支流）㋺都の名（洛陽）轉じて都、日本にては京都の稱㋩水たまりて下ること㋥絡に同じ、からむ
【洛邑】ラクイウ　支那古代のみやこ、洛陽。
【洛京】ラクケイ　前に同じ。
【洛中】ラクチユウ　都の市街の中。
【洛外】ラクグワイ　京都の市街の外。
【洛花】ラククワ　牡丹の異名。
【洛陶】ラクシ　洛邑に同じ。
【洛書】ラクシヨ　禹の時洛水より出でし神龜の背にありし九つの模樣にて周易の根源となりしもの。
【洛陽】ラクヤウ　㋑支那古代の都にして周公が初めて都せし所㋺京都の別名。
【洛神】ラクシン　洛水の神にて宓妃をまつりしもの。
【洛蹊】ラクケイ　洛水にて行ふみそぎ。
【洛學】ラクガク　宋の程明道と程伊川の唱へたる性命理氣の學問。
【洛陽花】ラクヤウクワ　牡丹の異名。
【洛蜀三黨】ラクシヨクノサンタウ　宋の哲宗の時に對立したる三派の政黨。
【洛閩之學】ラクビンノガク　洛學の學派。
【洛陽紙價貴】ラクヤウノシカタカレ　著書の世上にもてはやされるをいふ。

洞

トウ　ドウ

㋑ほら、ほらあな㋺つらぬく、つきとほす㋩さとり知る、通達する㋥ほがらか（朗）㋭はじめなるさまへはやい流れ
【洞穴】トウケツ　ほらあな、いはや。
【洞池】トウチ　水のなき池、からいけ。
【洞見】トウケン　見とほす、みぬく。
【洞究】トウキウ　きはめ明らかにす。
【洞門】トウモン　ほら穴の入口、又ほら穴の入口が門の如くなれるもの。
【洞々】トウトウ　眞面目なるさま。
【洞庭】トウテイ　湖南省にある大湖の稱。
【洞房】トウバウ　婦人の居るへや、奥ぶかき部屋。
【洞胸】トウキヨウ　胸中をつらぬき通す。
【洞通】トウツウ　つらぬきとほす。
【洞開】トウカイ　ぬき開く、ぬけ通る。
【洞達】トウダツ　さはりなくぬけ通る。
【洞貫】トウクワン　うがちつらぬく、つらぬき通す。
【洞窟】トウクツ　洞穴に同じ。
【洞徹】トウテツ　ぬけ通る、悟りを開く。
【洞察】トウサツ　洞見に同じ。
【洞曉】トウゲウ　さとり通ず、又見通す。
【洞觀】トウタン　心中を見ぬく。
【洞壑】トウガク　みぞ、ほら、がけ。
【洞瘡】トウカウ　障害物がなくして廣々とせる貌、又ほがらか。
【洞簫】トウセウ　たて笛の一種、尺八に似て短きもの。
【洞開】トウビヤク　洞開に同じ。
【洞窓】トウサク　洞窟に同じ。
【洞觀】トウクワン　普通にては見る能はざる事物を一種特異の能力にて見知ると。
【洞々屬々】トウトウシヨクシヨク　誠意を披瀝して
【洞房花燭】トウバウクワシヨク　結婚式の夜の意轉じて婚姻。

類語

幽洞イウトウ　空洞クウトウ　鴻洞コウトウ
土洞ドトウ　虹洞コウトウ　包洞ハウトウ
浩洞カウトウ　溫洞エントウ
靈洞レイトウ　虛洞キヨトウ　達洞タツトウ

洟

イ　ティ

㋑はなしる（鼻液）はなみづ㋺なみだ（涕）

津

シン

㋑つ、わたしば、ふなつき㋺きし、が（崖）㋩しる（液汁）あふれ出るさま㋥つて（貪緣）
【津人】シンジン　わたしもり、渡子。
【津岸】シンガン　わたしば、渡船場。
【津々】シンシン　物が多くして溢れるさま。
【津航】シンカウ　わたしぶね、渡船。
【津梁】シンリヤウ　㋑渡し場と橋㋺事をなすにたよりとなるもの、橋渡と手びき㋩水を渡つたり陸を渡つたりする意、轉じて東奔西走の義。
【津涯】シンガイ　船をつける岸、ふなつきば。
【津筏】シンバツ　いかだ、又案内となるもの。
【津渡】シント　わたし、わたり、わたしば。
【津逮】シンタイ　渡場を船にてわたること。
【津頭】シントウ　わたしば、渡船場。
【津頭】シンイ　よだれ、涎。
【津驛】シンエキ　ふなつきば、津岸。
【津波】ツナミ　海嘯の宛字、海水が一時に陸地へ押よせる現象。
【津々浦々】ツツウラウラ　國内のすみ〳〵。

類語

青津カウシン　玄津ゲンシン　星津セイシン　青津セイシン
芳津ハウシン　餘津ヨシン　梁津リヤウシン　洪津コウシン
微津ビシン

洧

イ

川の名（河南省登封縣所在）

洩

エイ　セツ

㋑心のゝびゝするさま㋺風にしたがふ貌㋩飛びかけるさま㋥もる、もらす

（漏）㋺へる、へらす（減）
【洩命】エイメイ 祕密の命令を他人に洩すこと。
【洩々】エイエイ ㋑心ひろくのびゝ〳〵せるさま。㋺風にしたがひ飛びかけるさま。
【洩氣】エイキ 氣をもらす、放屁。
【洩漏】エイロ もれる、他人に知らす。

洪 コウ

㋑おほみづ（大水）㋺おほいに、おほひなり（大）
【洪才】コウサイ すぐれたる智識、又大なるはたらき。
【洪大】コウダイ 非常に大なること、廣大なるさま、又その事。
【洪水】コウズキ 水の溢れみなぎること、又その水、おほみづ。
【洪化】コウクワ 德政を布くこと、又善政の普及することの敬稱。
【洪伐】コウバツ 大なる功勞。
【洪庇】コウヒ おかげ、おめぐみ。
【洪志】コウシ 大なるこゝろざし、大望。
【洪恩】コウオン 大なるめぐみ、洪惠。
【洪流】コウリウ 大なるながれ、大水。
【洪原】コウゲン 廣きのはら、曠原。
【洪荒】コウクワウ 廣く大なる義、原始時代の未だ秩序なき有樣等にいふ。
【洪基】コウキ 大なるもとゐ、大事業のどだい。
【洪淵】コウエン 大にして深きこと。
【洪規】コウキ 大なるはかりごと、大事の謀計。
【洪絪】コウサイ 大なることゝ小なること。
【洪統】コウトウ 立派なる系統。
【洪量】コウリヤウ 廣大なる度量。
【洪智】コウチ 大いなるさとり、大智。
【洪惠】コウケイ 洪恩に同じ。
【洪塘】コウタウ 洪水のため自然に河の兩岸に出來たる堤。
【洪鈞】コウキン 造化、おほぞら。
【洪溶】コウヨウ 水の大きく深きさま。
【洪源】コウゲン おほもと、物事の根源。
【洪業】コウゲフ おほいなるわざ、大事業。
【洪福】コウフク 大なる幸福、大幸。
【洪範】コウハン 禹の時洛水より出でし神龜の背に現はれし九章の文で天下を治める大法とするもの。
【洪裔】コウエイ 子々孫々、子孫代々。
【洪緒】コウシヨ 大いなる事業、洪基。
【洪輝】コウキ 高大なるひかり。
【洪模】コウボ 大なるはかりごと、洪規。
【洪潰】コウクワイ 洪水に堤防の崩れること。
【洪醉】コウスキ おほいにゑふ、大醉。
【洪霖】コウリン 降りつゞく大雨。
【洪蕩】コウタウ 水面のひろ〳〵とせる貌。
【洪動】コウクン 非常なるてがら、大功。
【洪覆】コウフク 天、あめ、おほいに蔽ふ。
【洪靡】コウセイ おほいなるほまれ、又大靡。
【洪濤】コウタウ おほなみ、巨濤。
【洪瀾】コウラン 前に同じ。
【洪鐘】コウシヨウ 大なるつりがね、巨鐘。
【洪颯】コウヘウ おほかぜ、大風。
【洪纖】コウセン 大いなるとと微細なるとと。
【洪積土】コウセキド 洪水の作用にて土砂の積み重つて出來たる地層。
【洪範九疇】コウハンキウチウ 天下を治める大法の九類、即ち五行・五事・八政・五紀・皇極・三德・稽疑・庶徵・五福。

渢 キヨク ケキ

㋑みぞ、田畝の間にある水道㋺いけ、城のまはりをとりまくほり（城池）

洮 タウ

㋑川の名（甘肅省所在）㋺あらふ（洗）手

顏・髮等をあらふ㋩あらひすゝぐ。
【洗汰】タウタイ 洗ひおとす。
【洗硯】タウケン 支那の臨洗といふ所から產する硯。

洲 シウ ス

㋑す、しま、砂が盛りあがつて出來た島㋺くに、地球上の大陸の稱
【洲汀】シウテイ すのみぎは、きし。
【洲沚】シウシ 水中の干潟、す。
【洲島】シウタウ 水中のくが、しま。
【洲渚】シウシヨ なぎさ、洲汀。
【洲嶼】シウシヨ 洲島に同じ。
【洲濱】スハマ ㋑砂地の岸の波形に曲つた所㋺結婚式の儀式に用ゐる鳥臺、洲濱臺の略㋩菓子の名。

類語

孤洲コシウ　白洲ハクシウ　滄洲サウシウ　汀洲テイシウ
中洲チユウシウ　芳洲ハウシウ　沙洲サシウ　溟洲メイシウ
霜洲サウシウ　蒲洲ホシウ　荻洲テキシウ　礫洲レキシウ
雙洲サウシウ　神洲シンシウ　五大州ゴダイシウ

洳 ジヨ

水のひたりうるほふこと、又その土地

洵 ジユン

㋑まこと、まことに（信）㋺とほし（遠）

洶 キヤウ

㋑わく（涌）水がわきあがる、又その聲㋺大勢にてさわぐさま、どよめく
【洶々】キヨウキヨウ 大勢でどよめき騷ぐ貌。
【洶涌】キヨウヨウ 水が騷ぎて波の起る貌。
【洶湧】キヨウユウ 前に同じ。
【洶焉】キヨウエン 水の湧き立つ音、轉じて騷がしくどよめくさま。
【洶湧】キヨウヨウ 涌きあがる、沸騰する。

洸 クワウ

㋑水のわきたつひかり（涌光）㋺つよきさま、たけ〳〵しい㋩水深く廣きさま㋥ほのか（恍・恍に通ず）
【洸忽】クワウコツ うつとりせるさま、又くらくして分明ならざるさま。
【洸洋】クワウヤウ 水の廣く深きさま、轉じて學說等の深遠にして測りがたきにいふ。
【洸々】クワウクワウ つよくして猛きさま。
【洸漾】クワウヤウ 洸洋に同じ。

活 クワツ

㋑いく、生存して居る、生きながらへる㋺おひたつ、生育する㋩よみがへる（蘇生）㋥勢よく動く、生氣が發動する㋭いかす、死から救ふ、死なぬやうにする、蘇生さすゝくらす、又くらし（生計）㋬水の流れる聲㋮國訓くわつ（柔術で氣絕者を蘇生さす法）
【活人】クワツジン ㋑人をいかす㋺又生きて居る人。
【活力】クワツリヨク 活動するはたらき、いきる力。
【活水】クワツスキ 流動しつゝある水。
【活火】クワツクワ 盛んに燃えてゐる火。
【活用】クワツヨウ ㋑實際にはたらかして用ゐる、應用すること㋺文法上にては語尾の意味によつて動詞・形容詞・助動詞等が變化すること。
【活字】クワツジ 活字版に組む一字づゝの印板。
【活句】クワツク 詩文中の活氣ある句。
【活佛】クワツブツ 高德の僧侶などをいふ、

いきぼとけ。

【活法】クワツパフ　應用又は利用の方法。

【活板】クワツバン　活字を組合せし文句を構造した印刷の版本。

【活版】クワツバン　前に同じ。

【活脫】クワツダツ　酷似したるものにいふ語

いきうつし。

【活東】クワツトウ　蛙の子、おたまじやくし。

【活物】クワツブツ　生氣があつて活動するもの丶總稱、いきもの。

【活塞】クワツソク　圓筒内にはめて出入を自由ならしめたる栓。

【活々】クワツクワツ　勢盛んなる有樣、又水などの勢よく流れる有樣。

【活料】クワツレフ　活動寫眞の觀覽料。

【活語】クワツゴ　はたらきて作用を現はす語

【活計】クワツケイ　くらし、生活のてだて。

【活畜】クワツチク　畜類を放ちやること。

【活殺】クワツサツ　いかすこと丶殺すこと。

【活氣】クワツキ　いき〳〵したる生氣、よい景氣。

【活動】クワツドウ　㋑いきて動くこと㋺活動寫眞の略稱。

【活眼】クワツガン　物の是非善惡をよく見分くる眼力、めさきのきくこと。

【活路】クワツロ　いきるべき道、命の助かる道、逃れ道。

【活劇】クワツゲキ　芝居にて見るが如き目ざましき實際の出來事。

【活動寫眞】クワツダウシヤシン　活動寫眞に關する一派。

【活塞】クワツソク　勢ひよく活動するさま。

【活潑】クワツパツ　活動寫眞の映畫說明者。

【活發】クワツパツ　いき〳〵して元氣のあるさま、又そのふるまひ。

【活蓋】クワツエン　あげ戸、あげひさし。

【活鱗】クワツリン　いきたる魚。

【活人畫】クワツジングワ　畫中の人物は實物にて背景のみ繪である一種のみせもの。

【活火山】クワツクワザン　現に火煙を噴出しつゝある火山。

【活殺自在】クワツサツジザイ　生かすも殺すも心のまゝなりとの意。

【活動口座】クワツドウカウザ　貯金其他の會計事務に於て出入の極めて頻繁なる口座をいふ。

【活動寫眞】クワツドウシヤシン　幻燈の一種にして映畫の活動するもの。

【活潑々地】クワツパツパツチ　魚のはねる如く勢ひの盛んなるさまをいふ。

類語

美活ヤクワツ　復活フクワツ　蘇活ソクワツ　原活ゲンクワツ　快活クワイクワツ　圓活エンクワツ　愛活アイクワツ　救活キウクワツ　全活ゼンクワツ　存活ソンクワツ　苟活コウクワツ　濟活サイクワツ

【洽】カフ　ひろ

㋑やはらぐ（和合）なかよくする㋺うるほふ（霑）うるほす㋩あまねし（徧）ひろくしみこむ、ひろくゆきわたる㋥川の名

【洽比】カフヒ　仲よくする、和合すること。

【洽和】カフワ　むつまじきこと、親睦。

【洽浹】カフセフ　ひろく通ず、ゆき渡る、あまねくしみこむ。

【洽著】カフチヨ　あまねく知れ渡ること。

【洽博】カフハク　學問ありて事理に通ぜるとひろく行きわたる。

【洽普】カフフ　ひろく行きわたる。

【洽聞】カフブン　見聞がひろくして智慧にとめること。

【洽覽】カフラン　廣く見る、書物などをあまねく漁り讀むこと。

【洽歡】カフクワン　むつまじく喜び合ふさま

類語

優洽イウカフ　淵洽エンカフ　浹洽セフカフ　周洽シウカフ　驩洽クワンカフ　渥洽アツカフ　匝洽サフカフ　下洽カカフ　化洽クワカフ　普洽フカフ　宣洽センカフ　和洽ワカフ

【洼】アイ　ワ

大洽ダイカフ　流洽リウカフ　隆洽リユウカフ

㋑くぼし（窪）くぼみ、くぼ地㋺川の名　渥洼（甘肅省所在）

【派】ハイ　へ　ハ

㋑わかれ、えだ、支系、わかれしもの㋺川の分れ（分流、支流）㋩わかれる、またになる㋥政黨・學問等の分れたるくみ

【派生】ハシヤウ　物の本體から分れ出る意。

【派出】ハシユツ　手わけして出張せしむ。

【派別】ハベツ　わかれ〳〵になる、離れ離れになる。

【派遣】ハケン　㋑手わけをして人をさしつかはす㋺役目を授けつかはす。

【派出所】ハシユツシヨ　本部より諸所に派出して事務をとる所、出張所。

【派出婦】ハシユツフ　家政婦に同じ。

類語

巨派キヨハ　支派シハ　詩派シハ　別派ベツハ　末派マツハ　萬派バンハ　分派ブンハ　宗派シユウハ　雙派サウハ　流派リウハ　學派ガクハ　黨派タウハ

【泲】ヲ

㋑濁りたるたまり水、又たまり水㋺くぼんだ處、くぼみ

【泲池】ヲチ　たまり水のいけ。

【泲渟】ヲテイ　ぬかるみ。

【流】リウ　ル

㋑ながれ、水のながれゆくこと、ながれゆく水、流れるみづ㋺めぐみ（恩澤）㋩わき出る、ほとばしる㋥物事にしまりがなくなる㋭ぐる〳〵廻る㋬移りゆく㋣さまよふ㋠ひろまる㋡ながす、水などをながす㋢しく、布きならべる㋤もとむ（求）㋥しまなが し（刑罰の一）㋦根據がない、出所が分らぬ㋧階級・品位・品等㋨或一派の專門の學又は術㋩周代の王畿を去る千里の地㋪漢時代の銀八兩の重さの稱㋫國訓ながれ（子孫、旗・幕などの數を示す語、立消えになること、貨物などの期限を經過して債主の所有に歸すること）

【流人】リウジン　㋑浮浪の人㋺島流しとなりし人。

【流丸】リウグワン　ながれだま、それだま。

【流火】リウクワ　火星が西に流れること、又火星が正南にある時は極暑にして七月に當るより七月の稱。

【流出】リウシユツ　流し出す、ながれ出る。

【流失】リウシツ　ながれうせる、流し失ふ。

【流矢】リウシ　いづことも分らぬ所より飛來りし矢、ながれや。

【流民】リウミン　一定の居所なく四方を流浪する人民。

【流用】リウヨウ　一定の事以外に間に合せてつかふ。

【流年】リウネン　過ぎ去りし年月。

【流汗】リウカン　あせをかく、はぢ入る貌。

【流行】リウカウ　㋑はやり、時好㋺廣く行きわたる、又病氣のひろまること。

【流光】リウクワウ　㋑過ぎ行く日影、過ぎ去る月日㋺水にうつりたる月日の光。

【流血】リウケツ　血を流す、殺傷等にいふ。

【流汞】リウコウ　水銀の異稱。

【流形】リウケイ　社會に流行せる諸物の形。

【流沙】リウサ　支那の西方にある沙漠。

【流曳】リウエイ　さまよふ、たちもとほる。

【流亞】リウア　流は同類、亞はそれに次ぐもの、肩を並べる程の者。

【流沫】リウマツ　泡のながれるもの。

【流言】リウゲン ㊀いひふらし、うはさ ㊁根も葉もなきことを言ひふらす。
【流放】リウハウ 島ながしにすること。
【流芳】リウハウ 美名を後世に傳へのこす。
【流畦】リウアイ みだらなる流行歌。
【流易】リウエキ うつりかはること。
【流派】リウハ ㊀流儀に同じ ㊁えだは、支流。
【流俗】リウゾク 古よりの風習、世上のならはし、又俗人、世間。
【流亮】リウリャウ 音聲の流暢にして明亮なるさま。
【流星】リウセイ ながれぼし、よばひぼし、又流星の光に似たるもの。
【流毒】リウドク 社會に害となることをなす意、害毒をながす、又其害毒。
【流衍】リウエン ひろくのべしく、又はひこる義。
【流風】リウフウ 古人の殘したる善風美俗。
【流洽】リウカフ うるほふ、うるほす。
【流浪】リウラウ ルラウ あてどもなくさまよふこと。
【流涕】リウテイ 涙をながす、泣くこと。
【流祚】リウソ さいはひを後世にのこす。
【流眄】リウベン ながしめにみる、横目に見ること。
【流通】リウツウ 停滯することなくして轉々することゝ、又用ゐ行はれること。
【流馬】リウバ 糧食を輸送する爲め諸葛亮の製作したる一種の輜重車。
【流動】リウドウ 動き流れて固定せぬこと。
【流儘】リウヨウ 流浪して人にやとはれる。
【流螢】リウケイ 飛んでゐる螢。
【流徙】リウシ 戰爭の爲め人民が諸方にうつること。
【流域】リウキキ 河川の流れに沿ふ一帶の土地の範圍。
【流彗】リウスキ 飛行するはゝきぼし。
【流産】リウザン 胎兒が月滿たず死して生れること。
【流連】リウレン 遊樂にふけりて歸ることを忘れること、ゐつゞけ。
【流寓】リウグウ かりに他所に身を寄せる。
【流散】リウサン 流浪に同じ。
【流萍】リウヘウ うきぐさ、はかなきものにいふ。
【流飲】リウイン 病の名、溜飲に作る。
【流會】リウクワイ 集會が中止となること。
【流聯】リウテイ 流涕に同じ。
【流輝】リウキ 過ぎ去る月日。
【流賊】リウゾク 所々をわたり荒す盜人。
【流落】リウラク おちぶれる、流浪、落魄、零落。
【流傳】リウデン 社會に廣くひろまること。
【流疵】リウキヨク 流罪に同じ。
【流漫】リウマン みだりなること。
【流語】リウゴ 根も葉もなきうはさ、誰ともなく言ひふらしたる話。
【流憩】リウケイ いこひながら行くこと。
【流箭】リウセン 流矢に同じ。
【流說】リウセツ 流言に同じ。
【流暢】リウチャウ 言葉づかひのすら〳〵として滯らぬさま。
【流輩】リウハイ 同じ流派の人々。
【流弊】リウヘイ 昔よりの弊害。
【流餓】リウガ 食を得ずしてさまよふ。
【流霞】リウカ たなびく雲氣。
【流儀】リウギ 學問藝術等の特殊のかた、又特有のつたへ。
【流彈】リウダン 流丸に同じ。
【流播】リウハ 傳はり布く、廣く及ぼす。
【流霰】リウサン 飛びちるあられ。
【流離】リウリ ルリ ㊀鳥の名、又玉の名 ㊁其の所を得ずして流涙すること。
【流涙】リウヘウ 流涕に同じ。
【流螢】リウアウ 枝より枝に飛びながらなくうぐひす。
【流輸】リウユ 遠近諸所に物を運ぶこと。
【流歟】リウセツ 晉をたてゝ汁をすゝること。

【流蘇】リウソ 旗や幕などにつけるふさ。
【流露】リウロ あらはに見えるさま、奥の所迄あらはす、眞相を示す。
【流麗】リウレイ 文章・辯說などがのびやかにしてうるはしきこと。
【流寓】リウグウ 罪により遠地へはなたれること、しまながし。
【流覽】リウラン 諸方に目を通し能く觀る。
【流布】ルフ ひろく世間に弘まること。
【流配】ルハイ 島ながし、遠島。
【流罪】ルザイ リウザイ 遠地に逐ひやる刑罪、島流の刑。
【流轉】ルテン あらゆる事物が終始うつりかはること。
【流石】サスガ ㊀さうはいふものゝ、さすがに、なるほどとうなづく等の意 ㊁本分に恥ぢざる意。
【流水韻】リウスヰノヰン 音調の妙なる貌。
【流動體】リウドウタイ 液體と氣體の並稱。
【流鏑馬】ナブサメ 昔の武藝の一。
【流水不レ腐】リウスヰハフセズ 流れる水は腐敗せぬ如く活動する者は沈退せぬ意。
【流行文藝】リウカウブンゲイ ㊀時代・民心に適してよく行はれる文藝 ㊁上下貴賤を通じて誰も彼も讀みたがる文藝。
【流血漂レ杵】リウケツヒヨウネフタダヨハス 戰爭の極めて激しきことにいふ語。
【流レ金鑠レ石】キンヲナガシイシヲトカス 暑氣酷しくして金石を鎔かすが如きを言ふ。
【流產內閣】リウザンシナイカク 大命を拜しながら成立せず立消となりし內閣を冷評していふ語。
【流星光底】リウセイクワウテイ 振り上げた刀の下にあることをいふ語。
【流觴曲水】リウチヤウキヨクスヰ 曲水の流觴に同じ（その項を見よ）。
【流麻質斯】リウマチス 病の名。
【流動資產】リウドウシサン 現金又は直ちに現金に換へ得らるべき資本。

訓讀

【流を汲む】汲レ流ながれをくむ その人の流儀をつたへならふこと。
【流を亂す】亂レ流ながれをみだす 川をよこぎりて勢よくわたるさま。
【流に枕し石に漱ぐ】枕レ流漱レ石ながれにまくらしいしにくちそそぐ まけをしみ、晉の孫楚が隱遁して「石に枕し流に漱がん」といふべきを誤つて「流に枕し石に漱ぐ」といひしを王濟がとがめし時「流に枕するは耳を洗ふため石に漱ぐは齒をみがく爲めなり」と言ひぬけし故事（さすがにうまく言ひ拔けたとの意味を以て我國では流石を「さすが」と訓じてゐる）。

類語

安流アンリウ 倒流タウリウ 清流セイリウ 濁流ダクリウ
條流デウリウ 溢流イツリウ 平流ヘイリウ 幹流カンリウ
伏流フクリウ 激流ゲキリウ 弱流ジヤクリウ 奔流ホンリウ
俗流ゾクリウ 學流ガクリウ 翼流ハイリウ 混流コンリウ
支流シリウ 勝流ショウリウ 細流サイリウ 小流セウリウ
湍流タンリウ 洪流コウリウ 碧流ヘキリウ 寒流カンリウ
周流シウリウ 合流ガフリウ 順流ジユンリウ 横流ワウリウ
通流ツウリウ 逆流ギヤクリウ 長流チヤウリウ 黃流クワウリウ
源流ゲンリウ 上流ジヤウリウ 下流カリウ 中流チユウリウ
放流ハウリウ 名流メイリウ 急流キフリウ 風流フウリウ
一流イチリウ

七畫

【浙】セツ

㊀川の名（浙江省所在）又浙江省の略 ㊁とぐ、米をとぐ（淅と混用す）一說によなぐ（汰）

【浚】シユン

㊀さらふ（井・川・堀等の底をふかくす

ること）ロつゝしむ（敬）ハ國訓さらふ、（根こそぎとる、殘らず拂ひ去る）

【浚井】シュンセイ　ゐどをさらへて深くす。

【浚急】シュンキフ　水の流れの激しきこと。

【浚渫】シュンセツ　水底のどぶどろをさらへて深くすること。

【浚照】シュンセウ　水多くして澄めるさま。

浜

ハウ　ヒャウ

イ船を入れ置く溝ロ濱の字に假用す

浚

サク　ソク

寒浚は人の名（夏の時代の人）

浮

ボツ

イさかんに起るさまロ盛んなりハわく（沸）にごる（渾）

【浮然】ボツゼン　物の盛んに起るさま。

【浮濁】ボツケツ　水のわきいづるさま。

浣

クワン

イあらふ（澣）すゝぐ（濯）洗濯するロ官吏の休日、又十日の稱

【浣衣】クワンイ　衣類を洗濯すること。

【浣染】クワンセン　すゝぎそめる。

【浣草】クワンサウ　草の名、天門冬。

【浣雪】クワンセツ　拭ひ清む、恥をすゝぐ。

【浣濯】クワンテキ　洗ひ清む、洗ひすゝぐ。

【浣腸】クワンチャウ　腸を洗ひて汚物を清め去る治療法。

浤

クワウ

水のわき上る貌

【浤々】クワウクワウ　水の盛んに涌き上る貌。

浥

イフ　オフ

イうるほふ（潤）うるほすロひたる（濕）しめろ（濕）しめす

浦

ホ

うら、海また湖などに滑ひたる一帶の土地

【浦濱】ホジョ　うら、浦邊。

【浦安國】ウラヤスノクニ　日本國の古名。

【浦役場】ウラヤクバ　船舶海事等に關する事務を執る特別の役場、通例町村役場に併置す。

浩

カウ

イおほいなり（大）ひろし（廣）又其さまロ水の盛んにして廣きさま、大水の狀

【浩汗】カウカン　廣くして際涯なきさま。

【浩洋】カウヤウ　前に同じ。

【浩洞】カウトウ　がらつとして廣きさま。

【浩茫】カウバウ　浩汗に同じ。

【浩々】カウカウ　水の廣々としたさま、大水。

【浩唱】カウシャウ　おほごゑにてうたふ。

【浩渺】カウベウ　浩汗に同じ。

【浩然】カウゼン　盛大流行の意、又水の流れて止まざるが如き貌、又大なる貌。

【浩氣】カウキ　浩然之氣に同じ。

【浩淼】カウベウ　浩汗に同じ。

【浩博】カウハク　ひろきこと。

【浩闊】カウタウ　甚しくさわがし。

【浩飲】カウイン　さかんに酒をのむ、大飲。

【浩歌】カウカ　聲を大にしてうたふ。

【浩漾】カウヤウ　浩汗に同じ。

【浩歎】カウタン　長大息すること、甚しくなげくさま。

【浩蕩】カウタウ　イ廣々として大なるさまロ志のほしいまゝなるにいふ。

【浩繁】カウハン　甚だ多きこと。

【浩曠】カウクワウ　大きく廣きさま。

【浩瀚】カウカン　イ廣々として大なる貌ロ書物の卷數の多きにいふ。

【浩穰】カウジャウ　イ人民の多くして盛んなることロ繁華なる土地ハ事務の繁多なるさま。

【浩然之氣】カウゼンノキ　天地間に流行せる元氣が人にやどり自ら顯みて少しも疚しき所なく屈せず撓まざる剛健の氣。

浪

ラウ

イなみ（波）なみだつロ流れる貌、わたりさまよふさまハほしいまゝニみだりみだりに赤おろそか、でたらめ

【浪人】ラウニン　イ定まつた官職なくぶらぶらして居る者ロ祿を失ひてさすらふ人轉じて一定の住所なき者。

【浪士】ラウシ　一定の官職なく放浪する者

【浪子】ラウシ　一定の職業なく遊樂にふけること、又その人。

【浪死】ラウシ　いぬじに、流浪して死ぬ。

【浪花】ラウクワ　なみのはな、白なみ。

【浪孟】ラウマウ　みだり、おろそか。

【浪々】ラウラウ　イ涙の流れるさまロ浪人しておちぶれたるさま。

【浪遊】ラウイウ　ぶら〳〵と遊びくらす。

【浪語】ラウゴ　むだをいふこと、むだごと。

【浪費】ラウヒ　無益に金錢を費すこと、むだづかひ。

【浪滓】ラウジン　なみうちぎは、みぎは。

【浪戰】ラウセン　むやみに戰爭すること。

【浪擊】ラウゲキ　めつたうち、妄りにうつ。

【浪蹈】ラウサウ　足元が定まらずしてよろめくさま。

【浪職】ラウショク　職務をおろそかにすること。

【浪漫的】ラウマンテキ　英語のロマンティックの譯、空想的の憧憬又は熱情的のあこがれ。

【浪漫主義】ラウマンシュギ　英語のロマンティズムの譯、自然主義の極端なる一面にして個性開放・因襲打破を眼目とする主義。

類語

高浪　カウラウ　驚浪　キャウラウ　怒浪　ドラウ　飛浪　ヒラウ

長浪　チャウラウ　巨浪　キヨラウ　銀浪　ギンラウ　波浪　ハラウ

猛浪　マウラウ　走浪　ソウラウ　奔浪　ホンラウ　浮浪　フラウ

蒼浪　サウラウ

浬

リ

イ泥浬は波斯の酋長の名ロ海上の里程（約十六町五十九間四尺）海里、ノット（節）

浮

フウ　フ　ブ

イうかぶ、うく、水上にたゞよふ、ふわ〳〵して動く、さだかでないロ多くしてつよき貌ハすぐ（過）ニ盛んに降るさまホ勝負事にまけて飲まされる、罰杯ヘうはつき、物事の表面トうき（釣糸につけるもの、うきぶくろ）チ國訓うく（不確實、心定らず）うかぶ（ゆくりなく現はれる、世に出る、成佛する）うかれる（熱中して有頂天になるさま）うかされる（夢中になるさま）

【浮人】フジン　一定の職なく放浪する人。

【浮子】フシ　釣糸につけるもの、うき。

【浮文】フブン　根據なく輕薄なる文章。

【浮冗】フジョウ　むだ、あだ、無益。

【浮生】フセイ　人生の定りなきこと、はかなき人生、うきよ。

【浮休】フキウ　生と死、動と靜。

【浮民】フミン　一定の職業なき人民。

【浮幻】フゲン　とりとめもなきこと。

【浮光】フクワウ　水面にうつる月かげ。

【浮沈】フチン　うきしづみ、盛衰榮枯の定

りなきをいふ語。

【浮言】フゲン 根も葉もなきうはさ、根據なきうはさ、流言。

【浮利】フリ 一時の利益。

【浮侈】フシ おごり、奢侈。

【浮々】フフ ㊀多くて强きさま ㊁盛んにおこるさま。

【浮垢】フコウ あか、よごれ。

【浮漲】フラウ 一定の職なくしてぶら〳〵せること。

【浮家】フカ 船の異名。

【浮梁】フリヤウ ㊀舟をならべて造つた橋 ㊁江西省饒州の縣名（茶の名產地）。

【浮榮】フエイ この世の榮華。

【浮動】フドウ たゞよひ動くこと。

【浮游】フイウ うかぶ、うく。

【浮嵐】フラン 山の上空に漂ふ氣。

【浮惰】フダ かるはづみにしておこたる。

【浮湛】フタン 浮沈に同じ。

【浮喧】フケン かまびすし、さわがし。

【浮雲】フウン 空に浮びたゞよふ雲、轉じて確實ならざること。

【浮華】フクワ うはべをはでにすること。

【浮屠】フト ほとけ、佛陀、浮圖、轉じて僧侶、寺院等をいふ。

【浮疏】フソ 輕薄にしてぞんざいなる貌

【浮貲】フヒ むだづかひ、無益のつひえ。

【浮說】フセツ 無根のこと、ねなしごと。

【浮誇】フク ㊀とりとめもなく大言を吐く ㊁文章等のはでにして大げさなこと。

【浮漚】フオウ うたかた、浮びたるあわ。

【浮漂】フヘウ うかびたゞよふさま。

【浮淫】フイン 浮漲に同じ。

【浮漲】フヘウ ㊀暗礁などを知らすため目じるしとして舟の通路にうかせ置くもの ㊁たゞよう、うく。

【浮圖】フト 佛のことにいふ語。

【浮橋】フケウ 船を並べてつくりし橋。

【浮靡】フビ 派手にして眞劍味をかぐこと。

【浮薄】フハク 輕々しくしてしつかりせぬこと、うはき、かるはづみ、不人情。

【浮辭】フジ 誠實をかぐ言葉。

【浮蟻】フギ 酒の上にうくあぶら。

【浮競】フキヤウ こびへつらひて富貴利達を爭ひ求むる義。

【浮躁】フサウ うかれたはむれるさま。

【浮麗】フレイ うはべのうつくしく派手なること。

【浮辯】フベン 實なき言論、不眞地目なる言說。

【浮囊】フノウ 魚類のうきぶくろ。

【浮麗】フエン 派手にして重味なきさま。

【浮世】ウキヨ 人事の定まりなきより此世の義、人生、憂世。

【浮羽】ウキハ 盃の古言。

【浮名】ウキナ ㊀實際に過ぎたほまれ、過分の名譽 ㊁男女關係のうはさ。

【浮足】ウキアシ ㊀逃げ腰の態度 ㊁相場の下落傾向にあること。

【浮荷】ウキニ 船舶が航行中遭難の場合一般の利益のため海中に投じたる一部の荷物、又船舶・ボート等の海上に浮ぶものゝ總稱。

【浮寢】ウキネ 水鳥などの寢るありさま、轉じて人の憂苦をいふ。

【浮塵子】フジンシ 蟲の名、うんか。

【浮浪人】フラウニン 浮人に同じ。

【浮雲志】フウンノココロザシ 不義にして富貴たらんことをのぞむ志。

【浮線綾】フセンリヤウ 浮織にしたあやぎぬ。

【浮砲臺】ウキハウダイ 海上に浮ぶ船樣の砲臺

【浮船渠】ウキドック 艦列に加はりて艦隊と共に航海するやうに出來たる箱樣のドック。

【浮燈臺】ウキトウダイ 海上に船を浮べて燈火裝置を施したる燈明臺。

【浮世繪】ウキヨエ 其時代の風俗を面白く描きたる繪。

類語

輕浮 ケイフ　澆浮 ギヨウフ　沈浮 チンフ　萍浮 ヘイフ　澄浮 チヨウフ

浴 ヨク

㊀ゆあみ、湯又は水に入つて身體を洗ひ淸めること ㊁ゆあみす、あぶ、あびる ㊂うける、蒙る ㊃國訓あぶ（湯水をあびる、水をおよぐ）あびす（頭上から加へる）

【浴衣】ヨクイ ゆかた、湯帷子。

【浴舍】ヨクシヤ ふろや、せんたう。

【浴花】ヨククワ 牡丹の異名。

【浴客】ヨクカク 風呂場又は湯治場にゆあみする人。

【浴室】ヨクシツ ゆどの、浴殿。

【浴童】ヨクドウ 水およぎせる子供。

【浴殿】ヨクデン ゆどの、風呂場、浴室。

【浴槽】ヨウサウ ゆぶね、ふろをけ。

【浴器】ヨクキ ゆあみに使用する器の總稱

【浴佛日】ヨクブツジツ 陰曆四月八日の釋迦誕生の日。

類語

裸浴 ラヨク　沐浴 モクヨク　洗浴 センヨク　入浴 ニフヨク　盥浴 クワンヨク　海水浴 カイスヰヨク　冷水浴 レイスヰヨク

海 カイ

㊀うみ、わたつみ、天地 ㊁物事の多く集りたる場所 ㊂廣く大なることの形容

【海人】カイジン ㊀海の怪物、海坊主 ㊁海中にもぐり魚貝をとる者、あま。

【海上】カイジヤウ 海のおもて、海面、海路。

【海天】カイテン 海と空、海のそら。

【海口】カイコウ みなと、港灣。

【海士】カイシ 海人の ㊁に同じ。

【海方】カイハウ 海外のくに、外國。

【海内】カイナイ カイダイ 天下、國内、みくに。

【海日】カイジツ 海上の日。

【海外】カイグワイ 外國、とつくに。

【海月】カイゲツ 海產動物の一、くらげ、海上の月。

【海市】カイシ 光線の屈折又は反射の理によりて海上の空中に陸地の山川・家屋等がうつりあらはれるもの、蜃氣樓。

【海舌】カイゼツ 海月、くらげ。

【海宇】カイウ 海内に同じ。

【海汐】カイセキ ゆふしほ、夕方の潮流。

【海老】カイラウ 鰕の別名、海のおきな。

【海甸】カイデン 海邊の町はづれ。

【海曲】カイキヨク うみのくま、卽ち島。

【海兵】カイヘイ 海軍の下士卒。

【海羊】カイヤウ 鯨の異名。

【海里】カイリ 海上の里程にし一緯度の六十分の一に當り我國の十六町五十九間四尺に當る、ノットといふ。

【海芋】カイウ 滿洲芋。

【海角】カイカク 土地の海中に突出したる所又海のはて。

【海防】カイバウ 海岸の防備。

【海事】カイジ 海上にてなす仕事の總稱。

【海岸】カイガン 海ばた、海のきし。

【海表】カイヘウ 海外の地、海のかなた。

【海狗】カイク 海獸の名、あざらし、又膃肭臍ともいふ。

【海拔】カイバツ 陸地又は山嶽を海水平面よりはかりたる高さ。

【海味】カイミ 海產物の食料。

【海岱】カイタイ 舜の時代の十二州の一、渤海から泰山迄の地（今の山東省地方）。

【海松】カイショウ 海中の石に生ずる海草の名、うみまつ。

【海門】カイモン せと、海峽。

【海流】カイリウ 海水が一定の方面をとつて

常に流れるもの。

【海若】カイジャク 海神、又は水神。

【海洋】カイヤウ うみ、わたつみ。

【海股】カイコ いりうみ、入江。

【海相】カイシヤウ 海軍大臣の別稱。

【海狸】カイリ 哺乳動物の一、歐洲又は北米の河邊に棲息し足に水かきを有し水中を游泳するもの。

【海軍】カイグン 海上の軍隊、海戰の軍隊。

【海苔】カイタイ 海藻の一、のり。

【海面】カイメン 海のおもて、海上。

【海豹】カイヘウ 北海に產する海獸の一、あざらし。

【海風】カイフウ 海より吹く風。

【海容】カイヨウ 海が大小の河川を受けるが如く度量の廣き人をいふ。

【海氣】カイキ 海の氣、しほぎり。

【海峽】カイケウ 陸地と陸地との間にはさまれたる狹い水路、せと、海門。

【海扇】カイセン ほたてがひの異名。

【海島】カイタウ 海中にある島。

【海畔】カイハン 海濱に同じ。

【海栗】カイリツ 貝の名、あぶらがひ。

【海旁】カイバウ 海濱に同じ。

【海員】カイキン 船舶の乘組員。

【海神】カイシン わたつみ、海の神。

【海豚】カイトン 鯨に似て小さき海產哺乳動物、いるか。

【海馬】カイバ 海魚の一、たつのおとしごのこと。

【海參】カイサン いりこ、くしこ。

【海帶】カイタイ 海草の名、あらめ。

【海蛇】カイジヤ 魚の名、えらぶうなぎ。

【海運】カイウン 海路にて貨物や乘客をはこぶこと。

【海路】カイロ ふなぢ、航路。

【海鼠】カイソ 海產動物の一、なまこ。

【海鰒】カイシヨ なまこの異名。

【海國】カイコク 海に近き國、海が四方にある國、しまぐに。

【海涵】カイカン 海容に同じ。

【海莊】カイシヤウ 海邊の別莊、はまやしき。

【海陸】カイリク 海洋と陸地。

【海綿】カイジヤ 海綿に同じ。

【海障】カイソウ 海のくま、海のかたほとり。

【海象】カイゾウ 北海に產する海獸の一、せいうち。

【海商】カイシヤウ 海上にてする商賣、又その業を營む人。

【海堡】カイホ 海中にある砲臺。

【海港】カイカウ 海岸にある小さき港。

【海程】カイテイ 海上の里程。

【海龕】カイキウ 海產動物の名、鯨の異名。

【海棠】カイダウ 花樹の一、美人の形容。

【海斎】カイエイ うみのはてにある遠き國。

【海隅】カイグウ 海曲に同じ。

【海綿】カイメン 海產の下等動物の一。

【海桜】カイサ うみの上に漂ふうき木。

【海道】カイダウ 海邊に通じたる道。

【海際】カイサイ 海岸に同じ。

【海賊】カイゾク 公海又は海上を橫行する船舶を襲ふ盜賊。

【海圖】カイヅ 海の深淺・暗礁の位置等を示せるづめん。

【海峽】カイエウ 海峽に同じ。

【海嘯】カイセウ つなみ。

【海暾】カイトン 海上の日の出。

【海樓】カイロウ うみべのたかどの。

【海榷】カイカク 鹽の專賣、又その鹽。

【海戰】カイセン 海上のたゝかひ。

【海澄】カイゼイ 海岸に同じ。

【海燕】カイエン 貝の一種、たこのまくら。

【海嶽】カイガク 海と山、高大なるに喩ふ。

【海濱】カイヒン うみべ、海のほとり。

【海默】カイジウ 海に棲息するけもの。

【海膽】カイタン 近海の清澄なる淺き岩礁の間に棲む小動物、うに。

【海藻】カイサウ 海產植物の總稱。

【海邊】カイヘン うみべ、海濱。

【海壑】カイガク 海と谷、深き義より恩惠の深大なるに譬ふ。

【海螺】カイラ 貝の一種、つぶ。

【海頸】カイケイ 瀨戸、海峽。

【海羅】カイラ 海藻の一、ふのり。

【海鏡】カイキヨウ 貝の一種、つきひがひ。

【海猶】カイダツ 海鼈に同じ。

【海鰻】カイマン 海產魚の一、はも。

【海鼈】カイロ 獸の名、あじか。

【海雲】カイレイ わたつみ、海神。

【海翁】ウミノオキナ 海老の異名。

【海都】ウミノミヤコ 龍宮、たつのみやこ。

【海上權】カイジヤウケン 海上を制御する國家の權力。

【海上法】カイジヤウハフ 航海上に關する法規の總稱。

【海王星】カイワウセイ 太陽系に屬し太陽に最も遠き遊星。

【海仁草】カイジンサウ 海草の一、まくり。

【海水浴】カイスヰヨク 海に入つて水をあびること。

【海白菜】カイハクサイ 海藻の一種、わかめ。

【海老尾】カイラウビ えびを、琵琶や三味線の絲卷の端の後方にある曲つた部分。

【海防艦】カイバウカン 喫水淺く防禦力强く主として海岸防禦の任に當る軍艦。

【海岸線】カイガンセン 海岸の海と陸とを接觸せしめたる線。

【海產物】カイサンブツ 海からとれる物產。

【海事局】カイジキヨク 遞信省に屬し海上に關する一切の事務を取り扱ふ役所。

【海青鶴】カイセイコフ 鳥の名、はやぶさ。

【海金沙】カイキンシヤ 草の名、たゝきぐさ、はまかづら。

【海泡石】カイハウセキ 礦物の名、かるいし。

【海洋島】カイヤウタウ 威海衛の北旅順口の東に在る小島にして日清戰爭の際大海戰のありし所。

【海軟風】カイナンブウ 晝間海上より陸地に向つて吹く軟風。

【海帶菜】カイタイサイ 昆布に同じ。

【海關稅】カイクワンゼイ 輸出入の貨物に課する稅金。

【海上保險】カイジヤウホケン 航海中に起る難船等の事故の損害を償ふ契約を結ぶ保險。

【海洋自由】カイヤウジイウ 歐洲大戰當時米國大統領ウイルソンの唱導せしものにて戰時平時の別なく海洋を公開して各國の利益增收に放任せんとする說。

【海底電信】カイテイデンシン 海底に沈めて架設したる電信線。

【海國主義】カイコクシユギ 海洋に於て覇を唱へんとする主義。

【海損預金】カイソンヨキン 海損の分擔に對する供託金。

【海潤委二魚躍一】ウミヒロダシテウヲノアドルニマカス 行動の自由自在なるにいふ語。

類語

航海カウカイ　滇海ラウカイ　佛海フツカイ
法海ハフカイ　環海クワンカイ　河海カカイ　四海シカイ
文海ブンカイ　大海タイカイ　內海ナイカイ　北海ホクカイ
東海トウカイ　西海セイカイ　南海ナンカイ　渤海ボツカイ

【浸】シン

㋑ひたす、ひたる、水につかる㋺うるほす(潤)うるほふ㋩しむ、しみこむ(滲)㋥やうやく(漸)ます〳〵、やゝ、だんだん

【浸入】シンニフ 水などのだん〳〵と進み入るさま。

【浸水】シンスヰ 家屋用地等が水に浸ること。

【浸沈】シンチン しみ込む、浸入。

【浸染】シンセン 次第々々に他物に染る貌、漸次に感化する。

【浸液】シンエキ 水にひたる、つかる。

【浸透】シントウ しみとほる、しみこむ。
【浸淫】シンイン 情事に溺れひたる。
【浸漫】シンマン みだりなり、又ながれはびこる。
【浸灌】シンクワン 水をかける、水に浸る。
【浸漬】シンシ ひたす、水につける。
【浸漸】シンゼン そろ〳〵と度を進めると。
【浸潯】シンジン 漸染に同じ。
【浸潤】シンジユン 水が次第にしみこむ如く漸時に進むさま。
【浸潤之譖】シンジユンノシリ 次から次へと讒言を進めること。

類語

涵浸カン　漑浸ガイ　豐浸ホウ　亘浸キヨ
積浸セキ　稽浸ケイ　潦浸レウ　漬浸シン
漂浸ヘウ　泛浸ハン

浹 セフ

㋑あまねし（遍）㋺めぐる（匝）一周する㋩ひとまはり（甲より癸迄の十日間）
【浹日】セフジツ 甲より癸に至る十日間。
【浹合】セフガフ あまねくゆきわたる。
【浹辰】セフシン 浹は一周、辰は子より亥に至る十二時間なるより十二日の意に用ふ。
【浹和】セフワ あまねく和らぐ、一同睦じくすること。
【浹洽】セフカフ あまねし、ひろく及ぶ。
【浹通】セフツウ あまねくとほる。
【浹徧】セフヘン 浹合に同じ。
【浹會】セフクワイ のこらず寄り集まると、全部あつまる。
【浹徹】セフテツ 全般に徹底して行きわたる

浿 パイ メン ベン

㋑けがす、けがる㋺水流の平かなる貌
【浿々】ベンベン 水の貌、水の平かに流れるさま。

浿 ハイ

川の名（朝鮮大同江の古稱）

涂 ト ツ

みち（塗）田地の用水溝にそへる道、道路、又堂の前の石だゝみの道
【涂月】トゲツ 十二月の異稱。
【涂々】トト 露の多きさま。

涅 デツ ネツ ネチ

㋑水中にある黑き土、くろつち㋺くろむ（黑く染める）けがしそむ（汚染）㋩かはる（化）
【涅槃】ネハン 梵語にて安樂又不生不滅の義、即ち佛の死。
【涅齒】ネツシ デツシ 齒をそめる、又その齒。
【涅墨】デツボク いれずみ、ほりもの。

涇 ケイ

㋑川の名（甘肅省より發し渭水に合す）㋺とほる（通）
【涇水】ケイスイ 川の名、みどりみづ。
【涇流】ケイリウ 川のながれ、水のとほるすぢ。
【涇渭】ケイキ 渭川と涇川、共に陝西省にあり涇川は濁水、渭川は清水なるより清濁又は物事の相異することに用ふ。

消 セウ

㋑きゆ、けす、火がきえる㋺つく（盡）ほろぶ（亡）㋩とく（釋）㋥へる、減少する
【消亡】セウバウ きえうせる、消え亡ぶ、なくなる。
【消化】セウクワ ㋑物が消滅して變化するさま㋺食物がこなれる㋩物事を十分に會得すること。
【消日】セウジツ 日をくらす、ひまをつぶす。
【消失】セウシツ 消え失せる。
【消伏】セウフク 災害をふせぎよける。
【消印】セウイン 消したるしるしに押す印、けしいん。
【消光】セウクワウ 日をくらす、月日を送る。
【消防】セウバウ 火を消し防ぐ、火災を防ぐ。
【消長】セウチヤウ へることゝ增すこと、盛衰、榮枯。
【消毒】セウドク 病毒を消したやす。
【消夏】セウカ 夏日の暑氣をはらひけす。
【消殄】セウテン 無くなり絕ゆ、けしつくす消失。
【消卻】セウキヤク ㋑けしとゞむ、又つひやす㋺借金をかへす、償卻。
【消索】セウサク 消失に同じ。
【消梨】セウリ 果樹の一種、みづなし。
【消梅】セウバイ 果樹の一、こうめ。
【消耗】セウカウ へす、へらす、へる。
【消息】セウソク ㋑生ずることゝ消えることへるとふえる㋺時のうつりかはり㋩たより、音信㋥樣子、有樣、狀態。
【消渴】セウカツ セウカチ 病氣の名、糖尿病と婦人の無病。
【消悶】セウモン 日をくらす、心のもだえをはらす。
【消暑】セウショ 夏の暑さをはらひ去る。
【消除】セウイン 消光に同じ。
【消極】セウキヨク 積極の對、進んで事を行はざること、否定・拒否・退減等を意味する。
【消魂】セウコン 氣を失ふ、落膽する貌。
【消散】セウサン 消えてなくなる、けし散す。
【消惑】セウワク 消え入るが如く思ひ惑ふ貌
【消閑】セウカン ひまをつぶす、退屈しのぎ
【消搖】セウエフ ぶら〳〵と歩く、自適の意。
【消憂】セウイウ 氣をはらす、憂ひをはらふ。
【消滅】セウメツ けす、きえる。
【消燈】セウトウ あかりを消す、ともしびを消す。
【消費】セウヒ つかふ、つひやす。
【消遣】セウケン 心中の憂ひをもらしちらす氣ばらし。
【消疸】セウセキ 見るかげもなくやせやつれるさま。
【消蕩】セウタウ 金錢を湯水の如く浪費すること。
【消釋】セウシヤク とける、きえる。
【消磨】セウマ すれきえる、きえ衰へる。
【消鬱】セウウツ 氣ばらし、うさを消すこと。
【消閑】セウセン 火事を消す用意として水道の鐵管に裝置したる噴水口の栓。
【消火器】セウクワキ 火事を消すに使用する器械、又ポンプの小なるもの。
【消化液】セウクワエキ 消化の作用ある液汁。
【消石灰】セウセキクワイ 石灰と水とを化合せしめたるもの。
【消耗品】セウカウヒン 一時の使用にて消え失せる物品。
【消費稅】セウヒゼイ 物品を消費する者に對して賦課徵收する間接稅。
【消毒藥】セウドクヤク 病毒を消滅せしめる藥劑。
【消息文】セウソクブン 人をおとづれる文章、書簡文。
【消熱劑】セウネツザイ ねつさまし。
【消滅時效】セウメツジカウ 法律に定められたる一定期間の經過したる時債權の効力の消失すること。
【消費組合】セウヒクミアヒ 幾人かの人が組合ひて生產者より日用品を買ひとりそれを組合員に賣り純益は組合員の買上高に比例して配當する規約の組合。
【消費貸借】セウヒタイシヤク 金錢其他代替物を借り之を返卻するに際し同じ種類・數量等を以てする貸し借り。

【消極的倫理主義】セウキヨクテキリンリシユギ 進みて善を行はんとせず退きて己れ自身を潔くせんとする禁欲主義の道德。

類語

創消サウ　芒消バウ　損消ソン　煙消エン

【涉】セフ

㋑わたる、水をかちわたりする㋺へる（經過）㋩博く通ずる、博く見る意㋥歩きまはる水かゝはる、關係する

【涉人】セフジン わたしもり。
【涉月】セフゲツ 聖月に渡る、月をこえる。
【涉水】セフスヰ 川をかちわたること。
【涉典】セフテン 儀式に關する書物などを精しく研究すること。
【涉河】セフカ 河川を徒歩にてわたる。
【涉秋】セフシウ 秋が過ぎゆく。
【涉朔】セフサク 月をまたぐ、涉月。
【涉歷】セフレキ 水をわたりて地を行くこと轉じて經驗をつむ意。
【涉濟】セフサイ 河流をかちにて涉る。
【涉獵】セフレウ 川をわたり、獸を狩る如く博く群書に目を通すこと。
【涉禽類】セフキンルヰ 水邊に棲み小魚小蟲を捕り食ふ鳥類の總稱。

類語

浩涉エン　遊涉イウ　津涉シン　博涉ハク
步涉ホ　通涉ツウ　關涉クワン　干涉カン
浮涉フ　汎涉ハン　經涉ケイ　歷涉レキ
冒涉バウ　該涉ガイ　沒交涉ボツカウ

【泥】デン

㋑けがる、きたなくなる㋺汗の出る貌

【泥絵】デンゼン 汗を出すさま。

【涌】ヨウ ユ

㋑わく、水がわきあがる、噴水する㋺盛んに起るさま、又現はれ出るさま㋩國訓自然に生ず、突然發生す。

【涌出】ヨウシユツ 水などのわき出づること。
【涌泉】ヨウセン 自然にわき出す水、噴水。
【涌煙】ヨウエン ふき出すけむり。
【涌瀑】ヨウイツ 水が奔騰して漲るさま。
【涌起】ヨウキ 湯水等のわき出づる貌。

【涎】セン エン

㋑よだれ（口液）㋺ねばり（粘液）㋩水のながれるさま。

【涎牛】センギウ 蟲の名、なめくぢの異名。
【涎衣】センイ よだれかけのこと。

訓讀

【涎を流す】流レ涎 よだれをながす 甚しく飲食を欲するさまにいふ。

【涑】ソク

㋑あらふ、そゝぐ（濟）㋺川の名（山西省より出で黃河に合す）

【涕】テイ

㋑なみだ（涙）㋺なく（泣）なみだを流して泣く

【涕泗】テイシ なみだ（涙は目から出る涙、泗は鼻から出る汁）。
【涕泣】テイキフ なく、涙を流して泣く。
【涕泫】テイゲン なみだをながす、落涙。
【涕淚】テイイ 涕泗に同じ。
【涕歇】テイキ 涕泫に同じ。
【涕淚】テイルヰ なみだ、涕泗。

類語

感涕カン　流涕リウ　垂涕スヰ　隕涕ヰン
傷涕シヤウ　迸涕ハイ　泣涕キフ　歎涕タン

【涖】レイ リ

㋑のぞむ（臨）その場所に至る㋺みる（視）みはりをする、たづさはる㋩瀨を下る水の聲

【涖止】リシ ㋑其場所に來り臨む㋺見張りをする。
【涖祚】リソ 位につく、天子が帝業を行ふこと、位にのぞむ。
【涖々】リリ 水が瀨を下る聲。
【涖政】レイセイ まつりごとを聽く。

【涙】シ

きし、ほとり、水ぎは（水涯）

【涙】シン

㋑水たまり、たまりみづ、にはたづみ（潦水）㋺ふしづけ（水中に柴を積みて魚を獲ふところ）㋩雨又は涙の下る貌

【涔々】シンシン ㋑涙のこぼれるさま㋺雨の盛んに降るさま。
【涔涙】シンルヰ ながれる涙。
【涔旱】シンカン 洪水とひでり。
【涔雲】シンウン 雨をふくむ雲、あめぐも。

【涕】テイ

㋑なみだ（涙）㋺なく（泣）なみだを流して泣く

【涕々】ケンケン 水の細く流れる貌、ちよろちよろみづ。
【涓毫】ケンガウ 一しづくの水と一すぢの毛極めて細小なること。
【涓焉】ケンエン ㋑涓々に同じ㋺涙を流す貌
【涓滴】ケンテキ 水のしたゝり、しづく。
【涓潔】ケンケツ きよき貌、いさぎよし。
【涓埃】ケンガイ 涓埃に同じ。
【涓埃之微】ケンアイノビ 微細なるものをいふにいふ語。

【涔】シン

㋑水たまり、たまりみづ、にはたづみ（潦水）㋺ふしづけ（水中に柴を積みて魚を獲ふところ）㋩雨又は涙の下る貌

【涔々】シンシン ㋑涙のこぼれるさま㋺雨の盛んに降るさま。
【涔涙】シンルヰ ながれる涙。
【涔旱】シンカン 洪水とひでり。
【涔雲】シンウン 雨をふくむ雲、あめぐも。

【涕】テイ

㋑なみだ（涙）㋺なく（泣）なみだを流して泣く

【涙】シ

きし、ほとり、水ぎは（水涯）

【涙泗】ルイシ なみだ（涙は目から出る涙、泗は鼻から出る汁）。
【涙泣】ルイキフ なく、涙を流して泣く。
【涙泫】ルイゲン なみだをながす、落涙。
【涙淚】ルイイ 涙泫に同じ。
【涙歇】ルイキ 涙泫に同じ。
【涙淚】ルイルヰ なみだ、涙泗。

類語

感涙カン　流涙リウ　垂涙スヰ　隕涙ヰン
傷涙シヤウ　迸涙ハイ　泣涙キフ　歎涙タン

【涖】レイ リ

㋑のぞむ（臨）その場所に至る㋺みる（視）みはりをする、たづさはる㋩瀨を下る水の聲

【涖止】リシ ㋑其場所に來り臨む㋺見張りをする。
【涖祚】リソ 位につく、天子が帝業を行ふこと、位にのぞむ。
【涖々】リリ 水が瀨を下る聲。
【涖政】レイセイ まつりごとを聽く。

【涙】シ

きし、ほとり、水ぎは（水涯）

八畫

【涪】フウ フ

川の名（四川省に發し嘉陵江に合す）

【淬】ケイ ギヤウ

㋑大なるさま㋺物事の未だ分明ならざる貌

【涮】サン セン

あらふ（洗）あらひ清める

【涯】ガイ

ほとり、きし、みぎは（水際）㋺かぎりはて、きはまり

【涯分】ガイブン 分際、身分、力のある限り。
【涯岸】ガイガン 水ぎは、みぎは、なぎさ。
【涯坻】ガイチ なぎさ、水際。
【涯限】ガイゲン 涯際に同じ。
【涯涘】ガイシ ㋑水ぎは、きし㋺はて、かぎり。

【涯際】ガイサイ　かぎり、きは、はて、ほとり。

【液】 エキ

㋑しる（津汁）流動體の總稱㋺ひたす（漬）うるほふ（潤）長くつゞける㋩被に通じ用ふ

【液化】エキクワ　固體又は氣體を溫度壓力等の作用にて液體となすこと。

【液汁】エキジフ　しる、つゆ、漿。

【液雨】エキウ　十月に降る時雨。

【液庭】エキテイ　宮廷、ごてん。

【液洽】エキカウ　うるほす、うるはふ。

【液體】エキタイ　流動する物體の總稱。

【液體空氣】エキタイクウキ　空氣を壓縮して液體とせるもの。

類語　滑液クワツエキ　融液ユウエキ　蒸液ジヨウエキ　浸液シンエキ　甘液カンエキ　脂液シエキ　粘液ネンエキ　唾液ダエキ　精液セイエキ

【涴】 ワ

けがす、けがる、よごす、又けがれ

【涵】 カン

ひたす、ひたる、水でうるほす、いる（容）とりあげる、用ゐる。

【涵容】カンヨウ　うけいれること。

【涵蓄】カンチク　入れたくはへる、包藏。

【涵養】カンヤウ　ひたし養ふ意㋑恩德を施す㋺學問見識を養成し含蓄すること。

類語　海涵カイカン　成涵セイカン　韜涵タウカン　滑涵センカン　包涵ハウカン　渟涵テイカン　渾涵コンカン

【涯】 唾に同じ

【涸】 カク　コ

㋑かる、つく（竭）水が竭きてなくなる㋺からす、つくす、水をほす

【涸水】コスキ　水のなき川。

【涸湯】コカウ　河や湖沼等の水がかれかわくこと。

【涸鮒】コフ　次に同じ。

【涸轍鮒魚】コテツノフギヨ　車のわだちの水たまりの中に在る鮒、人の困窮に迫れるに譬ふ。

類語　乾涸カンコ　竭涸ケツコ　燥涸ソウコ　凝涸ギヨウコ　耗涸カウコ　枯涸ココ　焦涸セウコ　窮涸キユウコ　滲涸シンコ

【涼】 リヤウ　ラウ

㋑すゞし、うすさむい、うすし（薄）ひやりとする㋺淋しく悲しきさま㋩州の名、又國の名㋥國訓すゞし（清らかですが〳〵しい感じ）すゞむ（すゞしい風にあたる）すゞみ（すゞむと）

【涼夕】リヤウセキ　涼しきゆふがた。

【涼雨】リヤウウ　涼しくさわやかなる雨。

【涼秋】リヤウシウ　涼風の吹く秋の氣候。

【涼快】リヤウクワイ　涼しくしてこゝちよし。

【涼風】リヤウフウ　涼しき風、又北風、西南の風にもいふ。

【涼扇】リヤウセン　うちは、團扇。

【涼帽】リヤウバウ　夏帽子のこと。

【涼爽】リヤウサウ　涼しくさわやかなること。

【涼棚】リヤウハウ　涼み臺。

【涼々】リヤウリヤウ　輕薄な貌、輕々しき貌。

【涼菜】リヤウサイ　冷して出す料理。

【涼寀】リヤウイ　涼しきおもむき。

【涼德】リヤウトク　德の薄きこと、德義に從はぬ義。

【涼蔭】リヤウイン　すゞしき木かげ。

【涼颯】リヤウシ　涼しく心地よき風。

類語　炎涼エンリヤウ　新涼シンリヤウ　清涼セイリヤウ　暴涼バウリヤウ　秋涼シウリヤウ　微涼ビリヤウ　悲涼ヒリヤウ　納涼ナフリヤウ　初涼シヨリヤウ　荒涼クワウリヤウ　凄涼セイリヤウ

【淥】 タク

㋑したる〻㋺うつ（擊）㋩川の名（直隸省所在）又地の名

【淥鹿】タクカ　地名、大古黃帝の都せし所にして今の直隸省宣化府保安州の南。

【淀】 テン　デン

㋑よど（水の淺く流れゆるき所）㋺よどむ、水流がとゞこほる㋩國訓よどむ（進行がにぶる、しぶる、言語がすらゝ出ざるさま）

【淄】 シ

㋑川の名（山東省萊蕪縣に發す）㋺くろ（黑色）くろむ（黑くそまる）

【淄澠辨レ味】シジヨウヲチハヒヤベシズ　齊の桓公の料理人が淄・澠兩川の水をもよく味ひ分けたる故事。

【淅】 セキ　シヤク

㋑かしよね、水につけた米㋺とぐ、米を水中でしらげる㋩雨又は風の淋しき聲

【淅水】セキスキ　米のとぎ水、しろみず。

【淅々】セキセキ　風又は雨の淋しき聲。

【淅瀝】セキレキ　㋑さびしくあはれなるさま㋺風雨などのさびしき聲の形容。

【淆】 カウ

㋑にごる、にごす㋺かきまはして濁らせる、まじりものありて淸からざるさま、まじる（混）

【淆紊】カウブン　まじりみだる、雜亂。

【淆混】カウラン　ごたまぜにする、まじりみだす。

【淇】 キ

川の名（河南省淇山に發す）

【淇園】キエン　竹の產地にして支那衞國の淇水の上流にあるもの。

【淇園長】キエンチヤウ　此君、竹の異名。

【淅】 ヘイ

綿を水でさらして白くする、綿絮を漂白する

【淅瀝】ヘイヘキ　綿を水にて漂白すること。

【淈】 コツ

にごす（濁）にごる

【淋】 リン

㋑水などがしたゝり流れるさま㋺ながあめ（霖に通ず）㋩病氣の名、りんびやう（痳に通ず）㋥さびし（寂寥）

【淋汗】リンカン　したゝり流れる汗。

【淋雨】リンウ　雨にうるほふと、又ながあめ、霖雨。

【淋池】リンチ　水の流入する池。

【淋漓】リンリ　みだれるさま。

【淋々】リンリン　雨のふりそゝぐさま、だらだらと長きさま。

【淋漓】リンリ　血水などのしたゝる貌、又雨の降り續くこと、轉じて盛んなる貌。

【淋淫】リンシン　鳥の羽毛のはえかける貌。

【淋漉】リンロク　淋漓に同じ。

【淋離】リンリ　長き貌、又大なる貌。
【淋漓】リンレイ　雨ふりてやまざるさま、又しづくのしたゝるさま。
【淋漓】リンレイ　そゝぐ貌、又絶えざる貌。
【淋巴系】リンパケイ　全身に分布し營養物を吸收して血管内に輸送し或は組織中にて毛細管の吸收し殘したる老廢物を收拾するもの。
【淋巴液】リンパエキ　淋巴管及淋巴腺内にある無色透明の液。
【淋巴管】リンパクワン　淋巴系をなす不規則なる管。

淑　シュク

㋑よし（善）やさし（優）よみす（主として婦人の美德をいふに用ふ）㋺よくす、よしとす、善と自ら信じ慕ふ
【淑人】シュクジン　正しき人、德行ある人。
【淑女】シュクヂョ　清く正しく婦德ある女。
【淑化】シュククワ　清く導く、よきをしへ。
【淑心】シュクシン　善良なる心、きよき心。
【淑名】シュクメイ　よき譽れ、德望ある名。
【淑均】シュクキン　不公平なり。
【淑性】シュクセイ　善良にして優しき氣質。
【淑美】シュクビ　婦德の美しきをいふ。
【淑姿】シュクシ　やさしきすがた。
【淑郁】シュクイク　よき匂ひの盛んなる貌。
【淑胤】シュクイン　よき子孫、善良なる後胤。
【淑茂】シュクモ　善行多し、德すぐれてうるはし。
【淑氣】シュクキ　美はしい氣分、春の如き氣。
【淑訓】シュククン　良き教訓（重に女性について用ゐる語）。
【淑婉】シュクエン　美しくあでやかなり。
【淑哲】シュクテツ　智德のすぐれたること、又その人。
【淑祥】シュクシャウ　よきゝざし、めでたきしるし。
【淑清】シュクセイ　清くして正し。
【淑景】シュクケイ　淑氣に同じ。
【淑媛】シュクエン　㋑才德すぐれし美人㋺女官の稱。
【淑節】シュクセツ　正しき節操。
【淑感】シュクカン　物事を正しく心に感ずること。
【淑德】シュクトク　善良なる行ひ（主として婦人のよき行を言ふ）。
【淑慎】シュクシン　優しくつゝましきこと。
【淑慝】シュクトク　よしあし、善と惡。
【淑靈】シュクレイ　正しい靈、善き精神。
【淑質】シュクシツ　すなほなる性質、正しき生れつき。
【淑譽】シュクヨ　貞婦のほまれ。
【淑慨】シュクレイ　良き相手、善良なるつれあひ。

類語

嘉淑カシュク　清淑セイシュク　貞淑テイシュク　淵淑エンシュク
純淑ジュンシュク　賢淑ケンシュク　柔淑ジウシュク　婉淑エンシュク
令淑レイシュク　英淑エイシュク　私淑シシュク

淒　セイ　サイ

㋑雲雨の起る貌㋺さむし、冷やゝかなり（寒涼）㋩すごし、すさまじ、さびし
【淒日】セイジツ　はだ寒き秋の日。
【淒其】セイキ　うすさむし、そゝろさむし。
【淒風】セイフウ　涼しき風、又西南の風。
【淒恨】セイコン　さびしきうらみ。
【淒々】セイセイ　㋑寒く冷かなり㋺雲雨のおこるさま㋩さびしくしていたまし。
【淒然】セイゼン　寒くして冷かなるさま。
【淒楚】セイソ　すさまじく感ずるさま、悲傷すること。

淖　ダウ　シャク

㋑どろ（泥）ぬかるみ（泥濘）㋺どろ〳〵したるもの㋩やはらぐ（和）しなやか
【淖約】シャクヤク　しなやかなる貌。
【淖糜】ダウビ　かゆ、粥。

淘　タウ

㋑よなぐ（水中でゆりまぜ善惡をよりわけること）㋺善を取り惡を去る意、善いものが殘り惡いものがなくなる㋩ながす、あらふ（洗）
【淘沙】タウサ　すなをよなぐ、不用のものを洗ひ去る。
【淘井】タウセイ　ねどをさらへる、ねどがへ。
【淘汰】タウタ　物を水に入れてゆすぶり不用の部分を流し去ること、えりわける、精選すること。
【淘金】タウキン　金を水中にてえり分けること。
【淘振】タウシン　ふりゆすぶること。
【淘々】タウタウ　水の盛んに流れるさま。
【淘飯】タウハン　湯に漬けしめし。
【淘漉】タウロク　ゆすりこすこと。
【淘宮術】タウキユウジユツ　人の性質・運命等をその生れ日の干支にて占ふ術。

淙　ソウ　サウ

㋑水のながれ、水の聲㋺そゝぐ（注）
【淙琤】ソウサウ　水の音、水のひゞき。
【淙々】ソウソウ　水のながれるさま。
【淙然】ソウゼン　水の流れる音。
【淙潺】ソウサン　水の流れる形容。
【淙躁】ソウサウ　水の流れる音の形容。

淚　ルイ

㋑なみだ（淚涕と並べる時は涕は鼻より出るなみだ）㋺ながる、ながす、なみだが流れる、なみだをこぼす㋩嬢のたれること
【淚竹】ルイチク　まだら竹の別名。
【淚河】ルイカ　淚の川、淚の多き形容。
【淚客】ルイカク　鳳仙花の異名。
【淚袂】ルイゲン　淚を流す貌。
【淚骨】ルイコツ　眼窩の内側にある骨の名。
【淚眼】ルイガン　淚をふくむ目。
【淚珠】ルイジュ　なみだ、なみだの玉。
【淚痕】ルイコン　淚の流れたるあと。
【淚涕】ルイテイ　なみだ（意味を強めていふ）
【淚腺】ルイセン　眼球の上部にあり淚を作るところの腺。
【淚滴】ルイテキ　淚のしづく、淚のしたゝり。
【淚管】ルイクワン　淚腺より眼瞼に達し淚を通ずる管。

訓讀

【淚を揮つて馬謖を斬る】揮レ淚斬二馬謖一　孔明が馬謖を斬つて軍律を正したる故事に因み私情を以て公道をまげざることにいふ語。

類語

暗淚アンルイ　幽淚イウルイ　涕淚テイルイ　血淚ケツルイ
紅淚コウルイ　隕淚ルイ　零淚レイルイ　落淚ラクルイ
悲淚ヒルイ　離淚リルイ　別淚ベツルイ　愁淚シウルイ
淫淚インルイ　一掬淚イツキクノナミダ　千行淚センカウノナミダ

渊　セイ

川の名

淝　ヒ

㋑川の名（淮水の支流の一）㋺出づる所同じくして注ぐ所異なる泉
【淝泉】ヒセン　字解の㋺に同じ。

游　ユウ

游の俗字

渼　テン

㋑けがる、又けがれ、よごれ㋺しづむ（沒）

【淡泥】タンニン　あか、よごれ、けがれ。

【淡】タン

㋑あはし（あつさりせる色又は味）色あさし㋺性質がさつぱりしてゐること、又趣に乏しきさま㋩味なき食物、厚肥でない食物㋥水の滿ちたる貌㋭富貴官爵等の野心なく心の靜かなるさま

【淡水】タンスヰ　まみず、鹽分なき水。

【淡文】タンブン　あつさりした文章。

【淡交】タンカウ　淺き交はり、あつさりした交り、君子の交り。

【淡如】タンジョ　さつぱりせるさま。

【淡竹】タンチク　竹の名、はちく。

【淡味】タンミ　あつさりしたかるき味。

【淡泊】タンパク　㋑色又は味などのあつさりしたこと㋺心持のさつぱりせるさま㋩興味うすきさま。

【淡々】タンタン　淡如に同じ。

【淡烟】タンエン　うすきけむり。

【淡彩】タンサイ　うすき色、うす色の彩色。

【淡黃】タンクワウ　あさぎいろ。

【淡晴】タンセイ　天氣のからりと晴れし貌。

【淡粧】タンシヤウ　あつさりした化粧、うすげしよう。

【淡話】タンワ　あつさりした話、簡單なる談話。

【淡粥】タンジユク　ゆるき粥、うすきかゆ。

【淡雅】タンガ　あつさりして雅趣あると。

【淡雲】タンウン　うすき雲、秋の高き空に現はれる雲。

【淡碧】タンペキ　うすあを色。

【淡褐】タンカツ　うす茶色。

【淡爾】タンジ　無慾なるさま。

【淡愁】タンシウ　あはい物思ひ、かるい物思ひ、少しのうれひ。

【淡墨】タンボク　うすゞみ。

【淡美】タンビ　物にこだはらず靜かに養生すること。

【淡緒】タンシヤ　うすあかちや色。

【淡薄】タンパク　うすいこと、人情のうすく冷たきこと。

【淡靄】タンアイ　薄きもや、うすがすみ。

【淡巴菰】タンパコ　煙草の異名、たばこ。

【淤】ヨ　オ

㋑をり（澱滓）どろ（泥）㋺あく（飫に通ず）

【淤水】オスヰ　どろみず、濁水。

【淤泥】オデイ　ぬかるみ、どろ。

【淤滓】オシ　かす、くず、をり。

【淤澱】オデン　殘りくず、よどんだをり。

【淤閉】オヘツ　をりやかすにて水路の閉塞されること。

【淤賜】ヨシ　十分に飲食をたまはる。

【減】キヨク　ケキ

みぞ（溝に同じ）

【淨】セイ　ジヤウ

㋑きよし（潔）よごれやけがれなし㋺きよむ、きよくす㋩惡意や邪念なく潔白である

【淨几】ジヤウキ　きよきつくゑ、神聖なる几。

【淨巾】ジヤウキン　僧侶の用ふる頭巾。

【淨土】ジヤウド　極樂淨土と言ひ佛敎にて理想の世界のこと。

【淨水】ジヤウスヰ　きよめの水、てあらひ水。

【淨地】ジヤウチ　けがれなく清淨無垢の地。

【淨色】ジヤウショク　清くけがれなき色。

【淨房】ジヤウボウ　便所、かはや。

【淨拭】ジヤウシヨク　きよめふく、掃除する。

【淨界】ジヤウカイ　けがれなき世界、清き世界、寺院等をいふ。

【淨院】ジヤウヰン　清き殿堂、佛寺。

【淨財】ジヤウザイ　清き金、けがれぬ金。

【淨書】ジヤウシヨ　清書、きよがき。

【淨帛】ジヤウサウ　淨拭に同じ。

【淨植】ジヤウショク　奇麗に正しくうゑる。

【淨域】ジヤウヰキ　けがれのなき所、寺の境內、又淨土。

【淨壹】ジヤウイツ　まじりなきと、不純でない意。

【淨境】ジヤウキヤウ　きよき境內、神社佛閣の領域。

【淨話】ジヤウワ　清き敎、佛敎等の法話。

【淨福】ジヤウフク　清きさいはひ、信仰によつて得る幸福。

【淨寫】ジヤウシヤ　きれいに寫すこと。

【淨饌】ジヤウセン　清らかな食物。

【淨土宗】ジヤウドシユウ　佛敎の一派、文治年間法然上人の開きしもの。

【淨玻璃】ジヤウハリ　佛敎で言ふ正邪を一目して分つことの出來る鏡。

【淨琉璃】ジヤウルリ　佛敎にて說く理想の世界。

【淨瑠璃】ジヤウルリ　歌謠の一種、義太夫。

【淨玻璃鏡】ジヤウハリノカガミ　地獄の閻魔廳にある亡者の生前の行爲をてらし見るといふ鏡。

【淨化運動】ジヤウクワウンドウ　敗腐又は惡化せる物事を清め改めんとする運動。

類語

清淨（セイジヤウ）　浴淨（ヨクジヤウ）　潔淨（ケツジヤウ）　鮮淨（センジヤウ）　鏡淨（キヤウジヤウ）　光淨（クワウジヤウ）　英淨（エイジヤウ）

【淪】リン

瀾の俗字

㋑さゞなみ（細波）小さき波㋺しづむ（沈）

【淪失】リンシツ　亡びなくなること。

【淪胥】リンショ　共にしづみ溺れること。

【淪沒】リンボツ　しづめる、しづむ。

【淪晦】リンクワイ　しづみて見えなくなる。

【淪猗】リンイ　さゞなみ、小波。

【淪喪】リンサウ　しづみほろぶ。

【淪陷】リンカン　おちこむ、はまりこむ。

【淪溺】リンデキ　しづみ溺れること。

【淪漣】リンレン　さゞなみ、細波。

【淪落】リンラク　㋑しづむ、淪沒㋺衰へる、おちぶれはてゝうかぶ瀨のなきこと。

【淪匿】リントク　表面からかくれること。

【淪猗】リンイ　淪猗に同じ。

【淪暮】リンボ　おちぶれて年とること。

【淪陸】リンツキ　おちぶれきること、どんぞこへしづむ。

【淪落女】リンラクノヲンナ　高等內侍、又は淫賣婦等の稱。

類語

湮淪（インリン）　泥淪（デイリン）　頹淪（タイリン）　混淪（コンリン）　沈淪（チンリン）　隱淪（インリン）

【淫】イン

㋑みだら、酒色におぼる（經に通ず）㋺みだる、みだらなことをする㋩すぐ、又すごす（過）ふける、度をはづす㋥はなはだし（甚）㋭まどはす（惑）へあふる（溢）こぼれる

【淫心】インシン　みだらなこゝろ、酒色にふけらんとする心。

【淫水】インスヰ　あふれ出づる水。

【淫巧】インコウ　巧に過ぎること、手を加へ過ぎること、いかさま。

【淫末】インマツ　みだらなること、よからぬこと。

【淫行】インカウ みだらなる行ひ、猥褻なる行爲。
【淫刑】インケイ 道をはずれ當を得ぬ刑。
【淫佚】インイツ ㊀男女間のいたづらごと㊁酒色に遊びふけること。
【淫名】インメイ よからぬ名、よこしまなる名聲。
【淫朋】インホウ 遊びともだち。
【淫祀】インシ 邪神を祀ると、又その神社。
【淫雨】インウ ながく降りつゞく雨。
【淫奔】インポン 道にはずれた男女間の交り又下劣の心。

淫

【淫放】インパウ 前に同じ。
【淫侈】インシ みだりにおごること。
【淫邪】インジヤ みだらなよからぬこと。
【淫狡】インカウ みだりに狂ふ、行爲がみだらにして道にもとる。
【淫哇】インアイ 下劣なる音曲、又はみだらな聲。
【淫婦】インフ 色好みの女、いたづら女、いんらん女。
【淫風】インフウ みだりがはしきならはし。
【淫虐】インギヤク みだらにして慘酷。
【淫祠】インシ 邪神をまつる社。
【淫荒】インクワウ 酒色にふけつてしまりなきこと。
【淫悖】インバイ 遊びすさみて道にそむく。
【淫宴】インエン 酒のみだれたる宴會。
【淫々】インイン ㊀水などの流れるさま㊁こぼれるさま、遠く去る貌㊂小雨のしきりに降りそゝぐ貌。
【淫蝶】インセツ けがらはしきこと、みだらなること。
【淫逸】インイツ みだらなることに心を引かれること、酒色に遊びふける。
【淫業】インゲフ みだらな稼業。
【淫僻】インペキ みだらでひがむ。
【淫酒】インシユ しまりなく物事に溺れる。
【淫費】インヒ むだづかい、無用のつひへ。
【淫徑】インケイ よこしまの道、不正のみち。
【淫厲】インレイ わざはい、たゝり。
【淫惠】インケイ 不當の惠み、不相應の恩惠。
【淫賣】インバイ 秘密に色を賣る、又その女。
【淫慾】インヨク 男女の色を好む情慾。
【淫樂】インラク インガク ㊀みだらなるたのしみ㊁だしからぬ音樂。
【淫溺】インデキ 物事にこり固りてふける。
【淫猥】インワイ わいせつ、みだら。
【淫潦】インラウ 水の盛んにあふれるさま、大水、洪水。
【淫亂】インラン 色情にふけりくるふ意、度をすごした色ごのみ。
【淫霖】インリン いつまでもふりやまぬ雨、ながあめ。
【淫遊】インイウ みだらな事に遊びたはむれること。
【淫戲】インギ みだらなるあそび。
【淫蕩】インタウ 淫荒に同じ。
【淫聲】インセイ みだりがはしき聲曲。
【淫濫】インラン 普通でない、みだりがはし。
【淫辭】インジ みだりがはしき言葉、口にすべからざる言。
【淫靡】インビ ㊀みだりに情慾にかゝはること㊁みだらにておごりにふける。
【淫藻文學】インタウブンガク 取材を多く男女の情事に取り色慾方面のみを精察描寫する文學。

類語

久淫 書淫 滲淫 浮淫
汎淫 流淫 荒淫 誣淫

淬 サイ

淬

㊀にらぐ（鐵を燒きて水に入れ質をかためる）やきをいれる㊁心を碎き事を勵むさま㊂火けしつぼ㊃そむ（染）しむ㊄をかす（犯）㊅さむし（寒）
【淬勉】サイベン 心をくだき勉めること。
【淬勵】サイレイ 前に同じ。
【淬礪】サイレイ 刃物をとぐこと。

淮 クワイ エ ワイ

淮

川の名（河南省桐泊山に發す）
【淮水】クワイスイ 河南省の東北に發源し安徽省・江蘇省を經て海に入る川。
【淮南】クワイナン エナン ㊀支那の昔の郡名、淮水以南の地㊁豆腐の異稱。
【淮白】ワイハク 魚類の異稱。
【淮豆】ワイトウ 豌豆の異名。
【淮南子】ワイナンシ 漢の淮南王劉安の撰せる二十一卷の書名。

深 シン

深

㊀ふかし、水がふかい、ふかさ、ふかくす、總べて下の方に遠い、又おくぶかし（墓）㊁周密である、はなはだ（甚）きはめて（極）㊂かくす（藏）㊃廣闊ふく（夜がふける、年がたける）ふかくす（寢ずして夜をふかす）
【深山】シンザン おくやま、みやま。
【深文】シンブン 刑をきびしくすること。
【深仇】シンキウ ふかきうらみあるかたき。
【深切】シンセツ ㊀極めてよく其事に適合すること、適切㊁情をくみいたはる、又ねんごろ、ていねい。
【深目】シンモク 目がくぼむ、又その目。
【深旨】シンシ ふかき心、本當の心。
【深交】シンカウ したしき交はり。
【深衣】シンイ 支那の上流社會にて秋季に著用の證服。
【深玄】シンゲン おくぶかきこと、心の底。
【深沈】シンチン 奥底にまで沒すること、又ふかきこと、深重。
【深妙】シンメウ おくぶかき妙味、眞の妙味。
【深林】シンリン おくぶかき林。
【深更】シンカウ 夜なか、よふけ。
【深念】シンネン ふかきおもひ、考へこむ、深慮。
【深重】シンチウ 落付ありて重々しき貌。
【深刻】シンコク ㊀奥ふかくきざむ㊁むごたらし、無慈悲。
【深長】シンチヤウ 深くして測り難きさま。
【深夜】シンヤ まよなか、深更。
【深厚】シンカウ ふかくして厚し、恩德の厚大なること等にいふ。
【深契】シンケイ かたきちぎり。
【深思】シンシ 深念に同じ。
【深苛】シンカ きびしきにすぎること。
【深奥】シンオウ 奥深き所に居て手をこまぬく、深窟に居て何事もせぬさま。

深

【深紅】シンコウ 濃い紅色。
【深怒】シンド 深くいかる、ひどく怒る。
【深恨】シンコン 深きうらみ、重なる怨恨。
【深窈】シンエウ ふかく靜かなこと。
【深耕】シンカウ 土をふかくして耕作す。
【深祕】シンピ 極めて祕密なること、奥ふかくして測りがたし。
【深密】シンミツ 深くして細密なる考へ。
【深宮】シンキユウ おくまりたる御殿。
【深眷】シンケン 高大なるめぐみ。
【深莽】シンマウ シンバウ ふかき草むら。
【深々】シンシン ふかきさま、測り知りがたきさま。
【深淺】シンセン 深きことゝ淺きこと。
【深綠】シンリヨク 深きみどり、ふかみどり。
【深惟】シンイ よく考へ思ふこと。
【深謀】シンボ 大いにあやしむ、ふかくうたがふ。
【深虛】シンキヨ ふかくしてむなしきさま。
【深湛】シンタン 落つきて重々し。
【深博】シンパク 物事を能く知り究める貌。
【深紫】シンシ ふかむらさき、こむらさき。
【深窟】シンクツ 深閨に同じ。
【深黑】シンコク まつくろ。
【深奥】シンアウ 奥ふかきさま、又其所。

【深微】シンビ 奥ふかく知りがたき意味をいふ。
【深察】シンサツ ふかく穿鑿すること。
【深痛】シンツウ ふかくいたむ、心から氣にやむ。
【深智】シンチ 奥そこのふかき智慧。
【深啼】シンテイ なきいる、又眞の心。
【深遠】シンエン 深くかつ遠き鋭、深奥。
【深愁】シンシウ ふかきものおもひ。
【深意】シンイ 奥底にある心もち、深旨。
【深慨】シンガイ 非常になげく。
【深黑】シンボク 深黑に同じ。
【深趣】シンシュ ふかきおもむき。
【深弊】シンヘイ たやしがたき弊害。
【深閨】シンケイ 奥深きねや、又は女の室、貴女の部屋。
【深翠】シンスキ ふかみどり、深綠。
【深語】シンゴ ひそ〳〵ばなし、又立入りてきく。
【深淵】シンエン 深きふち、そこぶかき鋭。
【深碧】シンペキ こきみどり。
【深省】シンセイ ふかくさとること。
【深痰】シンパク ふさぎこむ病氣、氣鬱症。
【深潭】シンタン そこふかきふち。
【深謝】シンシヤ 平にあやまる。
【深歎】シンタン 非常になげくこと。

【深壑】シンガク 深き谷。
【深薄】シンパク 深きふちと薄ごほり。
【深鑑】シンカン よくかんがみること。
【深越】シンエツ 奥深く立てこめし木かげ。
【深邃】シンスキ 深奥に同じ。
【深谷】シンクワ 深くして廣きさま。
【深憂】シンイウ ふかき心配。
【深蔵】シンゾウ ❶深くしまひこむ ❷深く姿をかくすこと。
【深穩】シンフン 非常にねだやかなこと、又おくゆかし。
【深網】シンジヨウ 法に照し嚴しくたゞす。
【深曠】シンクワウ 非常にひろきこと。
【深識】シンシキ よく物事を知れること。
【深潤】シンジユン よくうるほふこと。
【深議】シンギ 充分にはかり議すること。
【深繾】シンケン 濃いあかいろ、ひ。
【深綣】シンケウ 深仇に同じ。
【深灣】シンワン 水のふかき港灣。
【深鬱】シンウツ ひる尙暗き程に茂る鋭。
【深呼吸】シンコキフ 一時に多量の空氣を呼吸すること。
【深成岩】シンセイガン 花崗岩・閃綠岩等の如く地球内部の熔岩が凝固して成る岩。
【深見草】フカミグサ ❶牡丹の別名 ❷やまたちばなの異名。

【深刻味】シンコクミ 激しくして甚しきおもむき。
【深山幽谷】シンザンイウコク おくやまとしづかなるたに。
【深根固柢】シンコンコテイ 根ぶかく土にくひこむ、基礎の極めてかたきこと。
【深造自得】シンゾウジトク 深く學問の奥儀をきはめること。
【深謀遠慮】シンボウエンリヨ 深く考へて謀をめぐらしよく先々のことを考へ及ぼす。
【深山大澤生三龍蛇】シンザンダイタクリヨウタシヤウズ 山深かければ生ずるものも偉大なる如く異常の地は異常なる物を生ずる意。

類語

高深カウシン　霜深サウシン　仁淳ジンジン
清深セイシン　遂深スヰシン　情深ジヤウシン　幽深イウシン
刻深コクシン　淵深エンシン　潛深センシン　優深イウシン
沈深チンシン　純深ジユンシン　精深セイシン

淳 ジュン

❶まじりけなきこと（純粹）❷ありのまま、すなほ、きぢ ❸人情あつし、まごころがある ❹しほからし（鹹）鹽分を含む ❺流れ動くさま ❻そゝぐ

【淳化】ジユンクワ まがりたる心のだん〳〵教化されること。
【淳白】ジユンパク きれいにて汚點なきこと。
【淳朴】ジユンボク すなをにしてかざらざること、まじゝろがあつてぢみなこと。
【淳良】ジユンリヤウ すなほにて善良なり。
【淳厚】ジユンコウ 人情ありて手厚し。
【淳美】ジユンビ 風俗よく人情にあつし。
【淳深】ジユンシン すなほにして手あつし。
【淳々】ジユンジユン 流れ動くさま。
【淳澆】ジユンゲウ 人情のあつきと輕薄。
【淳鹵】ジユンロ 鹽を含むこと。
【淳淌】ジユンリ 淳朴なると輕薄なるとを云ふ、良いのと惡いのと言ふが如し。
【淳粹】ジユンスキ まじりけ無く淸きこと。
【淳質】ジユンシツ 淳朴に同じ。
【淳魯】ジユンロ 前に同じ。
【淳樸】ジユンボク 前に同じ。
【淳潔】ジユンケツ 正しくつゝしみありて立派なること。

類語

忠淳チユウジユン　淸淳セイジユン
淸淳シンジユン　樸淳ボクジユン

淵 エン

❶ふち（水の深くたゝえたる處）轉じて物の多く集れる處 ❷ふかし（深）❸しづかなるさま、又ふかきさま。
【淵乎】エンコ おく深きさま。
【淵玄】エンゲン おくふかし、深幽。
【淵旨】エンシ 深長なる意味、ふかき心、深旨。
【淵沖】エンチウ おくぶかきこと。
【淵洞】エントウ おく深きほら穴。
【淵泉】エンセン ❶深き泉 ❷深く長きさま。
【淵海】エンカイ ふちと海、轉じて深く大なるものゝこと。
【淵洽】エンカフ あまねくふかきこと。
【淵淑】エンシユク 水の深くして淸きことをいふ。
【淵富】エンプウ 非常に富めること。
【淵湛】エンタン 水を深くたゝえてふかし。
【淵潛】エンセン 奥ふかく隱れること。
【淵々】エンエン ❶つゞみをうつ音 ❷靜かなるさま、又深きさま。
【淵塞】エンソク 奥ゆかしく德のそなはつてゐること。
【淵源】エンゲン 水の流れ出づるもと、淵の源、物の起原、おこり。
【淵然】エンゼン 水ふかくして靜かなる鋭。
【淵意】エンイ 深き心、奥深くてはかりがたき心。
【淵遠】エンエン 思慮深きさまを言ふ。
【淵照】エンセウ ふかく明かなるさま。
【淵雅】エンガ 深く落つきて雅趣あると。
【淵靜】エンセイ 淵の如く靜かなこと。
【淵澤】エンタク ふちとさは、深き沼澤。
【淵穆】エンボク 極めて美しきこと。
【淵謀】エンボウ 次に同じ。
【淵漠】エンバク 深きはかりごと、深謀。
【淵邈】エンバク 淵遠に同じ。
【淵叢】エンサウ 淵は魚の集るところ、叢は鳥の集まる所、物の多く集まる所。
【淵藪】エンソウ 前に同じ。
【淵曉】エンクワウ 奥深くして廣きこと。
【淵祕】エンペイ ふかくかくしをさめる。

類語

靈淵レイエン　遂淵スヰエン　潭淵タンエン　澄淵チヨウエン
深淵シンエン　靜淵セイエン　廣淵クワウエン　洪淵コウエン

混 コン

❶まじる、いりみだれる ❷まじふ、まづ、まぜ合せる ❸水の盛んにわき出るさま ❹分別せぬさま ❺にごる、にごす（濁）
【混一】コンイツ 混合す、一まとめにする。

【混入】コンニフ まぜいれる、まぜ加へる。
【混元】コンゲン 天地、宇宙。
【混化】コンクワ 二つ以上のものが混合されて前と異なつたものを生ずること。
【混同】コンドウ 順序區別を亂してまぜあはす。
【混合】コンガフ まぜ合せること。
【混成】コンセイ 異つたいくつかのものがまぜりて一つのものをなすこと。
【混和】コンワ 二個以上のものが混合して一体となり其組成部分が判別し難くなつたもの。
【混沌】コントン 混茫に同じ。
【混冥】コンメイ 混沌として奥深きさま。
【混流】コンリウ 入り交りて流れること、清濁混流。
【混茫】コンバウ ㊀世界の未だ成り立たずして天地の別のなきこと㊁事物の分化發展せぬさま。
【混堂】コンダウ 交りながれる堂の意にて浴場のこと。
【混壹】コンイツ 混一に同じ。
【混亂】コンラン 入りみだる。
【混線】コンセン 電線がこみ合ひて通話信號等に混雜を生ずること。
【混淆】コンカウ ㊀入りまじる㊁同じに見る

（例）公私混淆。
【混々】コンコン ㊀水のたえず流れるさま、又たえづわきいづる貌㊁濁る貌。
【混戰】コンセン 敵味方入り亂れて戰ふ。
【混淪】コンリン 混茫に同じ。
【混然】コンゼン 雜然に同じ、何れとも明からざるさま。
【混閙】コンタウ 雜沓する、こんざつする。
【混雜】コンザツ 入り交る、いり亂れる。
【混濁】コンダク まじりてにごること、世のみだれるさま。
【混一運】コンイツウン 天下を統率する氣運
【混元代】コンゲンダイ 最も古き時代、太古。
【混血兒】コンケツジ あいのこ、雜種兒。
【混成酒】コンセイシユ 種類の異なる酒をいろいろまぜ合せたるもの。
【混凝土】コンギヨウド 砂・砂利・セメント等を混じ固めし建築材料、コンクリート。
【混合比例】コンガフヒレイ 算術の比例法の一混合法。
【混合列車】コンガフレツシヤ 一・二・三等の各等級の客車を連結せる列車。
【混合地帶】コンガフチタイ 住宅地と工業地との雜然と入りまじりたる地域。
【混成旅團】コンセイリヨダン 一旅團の歩兵に適應の砲・工・騎兵等を加へたる一部隊。

清 セイ シヤウ シン

㊀きよし、水が澄んで居る㊁けがれがない、いさぎよい㊂明らかである㊃すずしい（涼）㊄靜かである㊅金錢勘定がきれいなこと㊆すむ、きよくなる㊇飲料物の汎稱㊈支那の朝廷の名
【清士】セイシ 心の清き人、潔白なる人。
【清心】セイシン きよき心、にごりなき心。
【清化】セイクワ 清明なる德の敎化。
【清水】セイスイ 清き水、澄み渡つた水。
【清世】セイセイ よく治れる時代。
【清切】セイセツ すきとほるほど清きさま。
【清平】セイヘイ 世が治りて靜かなること。
【清友】セイイウ ㊀心からむすび合ふ友㊁梅花の別名。
【清正】セイセイ 神明に恥ぢざる清らかさ。
【清光】セイクワウ ㊀月の光㊁立派な威光。
【清且】セイタシ あした、あさ。
【清夷】セイイ 清平に同じ。
【清白】セイハク 白きこと、いさぎよきこと。
【清名】セイメイ きよいところの名望、立派なる名聲。
【清冷】セイレイ 清くしてすゞし。
【清玄】セイゲン おだやかなること。

【清至】セイシ 陰曆四月の異名。
【清良】セイリヤウ きよくして不純物のなきこと。
【清狂】セイキヨウ 正氣にして狂人の如く人に見なされる人。
【清言】セイゲン 清談の㊁に同じ。
【清沖】セイチユウ 心よくやはらぐさま。
【清寫】セイキユウ 高く晴れ渡りし大空。
【清芷】セイシ よき香氣を發すること。
【清門】セイモン 無位寒素な家柄。
【清祀】セイシ 冬至祭の別稱。
【清盼】セイフン 清き目、すゞしき眼。
【清亮】セイリヤウ 清くしてさわやかなり。
【清明】セイメイ ㊀くもりなきこと、明かなること㊁二十四氣の一。
【清和】セイワ ㊀清平に同じ㊁春の時候ののどかなること㊂陰曆四月一日。
【清泠】セイレイ 清らかなること。
【清長】セイチ 世が治つて人民の長服すること。
【清音】セイオン 聲帶を振動せず出る聲。
【清卓】セイタク 清くしてぬきんでたること。
【清貞】セイテイ 心が正しく善良なること。
【清定】セイテイ 穩かに治まること。
【清時】セイジ 清世に同じ。
【清秀】セイシウ 容貌の清くしてすぐれたること。
【清客】セイカク ㊀風流の客㊁梅の異名。
【清香】セイカウ きよきかほり、よきにほひ、香しきにほひ。
【清退】セイタイ 後をきれいにして退く。
【清洄】セイクワイ きよき水流。
【清流】セイリウ ㊀きよき血統、尊き血すじ㊁清らかなる水のながれ。
【清秋】セイシウ 陰曆八月の異名。
【清苦】セイク 心が潔白で貧乏してゐること、清貧。
【清洌】セイレツ 清く澄みて涼しきこと。
【清風】セイフウ 清らかなる風。
【清悟】セイゴ きよくさとる、よくわかる。
【清恬】セイテン きよく靜かなること、又しとやかなるさま。
【清幽】セイイウ 清く靜かなること。
【清淳】セイジユン きよくまじりけなし。
【清脆】セイゼイ きよくしてもろきこと。
【清敏】セイビン 心潔くしてさとし。
【清泰】セイタイ 安らかなり、安泰。
【清書】セイシヨ 淨書、きよがき。
【清眸】セイボウ すゞしきひとみ、美人の形容。
【清朗】セイラウ きよくはれ渡りたるさま、（例）天氣清朗。
【清素】セイソ ちみで清らかなり。
【清酒】セイシユ きよき酒、すみたる酒。
【清高】セイカウ 氣品のたかきこと。
【清酌】セイシヤク ㊀神にさゝげる酒㊁神聖なるさかもり。
【清々】セイセイ 清らか、すがすがしき貌。
【清唱】セイシヤウ さえたる聲にてうたふ。
【清涼】セイリヤウ 氣もちよく涼しきこと、秋の時候。
【清純】セイジユン 眞にして清らかなること。
【清商】セイシヤウ 五音の一、商の聲。
【清絃】セイゲン 清くすめる琴のね。
【清雪】セイセツ きよめすゝぐ。
【清晨】セイシン 清旦に同じ。
【清虛】セイキヨ 清潔にしてわだかまりなきこと。
【清猗】セイイ きよらかなる小波。
【清眞】セイシン 眞にして潔白なること。
【清爽】セイサウ さつぱりした氣分、朝の氣の如くさわやかなるさま。
【清貧】セイヒン 清廉で貧乏なるくらし。
【清猛】セイマウ 清廉にして心たけし。
【清掃】セイサウ きれいに掃き清めること。
【清率】セイシユツ きれいにして手がるなり。
【清舒】セイジヨ 潔白にして靜かなること。
【清溫】セイウン 清くして溫かき心。

【清話】セイワ 清談の㋑に同じ。
【清室】セイシツ 清き室、涼しき室。
【清貫】セイクワン 侍從の官。
【清楚】セイソ 姿のさつぱりしてゐると。
【清福】セイフク きよらかなるさいはひ。
【清遊】セイイウ 上品な遊び、風流な遊び。
【清輝】セイキ 清らかなる日のひかり。
【清琴】セイキン きれいにさらえる。
【清潔】セイケツ 清らかにして新らしい。
【清新】セイシン 清くしてしづかなること。
【清閑】セイカン 清らかなる影。
【清寧】セイネイ 立派なるをしへ。
【清影】セイエイ 清き日の光。
【清謎】セイレン きよきさゞなみ。
【清揚】セイヤウ ㋑高貴の系統㋺清き眉、又美しきこと。
【清澄】セイチヨウ けがれなく冴えたる貌。
【清婉】セイエン 清くして美くし。
【清游】セイイウ 清遊に同じ。
【清慎】セイシン 心清くつゝしみ深きこと。
【清越】セイエツ 晉羣の清らかに高きこと。
【清酤】セイコ 清酒に同じ。
【清晷】セイキ 清き日の光。
【清謎】セイレン きよきさゞなみ。
【清影】セイエイ きよらかなるかげ。

【清澄】セイチヨウ 月のみちたるさま。
【清操】セイサウ 潔白なるみさを。
【清滌】セイテキ 清き水、すめる水。
【清猷】セイイウ 正しき計らひ。
【清適】セイテキ 心のまゝにきよくたのしむこと。
【清興】セイキヨウ 高尚なるたのしみ。
【清慮】セイシユク 清くして正し、靜かなること。
【清栄】セイエイ 何の禍もなくして榮える。
【清粹】セイスキ 純粹なること。
【清醇】セイジユン まじりけなき清き酒。
【清靜】セイセイ 正しくして靜かなり。
【清雅】セイガ きよく風流なる心。
【清算】セイサン きれいに勘定のくゝりをつけること、差引勘定。
【清密】セイミツ にごりなく明かなること。
【清駛】セイシ 水のすみて疾きこと。
【清器】セイキ 便器、おまる。
【清廉】セイレン 清くして正しきこと。
【清廟】セイベウ 周の文王のたまや、又文王の美德をほめたる歌。
【清澗】セイカン 清らかなる谷川のながれ。
【清暉】セイエウ 清らかなる日のひかり。
【清徹】セイテツ 清くすきとほる。
【清澈】セイガイ 清きみさを、正しき意氣。
【清談】セイダン ㋑俗をはなれたる話、風流なる話㋺晉代に行はれし老莊學の一派

【清蕩】セイタウ 清平に同じ。
【清穆】セイボク ㋑清らかなること㋺健康で安らかなること。
【清毅】セイキ 心正しくして氣骨あること。
【清樾】セイエツ きよき木かげ。
【清濁】セイダク 清きことゝ濁りしこと。
【清輕】セイケイ きよくして何のわだかまりもなきさま。
【清邈】セイバク きよらかにして遙かなる貌
【清逐】セイスキ きよくして靜か。
【清齋】セイサイ ものいみして心をきよめること。
【清聽】セイチヤウ ㋑人の聞くことの敬語㋺澄みてきこえる。
【清鮮】セイセン 清くしてあざやかなること。
【清飄】セイヘウ 清らかなる風、清風。
【清謐】セイヒツ きよくしてしづかなり。
【清顯】セイケン よき位、高きくらゐ。
【清厳】セイゲン 正しくしてきびし。
【清醪】セイラウ 清酒に同じ。
【清癯】セイク 痩せてすらりとせる貌。
【清潔】セイケツ 清らかにしてけがれたし。
【清韻】セイキン すみわたりたる音調。
【清艷】セイエン 清くしてあでやかなり。

【清議】セイギ 正しき議論。
【清燥】セイエウ 清暉に同じ。
【清麗】セイレイ きよくしてうつくしい。
【清晰】セイテン 犀うらゝかにさえづる。
【清霽】セイセイ 天氣のはれ渡りたること。
【清覽】セイラン 人の見ることの敬語。
【清鐵】セイライ 清き風の音。
【清淨】セイジヤウ 清らかにし邪念なきこと。
【清道】セイダウ 天子の行幸のさきばらひ、道あんない、みさき、前驅。
【清和月】セイワゲツ 四月の異名。
【清明風】セイメイフウ 東南の風。
【清涼殿】セイリヤウデン 昔天子が政を聽き給ひし宮殿。
【清教徒】セイケフト 西曆千五百五十八年英國に起りし基督教の新教徒、英語ピューリタンの譯。
【清涼劑】セイリヤウザイ 氣分をさわやかにする藥。
【清望官】セイバウクワン 潔白にして德望ある人の任ずべき官職。
【清淨寂滅】セイジヤウジヤクメツ 老子や佛法の道をいふ。
【清聖濁賢】セイセイダクケン 清聖に清酒、濁賢は濁酒。
類語

【淹】エン

㋑ひたす（漬）㋺とゞまる（留）久しく淹留す㋩又とゞこほる㋥奄に通ず
【淹久】エンキウ 久しくとゞまる、ながく滯在する。
【淹弘】エンコウ おほいなり、大いにひろし。
【淹究】エンキウ とゞまりて究める、廣く修める。
【淹泊】エンパク 一つ所に滯在する。
【淹恤】エンジユツ 他國にとゞまつて憂ふ。
【淹留】エンリウ ㋑久しく滯在すること㋺とどこほつて進まぬこと。
【淹通】エンツウ 何事にも通ずる意、水の何處にも通ずるが如きをいふ。
【淹博】エンパク 淹該に同じ。
【淹宿】エンシユク 宿に泊る、一夜をすごす。
【淹貫】エンクワン 次に同じ。
【淹該】エンガイ 博く通ず、おほひかねる。
【淹歳】エンサイ 長い歳月。
【淹滯】エンタイ ㋑淹久に同じ㋺淹緩に同じ
【淹數】エンスウ 遲速の義に用ふ。
【淹緩】エンクワン はかどらぬ、とゞこほる。
【淹遲】エンチ おそいと、のろいこと。
【淹蘊】エンウン 蓄積して外にあらはさぬと

晏清アンセイ 明清メイセイ 澄清チヨウセイ 氷清ヒヨウセイ
韻清キンセイ 眞清シンセイ 輕清ケイセイ 直清チヨクセイ
廉清レンセイ 穆清ボクセイ 肅清シユクセイ 凄清セイセイ
忠清チユウセイ 潔清ケツセイ 掃清サウセイ 至清シセイ
淑清シユクセイ 昭清セウセイ 顯清ケンセイ 冽清レツセイ

【淺】セン

㋑あさし、水があさい、學識などあさはかである、內容乏し、薄し、淡し㋺あさい、あさい度合㋩國調あす（淺くなる、衰へる）
【淺才】センサイ あさはかなる才、あさぢゑ。
【淺毛】センマウ 毛のうすきこと、うすげ。
【淺劣】センレツ 淺陋に同じ。
【淺見】センケン あさはかなる量見、淺薄なる思慮。
【淺近】センキン あさはかで卑俗。
【淺陋】センロウ 見識・思慮・議論等の意義あさくおとれるにいふ。
【淺紅】センコウ うすべに色。
【淺笑】センセウ うすわらひ。
【淺略】センリヤク あさはかなる計略。
【淺酌】センシヤク 一寸したさかもり、淺酌。
【淺々】センセン 流れの早き形容。

【淺智】センチ　淺はかなる智惠。
【淺黑】センコク　薄ぐろき色、うすゞみいろ。
【淺短】センタン　淺陋に同じ。
【淺綠】センカフ　うすあか色。
【淺紫】センシ　うすむらさき。
【淺飲】センイン　少しのむこと。
【淺聞】センレン　小さきさかもり、淺酌。
【淺聞】センブン　見聞の廣くないこと、知識せまきこと。
【淺弊】センペイ　見識思慮等のあさはかにして劣れること。
【淺綠】センリヨク　あさみどり、うすみどり。
【淺慮】センリヨ　あさはかなる考へ。
【淺學】センガク　學問があさい、又淺き學識。
【淺謀】センボウ　あさはかなはかりごと。
【淺瀨】センベウ　薄はなだ色、あさぎ。
【淺薄】センパク　うすきこと、人情等のうすきにいふ。
【淺鮮】センセン　極めて少きこと。
【淺露】センフイ　うすがすみ、薄もや。
【淺識】センシキ　淺慮、あさき知識。
【淺瀨】センライ　あさせ。
【淺瓜】フサウリ　❶白瓜の異名❷へちま。
【淺黃】フサギ　淡黃色。
【淺葱】フサギ　藍色のうすき色。
【淺草式】フサクサシキ　挑發的にして人にあくどい感じを與へる氣分。

〔森〕ベウ

【森々】ベウベウ　水のひろ〳〵としたるさま、又大水
【森茫】ベウバウ　前に同じ。
【森漫】ベウマン　同上。

〔添〕テン

❶そふ、つけ加へる、增し加へる❷味をます、物の味をますため副へるもの（おかず、副食物）❸國訓そふ（つき從ふつれあひとなる、おかずにする）
【添丁】テンテイ　我子の謙稱。
【添加】テンカ　つけ加へる、そへる。
【添附】テンプ　前に同じ。
【添書】テンショ　詩歌・文章などをなほすと。
【添削】テンサク　人又は物に添へてやる手紙
【添裕】テンゾウ　ある上に更にふやすこと。
【添寫】テンシヤ　添削に同じ。
【添寢】テンシン　よりそひて寢ること、親が子をだいて寢ること。

九畫

〔渙〕クワン

❶ちる（散）とく（釋）❷水の盛んなる貌❸立派なるさま、あやあること❹易の卦の名（難を散じ險を釋く義）
【渙汗】クワンカン　❶君主の號令を發布すること❷廣大なり。
【渙冱】クワンゴ　解けること、凍ること。
【渙癸】クワンイ　あやありてうるはし。
【渙々】クワンクワン　水の盛んなるさま。
【渙然】クワンゼン　難をときて易くする、氷解するさま。
【渙散】クワンサン　釋けちる、ちらばる。
【渙發】クワンパツ　❶險難を開きて四方に發する意、盛んに發する❷詔令を布くにいふ。
【渙爛】クワンラン　あやありて目だつさま。

〔渚〕ショ

❶みぎは、なぎさ、水邊❷小さき洲、又こじま
【渚岸】ショガン　きし、みぎは、なぎさ。
【渚崖】ショガイ　なぎさと川のきし。
【渚畔】ショハン　渚岸に同じ。
【渚鄙】ショオウ　なぎさに居るかもめ。

【渚院】ナギサノヰン　文德帝の皇子惟喬親王の別業、河內國北河內郡渚村にあり。

〔減〕カン　ゲン

❶へる、へらす（數が少くなる、量が小さくなる）❷へり（損耗）❸ひく（一數より他數を引去ること）ひきざん（算法の一）
【減少】ゲンセウ　すくなくなる、へること。
【減刑】ゲンケイ　刑罰を輕くす、罪を減ず。
【減收】ゲンシウ　收入がすくなくなる。
【減法】ゲンパフ　算法の一、ひきざん。
【減削】ゲンサク　へらしけづる。
【減省】ゲンセイ　へらしはぶく。
【減食】ゲンショク　一定せる食量をへらす。
【減剋】ゲンコク　減削に同じ。
【減卻】ゲンキヤク　へらす、そぐ。
【減降】ゲンカウ　へらしくだすこと。
【減俸】ゲンボウ　給金をへらす。
【減退】ゲンタイ　少くなる、おとろへる。
【減殺】ゲンサイ　へらしのぞくこと、とりのぞく、又へること。
【減稅】ゲンゼイ　稅金の高をすくなくす。
【減價】ゲンカ　❶ねだんを下げること❷ねうちをさげる、評判をおとす。
【減等】ゲントウ　❶減刑に同じ❷階級を一等おとす。
【減撥】ゲンテフ　へらすこと。
【減筆】ゲンヒツ　文字の字畫をはぶくこと。
【減黜】ゲンチユツ　爵位・官職などをおとす。
【減損】ゲンソン　へる、少くなる。
【減輕】ゲンケイ　罪を輕くす、等級を下す。
【減額】ゲンガク　かずをすくなくす、金高をへらすこと。
【減債基金】ゲンサイキキン　外債償卻のために積み立てる基本金。

類語
加減　カゲン　半減　ハンゲン　損減　ソンゲン　省減　セイゲン
節減　セツゲン　輕減　ケイゲン　縮減　シユクゲン　衰減　スイゲン
削減　サクゲン　增減　ゾウゲン

〔渝〕ユ

❶かふ、かはる（變）❷月がかはつて、月を越して
【渝月】ユゲツ　月を越える、月がゝはる。
【渝替】ユタイ　かふ、かはる。
【渝盟】ユメイ　約束にそむく、盟約を破る。

〔渟〕テイ

❶とゞまる、水がたまつて流れぬ❷物事の停止すること❸汀に通ず、みぎは、なぎさ
【渟水】テイスイ　たまり水、死水、止水。
【渟泊】テイハク　盤船等が一所にとまること、碇泊。
【渟膏】テイカウ　油をたゝへし如く水が深くすみて靜かなるさま。
【渟匯】テイクワイ　水の淵つてめぐる所。
【渟蓄】テイチク　水をたゝへること、轉じて學識の深く博きこと。
【渟澄】テイチヨウ　たまり水の淸くすむこと。

〔渠〕キヨ

❶みぞ、ほり❷家屋の奧、深くひろきさま❸おほいなり（巨）又かしら❹車の大輪（車輞）❺かれ（彼）❻なんぞ、なんすれば、いづくんぞ（詎に通ず）
【渠水】キヨスイ　みぞ、ほりわり。
【渠長】キヨチヤウ　おやかた、かしら、首領。
【渠帥】キヨスイ　前に同じ。
【渠々】キヨキヨ　家屋の廣く奧ふかきさま。
【渠疏】キヨソ　みぞをさらへ通ずること。
【渠率】キヨスイ　渠長に同じ。
【渠魁】キヨクワイ　前に同じ。

類語
暗渠アンキョ　廃渠ハイキョ　車渠シャキョ　漕渠サウキョ
軒渠ケンキョ　荒渠クワウキョ

渡 ト

㋑わたる、流をわたる㋺わたす、わたらせる、轉じて物を授くるにいふ㋩わたり、わたしば（津頭）㋥國訓わたる（傳はる、世を過す）わたす（傳へる、授ける）わたり（相談、交渉）

【渡口】トコウ　わたしば、舟わたし。
【渡夫】トフ　わたしもり、渡守。
【渡世】トセイ　よわたり、生業、生活。
【渡米】トベイ　米國へ行くこと。
【渡守】トシュ　渡場の舟人、渡場の船頭、わたしもり。
【渡來】トライ　外國から此方へ渡りきたること。
【渡津】トシン　渡頭に同じ。
【渡船】トセン　わたしぶね、渡舟。
【渡航】トカウ　次に同じ。
【渡海】トカイ　船にて海をわたり越す。
【渡御】トギョ　㋑祭禮のみこしが町内を巡ること㋺天子の行幸。
【渡頭】トトウ　わたしば、舟つきば。
【渡者】ワタリモノ　所定めず諸所をわたり歩く人。
【渡鳥】ワタリドリ　季候にしたがひて居所をうつしかへる鳥、候鳥。
【渡場】ワタシバ　河・海などの船渡のある所。
【渡殿】ワタドノ　家の周圍に設けたる細き緣回廊、ほそどの。
【渡得レ船】ワタリニフネヲウ　都合よく希望のかなひたる喜びを喩へていふ語。

類語
古渡コワタリ　飛渡ヒワタリ　過渡クワト　急渡キフト
超渡チョウト　越渡エツト　津渡シント　滑渡セント

渢 ヒュウ フウ ハン ボン ホン

㋑水の聲㋺廣く大なる聲㋩中庸なる聲又浮ぶ貌

【渢々】ハンパン　物のうかぶさま。

渣 サ

かす、をり

【渣滓】サシ　をり、かす。

渤 ボツ

㋑海の名㋺霧の形容㋩水の聲の形容

【渤海】ボツカイ　直隸省の東の海。

渥 アク

㋑うるほふ、うるほす（霑）水につけひたす㋺あつし（厚）てあつし（懇篤）惠みが豐かである㋩川の名（直隸省所在）

【渥丹】アクタン　あかいろ、あか土。
【渥味】アクミ　味の濃厚なるもの。
【渥洽】アクカフ　うるほひ、めぐみ、恩惠。
【渥美】アクビ　つやありて美くし。
【渥恩】アクオン　あつき恩惠。
【渥惠】アクケイ　あつき惠み。
【渥然】アクゼン　顏につやあるさま。
【渥赭】アクシャ　よく溶かしたる赭色、又まつかな土、轉じて赤らがほ、朱顏。
【渥露】アクロ　しげく霑くつゆ。

類語
優渥イウアク　周渥シウアク　霑渥チョウアク　蕃渥バンアク
惠渥ケイアク　殊渥シユアク　隆渥リユウアク　霑渥テンアク

渦 クワ

㋑うづ、うづまき、水のぐるぐる回るもの、又其水、又其形㋺ごたごた、騷動㋩うづまく、うづをなして旋回する

【渦中】クワチュウ　うづの中、又ごたごたせる中。
【渦水】クワスイ　うづまける水。
【渦紋】クワモン　うづまきのかた。
【渦旋】クワセン　うづまきめぐる、回旋。
【渦盤】クワバン　うづまく、旋渦。

温 ヲン ウン

㋑あたゝか（暖煖）あたゝむ、ぬくめる又あたゝまる㋺たづぬ（過去の事を研究する）㋩すなほ（心がけのやさしきこと）㋥顏色のおだやかなるさま㋭夏に吹く風へいでゆ（温泉）㋬つゝむ（藴に同じ）

【温石】ヲンジャク　㋑火にて燒き布などにて包み體を暖むるに用ゐる石㋺蛇紋石の異名。
【温史】ヲンシ　司馬温公の著はせる資治通鑑の異稱。
【温良】ヲンリャウ　おだやかにしてすなほ。
【温克】ヲンコク　すなほで心大きく人にさからはぬこと。
【温谷】ヲンコク　温泉の湧出する谷。
【温床】ヲンショウ　人工熱を供給して植物を速成栽培する苗床。
【温坑】ヲンカウ　煖房裝置の一、をんどる。
【温言】ヲンゲン　おだやかなる言葉。
【温和】ヲンワ　㋑おだやかなること、おとなしなし㋺寒暖のほどよき氣候。
【温泉】ヲンセン　地中よりわき出るあたゝかき泉、いでゆ。
【温度】ヲンド　あたゝかさの度合。
【温風】ヲンプウ　夏の末に吹く風。
【温厚】ヲンコウ　穩やかにしてまじめなり。
【温室】ヲンシツ　暖かく裝置したる室。
【温純】ヲンジュン　すなほにしてなだらか。
【温袍】ヲンパウ　綿入のどてら。
【温故】ヲンコ　古き事を研究すること。
【温柔】ヲンジウ　おとなしくやはらかなり。
【温清】ヲンセイ　冬はあたかに夏は涼しくすること、孝子の親に仕へる道にいふ。
【温氣】ヲンキ　陽氣、又體温。
【温情】ヲンジャウ　やさしき心、情けある心。
【温恭】ヲンキョウ　温和にしてうやうやしし。
【温惠】ヲンケイ　温順に同じ。
【温裕】ヲンユウ　おだやかにしてゆとりあるさま。
【温尋】ヲンジン　たづねる、さがし求める。
【温習】ヲンシフ　教へたること、又知りたることを忘れざる樣に復習すること。
【温詔】ヲンセフ　めぐみふかきみことのり。
【温帶】ヲンタイ　赤道の南北各二十三度半より六十六度半に至る間の區域。
【温々】ヲンヲン　やさしきこと、おとなし。
【温雅】ヲンガ　おとなしくけだかきこと。
【温湯】ヲンタウ　あたゝかき湯、又温泉のこともいふ。
【温暖】ヲンダン　あたゝかさ、あたゝか。
【温順】ヲンジュン　温和にしてすなほなり。
【温飽】ヲンパウ　衣食に不自由なきこと。
【温熱】ヲンネツ　温暖に同じ。
【温鬱】ヲンウツ　あたゝか。
【温輭】ヲンセン　あたゝかにしてやはらか、あたりのよいこと。
【温燠】ヲンイク　暖かなること。
【温職】ヲンショク　閑散なる職、やさしく容易なる仕事。
【温辭】ヲンジ　おだやかなる言葉。
【温謹】ヲンキン　温柔にしてつゝしみ深し。
【温顏】ヲンガン　顏色を和ぐること、柔和なる顏つき。
【温籍】ヲンセキ　おだやかにして容るゝ所あるさま。
【温覺】ヲンカク　温氣に觸れて生ずる感覺にして温覺冷覺の二種の神經別々にあり
【温麗】ヲンレイ　温和にしてうるはし。

【温鳥】スクノドリ　寒夜に鷹が足をあたゝめるために摑み居る生きた小鳥。
【温飩】ウンドン　うどん。
【温如レ玉】ランタマノゴトシ　君子の德をいふ。
【温柔鄉】ランジウキヤウ　㋑暖かにして柔かなるさと、轉じて遊び場所、花柳の巷㋺ねや。
【温血動物】ランケツドウブツ　鳥類または總ての獸類の如く常に一定の体温を有せる動物の總稱。
【温故知新】ランコチシン　古き事を研究して新しき事をも知る。
【温柔敦厚】ランジウトンコウ　やさしくして手あつし。
【温情主義】ランジヤウシユギ　人類の愛情を基礎として事を處理し自然に人を服せしめること。
【温清定省】ランセイテイセイ　子の父母に事ふる禮。
【温良恭儉讓】ランリヤウキヨウケンジヤウ　温和・すなほ・愼敬・つゝましやか・謙遜の五德の並稱。

類語

寒温　カンウン　微温　ビウン　清温　セイウン　體温　タイウン
和温　ワウン　粹温　スイウン　靜温　セイウン

〔渫〕セツ

㋑さらふ（水中のどぶどろを除き去る）㋺もらす、又もる（洩）㋩なる（卵）あなどる（慢）㋥けがれ（汚）㋭ちらす、又ちる（散）㋬やむ（歇）

【渭】キ
川の名（黃河の一支流、太公望が釣をして居たといふ川）
【渭橋】キケウ　琵琶の異名。
【渭陽】キヤウ　自分の舅をいふ。
【渭濱器】キヒンノキ　太公望の故事に因みて將帥の器量をいふ。
【渭樹秦雲】キジユシンウン　友を思ふ情愛の深きをいふ。

〔渝〕エン

雨をもよほして暑き貌

〔測〕ソク　シキ

㋑はかる、水の深淺をためす、凡て物の高低長短廣狹等を計量すること、轉じておしはかる、おもひ喜ぶ㋺きよし（清）するどし（鋭）

【測天】ソクテン　天文を考へること。
【測地】ソクチ　土地の高低面積等を測る。
【測辰】ソクシン　時をはかる。
【測定】ソクテイ　はかりさだめる、測量。
【測究】ソクキウ　おしはかりて研究する。
【測度】ソクド　㋑はかる、しらべる㋺度數をはかる。
【測候】ソクコウ　氣象・天文等を測り知ること。
【測量】ソクリヤウ　㋑人の心をはかり知ること㋺物事の長短高低深淺等を測ること。
【測鉛】ソクエン　海の深淺等をはかる具。
【測揆】ソクキ　はかりしらべる。
【測算】ソクサン　はかりかぞへる。
【測鉅】ソクサ　距離をはかるくさり。
【測識】ソクシキ　おしはかり知る、究め見る。
【測驗】ソクケン　はかりしらべる。
【測地學】ソクチガク　地球の形狀・質量及び大きさ等に關する學術。
【測候所】ソクコウジヨ　氣象・天文の變化をはかりしらべる所。
【測壓器】ソクアツキ　氣體の壓力を測る器。

類語

計測　タウソク　臆測　オクソク　檢測　ケンソク　揆測　キソク
推測　スイソク　精測　セイソク　窺測　キソク

〔港〕カウ　コウ

㋑みなと（船の繫泊する處）ふなつき㋺みなくち、分れながれる水㋩ふなみち（船路）

【港口】カウコウ　港の出入口。
【港門】カウモン　前に同じ。
【港租】カウソ　海關稅のこと。
【港澳】カウオウ　みなと、いりうみ。
【港灣】カウワン　前に同じ。
【港務局】カウムキヨク　開港々則に關する一切の事務を司る官廳。

類語

軍港　グンカウ　要港　エウカウ　良港　リヤウカウ　斷港　ダンカウ

〔渴〕カツ　カチ　ケシ

㋑かわく、水を欲す、のどがかわく㋺非常に欲しく思ふ、熱望する㋩かる（涸）かれる、水がつきて無くなる

【渴心】カツシン　渴して水を求める心、又轉じて物を欲する心、欲望。
【渴水】カツスイ　水がかわく、水がなくなる。
【渴病】カツビヤウ　女の痳病、せうかち。
【渴仰】カツカウ　信じ尊ぶ、熱心に信仰する。
【渴望】カツバウ　しきりに望むこと。
【渴筆】カツピツ　かすりふで。
【渴睡】カツスイ　非常にねむきこと。
【渴飲】カツイン　のどがかわくこと。
【渴愛】カツアイ　甚しくあいすること。
【渴慕】カツボ　しきりにしたふこと。
【渴驥】カツキ　のどをかわかして水を求める駿馬。
【渴而穿レ井】カツシテセイヲウガツ　のどがゝわいてから井を掘る、まに合はぬとに喩ふ。
【渴不レ飲二盜泉一】カツストモクセンニノマズ　如何に渴するともぬすんだ水はのまない、いかに窮しても不正なる行はせぬ意。
【渴者易レ爲レ飲】カツシヤイシヤスシ　のどの渴いた者はどんなまづい物でも悅んで飲む、ひもじい時にまづい物なしの意。

訓讀

【渴を解く】ケツヲトク　かわきをとむ。
【渴を醫す】ケツヲいす　前に同じ。

〔游〕イウ　リウ

㋑およぐ（泳）およぎ㋺あそぶ（遊）あそびたのしむ㋩何もせぬさま、悠々自適の貌㋥まじはる、交際す㋭面白く思ふ貌㋬其地に至って見物す㋮川のながれ㋯はた（旗）

【游士】イウシ　他國を游歷する人、浪人、又游說する人。
【游弋】イウヨク　軍艦等が或目的をもつて海上を往來すること。
【游子】イウシ　他國にある人、他國に漫遊中の人、たびゞと。
【游女】イウヂヨ　㋑娼婦、あそびめ㋺出遊する女㋩漢水の川の神。
【游手】イウシユ　㋑手をあそばせる、手をあけること㋺あそびにん、無職者。
【游民】イウミン　何の職業もなさぬ人。
【游田】イウデン　獵をして慰むこと。
【游行】イウカウ　遊びあるくこと。
【游兵】イウヘイ　平素一定の任務なく軍の形勢により適宜に出動して本隊を援ける兵のこと。
【游言】イウゲン　なきはなし、そらごと。
【游居】イウキヨ　ふだん、平生、居常。
【游戲】イウフク　游戲の時にきる衣服。
【游步】イウホ　遊び步く、散步。
【游放】イウハウ　思ひのまゝに遊ぶ、ぶらぶらしてゐること。
【游宦】イウクワン　遠地の官吏となること。

【游幸】イウカウ　天子の出遊をいふ。
【游泳】イウエイ　水をおよぐ、水練、又俗に世渡りのこと。
【游俠】イウケフ　任俠、をとこだて。
【游食】イウショク　㋑一定の職業なく遊んで暮らす㋺臣下たる職分を果さずあそびねること。
【游畋】イウデン　游田に同じ。
【游行】イウエン　きまゝ、放肆、ほしいまゝ。
【游軍】イウグン　游兵の軍隊。
【游閑】イウカン　ひまありてあそぶ。
【游道】イウダウ　交際する方面、つきあひ。
【游神】イウシン　遊びて心をたのしませる。
【游魂】イウコン　本體より拔出したる靈魂。
【游偵】イウテイ　しのびのもの、諜者。
【游揚】イウヤウ　遊說してほめたてる。
【游說】イウゼイ　四方の諸侯に內政外交のことを說きまはること、轉じて地方をめぐりて是非の論をなすこと。
【游就】イウシウ　善人と交際する意。
【游肆】イウシ　心のまゝにあそぶ。
【游樂】イウラク　游豫に同じ。
【游費】イウヒ　むだづかひ、冗費。
【游談】イウダン　游說、游言に同じ。
【游學】イウガク　㋑他國にて學問を修める㋺他國より來りて仕官を求める者。

【游豫】イウヨ　遊びたのしむ。
【游歷】イウレキ　あそびまはる。
【游戲】イウキ　あそびたはむれる、あそび、又あそびごと。
【游徼】イウケウ　みまはりする兵士。
【游龍】イウリョウ　㋑水に游泳するたつ、又一說に氣まゝに游べるたつ㋺蟲の異名
【游擊】イウゲキ　時機に乘じて敵をうつ。
【游離】イウリ　本體より離れてゐること。
【游騎】イウキ　游擊の騎兵、又馬隊の稱。
【游闕】イウケツ　軍車の缺を補ふ爲めの豫備の車。
【游獵】イウレウ　游田に同じ。
【游覽】イウラン　たのしみながらみる、自由に見る。
【游觀】イウクワン　遊び巡つて見物する。
【游邏】イウラ　敵狀を偵察する兵。
【游鱗】イウリン　水中の魚類。
【游牧民】イウボクノタミ　一定の住居なく水草をおうて牧畜を業とし生活する人民。
【游禽類】イウキンルヰ　水邊をあさりあるく鳥類。
【游閑公子】イウカンノコウシ　家富み衣食の憂なき閑散の人。
【游動圓木】イウドウエンボク　運動機械の一。
【游雲驚龍】イウウンキヤウリヤウ　能書の形容。

類語
曾游ソウイウ　圃游イウイウ　上游ジヤウイウ　潮游サクイウ
浮游フイウ　惰游ダイウ　清游セイイウ　春游シユンイウ
舟游シウイウ　野游ヤイウ

淘 クワウ

波のさかまく聲、水が石に激する聲

渺 べウ

㋑はるか、水又は野原などのはるかに廣きこと、又其貌㋺極めて小さきこと
【渺々】ベウベウ　次に同じ。
【渺茫】ベウバウ　ひろ〳〵としてかぎりなきさま、はるかに遠きさま。
【渺瀰】ベウビ　前に同じ。
【渺漫】ベウマン　同上。

渾 コン

㋑まじる、にごる㋺すぶ、まとめる㋩すべて、まつたく㋥大水の流れるさま㋭物事の未だ分れずして唯ばつと大なる貌
【渾一】コンイツ　物がとけ合つて一體となる

【渾大】コンダイ　まろくして大なるさま。
【渾沌】コントン　天地の未だ開けずして分明ならざる貌、物事の區別不分明なる貌。
【渾身】コンシン　からだ全體、全身。
【渾和】コンクワ　圓滿なるさま。
【渾金】コンキン　あらがね、混合物のある金。
【渾涵】コンカン　混じいれる、包容する。
【渾淪】コンリン　渾沌に同じ。
【渾々】コンコン　㋑水の流れてつきぬさま㋺水のにごるさま。
【渾敦】コントン　天地の未だ開けずして分明ならざる狀態、轉じて物事に區別の不分明なること。
【渾然】コンゼン　くぼみ又は角のなきさま、又差別なきさま。
【渾亂】コンラン　全部みだれる、大いに亂る。
【渾圓】コンエン　全體がまるい、まんまる。
【渾殺】コンカウ　物事の入りまじるさま。
【渾碧】コンペキ　すべてあをし、みわたすかぎり青し。
【渾濁】コンダク　にごる、まじる。
【渾名】アダナ　人を嘲り賤しみて呼ぶ名。
【渾天儀】コンテンギ　天文を觀測する器。

渥 ハイ

波のさかまく勞、なみうつ、又其聲

渭 ビ

みぎは、水のほとり、はま、いそ

渣 キフ

しる、あつものゝしる、肉汁

湍 タン

㋑はやせ（水の早く流れる所）急流㋺水流の急なるさま、又水の激しくめぐる貌、うづまく
【湍水】タンスヰ　はやい流れ、渦卷くはやせ。
【湍狀】タンジフク　水のめぐり流れるはやせ。
【湍流】タンリウ　湍水に同じ。
【湍悍】タンカン　流れの急にいさましき貌。
【湍激】タンゲキ　水流早くはげしきこと。
【湍瀨】タンライ　湍水に同じ。
【湍瀧】タンロウ　急激なる流れ、たきつせ。

類語
驚湍ケイタン　清湍セイタン　激湍ゲキタン　急湍キフタン
飛湍ヒタン　馳湍チタン　奔湍ホンタン　崩湍ホウタン
懸湍ケンタン　碧湍ヘキタン

湊 ソウ

㋑みなと（水邊の地にて人の多く集る所、港は水、湊は陸にいふ）ふなつきば㋺あつまる（聚）㋩きそひすゝむ、おもむく㋥肌のきめ（膚理）
【湊合】ソウガフ　一つに集めよせる。
【湊泊】ソウハク　㋑船のあつまること㋺事物のあつまること。
【湊集】ソウシウ　よる、あつまる。

類語
交湊カウソウ　殷湊インソウ　輻湊フクソウ　塡湊テンソウ
叢湊ソウソウ

湎 ベン メン

㋑おぼる、ふける、酒に心を奪はれる、物事に耽る㋺うつりかはる、おしうつる、又其さま
【湎々】ベンベン　物事の移りかはるさま。

湧 ショ

㋑したむ（酒をしぼる）㋺露の多き貌㋩盛んなる貌

溢 ボン
川の名（楊子江の支流）

瀏 セン
あらふ（濟）そゝぐ（灌）手をあらひ清める
【瀏洗】センセン　あらふ、すゝぐ、そゝぐ。
【瀏滌】センテキ　前に同じ。
【瀏濯】センタク　同上。
【瀏灑】センサイ　同上。

湖 コ
㋑みづうみ（陸地に圍まれたる廣大な水のたまり）㋺池沼の大なるもの（大陂）
【湖上】コジヤウ　湖水の水面、湖水のほとり。
【湖水】コスキ　みづうみ、又その水。
【湖心】コシン　湖水のまんなか。
【湖池】コチ　みづうみと池。
【湖沼】コセウ　みづうみとぬま。
【湖海】コカイ　みづうみとうみ。
【湖畔】コハン　みづうみのほとり、湖水の附近。
【湖邊】コヘン　前に同じ。

【湖海之士】コカイノシ　天下にすぐれたる人士、豪傑の士。

湘 シヤウ
㋑川の名（湖南省所在）又地名（湖省は湖南省）㋺にる（煮）
【湘妃】シヤウヒ　㋑舜の二妃の娥皇・女英の稱㋺竹の一種、まだら竹。
【湘南】シヤウナン　支那湘水以南の地方、我が國にては相模の馬入川以南の地方。
【湘娘】シヤウガ　湖水の神、又美人の形容。
【湘簾】シヤウレン　まだら竹のすだれ。

湛 タン　チン　セン
㋑たゝふ、たゝへる、水などを一ぱいためる㋺露の多いさま㋩まごゝろのあるさま㋥水の深きさま㋭心の澄んで靜かなるさま㋬ふける（耽）㋣しづむ（沈）㋠ひたす（漸）
【湛寂】タンセキ　しづかにして淋しきさま。
【湛冥】タンメイ　奥ぶかきさま。
【湛恩】タンオン　深きめぐみ、高恩。
【湛湛】タンタン　水の滿ちたるさま。
【湛々】タンタン　㋑水の深きさま㋺まごゝろあるさま㋩露多きさま。
【湛然】タンゼン　㋑水の深くしづかなるさま㋺重々しくおちつけるさま。
【湛靜】タンセイ　しづかにして重々しきこと。
【湛碧】タンペキ　あを〳〵した水が一ぱいたゝへてゐること。
【湛露】タンロ　しげくおく露。

湜 ショク
すむ（水澄みて底の見ゆる貌）

滑 ピン　コン
㋑関に同じ、誼に用ゐる字㋺定らぬさま、まじる（混合）

湧 涌に同じ
【湧出】ヨウシユツ　わき出る、噴出する。
【湧泉】ヨウセン　いづみ、わきみづ。
【湧滿】ヨウケツ　涌き出ること、噴出。

湩 トウ　チョウ
ちゝ（乳）ちゝしる（乳汁）

湫 シウ　セウ

㋑いけ（池）㋺憂へる㋩すゞしき貌㋥ひくし、ひくゝせまし㋭とゞこほる（停滯）へ國訓くて（低くして水草など生えたる所）
【湫宅】シウタク　せまき家、矮屋。
【湫底】シウテイ　とゞまる、とゞこほる。
【湫々】シウシウ　うれひにしづむさま。
【湫隘】シウアイ　低くして狹し、又その地。

湮 イン　エン
㋑しづむ（沈）㋺ふさがる、ふさぐ（塞）
【湮圮】インヒ　埋れやぶれる。
【湮沈】インチン　次に同じ。
【湮沒】インボツ　ほろぶ、うづもれてなくなる、うづもれしづむ、湮沈。
【湮珍】インチン　前に同じ。
【湮淪】インリン　沈みてあらはれざること。
【湮晦】インクワイ　すがたをかくす、亡ぶ。
【湮棄】インキ　亡びすたる。
【湮散】インサン　ちりうせる。
【湮替】インタイ　湮棄に同じ。
【湮滅】インメツ　消えてなくなる、消滅。
【湮遠】インエン　遠き昔の事にて判然せざること。

湯 タウ　シヤウ
㋑ゆ（あたゝかき水）ふろ、温泉㋺煎藥の名に添えてよぶ語㋩蕩に通ず、ほしいまゝ㋥殷朝初代の天子の名（湯王）㋭又波の動く貌へさかんなり（盛）
【湯井】タウセイ　温泉、いでゆ。
【湯水】タウスキ　あたゝかき水、ゆ。
【湯池】タウチ　熱湯の池、要心堅固なる堀。
【湯治】タウヂ　温泉に浴し病を治すること。
【湯泉】タウセン　温泉に同じ、いでゆ。
【湯婆】タウバ　ゆたんぽ。
【湯殿】タウデン　浴室、風呂場、ゆどの。
【湯網】タウマウ　殷の湯王が禽獸を捕ふるに三面を開放して逃道をつくりし故事に因み寛大なる處置。
【湯餅】タウヘイ　うどん、うんどん。
【湯熨】タウキ　患部をゆにて温めること。
【湯劑】タウザイ　煮出して服用する藥、せんやく。
【湯藥】タウヤク　㋑前に同じ㋺湯治と服藥。
【湯氣】ユゲ　湯より發する蒸氣。
【湯葉】ユバ　豆腐の液に灰汁を加へ煮て其の上皮を取り乾したる食料品。
【湯々】シヤウシヤウ　波の盛にわきたつさま。
【湯沐邑】タウモクノイウ　天子諸侯の領地をいふ。
【湯婆子】タウバシ　ゆたんぽ。
【湯澆飯】タウゲウハン　ゆづけめし。
【湯鑊罪】タウクワクノツミ　かまゆでの刑。
【湯熨斗】ユノシ　布帛などの皺を火氣にて熨すこと、又その器。

訓讀
【湯を探る】探レ湯　ゆをさぐる　昔善惡正邪を定める爲め神に誓を立て熱湯に手を入れて行ひし判斷法。
【湯火を避けず】不レ避二湯火一　たうくわをさけず　熱湯や猛火をもおそれぬ意。

湲 シン
みづ、又川の名

滑 クワツ　エン
水の流れる貌、又その聲

十畫

源 ゲン　グワン

㋑みなもと（水流の發する所）轉じて物事の始め、根本㋺水の絶え間なく流れる貌、轉じて物事のつゞきて絶えぬこと㋩國訓みなもと（四姓の一、源氏）

【源平】ゲンペイ 源氏と平氏、源氏の白・平氏の赤の旗色に因み紅白の意。

【源宗】ゲンキウ 根本をきはめたゞす。

【源委】ゲンキ もとゝすゑ、本末。

【源泉】ゲンセン 水の流れ出づるもと、物事のはじまり。

【源流】ゲンリウ みなもと、もとのながれ。

【源々】ゲンゲン 物事の絶えず續くさま。

【源統】ゲントウ みなもと、根本。

【源頭】ゲントウ 泉のもと、又泉のほとり。

【源氏名】ゲンジナ 遊女等が營業上本名以外につけたる名。

類語

淵源エンゲン　鶻源クワゲン　洪源コウゲン　清源セイゲン
仙源センゲン　桃源タウゲン　定源テイゲン　根源コンゲン
基源キゲン　武陵桃源ブリヨウタウゲン

準 ジユン セツ

㋑みづもり（水準器）㋺たひらか（水平）㋩のり、目あてとなるもの㋥へうじゆん、なぞらふ、のつとる、ならふ㋭はなぼしら（鼻梁）又はなすぢ㋬俗にゆるす意に用ふ

【準由】ジユンイウ よりどころとす、のつとる、法として從ふこと。

【準的】ジユンテキ めあて、標準。

【準則】ジユンソク のつとるべきのり、法則。

【準度】ジユンタク はかる、計量する。

【準備】ジユンビ ㋑したく、用意、そなへ㋺不時の用意、豫備。

【準程】ジユンテイ のり、法式。

【準據】ジユンキヨ ㋑よりどころ、かた、のり㋺準由に同じ。

【準繩】ジユンジヤウ 水もりと墨なは、共に物を正しくするもの、轉じて、のり、めあて等の意味に用ふ。

【準士官】ジユンシクワン 士官に準じてその待遇を受けるもの。

【準占有】ジユンセンイウ 自己の爲めにする意思を以つて財産權の行使を爲すこと。

【準現行犯】ジユンゲンカウハン 現行犯になぞらへて處分すべき犯罪。

【準禁治產】ジユンキンヂサン 法律上禁治產者に準ずべき待遇をうけるもの。

【準備書面】ジユンビシヨメン 民事訴訟にて口頭辯論を開くに至るまでの準備を書面にてなすこと。

類語

合準レイジユン　議準ジキジユン　彝準イジユン　盛準セイジユン
水準スイジユン　通準ツウジユン　繩準ジヤウジユン　規準キジユン
隆準リユウジユン　龍準リユウジユン　標準ヘウジユン　常準ジヤウジユン

溘 カフ

㋑たちまち（俄忽）㋺寒きさま

【溘死】カフシ 忽ち死す、急變して死す。

【溘焉】カフエン にはかなる貌、主として人の死亡にいふ語。

【溘逝】カフセイ 溘死に同じ。

【溘然】カフゼン 忽然たる貌、急に、にはかに

【溘々】カフカフ ㋑忽ち至る水の靡の形容㋺寒きさま。

【溘謝】カフシヤ 溘死に同じ。

溜 リウ

㋑したゝり、しづく㋺したゝる、水がたれ落ちる㋩雨滴の落ちる所、あまだれおち㋥（又霤に通ず）蒸氣となりしものが再び冷卻して凝結すること㋭國訓たまる（つむ、ふえる、重なり滯る）たまり（衆人の集り控ゑる所）ため（物を貯へる所、又病氣の罪人を入れる所）

【溜水】リウスイ たまりし水、たまりみづ。

【溜出】リウシユツ 物が蒸溜し液狀となりてしたゝり落ちること。

【溜飲】リウイン 胃中に其まゝ食物がつかへて酸い汁が出る病氣、又は胃擴張。

【溜滴】リウテキ しづく、溜點。

【溜池】タメイケ 用水や飲料水などをためて置く池、貯水池。

【溜息】タメイキ 苦勞心配などにあまつて思はずつく息、といき。

溝 コウ

㋑みぞ（田畑に用水を引く水道）又谷間の水流㋺下水（はき水の通路）㋩ほり、ほりわり、城の周りのほり（溝池）

【溝池】コウチ みぞいけ、城のほり。

【溝阬】コウカウ みぞ、溝瀆。

【溝洫】コウキヨク 田畑の間のみぞ。

【溝渠】コウキヨ みぞ、ほり、下水。

【溝渟】カウタウ 溝阬に同じ。

【溝洫】コウキヨク 田畝の間のみぞ。

【溝澮】コウクワイ 溝阬に同じ。

【溝瀆】コウトク 同上。

【溝壑】コウガク 溪間、たにま。

類語

禁溝キンコウ　防溝バウコウ　隄溝テイコウ　漕溝サウコウ
封溝ホウコウ　瓦溝クワコウ　羊溝ヤウコウ　通溝ツウコウ

溟 ベイ メイ ミヤウ

㋑小雨ふりてうすぐらきさま㋺うみ、おほうみ㋩くらし、遠くして薄ぐらし㋥深くして幽冥なり

【溟池】メイチ 北方の大海、北海。

【溟沐】メイモク こざめ、細雨。

【溟雨】メイウ そぼふる雨、細雨。

【溟洲】メイシウ 大海の中の島。

【溟海】メイカイ うみ、大海。

【溟涬】メイケイ くらく朧朦たる氣。

【溟々】メイメイ くらきさま、冥々。

【溟濛】メイヤウ たゞよふさま。

【溟濛】メイモウ 細雨が降つて薄暗きさま。

類語

窮溟キユウメイ　四溟シメイ　滄溟サウメイ　重溟チヤウメイ
嵩溟スウメイ　巨溟キヨメイ　遊溟イウメイ　鴻溟コウメイ

溢 イツ

㋑あふる、みちてこぼれいづ㋺みつ（充）一ぱいになる、充實する㋩しづか（靜）又つゝしむ（愼）㋥すぐ（過）㋭おごる（驕）㋬おほみづ（洪水）

【溢口】イツコウ 口よりあふれ出ること、味のよき形容。

【溢目】イツモク 目にあまる。

【溢決】イツケツ あふれやぶれる。

【溢利】イツリ 餘分の利益、もうけ過ぎる。

【溢美】イツビ ほめ過ぎる、賞讃しすぎる。

【溢流】イツリウ あふれながれる。

【溢喜】イツキ 度をすごしたる喜び。

【溢道】イツダウ 道路にみちあふれる。

【溢々】イツイツ 水の滿々とみちたるさま。

【溢惡】イツアク けなしすぎる。

【溢譽】イツヨ 實際以上にほめる、ほめすぎ、又過ぎたるほまれ。

類語

饒溢ゼウイツ　充溢ジユウイツ　水溢スイイツ
富溢フウイツ　潰溢クワイイツ　奢溢シヤイツ　增溢ゾウイツ
耗溢カウイツ　冗溢ジヨウイツ　豐溢ホウイツ　縱溢シヨウイツ
漲溢チヤウイツ　暴溢バウイツ　涌溢ヨウイツ　盛溢セイイツ
濫溢ランイツ　逆溢ギヤクイツ

溥 ホフ

㋑おほいなり（大）㋺あまねし（普）㋩しく（敷）

【溥大】ホダイ　廣大なるさま。
【溥洽】ホカウ　ひろく行きわたる。
【溥被】ホヒ　廣くおほふ、あまねくおほふ。
【溥將】ホシヤウ　溥大に同じ。
【溥博】ホハク　大にしてひろし。
【溥幅】ホチヤウ　一般的にひろがる、大きくのびる。
【溥覆】ホフク　廣くおほふ、廣くかぶせる。
【溥天】フテン　あめがした、普天。
【溥長】フチヤウ　大にして長し、又偉大なること。
【溥載】フサイ　あまねくのす、廣くしるす。

【溪】ケイ

たに（谿に同じ）
【溪子】ケイシ　石弓、又石弓を造る土地種族の名。
【溪友】ケイイウ　山間に居るともだち。
【溪水】ケイスヰ　谷間の水、たにみづ。
【溪狗】ケイシヤク　谷にかゝれる丸木ばし。
【溪客】ケイカク　蕙の異名。
【溪泉】ケイセン　たに川のいづみ、谷水。
【溪流】ケイリウ　谷間のながれ、たにがは。
【溪徑】ケイケイ　谷間のこみち。
【溪莊】ケイサウ　たにあひの田舍家。
【溪嵐】ケイラン　谷間の山氣、たにかぜ。
【溪蓀】ケイソン　あやめの異名。
【溪壑】ケイガク　たに、はざま。
【溪澗】ケイカン　たにがは、溪流。
【溪壁】ケイセイ　谷間の水のおと。
【溪瀨】ケイライ　谷川のはやせ。
【溪鱸】ケユ　香魚の異名。

類語

煙溪エンケイ　翠溪スイケイ　邪溪ジヤケイ　綠溪リヨクケイ

【溫】

温の本字

【溯】ソ

㊀さかのぼる（遡）流に逆つて進む㊁往事をたどる、過去に立ちもどること。
【溯洄】ソクワイ　さかのぼること。
【溯源】ソゲン　源にさかのぼる、根本をつきとめる。

【溱】シン

㊀川の名（淮水の一支流）㊁多きさま㊂さかんなるさま、又のびる
【溱々】シンシン　多い貌、又盛んな貌。

【溲】シウ　シユ

㊀ゆばり、いばり（溺、尿）小便㊁こねる
【溲者】シウシヤ　そゝぐ、ひたす　菓子・饅頭などつくる時に粉をこねる人。
【溲便】シウベン　小便、ゆばり。
【溲疏】シウソ　灌木の一、うつぎ。
【溲器】シウキ　便器、おかは、しびん。
【溲溺】シウデキ　放尿、小便をする。
【溲瓶】シユビン　おかは、しびん。

【溶】ヨウ

㊀水の盛んなるさま㊁ひまある貌、ゆつたりしたさま㊂とく（物が水に混じて融和する狀態）固體が液狀に化する、とろける、とかす
【溶液】ヨウエキ　固體の液體に變じたもの。
【溶然】ヨウゼン　落ちつきたるさま、安らかにおちついたる貌、悠然に同じ。
【溶媒】ヨウバイ　物を溶解せしめる時なかだちとなる水、酒精等の類。
【溶々】ヨウヨウ　㊀水勢の盛んなるさま㊁ゆつたりと落つけるさま。
【溶解】ヨウカイ　物が液體中にて自然にとける現象。
【溶劑】ヨウザイ　溶媒に同じ。
【溶漾】ヨウヤウ　廣々と水のたゝへたる貌。

類語

搖溶ヨウヨウ　洪溶コウヨウ　鴻溶コウヨウ　動溶ドウヨウ

【溷】コン　クワン

㊀にごる、だらしなくなる、けがれる㊁かはや（厠）㊂むすぼれるさま
【溷水】コンスヰ　にごり水、汚れたる水。
【溷汁】コンジフ　濁りたる液汁。
【溷汚】コンヲ　泥のよどれ、汚れたる水。
【溷軒】コンケン　かはや、便所。
【溷屏】コンベイ　便所のかこひ。
【溷辱】コンジヨク　けがされる、辱かしめる。
【溷厠】コンシ　かはや、せついん、便所。
【溷濁】コンダク　にごる、にごり。
【溷餘】コンヨ　よごれたるもの。
【溷穢】コンアイ　けがされる、けがれる、又けがれ。

類語

圈溷セイコン　糞溷フンコン　屎溷シコン　濁溷ダクコン

【溺】デキ　ネウ　デウ

㊀おぼる（水中に陷る）おぼらす㊁水中に沈沒して死ぬ㊂水に沈みし如く非常にくるしむ㊃物事に耽りて他を省みざるにもいふ　水いぱり、小便、ゆばりす
【溺皿】デキベイ　小便を入るゝ器、おかは、しびん。
【溺死】デキシ　水におぼれて死す。
【溺沒】デキボツ　おぼれしづむこと、酒色などに夢中になりて他事を顧みざる貌。
【溺淫】デキイン　色に溺れる、色慾に耽る。
【溺器】デキキ　溺皿に同じ。
【溺惑】デキワク　おぼれ迷ふこと。
【溺愛】デキアイ　愛におぼれる、餘りに愛しすぎる。

類語

饑溺デキ　浮溺フデキ　沒溺ボツデキ　焼溺セウデキ　淫溺インデキ　覆溺フクデキ　濫溺ランデキ　淪溺リンデキ　沈溺チンデキ　危溺キデキ　耽溺タンデキ　遺溺イデキ　陷溺カンデキ

【溼】

濕の正字

【溽】ジヨク

㊀むしあつし、空氣が濕氣を含みて暑しㇾうるほふ（濕）㊂あつし（濃厚）
【溽暑】ジヨクショ　むしあつきこと、雨後の暑さ等に用ふ。
【溽熱】ジヨクネツ　むしあつし、主として生理上の感覺にいふ。
【溽露】ジヨクロ　しげきつゆ、つゆの多きこと。

類語

煩溽ハンジヨク　潤溽ジユンジヨク　暑溽ショジヨク　午溽ゴジヨク　卑溽ヒジヨク　蒸溽ジヨウジヨク

【溞】チク

㊀水のあつまる貌㊁むつとして憤る貌

【滌】チヨ　ヂヨ

㊀川の名（安徽省合淝縣に發し楊子江に入る）
【滌々】チヨチヨ　涙又は水などの盛んに流れるさま㊁ゆたかにひろし、雨の盛んにふる貌
【滂沱】ハウダ　㊀涙の流れるさま㊁大雨のふるさま。
【滂沛】ハウハイ　雨の盛んに降るさま、勢よ

くふる雨の貌。
【滂洋】ハウヤウ ゆつたりとして廣き貌。
【滂渤】ハウボツ 水のさかんに流れるさま。
【滂勃】ハウボツ 心に不平ありて氣のふさぐさま。
【滂湃】ハウハイ 水のさかんに多い貌。

【溺】ヲウ

㋑雲霧の盛んに起るさま㋺大水の形容
【溺々】ヲウヲウ 雲氣の起る貌。
【溺渤】ヲウボツ 雲霧などの盛んに立ちおこるさま。

【滾】

深の古字

【滄】サウ

㋑滄浪は川の名（漢水）㋺さむし（寒）又寒きさま㋩うみ、あをうなばら、大海㋥青々として廣きさま
【滄洲】サウシウ ㋑都會に對して田舍のこと㋺仙人の居る所、滄浪洲の略。
【滄海】サウカイ うみ、あをうなばら、大海。
【滄茫】サウバウ 水のひろ〳〵したる貌。
【滄溟】サウメイ ㋑滄海に同じ㋺四方の海。
【滄熱】サウネツ さむきとあつき、寒暑。
【滄海】サウカイ 滄海に同じ。
【滄浪】サウラウ ㋑字解の㋑を見よ㋺あをあをとした涙。
【滄浪歌】サウラウノウタ 屈原の漁父辭及び孟子の離婁上にある歌、前者は何事も自然に任すべしとの意を表はし後者は吉凶禍福はすべて自業自得なりとの意味をあらはす。
【滄桑變】サウサウヘン 大海變じて桑田と爲る意にて時勢の變化することをいふ。
【滄溟瀛】サウメイノクワイ あをうなばら、大海の水のつらなれるさま。
【滄海一粟】サウカイノイチゾク 大海中に漂ふ一粒の粟、物の比較にならぬ意。

【滅】ベツ　メチ　メツ

㋑ほろぶ、ほろぼす、つくす（盡）たゆ（絶）㋺しづむ（沒）㋩きゆ、火が消える㋥しぬ（死）なくなる
【滅口】メツコウ 口をきかせぬ、口を開かぬ。
【滅亡】メツバウ 亡びつきる、滅びうせる。
【滅日】メツニチ 陰陽道にて一箇月に五日ある大凶日、滅門日。
【滅多】メツタ みだりに、むやみに、容易に。
【滅金】メツキン 鍍金、めつき。
【滅沒】メツボツ 消えうせる、滅亡。
【滅法】メツパフ ㋑甚しく、やたらに㋺人間界のすべての苦勞をとりのぞく。
【滅明】メツメイ 火がきえたりとぼつたり、又明るくなつたり暗くなつたりすると
【滅門】メツモン 滅日に同じ。
【滅卻】メツキヤク ほろびなくなる、亡ぼしなくする。
【滅度】メツド メチド 佛教の語、佛果を得て解脫すること、寂滅。
【滅想】メツサウ ㋑甚しく、法外に、無性に㋺業がつきて形相のほろぶこと（佛語）。
【滅族】メツゾク 一家族の者を悉く亡ぼす。
【滅裂】メツレツ はなれ〳〵、散々なること。
【滅絕】メツゼツ たやす、ほろぼし盡すこと、ほろびつきる。
【滅跡】メツセキ あとをたやす、あとかたもなくなる。
【滅盡】メツジン 滅絕に同じ。
【滅道】メツダウ 人生のまよひを滅しつくす悟りの道（佛語）。
【滅罪】メツザイ 罪をなくする、罪惡をとりのぞく。
【滅法界】メツパフカイ 方外に、なみはづれ、意外の方に。

類語

入滅ニウメツ　明滅メイメツ　消滅セウメツ　破滅ハメツ
族滅ゾクメツ　寂滅ジヤクメツ　剪滅センメツ　絕滅ゼツメツ
湮滅インメツ　撲滅ボクメツ　摩滅マメツ　幻滅ゲンメツ

【滇】テン

㋑國の名（雲南省地方）㋺大水の貌㋩盛んなる貌㋥水の廣くかぎりなきさま
【滇々】テンテン 物事の盛んなるさま。

【滉】クワウ

水の深くして廣き貌

【滉】キ

㋑川の名、又鹽氣ある池㋺俗に汽の字に誤用す

【滋】ジシ

㋑しげる、しげし（繁多）㋺そだつ、生長すること㋩まく（蒔）㋥にごる（濁）㋭しる（液）㋬ます〳〵（益）㋣どちさう（美味）又榮養となるもの
【滋多】ジタ 多きこと、しげし、こまやか。
【滋味】ジミ 滋養となる食物、うまき食物、よきあぢはひ。
【滋雨】ジウ 草木をそだて養ふ雨、よきうるほひ、よき雨。
【滋事】ジジ 事の多きさま、多事。
【滋茂】ジボウ さかんにしげる。
【滋章】ジシヤウ ます〳〵明らかになる貌。
【滋補】ジホ 補ひふやす、おぎなふ、身體の養ひとなること。
【滋殖】ジショク 增大す、しげりふえる。
【滋液】ジエキ やしなひとなる液汁。
【滋煩】ジハン 非常に面倒なること、はんざつなこと。
【滋熙】ジキ うるほひやはらぐ。
【滋榮】ジエイ ます〳〵榮える、しげり榮える。
【滋漫】ジマン はびこる、ひろがる。
【滋養】ジヤウ ㋑からだのやしなひとなること、おぎなひ㋺やしなひ、そだてる。
【滋蔓】ジマン 滋漫に同じ。
【滋潤】ジジユン しめる、うるほふ、しめり。
【滋繁】ジハン ます〳〵しげる、非常にしげる。
【滋潤】ジジウ うるほす、うるほふ、しめす

類語

榮滋エイ　蕃滋バン　繁滋ハン　翹滋ゲウ

【滎】ケイ

川の名（河南省滎澤縣所在）

【滌】チ

川の名（沙河の一名）

【滑】クワツ　コツ

㋑なめらか、つる〳〵す、する〳〵す、又すべる、すべらす㋺はたらきの自由自在なるさま、さしさはりなくすらすらと通るさま㋩みだる（混亂）にごる、にごらす（混）㋥をさむ（治）㋭辯舌のよどまぬ意、轉じてじやうだん、おどけ㋬水の流れるさま㋣國訓すべる（退出する、帝位を去る、思はずものをいふ）
【滑石】クワツセキ 鑛物の一種、器械の塗料として油に代用する外用途多し。
【滑舌】クワツゼツ おしやべり、饒舌。
【滑車】クワツシヤ 周圍に溝を設けたる車。
【滑淨】クワツジヤウ 清くしてなめらかなり。
【滑流】クワツリウ なめらかに流れる、流暢。
【滑脫】クワツダツ すべり去る、變化に富め

るさま（例）圓轉滑脫。
【滑菜】クワツサイ　葵の異名、あふひ。
【滑紋】クワツリウ　帛の名、ぬめ。
【滑澤】クワツタク　つやの美しきこと、すべすべしてうつくしき色つや。
【滑膩】コツケイ　㋑おどけ、たはむれ、又異同を混亂すること㋺酒器、轉じて酒器の酒を吐きてやまざるが如く辯舌のよどまぬこと。

類語
危滑クワツ　峻滑シユン　險滑ケン　凍滑トウ
温滑ラン　清滑セイ　濡滑ジユ　泥滑デイ
圓滑エン　潤滑ジユン　柔滑ジウ　軟滑ナン

滓 シ

㋑おり（水底にたまりたる沈澱物）㋺かす（汁をしぼり取りしのこりもの）㋩不用の物事、廢物㋥けがれ、そむ
【滓穢】シワイ　にごりけがれる。

類語
渣滓サ　沈滓チン　泥滓デイ　垢滓コウ
塵滓ヂン　秕滓ヒ

滔 タウ

㋑はびこる、みなぎる（水の漫々たる貌）㋺水勢の盛んなるさま㋩ながる（流）流れゆくさま㋥あつまる（聚）
【滔天】タウテン　㋑大水の天まであふれるさま㋺天にまで達する罪惡。
【滔々】タウタウ　㋑流れて盛んなるさま㋺あくせきするさま。
【滔蕩】タウタウ　廣大にして盛んなるさま。
【滔騰】タウトウ　水が溢れて流れること。
【滔天勢】タウテンノイキホヒ　水が天までもひたさんとする勢、非常なる勢にいふ。
【滔天孫】タウテンノソン　乞食の異稱。

滕 トウ

國の名（春秋時代の國）
【滕六】トウロク　風の神。
【滕王閣】トウワウカク　支那江西省南昌府にある閣、王勃・王緒・王仲舒等の詩文によりて名高し。

十一畫

滌 テキ デキ

㋑あらふ、すゝぐ㋺垢やけがれを洗ひ落す
【滌洗】テキセン　そゝぎ洗ふ、せんたくする。
【滌除】テキジヨ　のぞき去る、はらひのける。
【滌浮】テキジヤウ　そゝぎよめる。
【滌疵】テキガイ　洗ひてよどれを去る。
【滌瑕】テキカ　缺點・きず等をのぞく。
【滌蕩】テキタウ　洗ひ清めること。
【滌濯】テキタク　すゝぎ清む。

類語
澣滌カン　疏滌ソテキ　掃滌サウ　清滌セイ
蕩滌タウ　洗滌セン　雪滌セツ　湫滌ソウ

滯 シウ

㋑米のとぎ水、しろみづ㋺ゆばり、いばり（小便）

滬 コ

㋑えり（海邊などに竹を連ねて魚を捕るもの）㋺川の名（松江の下流）㋩地名（上海の別名）

滯 テイ タイ

㋑とゞこほる、とゞまつて動かぬさま㋺物事がはかどらぬ㋩こる（凝）物事に熱中するさま㋥品物が賣れぬ㋭つもる久しきに及ぶ㋬とゞまる、逗留する
【滯水】タイスキ　淵りて流れぬ水、たまり水。
【滯伏】タイフク　とまりしづむ、はかどらぬ。
【滯在】タイザイ　一所に永く留り居ること。
【滯固】タイコ　一方にかたまりて融通のきかぬこと。
【滯念】タイネン　つもる思ひ、はれぬ思ひ。
【滯留】タイリウ　㋑とゞこほりとゞまる㋺旅先などに永くとゞまり居る。
【滯納】タイナフ　納むべきものを滯らせる。
【滯貨】タイクワ　賣れない商品、うれのこり。
【滯淹】タイエン　とゞこほる、又他所に永くとゞまる。
【滯訟】タイシヤウ　滯獄に同じ。
【滯陰】タイイン　氣分のはれぬと、陰氣。
【滯獄】タイゴク　裁判が進行せぬこと。
【滯暑】タイシヨ　殘暑に同じ、殘りのあつさ。
【滯穗】タイスキ　苅りのこされた稻穗。
【滯塞】タイソク　とゞこほりふさがる。
【滯遺】タイキ　とゞこほりとゞまる。
【滯積】タイセキ　一方にとゞこほりて動かぬさま。
【滯礙】タイガイ　とゞこほる、つかへる。

類語
沈滯チン　頑滯グワン　流滯リウ　曠滯クワウ
澁滯ジフ　留滯リウ　停滯テイ　廢滯ハイ

滲 シン

㋑しむ、にじむ、しみとほる、浸染する㋺したむ、したゝり落ちる㋩ひたす ひたる（浸）
【滲入】シンニフ　しみこむ、しみとほる。
【滲出】シンシユツ　しみ出す。
【滲水】シンスキ　水がしみこむ。
【滲泄】シンセツ　しみ出す、もれ出る。
【滲透】シントウ　物理學上の語、互に混和し得べき二液を膀胱の如きうすき膜にて隔て雙方の液をして之を通じて互に混和せしむる現象。
【滲漏】シンロウ　もれだす。
【滲漉】シンロク　したゝりこす、したむ。
【滲淋】シンリ　水の流れる貌。
【滲濕】シンシツ　水がもれて物をぬらすこと 水がしみて物に濕氣をおびること。

滴 テキ

㋑したゝる、水たまがたれ落ちる㋺しづく、したゝり、したゝり落ちる水㋩わづかの物、小さきもの
【滴水】テキスキ　したゝる水、水をしたゝらす、したゝり。
【滴定】テキテイ　規定液にて溶液中の成分の量をはかること。
【滴々】テキテキ　ぽつり〳〵としたゝるさま しづくの落ちる貌。
【滴瀝】テキレキ　したゝる、又したゝる貌。
【滴露】テキロ　したゝり落ちるつゆ。
【滴蟲類】テキチユウルイ　原始動物の纖毛類 鞭毛類、一滴の水中に無數に棲息す。

滸 コ

ほとり、みぎは、きし

滹 コ

滹沱は川の名（直隸省所在）

滾 コン

㋑水の流れるさま㋺わかす（煮沸）㋩こ

ろがりゆくさま

【滾沸】コンフツ 水のわきながれるさま。

【滾々】コンコン 水のながれるさま。

【滿】マン

㋑みつ(盈)一ばいになる、充實する㋺みたす、充塞す、一定の標準に達す㋩慢に通ず、おごりたかぶる㋥地名（滿洲）に關に通ず

【滿了】マンレウ おはる、かたづく。

【滿干】マンカン 潮のみちひき。

【滿口】マンコウ 口にいつぱい。

【滿山】マンザン 一つの山のこらず、山全體。

【滿天】マンテン そら一ぱい。

【滿引】マンイン 弓を一ぱいに引しぼる。

【滿月】マンゲツ ㋑陰曆十五夜の月、もちづき㋺うみづき、又產後の一個月。

【滿目】マンモク 見わたすかぎり、目一ぱい。

【滿作】マンサク 穀類の十分よくみのること。

【滿地】マンチ その場所一ぱい、地面に一ぱい。

【滿廷】マンテイ 朝廷又は法廷に居る人のこらず。

【滿身】マンシン からだ一ぱい、全身。

【滿面】マンメン かほ一ぱい、かほぢゆう。

【滿足】マンゾク 望の通りに達した氣分、充分、みちたる。

【滿座】マンザ ㋑其場所に居るもの全部㋺多くの人、衆人。

【滿盈】マンエイ 充實すること、一ぱいとなるさま。

【滿悅】マンエツ 滿足してよろこぶ、滿足と喜悅。

【滿員】マンヰン 定員に滿つること。

【滿酌】マンシヤク 一ぱいに酒をつぐ。

【滿假】マンカ おごりたかぶる、慢心して尊大に構へること。

【滿俺】マンガン 灰白色の一種の金屬の名。

【滿堂】マンドウ 座敷一ぱい、へやぢう。

【滿眸】マンバウ 滿目に同じ。

【滿場】マンヂヤウ 座席ぢゆう、場内の人殘らず。

【滿開】マンカイ 花の全く開きたるさま。

【滿蒙】マンマウ 滿洲と蒙古との並稱。

【滿朝】マンテウ 朝廷に居る人のこらず。

【滿街】マンガイ 町ぢゆう、町一ぱい。

【滿載】マンサイ ㋑一ぱいにつみこむ㋺新聞雜誌の紙面を同事件又は同種の記事等にて埋めること。

【滿期】マンキ 一定の期日のつきること。

【滿腔】マンコウ はらいつぱい、滿身。

【滿幅】マンプク きれはじ全體。

【滿溢】マンイツ みちあふる、こぼれる。

【滿飽】マンパウ 食物を充分に食すること、食して飽くこと。

【滿腹】マンプク はらいつぱい。

【滿潮】マンテウ みちしほ。

【滿點】マンテン 規定の點數に充つること。

【滿願】マングワン 神佛に願をかけてその日數のみちること。

【滿覆】マンプク 十分にみちてやぶる。

【滿籃】マンエイ 籃は四斗入の大籠、かごいつぱい。

【滿讕】マンラン 欺きしひること。

【滿天下】マンテンカ 世界ぢゆう、くにぢゆう、天下のこらず。

【滿期日】マンキビツ ㋑手形金額の支拂あるべき期日をいふ㋺豫め期日を定めて其期日の到達した日。

【滿艦飾】マンカンショク 軍艦の船體を旗・電燈等にてかざり祝意を表すること。

【滿洲八旗】マンシウハツキ 滿洲兵の八隊にて一旗の兵員を七千五百人とし各々色の異なる旗を有す。

【滿招レ損謙受レ益】マンハソンラマネキケンハエキラウク 物事が十分にして驕れば缺けへりくだる時は利益をうける意。

訓讀

【滿を引く】引レ滿 まんをひく 弓を一ぱいに引きしぼる。

【滿を持す】持レ滿 まんをじす 弓を十分に張りて放たんとするさま、轉じて物事が極點に達せんとする所にてふみとどまるさま。

類語

盈滿エイマン 殷滿イマン 貯滿チヨマン 驕滿ケウマン

清滿セイマン

【漁】ギヨ

㋑すなどる、とる、いさる、あさる、魚を捕ること㋺魚を捕る如くむさぼること㋩いさり、すなどり、すなどる人、漁夫

【漁子】ギヨシ すなどるをのこ、濱邊の子。

【漁火】ギヨクワ いさりび、魚をとる爲め海上にて焚く火。

【漁夫】ギヨフ 魚をとる人、れふし。

【漁父】ギヨフ 漁夫に同じ。

【漁戶】ギヨコ 漁夫の家。

【漁舟】ギヨシウ いさりぶね、魚をとる船。

【漁色】ギヨシヨク 女色を好む、女色をあさる、淫事におぼれる。

【漁征】ギヨセイ 水產物に課する稅金。

【漁食】ギヨシヨク 他人の物を取つて食ふ。

【漁村】ギヨソン 漁夫のすむ村里。

【漁者】ギヨシヤ 漁夫に同じ。

【漁郎】ギヨラウ れふしの男。

【漁敗】ギヨダン 魚又は禽獸をとること、れふ。

【漁罟】ギヨコ 漁に使用するあみ。

【漁叟】ギヨソウ 漁夫のおやぢ。

【漁家】ギヨカ 漁戶に同じ。

【漁師】ギヨシ 漁夫に同じ。

【漁翁】ギヨワウ 漁夫の老人。

【漁莊】ギヨサウ 漁戶に同じ。

【漁笛】ギヨテキ 漁村にて聞える笛の音。

【漁業】ギヨゲフ すなどりの業。

【漁船】ギヨセン 漁舟に同じ。

【漁奪】ギヨダツ 漁獵して取るが如く民の物を貪り取ること。

【漁艇】ギヨテイ 漁舟に同じ。

【漁撈】ギヨラウ 魚をとる、すなどり。

【漁樵】ギヨセウ 漁夫ときこり。

【漁獵】ギヨレウ 山野に獵し河海にすなどる

【漁人得レ利】ギヨジンリヲウ 次條に同じ。

【漁父之利】ギヨフノリ 兩者が互ひに爭ふてゐる間に第三者がその隙をねらひて全部の利益を占めること。

【漂】ヘウ

㋑たゞよふ、たゞよはす、流し浮べる又ひるがへす㋺高く飛ぶさま、又輕きさま㋩さらす、綿又は布類を白くする

【漂失】ヘウシツ ながし失ふ、ながれうす。

【漂母】ヘウボ せんたくをする老女。

【漂白】ヘウハク 藥品又は水にて白くさらす色ぬき。

【漂泛】ヘウヘン 木の葉の水にたゞよふ貌。

【漂居】ヘウキヨ 他鄕に住ふ、かりずまひ。

【漂流】ヘウリウ たゞよひ流れる。

【漂泊】ハウハク さまよふ、さすらふと。

【漂著】ヘウチヤク 漂ひながら岸につく、ながれつく。

【漂鳥】ヘウテウ 食を求めて居所をかへる鳥

【漂旋】ヘウセン 所定めずたゞよひめぐる。

【漂搖】ヘウエウ たゞよひ動く、たゞよはせうごかす。

【漂寓】ヘウグウ 他國にてかりずまひをすること、漂居。

【漂零】ヘウレイ さすらひておちぶれる。

【漂然】ヘウゼン 高遠なるさま。

【漂說】ヘウセツ 根據なき噂、風說。

【漂々】ヘウヘウ 高く飛び上る。

【漂蕩】ヘウタウ ㋑水にひたしたゞよふ、又さまよふ、又さすらふ㋺水害にて財産を失ふ。
【漂濤】ヘウジユ 水害に遇ひてたゞよふ、漂流する。
【漂薄】ヘウハク めぐまれずさすらふ、不自由してさまよふ。
【漂霰】ヘウサン 散りかゝるあられ、たばしるあられ。
【漂白粉】ヘウハクフン さらしこ、色ぬきに用ゐるもの。
【漂泊者】ヘウハクシヤ 一定の住所及び職業を有せざるもの、さすらひもの。
【漂流物】ヘウリウブツ 水上に流れ來る物品。

〔漆〕 シツ シ

㋑うるし（落葉喬木の一）㋺うるしの木の脂よりとる塗料㋩うるしの如く黑し又そのいろ㋥俗に證書などを書く時七の字に用ふ㋭うるしす、漆をぬる
【漆工】シツコウ うるしぬり、ぬしや。
【漆汁】シツジフ うるし、うるしの汁。
【漆宅】シツタク 棺桶、ひつぎ（漆をぬる故にいふ）。
【漆車】シツシヤ 黑ぬりの車。
【漆烏】シツウ 烏の如く黑い、眞黑。
【漆書】シツショ うるしにて書く、又其文章。
【漆筆】シツピツ うるしばけ。
【漆瘡】シツサウ 漆にかぶれて生ずる瘡。
【漆畫】シツグワ うるしにてかきし繪畫。
【漆黑】シツコク うるしの如く黑き色、まつくろ。
【漆園】シツエン 莊子の別名。
【漆器】シツキ うるしぬりの器具の總稱、ぬりもの。
【漆瞳】シツドウ 黑き目のひとみ、若者の元氣あるを形容す。
【漆園之學】シツエンノガク 莊子の學。
【漆園レ身呑レ炭】ミニウルシタンヲノム 復仇の爲めに身を苦しめる意に用ふ。

類語

玄漆ゲンシツ　丹漆タンシツ　膠漆カウシツ　點漆テンシツ
墨漆ボクシツ　絲漆サイシツ　黑漆コクシツ　光漆クワウシツ

〔漉〕 ロク

㋑こす、したむ、したゝり漏る、液體をして他物をくぐらせ滓を取り去る、濾過㋺國訓すく（紙をつくること）
【漉過】ロククワ 液體をして他物を透過せしめること、こす。

〔漏〕 ロウ

㋑もる、もらす（泄）隙間より水の出づること㋺祕密の他に知れること、手ぬかりあること㋩水時計㋥わする（遺失）㋭支那家屋の西北隅へあな（猿）すきま㋮うがつ（穿）
【漏斗】ロウト じやうご、口の小さい容器に液類をつぎ込むに用ふるもの。
【漏水】ロウスイ 水時計のみづ。
【漏告】ロウコク 密事をもらし告げる、つげぐち。
【漏刻】ロウコク みづどけい。
【漏板】ロウバン 時刻のしらせにうつ板木。
【漏戒】ロウカイ 佛教にて持戒淸淨をかたくまもらぬこと。
【漏泄】ロウセツ もらす、水がもれる、隱れたる事がしれる。
【漏決】ロウケツ 水がもれて破れる。
【漏空】ロウクウ すかし、いきぬき。
【漏屋】ロウヲク あまもりのする家、あばらや、貧家。
【漏洩】ロウエイ ㋑液體のもること㋺祕事の他にもれること。
【漏脫】ロウダツ 漏れ落ちること、もれぬけ

る、もらし落す。
【漏壺】ロウコ 水時計の水をうけるつぼ。
【漏鼓】ロウコ 時刻を告げるつゞみ、時の太鼓。
【漏短】ロウタン 水時計の水がのこりすくなくなつたこと。
【漏催】ロウサイ 時間のせまるさま。
【漏遺】ロウヰ 忘れて落すこと、うつかり殘す、注意を怠る。
【漏滲】ロウシン 水のしみ出すこと。
【漏潰】ロウクワイ くづれて水のもること。
【漏箭】ロウゼン 水時計の壺の中に立て漏刻の目を盛りたる矢。
【漏點】ロウテン 水時計の水のもれること。
【漏露】ロウロ 漏洩の㋺に同じ。
【漏籤】ロウセン 水時計の時刻を記した札。
【漏澤園】ロウタクエン むえんづか。

類語

屋漏ヲクロウ　脫漏ダツロウ　潰漏クワイロウ　遺漏ヰロウ
隱漏インロウ　穿漏センロウ　疎漏ソロウ　洩漏エイロウ
頹漏タイロウ　闕漏ケツロウ　滲漏シンロウ

〔溉〕 カイ ガイ

㋑そゝぐ（灌注）つぎこむ、ながし入れる㋺あらふ、すゝぐ（濯）㋩しづかに流れる貌㋥古の既の字、すでに
【溉田】ガイデン 田に水をながしこむ。
【溉汲】ガイキフ そゝぎくむ。
【溉浸】ガイシン 水をかけてしたす。
【溉養】ガイヨウ 田圃に水を注ぎつちかふ。
【溉灌】ガイクワン 水をそゝぐこと。

類語

沈溉チンガイ　灌溉カンガイ　滌溉テキガイ　澣溉カンガイ
沈溉チンガイ　澣溉カンガイ　澣溉カンガイ　澣溉カンガイ

〔漓〕 リ

㋑しむ、しみこむ㋺したゝる㋩うすし、又かろし（輕薄）㋥淋漓は雨の聲、又したゝり出づる貌

〔演〕 エン

㋑ながる、水が長々と流れるさま㋺流れしみこむ、又うるほふ（潤）㋩ひく（引）又しく（布）實地に行ふ、意義を說き明す㋥ひろむ（廣）のぶ（延）引のばすひろめる㋭水を潛り行くこと、およぐ㋮水の廻りまがる貌
【演舌】エンゼツ 演說に同じ。
【演技】エンギ 演藝に同じ。
【演武】エンブ 武術の稽古をすること。
【演奏】エンソウ 音樂を奏すること。
【演習】エンシフ ㋑あとさらひ、けいこ㋺軍事上の練習。
【演義】エンギ ㋑意義をのべ明かにす㋺事實を面白く述べる、又其述べたるもの。
【演算】エンザン 算術にて立てし式により計算して答を出すこと、運算。
【演說】エンゼツ ㋑自己の意志を衆人に對して述べること㋺又理義を說明すること。
【演劇】エンゲキ しばゐをする、又芝居、狂言、わざをぎ。
【演壇】エンダン 演說をする者の立つだん。
【演戲】エンギ 演劇に同じ。
【演藝】エンゲイ 公衆の前にて遊藝をなす、又その遊藝。
【演題】エンダイ 演說の題目。
【演繹】エンエキ ㋑論理學の語、結果より推して原因を究め事實によりて原理を求むること、演繹法㋺意義を說明する意。
【演繹法】エンエキハウ 前の㋑に同じ。
【演舞場】エンブジヤウ 藝人などがその技藝をなして公衆に觀覽せしむるところ。

類語

搖演（エン）　推演（スキエン）　光演（クワウエン）　敷演（フエン）
布演（フエン）　通演（ツウエン）　披演（ヒエン）　舒演（ジヨエン）
宣演（センエン）　廣演（クワウエン）　譙演（コウエン）

【漕】サウ　ソウ

㋑こぐ（水上に舟を進めること）㋺水路によりて物をはこぶこと㋩ふなぢ（水運、舟行、水路）

【漕船】サウセン　貨物をはこぶ船。
【漕運】サウウン　舟にて物をはこぶ、水運。
【漕溝】サウコウ　舟筏を通行せしめる爲めに掘りたる川。
【漕渠】サウキヨ　舟などの通行するみぞ。
【漕轉】サウテン　はこびうつす。

【潯】シン

みぎは、きし（涯の上平坦にして下の水深ききし）

【溥】タン

露の多き貌

【漚】オウ　ヲウ

【漠】バク

㋑すなはら、沙の野原㋺ひろし（漫）廣くしてはてなきさま㋩きよし（清）㋥しく（施）ちりしく、又布きならべる、しげる（茂）㋭しづかへさびし、又そのさま㋠はかりごと（謀）㋡明らかならざる貌、とりとめなき貌

【漠北】バクホク　地名、外蒙古。
【漠然】バクゼン　ひろくしてとりとめのないさま、又要領を得ぬこと。
【漠々】バクバク　㋑廣々として限りなき貌㋺散りしく貌、又布き列ぶさま。

類語

闊漠（バクバク）　冲漠（バクユウ）　玄漠（バクゲン）　大漠（バクタイ）
黯漠（バクバク）　幽漠（バクイウ）　空漠（バククウ）　落漠（バクラク）

【漢】カン

㋑あまのがは（銀河）㋺支那古代に名高き王朝の號（前漢・後漢又は西漢・東漢に分ち二十六帝凡そ四百四十年間の稱）㋩から（支那本土）川の名（楊子江の一支流）㋥男子の稱、をとこ（多くは嗤みていふ）㋭國訓から（支那、もろこし）

【漢土】カンド　支那、もろこし。
【漢子】カンシ　男子をいやしめていふ語。
【漢文】カンブン　支那固有の文章。
【漢方】カンパウ　支那より渡來せる醫術。
【漢竹】カンチク　漢土より渡來したる竹、めだけ。
【漢字】カンジ　國字の對、支那固有の文字。
【漢和】カンワ　㋑支那と日本㋺詩句と和歌とを連ねたる句㋩又漢和辭典の略。
【漢語】カンゴ　漢字でつゞつた言葉。
【漢音】カンオン　支那音の一、隋以前の支那北部の音（吳音は南部）。
【漢詩】カンシ　和歌の對、からうた。
【漢學】カンガク　漢字・漢文について研究する學問。
【漢籍】カンセキ　漢文の書物。
【漢鎭】カンチン　支那漢口の別名。
【漢三傑】カンサンケツ　蕭何・張良・韓信の漢代の三偉人。
【漢文學】カンブンガク　漢文に同じ。
【漢胡韓】カンコカン　支那と蒙古と朝鮮。

類語

好漢（カウカン）　銀漢（ギンカン）　雲漢（ウンカン）　星漢（セイカン）
霄漢（セウカン）　羅漢（ラカン）　癡漢（チカン）　醉漢（スイカン）
半漢（ハンカン）　風漢（フウカン）　無賴漢（ブライカン）

【漣】レン

㋑さゞなみ（小波）㋺涙をながす貌、さめ〴〵

【漣洹】レンジヨ　涙のおちるさま。
【漣落】レンラク　涙のたれおちること。
【漣猗】レンイ　さゞなみ、細波。
【漣々】レンレン　さめ〴〵と涙を流す貌。

【瀅】ワ

㋑くぼ、くぼみ（地の低くゝぼめるところ）くぼし、くぼむ（凹入す）㋺牛の蹄の跡のたまり水、又窪き池

【漈】シ

㋑あわ、口より出す沫㋺したがひ流る、順流

【漩】セン

㋑めぐる、いづみ、水がうづまく、そのうづまき㋺波のめぐる貌

【漩紋】センモン　水の波紋。

【漪】イ

さゞなみ（漣）細波

【漪瀾】イラン　なみ、水波。
【漪漣】イレン　さゞなみ、小波。

類語

清漪（セイイ）　綠漪（リヨクイ）　漣漪（レンイ）　論漪（リンイ）

【漫】バン　マン

㋑みだりに、まげて、無理に、ほしいまゝに、むやみに㋺そゞろ、とりとめもなく、何となしに㋩長く遠き貌、又平らかなるさま㋥あまねし（徧）㋭破りて不明なること㋠おこたる（慢）しまりなき貌㋡漫に同じ、壁をぬること、又ぬる㋢ひろし、はるけし、はてしなし㋣みつ（滿）はびこる㋤もだゆる（憮）㋥みつ（滿）はびこる㋦雲などの美しきさま

【漫言】マンゲン　みだりに言ふ、とりとめなき言ひぐさ。
【漫性】マンセイ　急性の反對、徐々に、ゆるゆると長く。
【漫步】マンポ　あてどもなきあしどり、そぞろあるき。
【漫意】マンイ　怠ること、勤めざること。
【漫草】マンサウ　詩文などを思ひつきたるまゝに書くこと。
【漫浪】マンラウ　定識なくぶらついてゐること。
【漫畫】マンガ　㋑いたづらがきの繪畫㋺譯もなくかく繪㋩滑稽又は諷刺畫。
【漫彫】マンチヨウ　滑稽又は諷刺を本意として作りたる彫刻。
【漫遊】マンイウ　あてどもなく歩き廻ることゆる〳〵廻る。
【漫然】マンゼン　あてもなく、ぼんやりと、成算なし。
【漫散】マンサン　しまりなきさま。
【漫筆】マンピツ　思ひつきたるまゝにかきしもの、隨筆。
【漫評】マンピヤウ　思ふまゝになす批評。
【漫滅】マンメツ　亂れ消ゆ、文字などの消えて分明ならざること。
【漫語】マンゴ　そゞろごと、取とめなき語。
【漫談】マンダン　㋑とりとめもなき話㋺思ひ出すまゝに語るはなし。
【漫漸】マンゼン　水がだん〴〵にしみこむこと
【漫爾】マンジ　みだりなる貌。
【漫々】マンマン　㋑水のひろ〳〵としてはてなきさま㋺美しき色の形容。

【漫罵】マンバ　むやみにのゝしる。
【漫糊】マンコ　しかとゝりさだめずひろき貌、ぼんやりとせるさま。
【漫漶】マンクワン　文字繪畫等の磨滅して分別すべからざる貌。
【漫錄】マンロク　漫筆に同じ。
【漫灌】マンクワン　水をくまなくそゝぐ。
【漫瀾】マンラン　はるかで限りなきさま。
【漫畫式】マンガシキ　滑稽の中に諷刺を交へ簡單にして眞を穿つが如きやりかた。

類語

浩漫カウマン　汗漫カンマン　沈漫チンマン　周漫シウマン
浸漫シンマン　滋漫ジマン　瀾漫ランマン　混漫コンマン
散漫サンマン　渺漫ベウマン　靡漫ビマン　爛漫ラランマン

【漬】シ

㋑つく、水につかる、水にひたす、つける、ぬらす、うるほふ㋺しむ(染)そむ㋩獸の汗かきて死すること㋥國訓つく(つけものをすること)
【漬物】シブツ　蔬菜類を鹽又は糠にて漬けたるもの、つけもの、香の物。
【漬浸】シシン　ひたしうるほす、又ひたる。
【漬漬】シボウ　よごれて黑くなること。

【漭】バウ　マウ

㋑原野のひろきさま、又たひらか(平)ひろし、はるか㋺漭々は水廣くして遠き貌㋩曉の色明らかならざる貌、ほの暗し
【漭々】マウマウ　字解の㋺を見よ。

【漯】タフ

㋑水のあつまる貌㋺川の名（山東省茌平縣にあり）

【漰】ホウ　ハウ

水の擊ち合ふ聲、ゐせき
【漰拍】ホウボツ　水が互ひに相うつ音。
【漰湧】ホウヨク　波の相うつ聲。

【漱】シウ　ソウ

㋑すゝぐ(濟)あらふ㋺くちすゝぐ、うがひする、口中を洗ふ
【漱滌】ソウテキ　水にてそゝぎあらふ。
【漱濟】ソウクワン　すゝぎあらふこと。
【漱濯】ソウダク　浴しあらふ、洗濯に同じ。
【漱玉】タマラソダク　玉を洗ひすゝぐ、瀑布の飛び散る形容。
【漱嫌鳥】ソウカウケウ　鶯の異名。
【漱レ石枕レ流】イシニクチソソギナガレニマクラス　負をしみをいひてごまかすこと（流に枕し石に漱ぐの項き見よ）。

【漲】チャウ

㋑みなぎる、水があふれる(溢)㋺盛んにはびこる、又水の大なる貌
【漲溢】チャウイツ　みなぎりあふれる。
【漲濤】チャウタウ　漲る大波。

類語

暴漲バウチャウ　怒漲ドチャウ　溟漲ノイチャウ　泛漲ハンチャウ

【漳】シャウ

川の名(山西省に發し運河に入る)

【漵】ジョ

うら(浦)

【漶】クワン　グワン

分明ならざる貌、はつきりせぬ

【漸】セン　サン　ゼン

㋑やうやく、だん〳〵、ぜん〳〵、やや、又きざし、いとぐち㋺じゆん、次第㋩ひたる(漬)ひたす、うるほす(濕)しむ(染)水につける㋥流れ入る、そゝぐ、又そのさま㋭くゞるへ感化する㋬岩のきつ立ちて高きさま㋮國訓やうやく(やう〳〵、からうじて)
【漸次】ゼンジ　しだい〳〵に、だん〳〵に。
【漸加】ゼンカ　しだいに加はる。
【漸染】ゼンセン　だん〳〵に染る。
【漸教】ゼンケウ　阿含・方等・般若の三經。
【漸進】ゼンシン　だん〳〵に進む、しだいしだいに度を高める。
【漸漬】ゼンシ　次第に水がしみこむと。
【漸々】ゼンゼン　㋑次第々々に進む貌㋺水などの流れるさま㋩岩のきつ立つさま。
【漸愈】ゼンユ　病氣などが次第によくなること。
【漸癒】ゼンキ　だん〳〵かげてなくなる。
【漸層法】ゼンソウハウ　修辭學上の語、語句・思想などを次第に高く深く大きく按排する修辭法。
【漸入二佳境一】ゼンニカキヤウニイル　次第に興味を感ず、だん〳〵面白くなる。

類語

沾漸ヂン　崩漸ハウ　浸漸シン　蝕漸ショク

【漻】レウ　レキ

㋑きよし(清)ふかし(深)㋺とほし、はるか(遙)㋩物事の變化するさま
【漻然】レキゼン　變化するさま。

【漾】ヤウ

㋑たゞよふ、水のゆれうごく貌、水上に浮び流れるさま、たゞよはす、たゞよふさま㋺ながし(長)
【漾水】ヤウスイ　たゞよひながれる水。
【漾碧】ヤウヘキ　水の深き淵のあをき色をたゞよはすさま。
【漾々】ヤウヤウ　水のたゞよひ動く貌、洋々、漾々。

【灌】サイ　セ

㋑ふかし(深)㋺あざやか(鮮明)㋩沸の垂れる貌㋥折れる貌㋭やぶる(壞)

【漿】シャウ

㋑のみもの、飲料㋺しる、ものゝなかみの液汁㋩一說に米のとぎ汁

【潁】エイ　ヤウ

川の名（河南省登封縣に發し淮水に入る）

類語

飲漿イン　腦漿ノウ　含漿ガン　酒漿シユ
壺漿コ　寒漿カン　酪漿ラク

【潑】ハツ

十二畫

㋑そゝぐ、水を散らしかける㋺水もるしたゝる、一說にすてたる水㋩高麗の方言にて足㋥雨の一しきりふること㋭勢の盛んなるさま㋬魚のをどり跳ねるさま
【潑婦】ハツフ　惡女、悍婦。
【潑剌】ハツラツ　魚のはね跳るさま、勢のよき形容。
【潑々】ハツハツ　前に同じ。

【潔】ケツ

㋑いさぎよし、きよし、けがれがなくて

類語

水部（十一—十二畫）　漻・漾・灌・漿・潁・潑・潔　九五五

清し㊁きよくす、いさぎよくす㊂行が正しい、清廉なり

【潔水】ケツスキ 清きみづ、淨水。

【潔白】ケツパク ㊀きよくして白きこと㊁心清くしてけがれなし。

【潔爽】ケツチユウ きよきこゝろ、私なき心。

【潔疾】ケツシツ きれいずき、潔癖。

【潔清】ケツセイ いさぎよし、又清くす。

【潔淨】ケツジヤウ きよし、いさぎよし。

【潔朗】ケツラウ 清くしてほがらかなり。

【潔晳】ケツセキ きよらかにして白し。

【潔廉】ケツレン 清くして正し、私心なし。

【潔慎】ケツシン 潔白なる心ありてつゝしみ深し。

【潔誠】ケツセイ いさぎよくくして誠實なり

【潔齋】ケツサイ 心身を清めてものいみす。

【潔癖】ケツペキ きれいずき、潔疾。

類語

玉潔ギヨクケツ　皎潔カウケツ　修潔シウケツ　不潔フケツ

氷潔ヒヤウケツ　秀潔シウケツ　至潔シケツ　精潔セイケツ

方潔ハウケツ　公潔コウケツ　涓潔ケンケツ　清潔セイケツ

潘 ハン

㊀しろみづ(泔)米のとぎみづ㊁水のあつまりてめぐること

【潘汁】ハンシフ 米の洗ひしる、しろみづ。

瀹 キフ

㊀水の流れる貌、又その聲㊁職に勵まざること㊂輕々しく贊成するさま

【瀹々】キフキフ 輕々しく他に贊成すること。

潟 キ

川の名(山西省蒲州府にあり)

潟 セキ

㊀かた、ひがた(海水の退潮により浸され鹽分多き地)㊁國訓うら(はま、潟などにいふ字)

【潟口】セキコウ 川口が沙又は島などに取圍はれて自然に潟となれるもの、八郎潟の類。

潦 ラウ

㊀大雨にて水がみなぎるさま㊁にはたづみ(路上に流れし雨水)㊂行潦と連用してその意が老となることに因み老衰の意㊃潦倒と連用して老人の意

【潦水】ラウスキ にはたづみ、たまり水。

【潦倒】ラウタウ ㊀老人らしきさま㊁物事にかゝはらぬこと㊂無頓著なること。

【潦浸】ラウシン 大雨でぬれること。

潯 シン

㊀水が出會ひあつまる所、おちあひ㊁涂に同じ、水の聲

【潯潯】ソウセン 流水の聲の形容。

潭 タン

㊀ふかし(深)ふかくす、又そのさま㊁きし(岸)㊂ふち(淵)

【潭思】タンシ 深く考へる、ふかきおもひ。

【潭深】タンシン ㊀ふかし、水ふかし㊁學問などのふかきこと。

【潭潭】タンタン 水の深き池。

【潭奥】タンアウ 學問などのふかきこと。

【潭淵】タンエン 深きふち。

【潭壑】タンガク ふかきたに。

類語

幽潭イウタン　寒潭カンタン　綠潭リヨクタン　洪潭コウタン

湫潭シウタン　澄潭チヨウタン　碧潭ヘキタン　池潭チタン

潛 セン

㊀ひそむ、ひそまる、かくれしのぶ、かくる㊁くゞる、もぐる、水を涉る、およぐ(游)㊂かくす、しのばせる、靜かにおちつかせる㊃ひそかに、人しれず、ふかし(深)㊄しづむ(沈)㊅魚の息ふ所、ふしづけ

【潛入】センニフ 忍び入ること、もぐり込む。

【潛上】センジヤウ 目上の人を凌ぐこと。

【潛心】センシン 心をおちつけ考へる。

【潛水】センスキ 水中にもぐる、水をくゞる。

【潛伏】センブク ㊀ひそみかくれる㊁内部にとぢこもつて外に出ぬこと。

【潛行】センカウ ㊀忍びあるき、人目をさけてかくれ歩く㊁水中にくゞりゆくこと。

【潛幸】センカウ おしのびの行幸。

【潛邸】センテイ 東宮、皇太子の邸。

【潛思】センシ 心をひそめる、心をおちつかせる。

【潛居】センキヨ ひそみをること。

【潛屈】センクツ ひそみかゞまる。

【潛神】センシン 潛心に同じ。

【潛晦】センクワイ ひそみかくれる、轉じて才學を隱して現はさぬ貌。

【潛蟄】センチツ 土中に隱れたるこほろぎ

【潛匿】セントク ひそみ隱れる。

【潛蛟】センカウ 伏し隱れるみづち。

【潛魚】センギヨ 水中ふかくかくれた魚。

【潛商】センシヤウ 官許を得ずしてひそかに賣買をする人、もぐりあきうど。

【潛寐】センビ ひそみねる、人の死ぬこと。

【潛畫】センクワク ひそかに謀をめぐらす。

【潛惑】センコク ひそかに心を動かす。

【潛窺】センキ ひそかにうかゞふ、ひそかに機の至るをまつ。

【潛熱】センネツ 固體が液體に變じ液體が氣體に化する時其の熔融液又は蒸氣に含む溫度。

【潛德】セントク 隱れたる仁德、又その德者。

【潛翳】センエイ ひそかにかざす、陰にてかばふ。

【潛隱】センイン かくれひそむ。

【潛鱗】センリン 水底にかくれたる魚。

【潛龍】センリヨウ ㊀時至らずしてかくれ居る龍㊁天子の未だ位に即かざる時の稱又まだ世に出ぬ大人君子の稱。

【潛蟄】センバツ ひそみわだかまる。

【潛藏】センザウ ひそみ隱る、潛かにかくす。

【潛寫】センザウ 姿をかくす、のがれ隱れる。

【潛戶】クグリド 正門の側の小き出入戶。

【潛門】クグリモン 土塀・板塀などを切拔きて作りたる如くに見える門、小門。

【潛水夫】センスイフ 潛水を見よ。

【潛水艇】センスイテイ 水中を潛行する軍艦。

【潛航艇】センカウテイ 前に同じ。

【潛勢力】センセイリヨク 表面に表はれざる勢力、かくれたる力。

【潛航戰艦】センカウセンカン 潛航艇のみにて一つの艦隊を組織して敵と戰ふもの。

【潛在統一】センザイトウイツ 感情の統一、精神作用の統一をいふ。

【潛在意識】センザイイシキ 心理學上の語、吾人の視覺に現はれずして活動する心のはたらき。

類語

幽潛イウセン　陰潛インセン　隱潛インセン

深潛シンセン　韜潛タウセン　逃潛タウセン　退潛タイセン

潛 クワウ ワウ

潛の俗字

潢

㊀いけ、水たまり、たまり水㊁河の名、星の名㊂水の涌く光り㊃紙を染める、

又表具をする、紙をしたてる㋭水の深く廣きさま

【潢池】クワウチ　たまり水の池、轉じて狹き土地の譬に用ふ。

【潢洋】クワウヤウ　次に同じ。

【潢漾】クワウヤウ　水のふかく廣きさま。

【潢潦】クワウラウ　みづたまり。行潦。

【潢潯】クワウジン　池のみぎは、池のほとり。

〔澗〕カン

㋑たに㋺山と山とに夾まれたる水流、たにがは、たにみづ

【澗戶】カンコ　谷あひの家。

【澗沚】カンシ　谷川のほとり。

【澗泉】カンセン　たにあいより流れ出る水。

【澗阿】カンア　谷川のくま。

【澗畔】カンパン　澗沚に同じ。

【澗隈】カンワイ　澗阿に同じ。

【澗渟】カンシウ　たにがはの水たまり。

【澗溪】カンケイ　たにがは、溪流。

【澗壑】カンカク　前に同じ。

【澗寬】カンケイ　谷川のほとりに現はれる寬

【澗礫】カンレキ　谷川の小石。

【澗壑】カンセイ　たにがはの水おと。

【澗籟】カンライ　前に同じ。

【澗響】カンキヤウ　同上。

類語　幽澗イウカン　寒澗カンカン　絕澗ゼツカン　遂澗スキカン　清澗セイカン　溪澗ケイカン　溝澗コウカン　阻澗ソカン

〔潤〕ジュン

㋑うるほふ、ぬれる、水分を含む、しめる㋺うるほす、ぬらす、かざる、立派にす、恩を施す㋩ふやす(滋)ます(益)まうけ(利益)㋥つや(光澤)ひかり㋭かざる、つやを出す㋬おだやか(溫和)

【潤下】ジユンカ　水の異名、物をうるほし低きにつく意。

【潤色】ジユンショク　かざる、つやを出し色をつける、文章をかざること。

【潤美】ジユンビ　つやありてうるはしいと。

【潤洽】ジユンカウ　あまねくうるほふ。

【潤朗】ジユンラウ　つやありてほがらかなること。

【潤益】ジユンエキ　㋑利益、まうけ㋺培すこと、足すこと、ふやすこと。

【潤浥】ジユンイウ　うるほふ、うるほはす。

【潤飾】ジユンショク　潤色に同じ。

【潤筆】ジユンヒツ　㋑文字を書くこと㋺書畫の揮毫料。

【潤滑】ジユンクワツ　うるほひてなめらかなり物事のうまくゆくこと。

【潤霑】ジユンテン　うるほひのゆき渡ること。

【潤澤】ジユンタク　㋑うるほふ、ぬらす㋺惠む、なさけをかける㋩つやをつける。

【潤膩】ジユンジ　うるほひて滑かなり、潤滑。

【潤濕】ジユンシツ　ぬれうるほふ、ぬらす、潤滋。

類語　存潤ソンジユン　滋潤ジジユン　豐潤ホウジユン　漸潤ゼンジユン　濡潤ジユジユン　霑潤テンジユン　秀潤シウジユン　擢潤タクジユン

〔潮〕テウ

㋑うしほ、しほ(海水が一定の時間を以て滿干する現象にして潮はさししほ、汐はひきしほ、又一說に潮は朝のしほ、汐はゆふがたのしほ)㋺さす、現はれ出る、色がつく㋩州の名㋥國訓しほ(海の水)うしほ(料理にて醬油を用ゐず食鹽にて味をつけし汁)

【潮汐】テウセキ　しほ。

【潮水】テウスキ　うしほ、海水。

【潮州】テウシウ　州の名(廣東省潮州府)。

【潮流】テウリウ　㋑海水の流れ㋺時勢、又世

の趨勢、世態の傾向。

【潮紅】テウコウ　あかみをさすこと。

【潮信】テウシン　潮の滿干の時刻、しほどき。

【潮熱】テウネツ　體溫の上り下りのはげしきこと。

【潮候】テウコウ　潮信に同じ。

【潮合】シホアヒ　しほかげん、ころあひ。

【潮路】シホヂ　㋑潮のさしひきするすぢ㋺船路のこと。

【潮干狩】シホヒガリ　海濱の干潟となれる處をあさりて貝などを取る遊び。

類語　江潮カウテウ　且潮タンテウ　晨潮シンテウ　晚潮バンテウ　暮潮ボテウ　侯潮コウテウ　迎潮ゲイテウ　落潮ラクテウ　早潮サウテウ　怒潮ドテウ　順潮ジユンテウ　風潮フウテウ　海潮カイテウ　奔潮ホンテウ

〔潯〕ジン

㋑きし(岸)みぎは、ほとり、ふち㋺江の名(江西省潯州府にある潯江)㋩地名(江西省所在)

類語　烟潯エンジン　寒潯カンジン　清潯セイジン　碧潯ヘキジン　浪潯ラウジン　荒潯クワウジン　黃潯クワウジン

〔潘〕ハン

㋑米のとぎしる、米のしる、米のとぎしる

〔潛〕サン

㋑雨の降る貌㋺涙のながれるさま

【潛焉】サンエン　涙の流れるさま

【潛然】サンゼン　前に同じ。

【潛々】サンサン　涙のながれる形容、又雨の降るさま。

〔潺〕サン　セン

㋑水の流れる貌、ちよろ〳〵と水の流れる貌㋺涙の流れる貌、さめ〴〵

【潺湲】センクワン　㋑水のながれるさま㋺涙のながれるさま。

【潺淙】センソウ　水の流れるさま。

【潺々】センセン　小川の水のちよろ〳〵と流れる貌。

〔潼〕トウ

㋑地名(潼關)㋺川の名、潼水㋩北極の海の名㋥流山の名(潼山)

〔澁〕シフ

㋑しぶし、しぶる、とゞこほる(滯)ふさがる、はかどらず、平易でない㋺味しぶし㋩國訓しぶ(柿の實より採りし染料、栗の實の內皮・樹の幹・果實等より出る液汁)

【澁滯】シフタイ　はかどらぬと、とゞこほる。

類語　艱澁カンシフ　奇澁キシフ　險澁ケンシフ　粗澁ソシフ　澀澁キヤウシフ　結澁ケツシフ　梗澁カウシフ　訥澁トツシフ

〔澄〕チョウ

㋑すむ、水の靜にして清きこと、きよし、すます、透明にす㋺たゝふ(湛)㋩山の名、又酒の名㋥國訓すます(殊更眞地目ぶること)

【澄心】チヨウシン　㋑清き心、靜かな心㋺心をすます、邪念を去る。

【澄汰】チヨウタイ　惡を去りきよめる、選び分けて取捨す。

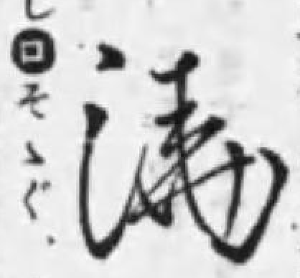
【澄空】チヨウクウ　すみわたれるそら。

【澄高】チヨウカウ　㋑月などの高くすみわたるさま㋺氣品の清らかに高尙なること。

【澄酒】チヨウシユ すみたる酒、清酒。
【澄渟】チヨウテイ 水がすみてたまれること。
【澄清】チヨウセイ 淸くすみて心地よきこと。
【澄爽】チヨウサウ 淸くさわやかなるさま。
【澄晴】チヨウセイ 空がはれてすみ渡ること。
【澄碧】チヨウヘキ 水が淸くすみて靑々とせること。
【澄澈】チヨウテツ 澄淸に同じ。
【澄邈】チヨウバク 淸らかにはるかなる貌。
【澄々】チヨウチヨウ 水がすみてきよき貌。
【澄肅】チヨウシユク 淸くすみて靜かなること。
【澄謐】チヨウヒツ きよらかにして靜かなりきよらかにすみたる貌。
【澄鮮】チヨウセン
【澄瀾】チヨウラン きよらかなるなみ。
【澄霽】チヨウセイ 天氣の晴れ渡ること。

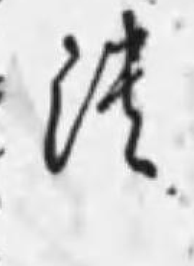
類語
高澄カウチヨウ　平澄ヘイチヨウ　清澄セイチヨウ　渟澄テイチヨウ
淵澄エンチヨウ　照澄セウチヨウ

〔澆〕ゲウ　ガウ



㋑うすし（薄）かろ〴〵し㋺そゝぐ、水を注ぎかける㋩水のめぐり流れるさま
【澆世】ゲウセイ 道德風俗等の輕薄に流れし時代、滅亡に近い世。
【澆末】ゲウマツ 前に同じ。
【澆弛】ゲウシ 衰へる、輕くなりゆるむ。
【澆季】ゲウキ 澆世に同じ。
【澆浮】ゲウフ 澆薄に同じ。
【澆淳】ゲウジユン 薄きことゝ厚きこと。
【澆詭】ゲウキ 輕薄にしていつはる、でたらめをいふさま。
【澆僞】ゲウギ でたらめ、うそが多い。
【澆薄】ゲウハク 人情などのうすきこと、薄情にして實なきこと。
【澆灌】ゲウクワン 水をそゝぐ、灌漑。

〔潰〕クワイ



㋑つひゆ、大水にて堤のくづれること、戰敗してちり〴〵に逃げるさま㋺くづる、つぶれる㋩みだる（亂）ちる（散）にぐ（逃）㋥さく、やぶる、くづす㋭いかる（怒）
【潰出】クワイシユツ 物がこはれてこぼれ出ること、水が氾濫すること。
【潰走】クワイソウ 敗けて逃げはしるさま。
【潰決】クワイケツ 堤等のやぶれること、くづれきれる。
【潰敗】クワイハイ くづれる如くやぶれる、つひえ敗る。
【潰亂】クワイラン やぶれ亂れる。
【潰裂】クワイレツ つぶれさける、破壞。
【潰腹】クワイフク 腹をそこなひこはす。
【潰々】クワイクワイ みだれ破れるさま。
【潰溢】クワイイツ くづれあふれ出る。
【潰瘍】クワイヤウ 內臟のくづれ損ずること。
【潰墜】クワイツヰ やぶれおちる、潰敗。
【潰漏】クワイロウ 川がきれて水が溢れる。
【潰爛】クワイラン くづれたゞれる、やぶれたゞれること。

類語
粉潰フンクワイ　決潰ケツクワイ　禍潰クワクワイ　亂潰ランクワイ
洪潰コウクワイ　隕潰ヰンクワイ　破潰ハクワイ　奔潰ホンクワイ

〔澈〕テツ　テチ

すむ（澄）水がすむ、又きよくなる

〔澌〕シ

㋑ちる（散）㋺つく（盡）亡びる、なくなる
【澌盡灰滅】シジンクワイメツ 氷のとけるが如く火のもえて灰となるが如くあとかたなく消えうせるさま

〔澍〕ジユ

㋑そゝぐ（注）㋺うるほす、うるほふ（潤）

〔澎〕ハウ

水の盛んなる貌、又水の聲
【澎湃】ハウハイ 水波の激して相うつ聲。
【澎潭】ハウタン 水が打ち合ひ渦卷く貌。

〔澑〕

溜に同じ。

〔澒〕コウ

㋑みづかね（水銀）㋺暗くして分明せぬさま

〔澔〕

浩に同じ

十三畫

〔潞〕ロ

川の名（山西省潞安府所在）

〔澟〕リン

さむし、すゞし（淒冽）

〔澠〕ジヨウ　ベン
メン　ビン

㋑川の名（山東省臨淄縣にあり）㋺縣の名（河南省河南府に屬し澠相如が秦の昭王と戰ひて國威を發揚したる所）

〔澡〕サウ　ソウ

㋑あらふ（洗）すゝぎ淸める㋺潔白にする㋩澡々は沸かんと欲するさま
【澡洒】サウサイ すゝぎ洗ふ。
【澡沐】サウモク ゆあみしてかみをあらふ。
【澡室】サウシツ 浴室、ゆどの。
【澡雪】サウセツ あらひそゝぐ、洗ひ淸める。
【澡漑】サウガイ 澡濯に同じ。
【澡練】サウレン あらひねる。
【澡熨】サウヰ 洗濯してひのしをかける、轉じて改善の義。
【澡盥】サウクワン 口をそゝぎ手をあらふ。
【澡濯】サウタク 洗ひすゝぐ、洗濯、洗滌。

〔澣〕クワン

㋑あらふ（濯）すゝぐ（衣又は垢をあらふにいふ）㋺月に三度の休み（唐代官吏が十日日每に一日の休暇を賜はり私宅にて沐浴休息せしに起る）
【澣沐】クワンモク 髮を洗ふこと。
【澣洒】クワンセイ あらふ、すゝぐ、洗ひきよめる。
【澣滌】クワンデキ 器物をあらひ淸めること。
【澣濯】クワンタク あらひすゝぐ。

〔澥〕カイ

㋑たつ、水を斷つ㋺渤澥は海の名（渤海）

〔澦〕ヨ

灩澦は川の名（湖南省所在）

〔澧〕レイ

㋑川の名（湖南省地方にあり洞庭湖に注ぐ）㋺甘き水の出る泉

〔澨〕ゼイ

きし（土にて築きしきし）みぎは、はとば

〔澪〕レイ

㋑川の名㋺國訓みを、みよ（河海の船の航行する道すぢ）

【澪標】レイヘウ　水路を示す爲めに水中に打つたくひ、みをつくし。

〔澮〕 クワイ　エ

みぞ、こみぞ（溝よりも小さくして水の溝に注入するもの）

〔澱〕 テン　デン

㋑どろ、おり（滓）かす㋺よどむ（水流の淀みて波のたゞよふもの）㋩よど（淀）水流のよどみしとろ

【澱汚】デンヲ　よどみたる汚きをり。
【澱粉】デンフン　植物體を組成する一の物質又其を採集した白色の粉末、葛粉の類。
【澱淤】デンヲ　かす、をり、滓流。
【澱々】デンデン　なみのたゞよふさま。

〔澳〕 イク　アウ

㋑くま（曲りて入りこみたるがけ）㋺みぎは㋩國の名、澳太利（Austria）の略

【澳港】イクカウ　みなと、ふなつき場。
【澳門】マカヲ　支那廣東省にある開港場の名。

〔澤〕 タク　シヤク　セキ

㋑さは（水のあつまりて草の生ひたる處）廣く淺き池㋺うるほふ、うるほす、しめす㋩うるほひ、めぐみ、なさけ㋥つや、いろつや、つやをつく（光潤）㋭する、もむ、こする㋬雨などのうるほひ㋣あらふ（洗濯）㋠衣の下にきるもの、下ばかま、ふだんぎ（褻衣）㋷にほひよきあぶら㋦射術を稽古したる所、又弓を射る家の稱（澤宮）㋸釋に同じ、とく㋾ふち、秩祿

【澤山】タクサン　㋑あまた、おほし㋺足りて十分なる貌。
【澤芝】タクシ　はすの異名。
【澤芬】タクフン　藥草の名、白阯。
【澤雨】タクウ　萬物をうるほすあめ、慈雨。
【澤宮】タクキユウ　周代弓を射る家柄の稱。
【澤畔】タクハン　澤のほとり、池畔。
【澤梁】タクリヤウ　さはにあるやな、魚を養ふ所。
【澤國】タクコク　池沼の多き國。
【澤鹵】タクロ　鹽氣を含む澤邊の地。
【澤潤】タクジユン　恩惠をほどこす。
【澤庵】タクアン　干大根をつけたるもの。
【澤霑】タクジユ　うるほす、しめす。
【澤瀉】タクシヤ　草の名、おもだか。
【澤庵漬】タクアンヅケ　乾大根を糠に漬けたる食品。

類語

山澤サンタク　仁澤ジンタク　色澤シキタク　光澤クワウタク
恩澤オンタク　潤澤ジユンタク　藪澤ソウタク

〔澶〕 セン　タン

㋑澶淵は川の名（宋の寇準が契丹を破りし所）㋺水の靜かなる貌㋩みだら（漫）ほしいまゝ（縱）

【澶漫】センマン　㋑ほしいまゝ㋺遠きさま。

〔澹〕 タン

㋑しづか、おだやか、やすらか㋺あはし、さつぱりせるさま、あつさりして居る、又そのさま㋩水の動搖する貌

【澹如】タンジヨ　あつさりしたさま。
【澹味】タンミ　あつさりした味。
【澹泊】タンパク　あつさりして無慾なること。
【澹容】タンヨウ　おちつきたるさま、安らかなる貌。
【澹漠】タンバク　しづかなるさま。

【澹々】タンタン　水のゆるぎ動く貌。
【澹豔】タンエン　あつさりしてうつくしい。

〔澼〕 ヘキ

㋑あらふ、さらす（漂）綿を水にさらして白くすること

〔澇〕

漫の俗字

〔濂〕 レン

谷川の名（湖南省道州にあり）

【濂洛關閩】レンラククワンビン　濂之學を唱道したる茂叔・伯淳・正叔・子厚・元晦の五儒者をいふ。

〔濃〕 ヂヨウ　ドウ　ノウ

㋑こし、あつし（厚）こまやか、又おほし㋺情あつし、色ふかし、味こし㋩濃いこと、濃い度合㋥露の多きさま

【濃味】ノウミ　こき味、つゆ多し、しつこい味。
【濃抹】ノウマツ　こき色をぬる、こつてりと化粧する。
【濃度】ノウド　液體又は氣體の分子量の濃薄の度合。
【濃恩】ノウオン　あつきめぐみ。
【濃淡】ノウタン　こきことゝうすきこと。
【濃雲】ノウウン　こきくも、密雲。
【濃厚】ノウコウ　こきこと、心のこまやかなること、又こつてりとしてゐること。
【濃粧】ノウシヤウ　あつげしやう、こつてりしたる裝ひ。
【濃暑】ノウシヨ　きびしきあつさ。
【濃葉】ノウエフ　茂りたる草木の葉。
【濃煎】ノウセン　こくにつめる。
【濃愁】ノウシウ　ふかきうれひ。
【濃々】ノウノウ　霧のふかきさま。
【濃烟】ノウエン　こきけぶり。
【濃腴】ノウユ　よく肥えてゐること。
【濃翠】ノウスヰ　こきみどり、ふかみどり。
【濃霧】ノウム　深くかゝりたるきり。
【濃醪】ノウコウ　こきにごりざけ。
【濃艷】ノウエン　あくどい程うつくし、あでやかにして美くし。
【濃紫】コムラサキ　こき紫色、古三位以上の人の袍などの色に用ゐしもの。
【濃染草】コゾノグサ　萩の異名。

〔濅〕 シン

やうやく、やゝ、だん〴〵、ます〳〵

〔濆〕 フン

㋑きし（水厓）みぎは、ほとり㋺わく、又大水のあふれ出でゝ別に小水をなすこと㋩噴に同じ、水をふく、又はく

【濆水】フンスヰ　ふき出す泉、又そのもの。
【濆泉】フンセン　ふきあげ、吹きあげる泉。
【濆薄】フンパク　水が激して波だつさま。

〔激〕 ゲキ

㋑はげし、きびし、きつい、たけし㋺水流を遮りて其の勢をつよくす㋩つく（衝）つきあたる、はげしくす㋥言論の直にすぐること㋭感じはげむ、感じうごく㋬俗に反して異見を立てること㋣清き聲㋠はやせ、又風の聲

【激切】ゲキセツ　言論等のはげしきこと。
【激迅】ゲキジン　きはめてはやきこと。
【激波】ゲキハ　㋑なみだゝせると㋺激浪。
【激忿】ゲキフン　甚しくいかる。
【激怒】ゲキド　はげしくいかる、又そのいかり。
【激昂】ゲキカウ　はげしく昂奮するさま、さからふこと。

【激甚】ゲキジン きびし、はなはだし。
【激流】ゲキリウ 水勢の烈しくながれること又そのながれ。
【激動】ゲキドウ ㋑はげしく動く、あらだつ ㋺強く心に感ず。
【激浪】ゲキラウ 水勢のはげしきなみ。
【激烈】ゲキレツ 極めてはげし、甚だきびし。
【激氣】ゲキキ あれる氣、當りふれる氣。
【激湍】ゲキタン はやせ、激流。
【激猛】ゲキマウ きつくしてはげし。
【激越】ゲキエツ きはめてはげし、音の高くはげしきさま。
【激揚】ゲキヤウ 感激して發奮す。
【激發】ゲキハツ 勵ましおこす、奮發させる、元氣をつけてやる。
【激痛】ゲキツウ はげしくいたむ、又そのいたみ。
【激賞】ゲキシヤウ 大いにほめる、言を極めてほめる。
【激論】ゲキロン はげしくいひあらそふ、きびしく言ひ立てる。
【激震】ゲキシン はげしく動く、又はげしい地震。
【激勵】ゲキレイ 激發に同じ。
【激戰】ゲキセン はげしき戰、はげしく戰ふ。
【激聲】ゲキセイ 聲をはげしくする、聲をはりあげて言ふ。
【激勸】ゲキクワン つよくすゝめる、はげましすゝむ。
【激變】ゲキヘン かはりかたの甚しきこと、急激なる變化。

類語

哀激アイゲキ　電激デンゲキ　感激カンゲキ
詭激キゲキ　矯激キヤウゲキ　切激セツゲキ　奔激ホンゲキ
奇激キゲキ　悲激ヒゲキ　峻激シユンゲキ　憤激フンゲキ

濁 タク ダク ドク ゲヨク

㋑にごる（清の對）混り物ありて分明でない、液體の澄まぬ貌㋺みだれる、よどれる、けがれる㋩にごり、にごす㋥にごりたる世、政敎のすたれたる世、この世㋭星の名
【濁世】ダクセイ にごりたる世、道德・風俗等のすたれたる世。
【濁汙】ダクウ 清廉ならざること。
【濁酒】ダクシユ にごりざけ、どぶろく。
【濁流】ダクリウ ㋑にごり水の流㋺清廉ならざる心の人。
【濁浪】ダクラウ 水のにごり。
【濁淵】ダクコン にごる、亂れけがれる。
【濁富】ダクフウ 不義にして富み榮えること。
【濁說】ダクセツ 汚らはしき話、みだらな話。
【濁聲】ダクセイ にごりたること、だみごゑ、さびごゑ。
【濁醪】ダクラウ にごりざけ、どぶろく。
【濁穢】ダクアイ にごりけがれる、轉じて浮世のけがらはしいことゞも。
【濁代】ダクタイ 濁世に同じ。
【濁惡世】ダクアクセイ うき世、濁世。

濊 シフ サフ セフ

㋑やはらぐ（和）又そのさま㋺水の流れ出づること㋩はやし（疾）とし、又はやせ（湍流）
【濊然】サフゼン 物事のはやきさま。
【濊々】シフシフ やはらぐさま。

濊 クワイ ワイ

㋑水の深く盛んなるさま㋺網をうつこゑ
【濊々】クワイクワイ 網をうつこゑ。

十四畫

澀

澁に同じ

濕 シフ シツ

㋑うるほふ、しめる、しめす㋺ぬらす、しめらす、うるほはす㋩うるほひ、しめり㋥牛の物をかむときに耳を動かす貌㋭坂の下のぬかるみ
【濕布】シツフ ガーゼなどを水・藥液等に浸して局部をしめすこと。
【濕地】シツチ しめりけの多き土地。
【濕風】シツフウ 濕氣をふくみたる風。
【濕度】シツド 空氣中に現存せる水蒸氣の張力と其の時の溫度に對する水蒸氣の最大張力との度合。
【濕氣】シツキ しめり氣、しつけ、水氣。
【濕笑】シツセフ にがわらひ、微苦笑。
【濕量】シツリヤウ 或る溫度に於て空氣が水蒸氣を含み得べき最大限度の分量。
【濕疹】シツシン 皮膚病の一、ひぜん。
【濕潤】シツジユン しめり、うるほひ、うるほす。
【濕度計】シツドケイ 濕度を計る器械。

濘 デイ ネイ

㋑ぬかる、泥で歩行しにくし㋺ぬかるみ㋩水の沸く貌、又少しの水㋥ひたす（涵）
【濘滯】デイタイ 泥水のたまること。
【濘涵】デイカン 泥の中におち込むこと。
【濘涼】デイリヤウ ぬかるみ、どろ、泥濘。

濛 エイ ケイ

水のうづまくさま

濛 ボウ モウ

㋑小雨のふるさま、しよぼ〳〵、細雨㋺霧などのふかき貌㋩くらし、うすぐらし、物事の分明ならざる貌
【濛雨】モウウ こさめ、細雨。
【濛昧】モウマイ 雲霧がとぢこめてくらきさま。
【濛烟】モウエン うすぐらきけむり。
【濛漠】モウバク うすぐらきさま。
【濛瞑】モウメイ ぼんやりとしてくらき貌。
【濛々】モウモウ ㋑小雨の降るさま㋺きりあめにてうすぐらきさま。
【濛濛】モウモウ 小雨のしよぼ〳〵降る貌。
【濛霧】モウム こまかき霧、うすぼんやりと閉ぢこめし霧。
【濛鴻】モウコウ 物事の分明ならざるさま。

濟 ヒ ヘイ ビ ハイ

水の俄かに至るさま、又水の聲

濟 セイ サイ

㋑わたり、わたしば㋺なる（成）なす、たす㋩加へる、ます㋥わたる（渡）㋭成就させる、する、すます㋬やむ（止）㋣たすく、すくふ（救）㋠おす、おしのける㋡川の名（山東省濟源縣に發す）㋢賢者の多くあるさま
【濟世】サイセイ 時弊をたゞす、世をすくふ。
【濟化】サイクワ よき方にみちびきすくふ。
【濟民】サイミン 民の難儀をすくふ。
【濟度】サイド 佛の道によつて一切衆生をすくふこと。
【濟救】サイキウ すくひ助く。
【濟進】サイシン 稅物を納めること。
【濟衆】サイシユウ 民衆をたすけ救ふこと。
【濟弊】サイヘイ 衰へしものを救ふ。
【濟難】サイナン 國家の危難を平定鎭撫すること。
【濟美】サイビ 美をなす、父祖の業を完成す
【濟涉】サイセフ 水をわたる。

【濟々】セイセイ ㋑才ある者の多き貌 ㋺美しきさま、又盛んに多きさま。
【濟生會】サイセイクワイ 皇室の保護を仰ぎ人民の病氣を療治する慈善事業の一。
【濟世志】サイセイノココロザシ 世を匡し民を救はんとする志望。
【濟時才】サイジノサイ 世を救ひたすける才能偉大なる人物。
【濟勝之具】サイショウノグ 山河を登渉するに便なる道具、即ち達者なる足。

類語

既濟キセイ　康濟カウセイ　掃濟サウセイ　未濟ミサイ
寧濟ネイセイ　成濟セイセイ　闡濟センセイ　開濟カイセイ
全濟ゼンセイ　匡濟キヤウセイ　博濟ハクセイ　廣濟クワウセイ
亮濟リヤウセイ　振濟シンセイ　經濟ケイセイ

【濠】カウ　ゴウ　ガウ

㋑ほり（壕）城下の池、おほり ㋺南洋の大陸濠太利亞（Australia）の略
【濠梁】ガウリヤウ ほりの堤。
【濠隍】ガウクワウ 城のまはりのほり。
【濠塹】ガウザン 城のそとぼり。
【濠濮間想】ガウボクカンノオモヒ 俗世を脱して仙境に入ること。

【濡】ジュ

㋑うるほふ、ぬる、水にぬれる、ひたる、ひたす（漬）㋺ぬらす、うるほす、しめす ㋩なれる、みづ〳〵しくつやあること、とゞこほる（滯）とゞまる ㋥ゆばり（尿）小便
【濡化】ジユクワ 仁德にうるほひ導かれる。
【濡忍】ジユニン こらへしのぶ、がまんする。
【濡首】ジユシユ 非常に酒に醉ひて本性を失ふさま。
【濡染】ジユセン うるほひそむ、うるほしそめる。
【濡浹】ジユセフ 十分にうるほふ。
【濡滯】ジユタイ とゞまりとゞこほること。
【濡潤】ジユジユン うるほふ、うるほす。
【濡濕】ジユシツ ぬれる、ぬらす。
【濡衣】ヌレギヌ ㋑水にぬれたる衣服 ㋺事實なきことを有るが如くにされること。
【濡事】ヌレゴト 芝居にて男女の情事を演ずるしぐさ、其の場面を濡場といふ。
【濡鼠】ヌレネズミ びしよぬれになれる貌。

類語

治濡ジユ　滋濡ジユ　柔濡ジユウ　霑濡テンジユ
澤濡タクジユ　漂濡ヘウジユ　染濡センジユ

【濤】タウ

なみ、海中に高くおこるおほなみ
【濤波】タウハ おほいなるなみ、大波。
【濤瀾】タウラン 濤波に同じ。
【濤瀨】タウライ 激して波立つ急流。
【濤瀾】タウワン 大波のたちさわぐ入江。

類語

狂濤キヤウタウ　傾濤ケイタウ　松濤シヨウタウ　波濤ハタウ
翠濤スイタウ　洪濤コウタウ　鷲濤キヤウタウ　奔濤ホンタウ
銀濤ギンタウ　飄濤ヒヤウタウ　驅濤クタウ　怒濤ドタウ

【濩】クワク　コ

㋑雨が流れて雫のしたゝる貌 ㋺にる（煮）㋩水勢の相激する貌 ㋥宮室のおくふかき貌 ㋭すくひまもる ㋬音樂の名

【濫】ラン　カン

㋑あふる、水がはびこる、ころがる ㋺うかぶ（泛）㋩みだり、みだる（物事の度に過ぐること）道にそむく ㋥ひたす（漬）㋭ぬすむ（竊）㋬うきたることば（浮辭）

㋮音のはやくしてみだりがましきこと ㋯漬けたる果物 ㋰あやまつ、あやまち、まぎらはしくす ㋱みだりに、むやみに ㋲竹の律聲 ㋳集める意 ㋴たらひ、浴器
【濫巾】ランキン 隱者のまねをしてみだりに頭巾をかぶる。
【濫用】ランヨウ みだりに用ゐる、むやみに費す。
【濫刑】ランケイ 濫罰に同じ。
【濫伐】ランバツ みだりに樹木を伐り倒す。
【濫吹】ランスヰ まぎれもの、齊の宣王の故事により無能の者が才能ある如く見せかけること。
【濫竽】ランウ 自身の無能をさらけ出す。
【濫官】ランクワン 無用の官、冗官。
【濫造】ランゾウ 粗末なるものを製造すること、みだりに造り出す。
【濫殺】ランサツ みだりに殺す。
【濫淫】ランイン むやみに色慾にふける。
【濫雜】ランザツ 入り亂れて正しからぬ貌。
【濫製】ランセイ 不注意に製造す、やたらにつくること。
【濫費】ランヒ むだづかひ、みだりに費す。
【濫發】ランパツ みだりに出す、みだりに發行する。
【濫罰】ランバツ 法によらずしてみだりにつみす、濫刑。
【濫賞】ランシヤウ むやみに賞賜すること。
【濫獲】ランクワク むやみに捕獲す、みだりに禽獸其他の物をとらへる。
【濫觴】ランショウ 物のはじまり、起原。
【濫擧】ランキヨ 妄りにあげ用ゐる。
【濫竊】ランセツ みだりに盜み取る。

類語

淫濫インラン　蠹濫カンラン　詭濫キラン
倖濫カウラン　枉濫ワウラン　僭濫センラン　越濫エツラン
放濫ハウラン　暴濫バウラン　酷濫コクラン　苛濫カラン
乖濫クワイラン　冒濫バウラン　冗濫ジヨウラン

【濬】シュン

㋑あらふ、川を深くすること、さらへる（浚）㋺ふかし（深）おくふかし
【濬池】シユンチ 深きいけ、轉じて海。
【濬哲】シユンテツ 深遠なる智識。
【濬源】シユンタン 深きふちふかき谷。
【濬壑】シユンガク 浚渫し修理する、よくさらへる。

【濮】ボク

川の名（山東省濮州にあり）
【濮上之音】ボクジヨウノオン 淫卑なる音曲、亡國の音曲。

【濯】タク

㋑すゝぐ（滌）あらふ（洗）そゝぐ（漑）清める、汚を落す ㋺おほいなり（大）㋩ひかる、光りかゞやく、又肥えたること ㋥はげやま（草木なき山）㋭のむ（飲）
【濯洗】タクセン 次に同じ。
【濯滌】タクテキ あらひすゝぐ。
【濯盥】タククワン 手を洗ふこと。
【濯疵】タクシ きづを洗ふ、あしきところをのぞく。
【濯漑】タクケイ からだを清めること。
【濯漑】タクガイ あらひすゝぐ。
【濯澣】タククワン 前に同じ。
【濯々】タクタク ㋑光るさま ㋺禿山のありさま ㋩こえたるさま。
【濯鋤】タクケン あらひきよむ、洗淨。
【濯枝雨】タクシウ 六月に降る大雨。
【濯魚雲】タクギヨウン 雨をふくむ雲、あま雲。

類語

滌濯テキタク　洒濯サイタク　洗濯センタク　滌濯クワンタク

濱 ヒン

㋑はま、きし、みぎは（水際）㋺地の相近きこと㋩かぎり、はて㋥水にそふ、水の近くにある陸

【濱死】ヒンシ　しにかゝる、瀕死に同じ。

【濱涯】ヒンガイ　水のほとり、みぎは。

【濱寒】ヒンサイ　ほとり、さかひ。

【濱床】ハマユカ　貴人の座床、帳臺の類。

【濱行】ハマユキ　美術家の社會に能く用ゐらるゝ語にて横濱行き、卽ち輸出向きの意にて安物のこと。

【濱緣】ハマユン　神社の正面階段の下の床。

【濱燒】ハマヤキ　魚を濱邊の沙地にて燒きたるもの。

【濱千鳥】ハマチドリ　㋑はまべに居る千鳥㋺あとの枕詞。

【濱木綿】ハマユフ　熱帶地の海岸に生ずる草の名、濱芭蕉、又は濱おもと。

類語

水濱スヰヒン　陰濱インヒン　河濱カヒン　海濱カイヒン　天濱テンヒン　率土濱ソツトノヒン

潤

闊の俗字

濺 セン

十五畫

㋑そゝぐ、灌注す㋺水のはやく流れるさま、水あたる㋩けがしそゝぐ

【濺々】センセン　水のはやく流れる貌。

瀘 ロ

こす（こまかき目をくゞらせて水を清淨ならしむること）一說にあらふ（洗）すます（澄）

【瀘過】ロクワ　水などをこすこと。

瀆 ヤウ

漾の古字㋑たゞよふ㋺水のはてなく廣きさま

瀟 カク

水の激する聲

【瀟々】カクカク　水の相うちて激する聲。

瀉 トク トウ

㋑みぞ（溝）水路、こみぞ㋺小さきどぶ（小渠）㋩けがる、けがす、にごる、みだる㋥あなどる（慢）かろんず㋭かさなる（重複）㋬かへる（變）㋣支那の江・河・淮・濟四大川の稱㋠竇に同じ、あな

【瀆分】トクブン　身分をけがす、不正なる行ひをなす。

【瀆汙】トクウ　けがれる、けがす。

【瀆汚】トクヲ　けがす、よごす。

【瀆溝】トクコウ　みぞ、どぶ、きたなき所。

【瀆職】トクショク　其職にありて不正を働き職責をけがすこと。

瀉 シヤ

㋑そゝぐ、水が下にながれる、水を下にながす㋺かたむく（傾）㋩鹽分を含みたる土地、しほつち、又地に草木なき土㋥はく（吐）はきだす㋭もらす（泄）もぐる、くだす、下痢する、又その病

【瀉土】シヤド　しほつち、鹽分を含める土。

【瀉吐】シヤト　はきくだし、吐瀉。

【瀉利鹽】シヤリエン　硫酸を水に溶かして煮つめたる濃汁、硫酸マグネシウム。

瀝 ヘウ

雨雪等の盛んに降る貌

【瀝々】ヘウヘウ　雨雪の盛んにふるさま。

瀝 テン

川の名（河南省にあり）

瀏 リウ

㋑水のきよきさま、又水ふかし㋺風はやし、又風の聲㋩林の木の鼓動する聲

【瀏亮】リウリヤウ　ほがらかにして清き貌。

【瀏濫】リウラン　㋑水の漫延するさま㋺書物などをよく見通すこと。

【瀏々】リウリウ　㋑風の疾く吹く貌㋺ほがらかなるさま。

【瀏覽】リウラン　よく見る、丁寧にみる。

瀑 ホク ボク ハク バク

㋑たき（高所より直下する水）飛泉㋺水のわく聲、又波の起る貌㋩にはか雨、水の沸く聲

【瀑布】バフ　たき、飛泉。

【瀑注】バクチユウ　瀧の如くそゝぐこと。

【瀑漲】バクタン　たきつぼ。

類語

憤瀑フンバク　飛瀑ヒバク　懸瀑ケンバク　落瀑ラクバク

十六畫

瀕 ヒン

㋑みぎは（水厓）はま（濱）きし、ほとり㋺水にせまる、水に近く位す㋩せまる（迫）

【瀕水】ヒンスヰ　水にそひよる、水にのぞむ。

【瀕死】ヒンシ　死にせまる、しにかゝる。

【瀕海】ヒンカイ　海にのぞみたる所、沿海。

潛

潛の異體

瀘 ロ

川の名（雲南省にあり）

瀚 カン

㋑北海の名㋺水の貌㋩廣大なる貌㋥海濟は支那北邊の沙漠

瀛 エイ

㋑うみ（海）大うみ、わだつみ㋺澤の中、又海中の島の名（仙人のすむ山）

【瀛海】エイカイ　おほうみ、わだつみ。

【瀛洲】エイシウ　海中にある三神山の一にして仙人が居住すると言ひ傳ふ。

瀝 レキ

㋑したゝる、したゝり、したむ、しづむ㋺酒を飲みて盡きんとする時の餘りのしづく㋩すこしのながれ（細流）㋥雨雪の聲、又風の聲㋭そゝぐ（流注）

【瀝血】レキケツ　㋑人をころすこと㋺赤心、まごゝろ。

【瀝青】レキセイ　塗料の一、松脂に油を加へて煉りたるもの、チヤン。

【瀝酒】レキシユ　すめる酒、清酒。

【瀝液】レキエキ　少しの流れ、細流。

【瀝滴】レキテキ　雨のしたゝるさま、しづく。

【瀝膽】レキタン　まごゝろを注ぐ、赤誠をあらはす。

【瀝々】レキレキ　㋑雨雪の聲の形容㋺風の聲

類語

滴瀝テキレキ　餘瀝ヨレキ　淋瀝リンレキ　霖瀝リンレキ　決瀝ケツレキ　漸瀝ゼンレキ　楚瀝ソレキ　水瀝スヰレキ